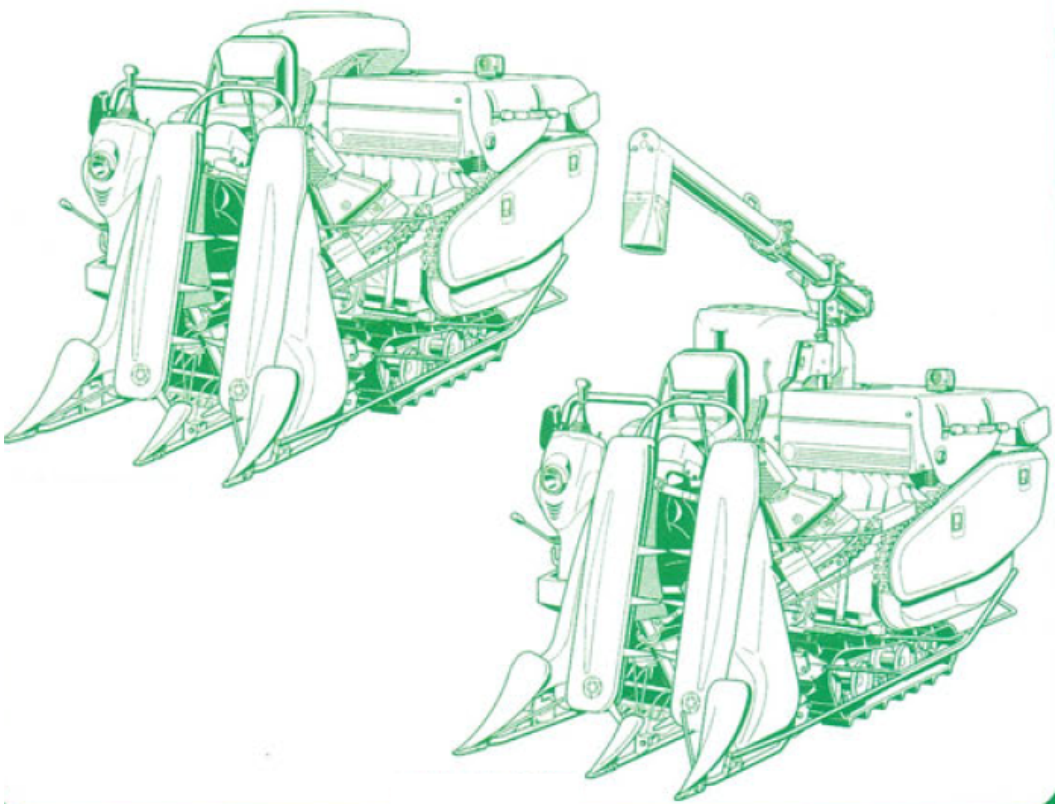
コンバイン

取扱説明書

V211A・213A



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

 ホーン

 エンジン回転数［低回転］

 エンジン回転数［高回転］

 エンジン停止

 ウインカランプ

 ヘッドランプ

 ヘッドランプと作業灯

専門用語の説明

• 予熱（グロー）	エンジンの始動を容易にするための補助装置
• ステアリングレバー	機体の操向操作と刈取部の昇降を行なうレバー
• デバイダ	こくかんを分けすくい上げる部分
• ドレーン（プラグ）	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
• HST	油圧式の無段変速装置
• アジャスト	調節を意味する
• 変速レバー	[前進][後進]の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
• スローブローヒューズ	バッテリ近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ
• 1番ラセン	精選されたこく粒を横搬送するラセンコンベア
• 2番ラセン	粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するラセンコンベア
• チャフシーブ（選別板）	こく粒を粗選する桟状の板
• トウミ	選別風を発生させるファン
• グレンシーブ	こく粒を精選するあみ体
• 送じん調節レバー	こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
• 排じん調節	選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板
• こぎ胴	脱こくするドラム
• フィードチェーン	稲を狭持搬送するチェーンコンベア
• 縦ラセン	精選されたこく粒を縦搬送する縦ラセンコンベア
• こぎ胴オープン	こぎ胴を上に上げる機構
• 揺動流板（シーブケース）	揺動運動してこく粒を選別する装置
• オーガ	グレンタンクからもみを排出する筒

はじめに

このたびは三菱製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲･麦の刈取り･収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は **[V213A]** を基本とし，**[V213A]** と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

[例]　V213 A G W
①　②　③　④

①エンジン出力（刈取条数）によって ‥ [V211]（2条刈り） / [V213]（2条刈り）

②A ..... Advance

③ グレンタンク仕様 ..... [G仕様] / ホッパ仕様 ..... 表示なし

④クローラによって

仕　様	クローラ幅（mm）	
	ホッパ	グレンタンク
表示なし（標準）	280	300
[W]	330	360

諸装置 ＼ 型式		V211A	V213A	備　考
自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	
	刈取オートクラッチ［刈取部上昇時搬送駆動停止装置］	○	○	
	自動選別制御	○	○	
	自動エンジン停止装置	○	○	
刈取かき込み装置		○	○	
刈取突込み防止装置		○	○	
ナローガイド開閉装置		○	○	
枕こぎ台		○	○	
パワークラッチ[刈取・脱こく]		○	○	
集中注油装置		－	○	手動

○：標準装備　－：非装備（後付け不可）

目　次

⚠安全に作業するために

安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください 1
安全作業するための表示ラベル 25
　表示ラベルの内容・貼付位置 25
表示ラベルの手入れ 36
　表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る 36

サービスと保証について

小型特殊自動車について 3

装置の名称と取扱い

機体方向説明 4
装置の名称とはたらき 5
　メインスイッチ 11
　作業スイッチ（刈取スタートボタン） 11
　アクセルレバー 12
　非常エンジン停止レバー 12
　変速レバー 13
　ブレーキペダル（駐車ブレーキ） 13
　ステアリングレバー 14
　運転席（シート） 14
　刈取下降ロックレバー 15
　刈取かき込みスイッチ 15
　ナローガイド開閉レバー 16
　エンジン停止スイッチ 16
　チャフ調節レバー 16
　オーガ操作スイッチ 17
　もみ排出クラッチレバー 18
　スイッチパネル 18
　アワメータ 19
　コンビネーションスイッチ，ホーンスイッチ 20
自動化装置の名称とはたらき 20
　自動こぎ深さ制御装置 20
　手動こぎ深さ制御装置 21
　刈取オートクラッチスイッチ 22

運転のしかた

運転前の点検 23
　日常点検項目 24
新車時の扱いかた 26
　ならし運転について 26
エンジンの始動と停止のしかた 26
　始動のしかた 26
　暖機運転について 28
　寒冷時の始動のしかた 28
　燃料切れ後の再始動のしかた 29
　バッテリが上がったときの始動のしかた 29
　停止のしかた 29
移動走行について 30
　移動走行前の準備 30
　発進のしかた 32
　旋回のしかた 34
　停車・駐車のしかた 35
　道路走行について 35
輸送について 36
　トラックとあゆみ板の準備 36
　トラックへ積込み時のコンバインの準備 36
　トラックへの積込み・積降ろしのしかた 36
　トラック上での処置 38

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件 39
　作物の条件 39
　ほ場の条件 39
ほ場の準備 40
　ほ場の準備 40
コンバインの準備 41
　コンバインの準備のしかた 41
　オーガの折りたたみ・伸ばしかた 47
刈取作業のしかた 51
　ほ場の出入りのしかた 51
　ソリを接地した刈りかた・ソリを浮かせた刈りかた 52
　刈取作業の手順 53
　ほ場の刈りかたと旋回のしかた 55
　湿田作業のしかた 60
　作物に合わせた変速の選びかた 61
　もみの排出のしかた 62
　手刈り（枕刈り）脱こくのしかた 66
　作業に合わせた各部の調整･調節のしかた 68
　デバイダの上下調整 68
　引起し爪高さの調節 69
　株元払い出し棒の調節 70
　こぎ室送じん調節レバーの調節 71
　排じん調整板の調整 72
　チャフ（選別板のすき間）の開度の調節 72
　スイッチパネルによる異常と処置 73

メンテナンス

各部の開閉と脱着のしかた 76
　エンジンルームの開閉 76
　こぎ胴の開閉 77
　カッタ部の開閉 78
　揺動流板の脱着 81
　受あみの脱着 85
　運転席左側板の脱着 85
　引起しサイドカバーの脱着 86
　引起しカバーの脱着 86
　左サイドカバーの脱着 87
　1番ラセン上部点検カバーの脱着 87
　グレンタンク後サイドカバーの脱着 88

目　次

グレンタンク下カバーの脱着 88
カッタ切換えカバーの開閉 89
グレンタンクの脱着 90
各部の掃除と注油のしかた 91
各部の掃除 92
各部の注油 98
定期点検 106
オイル，フィルタ類の交換とチェーン，ベルト，クローラの張り調整 106
廃棄物の処理について 106
洗車時の注意 107
使用者が行なってはいけない修理 107
定期点検一覧表 108
給·注油（水）点検一覧表 112
燃料，オイル，グリースの点検·補給·交換 114
燃料の補給 114
エンジンオイルの点検・補給・交換 115
トランスミッションケースオイルの点検・補給・交換 117
フィードチェーン駆動ケースオイルの補給 118
こぎ胴駆動ケースオイルの補給 118
ラジエータ冷却水の点検・補給・交換 ... 120
エアクリーナの点検·掃除·交換 121
パイプ，ホース類の点検 122
防じんあみ，ラジエータフィンの掃除 ... 123
燃料フィルタアッシの交換 124
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 124
ミッション，HST オイルフィルタカートリッジの交換 .. 125
各部ワイヤ，ロッドの点検・調整 125
駐車ブレーキロッドの点検・調整 126
もみ排出クラッチワイヤの点検・調整 ... 126
各部ベルトの点検·調整 127
ファン駆動ベルトの点検·調整 129
ミッション駆動ベルトの点検·調整 130
刈取駆動ベルトの点検·調整 130
脱こく駆動ベルトの点検·調整 131
補助搬送（突起付）ベルトの点検·調整 .. 132
トウミ駆動ベルトの点検・調整 132
こぎ胴駆動ベルトの点検·調整 133
1 番，2 番，揺動，フィードチェーン駆動ベルトの点検·調整 134
カッタ駆動ベルトの点検・調整 134
グレンタンク駆動ベルトの点検·調整 135
各部チェーンの点検·調整 135
引起しチェーンの点検·調整 136
株元供給チェーンの点検・調整 137
穂先供給チェーンの点検 137
フィードチェーンの点検·調整 138
排わら穂先チェーン，排わら株元チェーンの点検 138
排わら入力チェーンの点検 138
刈刃の点検・調整 139
こぎ歯の点検·交換 142
わら切刃の点検·交換 143
カッタ部の点検 146
吐出口ブーツの点検·交換 147
バッテリの点検·交換 148
電気の各配線コード，各ヒューズの点検·交換 152
ランプ（電球）の点検·交換，ホーンスイッチの点検 154
パッカ（スターホイール）のトルクリミッタの調整 154
反射器の点検・交換 155
クローラの点検·調整 155
供給ガイドの点検・注油 156
刈取作業後の手入れ 157
毎日の作業後 157
長期格納時 157

コンバインの不調と処置

わらが詰まる 160
自動エンジン停止装置がはたらいたとき. 160
もみが詰まる 161
オーガからもみが排出されないとき 161
泥やわらが詰まる 161
株元搬送通路の泥やわらの取除きかた... 161
刈取オートクラッチセンサ部のゴミや泥の取除きかた 162
オーガの旋回方向のガタが大きくなったとき 162
その他 163
けん引について 163

付表

主要諸元 164
付属部品 166
オプション（別売品）（純正品を使いましょう） 166
スーパーデバイダ 166
カッタ後付けドロッパ 166
消耗部品（純正部品を使いましょう） .. 167
三菱農業機械（純正油）マルチオイル . 177

索引

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

◆ 一般的な注意事項

⚠取扱説明書及び機械に貼付けている⚠表示ラベルをよく読み，正しい運転，作業方法を覚える。

- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。警告ラベルはいつもきれいにしておいてください。



1BBAAAAAP0280

[守らないと]
死亡又は傷害を負うおそれがあります。

⚠体の状態が悪いときには運転操作をしない。

- 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は，機械の運転操作を行なわないでください。
  - **・お酒を飲んでいる方　・睡眠不足の方**
  - **・妊娠中の方　・過労，病気の方**
  - **・16 歳未満の方**



1ARAEABAP0420

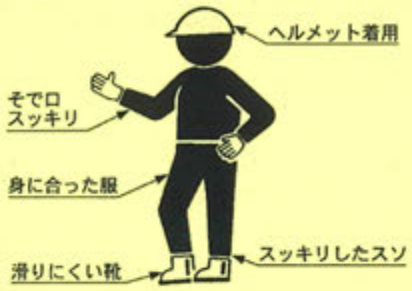
[守らないと]
思わぬ事故の原因になります。

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

⚠作業時には運転者，補助者とも作業に適した服ならびにヘルメット，滑りにくい靴を着用する。

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き，首巻き，腰タオルは着用しない。
- サンダル，スリッパなどの履物は着用しない。
- 必要に応じて安全靴，保護メガネや手袋などを着用する。
- 点検整備には帽子と安全な服装を着用する。
  作業内容によってはヘルメット，安全靴，保護メガネ，防塵マスク，防音具，保護手袋などの保護具を着用する。
  各保護具は使用前に機能を確認する。

[守らないと]
レバーや作動部に引っかかったり，滑ったりして，傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP0450

⚠取扱説明書及び⚠表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

- 機械を他人に貸すとき，運転させるときは，取扱説明書を読ませるとともに，取扱方法や安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるよう指導する。

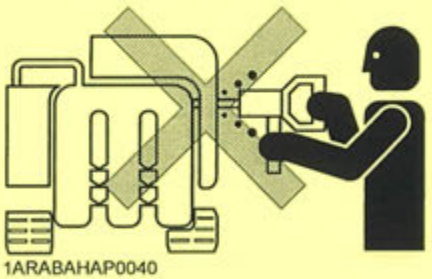
[守らないと]
死亡又は傷害をまねくおそれがあります。



1AAACAAAP008A

⚠機械を改造しない。

[守らないと]
安全性をそこない，思わぬ事故の原因になります。


1ARABAHAP0040

⚠運転席に乗り降りするときは，飛び乗ったり飛び降りたりしない。

- 平坦な場所でハンドルをしっかり握り，すべらないようにステップに足をしっかり掛けて乗り降りする。

[守らないと]
転倒・転落し，傷害を負うおそれがあります。


1ARADBHAP2410

⚠運転者以外は機械に乗らない。

- 動いている機械に飛び乗ったり，飛び降りたりしない。

[守らないと]
振り落とされたり，ひかれたりして，死亡又は傷害を負うおそれがあります。


1ASABAAAP3730

⚠公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守る。

- 公道を走行する場合は，所定の手続きと運転免許証が必要です。
- 公道を走行できない機械は，トラックで運搬する。

[守らないと]
交通事故をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0440

⚠夜間の作業や移動走行は避ける。

- やむをえず夜間作業を行なうときは，ヘッドライトや作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは，必ずヘッドライトを点灯し，作業灯は消灯させる。

[守らないと]
交通事故や転倒・転落をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP1260

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

◆ 作業前の注意事項

⚠屋内で運転するときは，排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

[守らないと]
エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。


1ARAEAAAP0560

⚠燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとる。

[守らないと]
火災の原因になります。



1AAACAAAP001A

⚠機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

- **エンジンを始動するときは，運転席に座って，駐車ブレーキペダルを踏込み，ホーンを鳴らすなどの合図をする。**
- **機械を発進するときや作業スイッチを押すときは，ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。**

[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP0780

- **初めて運転する人は，操作になれるまで低速で運転する。**

[守らないと]
思わぬ事故の原因となります。


1ARAEABAP0580

⚠作業前点検（日常点検）を実施する。

■ 運転の前には点検項目（23 ページ参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。


1ARAEABAP0460

[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

■ 点検・整備・掃除・給油するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。
■ 取外した安全カバー，保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。


1AAAAABAP0180

[守らないと]
回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

■ 下記の部分に堆積しているわらくずなどのごみや泥の堆積，付着した燃料はきれいに取除く。

- 各ベルトカバー内
- 各回転物カバー内
- エンジン周辺
- マフラ及びその周辺（排気口までの部位）
- バッテリ周辺
- プーリ周辺
- 配線部周辺
- 燃料タンク周辺
- 燃料配管周辺（タンク，フィルタ，ポンプ，配管）
- 防じんあみ周辺


1ARAEABAP0600

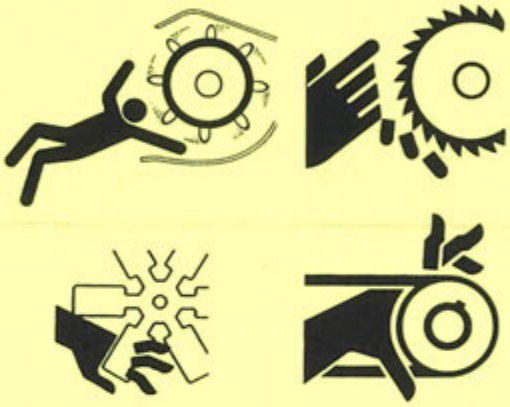
[守らないと]
火災の原因になります。

■ **点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。**


1ARAEAAAP0780

[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠こぎ胴，カッタ部，エンジンルームを開閉するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。


1ARAAAAAP1130

- 各部の開閉を行なうときやグレンタンク **[G仕様]** を取外すときは平坦な場所で行なう。
- こぎ胴，カッタ部を開いたときは，ストッパを掛ける。
- 各部を開いたままやグレンタンク **[G仕様]** を取外したままエンジンを始動しない。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

◆ 移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

⚠移動走行するときは，次の事項を守る。

- 機体各部に付着しているわらくずや排気管に堆積している泥，付着した燃料はきれいに取除く。
- 各作業クラッチを **[切]** 位置にし，運転者以外に人を乗せない。
- もみはすべて排出又は，降ろす。
- 刈取部のデバイダ先端にはデバイダキャップを取付ける。
- 補助デッキ **[213A ホッパ仕様]**，ナローガイドを収納して，機体幅を狭くする。
- オーガを下げ，折りたたんでからオーガ支えに収納してバンドを掛ける。**[G 仕様]**


1ARADAFAP3120

[守らないと]
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。


1ARAFAAAP4310

⚠移動走行時は急旋回をしない。

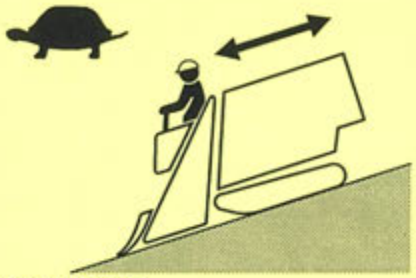
- 方向を変えるときは，走行速度を落として（低速にして），マルチワンレバーをゆっくり操作して旋回する。


1ARAEAAAP0870

[守らないと]
機械から振り落とされたり，転倒するおそれがあります。

⚠右又は，左方向の傾きがある傾斜地は走行しない。

- 坂道（傾斜地）やほ場の進入路では，上り又は，下り方向に低速でゆっくりと走行する。
- 坂道（傾斜地）では，右又は，左に傾いた方向に走行しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回をしない。



1ASAAAHAP367B

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。



1ASAAAHAP368B

⚠道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は，走行しない。

- 溝のある農道や，両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝，穴，土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど，地面のよく見えないときは，事前に降車してよく確かめる。



1ARAEABAP0500

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。

⚠ほ場の出入りで，あぜなど段差のあるところではあゆみ板を使う。


1ASABAAAP3710

- 10cm以上の段差のあるところでは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- もみはすべて排出又は，降ろす。

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠駐車するときや運転席を離れるときは，平たんな場所に止め，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当たるまで降ろして，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。


1ARAEAAAP1290

- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは，さらに木片などで確実に車止めをする。

[守らないと]
機械が暴走し，思わぬ事故のおそれがあります。

◆ 作業時の注意事項

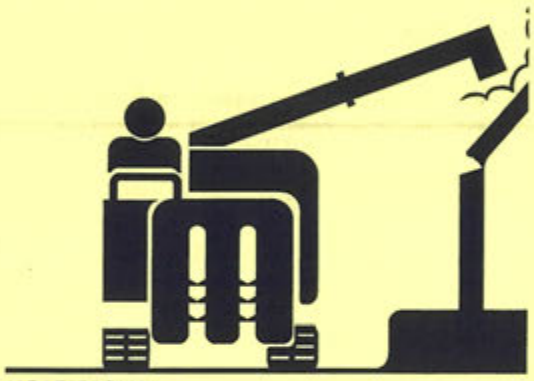
⚠共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なう。


1ARAEABAP0580

- エンジン始動時，及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは，ホーンなどで合図し，必ず補助者の OK をもらう。
- 補助者が機械に近づくときは，運転者に知らせることを徹底させる。

[守らないと]
補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。

⚠オーガを動かすときは，旋回範囲に人や障害物がないことを確認する。[G 仕様]


1ARAEABAP0920

- 旋回範囲に人がいたり，障害物があるときは，オーガを動かさない。
- 折りたたみ式のオーガを伸ばして作業するときは，周囲に人や障害物がないことを確認する。
- オーガは，オーガ支えに収納した状態で作業を行なう。

[守らないと]
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。


1ARAEAAAP1300

[守らないと]
後退し過ぎると，転倒・転落するおそれがあります。

⚠マフラの排気口が泥で詰まるような湿田のほ場では作業をしない。

- 湿田の状態により刈取作業を行なうとき，ほ場の状態を良く確認して，泥が排気管内に侵入しないようにする。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

⚠手こぎ作業するときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして，少量ずつ供給する。

- 機械は平たんな場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキを掛ける。
- そで口はきっちり止めて，手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 刈取かき込みスイッチを**[切]**にして，枕こぎ台の上にわらを乗せて手刈り脱こくを行なう。
- 脱こく部入り口にたまった，わらやもみなどを脱こく部に入れるときは，チェーンに手や腕が巻込まれないように，少量ずつ行なう。

[守らないと]
チェーンに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

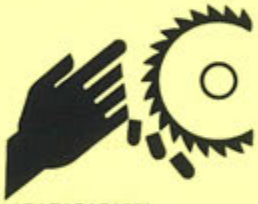

1ARAEABAP0570

⚠異常に気づいたら，すぐエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

- わらの巻付きや詰まりを取除くときや，もみの点検・掃除をするときは，もみ排出クラッチレバー**[G 仕様]**を**[切]**位置にし，エンジンを必ず止めて処置する。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。


1ARAEAAAP0460

[守らないと]
カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0550

⚠点検や掃除で外したカバーは，必ず取付けること。

- ベルトやチェーンのカバー，及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。


1ARAEAAAP0460

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

◆ 作業後・格納時の注意事項

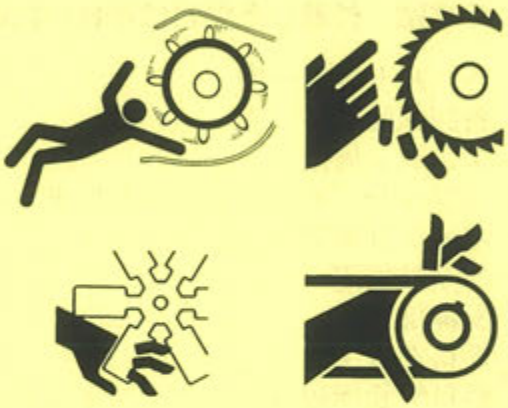
⚠わらくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

[守らないと]
わらくずや枯れた雑草は燃えやすく，火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

⚠点検・掃除する前に，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

[守らないと]
機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAAAAAP1130

⚠点検・掃除は，エンジン停止後，各部が冷えてから行なう。

- エンジン本体・マフラ・排気管は，エンジン停止直後は触れない。


1AKADACAP1390

[守らないと]
やけどを負うおそれがあります。

■ 下記の部分に堆積しているわらくずなどのごみや泥の堆積，付着した燃料はきれいに取除く。

- 各ベルトカバー内
- 各回転物カバー内
- エンジン周辺
- マフラ及びその周辺（排気口までの部位）
- バッテリ周辺
- プーリ周辺
- 配線部周辺
- 燃料タンク周辺
- 燃料配管周辺（タンク，フィルタ，ポンプ，配管）
- 防じんあみ周辺


1ARAEABAP0600

[守らないと]
火災の原因になります。

⚠掃除するときは，刈刃やカッタの刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0550

⚠バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，バッテリケーブルをショートさせない。

[守らないと]
バッテリからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。


1ARAEABAP0110

⚠ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

[守らないと]
ショートによる火災発生のおそれがあります。


1ARAEAAAP0410

⚠機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン，マフラが冷えてから掛ける。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

◆ 点検整備時の注意事項

⚠定期点検整備を行ない，各部の保守をする。

[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0460

⚠廃棄物をみだりに捨てたり，焼却しない。

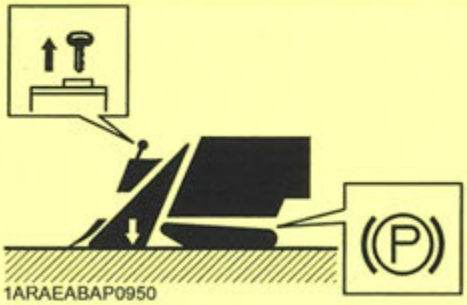
- 機械から廃液を抜く場合は，容器に受ける。
- 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしない。
- 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理する。

[守らないと]
環境汚染につながります。


1BJABAAAP0180

⚠各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは，平たんな場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜き，各クラッチを [切] 位置にして，駐車ブレーキを掛ける。

[守らないと]
機械に挟まれたり，巻込まれて傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP0950

⚠こぎ胴，カッタ部を開いたときは，ストッパで固定する。

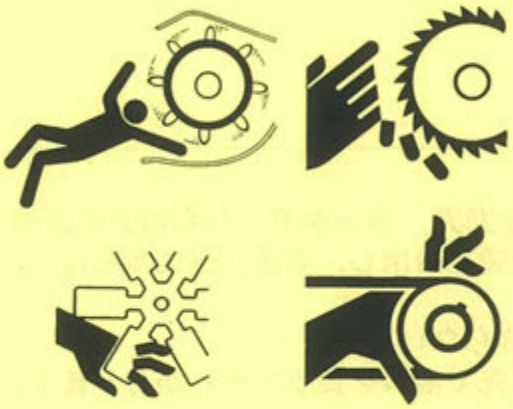
[守らないと]
機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP1010

⚠こぎ胴，カッタ部を開いたままやグレンタンク［G 仕様］を取外したままエンジンを回さない。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



1ARAAAAAP1130

⚠揺動流板やノコハアッシなど重量物の脱着作業は，2人以上で行なう。

[守らないと]
不意の落下により，傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP0910

⚠刈取部を上げて点検・整備・掃除するときは，刈取部をロックするとともに，落下防止の歯止めをする。

- 作業前に，エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしない。


1ASACAAAP3630

[守らないと]
機械にはさまれて，傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0910

⚠刈刃，カッタ刃，わら切刃を調整・交換するときは，手袋を着用し，直接刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0550

⚠取外したカバー類は，必ず取付ける。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP0460

⚠バッテリを取外すときは，最初にマイナス（−）側のケーブルを取外す。

- バッテリの近くに裸火（マッチ・ライタ・タバコの火など）を近づけたり，バッテリケーブルのショートによるスパークをさせない。
- バッテリを取付けるときは，最初にプラス（+）側のケーブルをプラス（+）側の端子に取付ける。


1ARAEABAP0110

[守らないと]
ヤケドや発火爆発のおそれがあります。

⚠バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない。[補水タイプ]

- バッテリ液が不足していれば，すぐにUPPER LEVEL(上限）とLOWER LEVEL（下限）の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従う。



1ARAEABAP0130

[守らないと]
LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると，爆発の原因となることがあります。

⚠バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない。

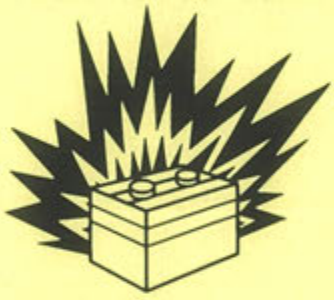
- 目に入ったときや飲込んだときは，すぐ水でよく洗った後，医師の治療を受ける。
- 皮ふ，衣服についたときは，すぐ水でよく洗う。



[守らないと]
失明やヤケドのおそれがあります。

⚠指定外のバッテリは使わない。

- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用する。



1ARAEABAP0120

[守らないと]
思わぬ事故が発生するおそれがあります。



1ARAEABAP0620

⚠ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは，エンジンが冷えてから開ける。

- エンジン停止後，３０分以上経過してからラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。


1ARAEABAP0050

[守らないと]
熱湯や蒸気が吹き出して，ヤケドや傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0160

⚠燃料ホース，ラジエータホース，オイルドレーンホースは，２年ごとに交換する。

- ゴム類は時間がたつと劣化するので，定期的に交換する。

[守らないと]
燃料や熱湯がもれて，火災やヤケドを負うおそれがあります。


1AAAAABAP0240


1AAAAABAP0250

⚠燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは，厚紙や板などを使って点検する。

- 高圧噴油に直接手を触れない。もし，触れた場合は，直ちに医者の診断を受ける。



1BAACAAAP0100

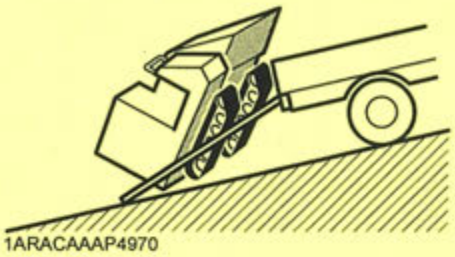
[守らないと]
油が皮ふに侵入して，強度のアレルギーや感染症を引起す可能性があります。



1ARAEABAP0060

◆ 運搬時の注意事項

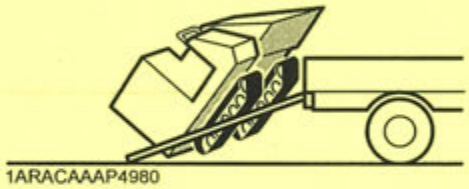
⚠トラックへの積込み・積降しは平たん地で行なう。


1ARACAAAP4970

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの駐車ブレーキを掛け，トラックの変速レバーを**R（後進）**又は，**1速**に入れたあと，さらにタイヤに車止めを行ない，トラックが動かないようにしっかり固定する。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降しには基準に合ったあゆみ板を使う。


1ARACAAAP4980

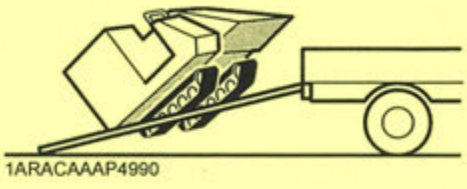
- あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	45cm 以上
数　量	２枚
強　度	１枚が 700kg 以上に耐えうる

- あゆみ板はフック，すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，外れたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降し前に，もみはすべて排出，又は降ろす。

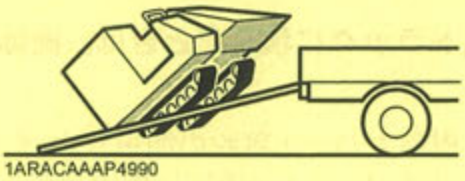

1ARACAAAP4990

- オーガを下げ，オーガ支えに収納してバンドを掛ける。**[G 仕様]**
- オーガは，折りたたんで収納する。**[G 仕様]**

[守らないと]
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠トラックへの積込み・積降しは最低速で行なう。

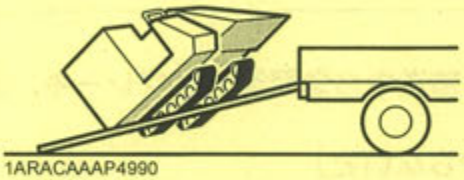
- 各作業クラッチ（脱こく・刈取，もみ排出）を **[切]** 位置にする。
- 積込みは前進で，積降しは後進で行なう。


1ARACAAAP4990

[守らないと]
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠あゆみ板の上では方向修正しない。

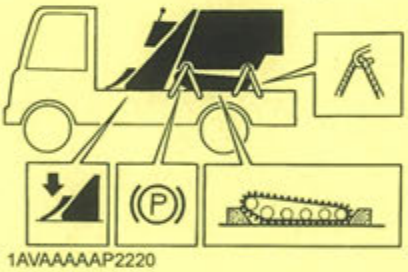
- あゆみ板を走行するときは，機体から降りる。
- あゆみ板の上では，ステアリングレバーを操作しない。
- 方向を変えるときは，いったん地上又は，荷台にもどって方向を修正し，再度やり直す。


1ARACAAAP4990

[守らないと]
急旋回したり，暴走して落下するおそれがあります。

⚠トラックの上では，刈取部を床に当たるまで降ろして，駐車ブレーキを掛ける。

- 駐車ブレーキを掛ける。
- 所定の **[ロープ掛けフック（4箇所）]** にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。

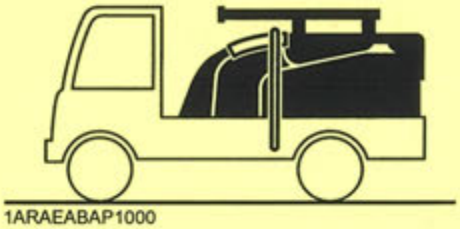


1AVAAAAAP2220

[守らないと]
機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

⚠トラックに積んだときは，機体の各カバーを固定する。

- 樹脂カバー・着脱の簡単なカバー・折りたたみ部品などは，ロープで確実に固定するか，外して荷台に置く。


1ARAEABAP1000

[守らないと]
輸送中に風圧で破損，脱落のおそれがあります。

⚠輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。

[守らないと]
輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。


1ARAEABAP0440

安全作業するための表示ラベル

■表示ラベルの内容・貼付位置

①品番　97430001750

⚠ 注　意

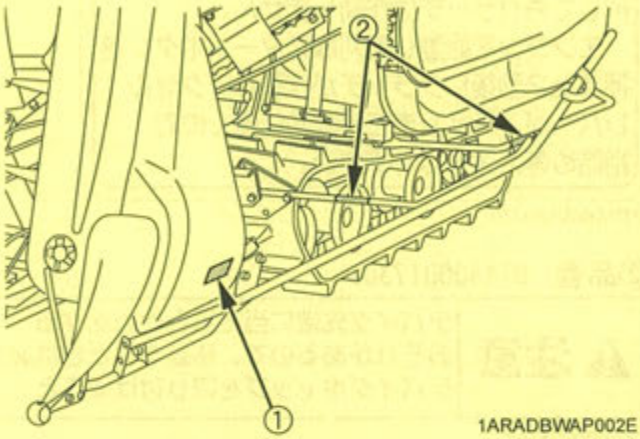
中に回転物がありけがをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ARADAKAP2360

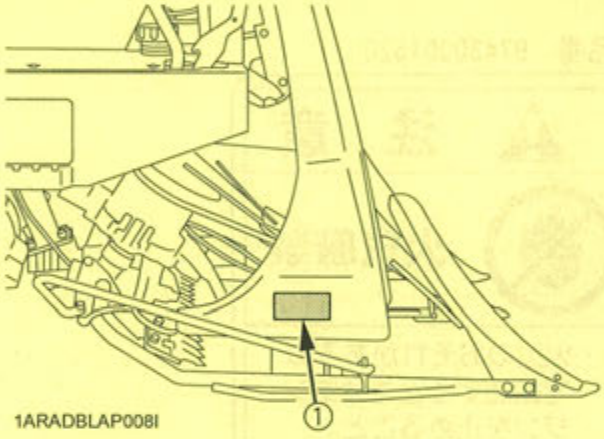
②品番　97430001740

⚠注意　人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

1ARADAKAP2180



1ARADBWAP002E



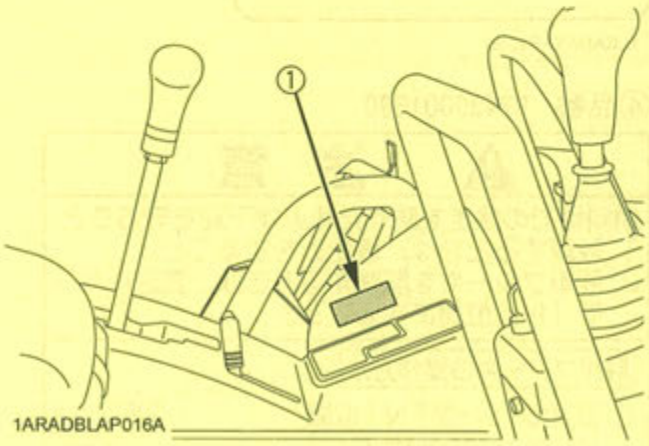
1ARADBLAP008I

①品番　97430001670

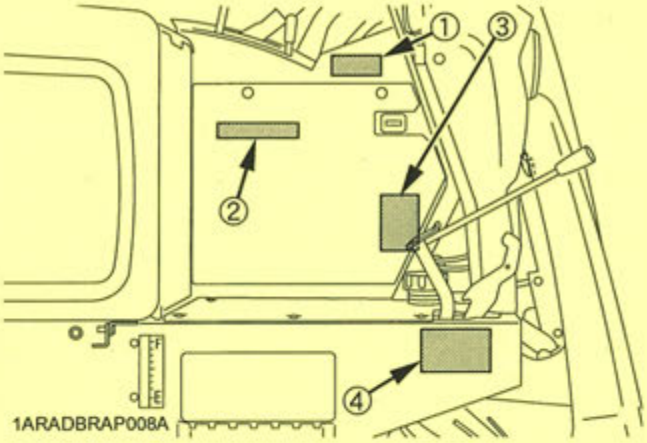
⚠ 注　意

刈取部を上げたとき、手を挟まれケガをするおそれがあるので、このパネルのラベル部の裏側に手を入れないこと。

1ARADBHAP2050



1ARADBLAP016A



1ARADBRAP008A

①品番　97430001710

⚠ 注　意

エンジン停止状態で刈取スタートボタンを押してもクラッチは作動しません。
エンジンを始動して刈取スタートボタンを押すと2秒後にクラッチが作動しアクセルレバーが「🐇」まで自動的に動くので指詰め等に注意して下さい。

1ARADBWAP0370

②品番　97430001730

⚠ 注意	デバイダ先端に当たるとケガをするおそれがあるので、移動するときは必ずデバイダキャップを取り付けること。

1ARADBIAP2720

③品番　97430001520

⚠ 注　意

火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

ディーゼル軽油

1ARADAKAP2290

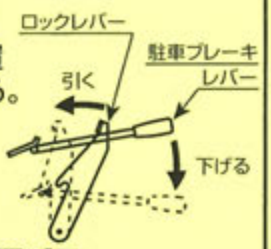
④品番　97430001690

⚠ 注　意

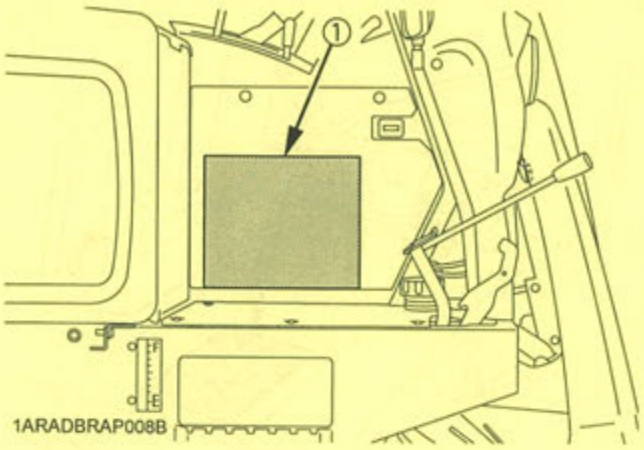
傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。
1. 駐車するときは、車止めをすること。
2. 駐車ブレーキを解除するときは、変速レバーを「N」位置にすること。

駐車ブレーキの操作方法

①変速レバーを「N」位置にしエンジンを停止する。
②駐車ブレーキレバーを下げながら、ロックレバーを引いてフックを引っ掛ける。
③ロック解除は、レバーを下げる。



1ARADBLAP2720



①品番　97430001700

⚠ 注　意

マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

⚠ 注　意

中に回転物があり、ケガをするので点検・調整時は必ずエンジンを止めること。また点検・調整後はカバーを必ず取り付けること。

⚠ 注　意

刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときはロック金具を必ずロックすること。

⚠ 注　意

作業前
1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2. 屋内は排気ガスが溜まり易くガス中毒のおそれがあるので、換気すること。
3. ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは各作業クラッチを「切」にして、エンジンを必ず止めること。

移動・作業中
1. 走行時はエンジン回転数を上げること。
2. 発進するときや 脱こく部・刈取部を作動させるときは、周囲の安全を確かめ合図して、機械に人を近づけないこと。
3. 走行を停止するときは、変速レバーを操作して「N」の位置にすること。
4. 転倒・転落事故のおそれがあるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・がけぎわなどは走行しないこと。また、移動走行で旋回するときは必ず減速すること。
5. 刈取作業時以外（あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時、坂道（傾斜地）走行時）は、「もみ」はすべて排出または降ろして、各作業クラッチを「切」にすること。

積込み・積降し・あぜ越え
1. 転倒・転落事故のおそれがあるので、積込みおよびあぜ越えをするときは以下を守ること。
①上がるときは前進で、降ろすときは後進で行う。
②変速レバーを低速にすること。
③運転者は機械から降りて操作すること。
④あゆみの上ではステアリングレバーを操作しないこと。
方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。
⑤あゆみ板は段差の4倍以上の長さですべり止めがあり、基準にあったものを使用すること。

駐・停車
1. 火災のおそれがあるので、機械を停止するときは切りワラや雑草の上に停めないこと。
2. 機械から離れるときは、エンジンを止めて始動キーを抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。

⚠ 注　意

エンジンを始動するときは、駐車ブレーキを掛けて、変速レバーを「N」にし、各作業クラッチを「切」にすること。

エンジンオイルの取扱注意
1. 三菱純正オイル（ディーゼルエンジン用）10W30を使用すること。また、メーカーの異なるオイルは混合しないこと。
2. オイルの交換は新車（新品エンジン）運転で35時間目以後は取扱説明書を見ること。

冷却水の点検・補給
1. 冷却水は必ず作業前に点検・補給すること。
（リザーブタンク水面がLOW以下の場合はラジエータとリザーブタンクに真水を補給すること。）
2. 炎天下で連続使用する場合は早めに冷却水の点検・補給をすること。
3. 工場出荷時には不凍液（ロングライフクーラント）を入れています。冬期不凍液を入れない場合凍結割れが生じますので長期格納時は必ずエンジン後部とラジエータ下部のドレーンプラグより排水すること。

ラジエータの点検・清掃
1. 水温ランプが点灯した時はエンジンを止めて防塵カバーのホコリを除去すること。
2. ラジエータコアにゴミが附着したまま作業を続けるとオーバーヒートの原因となりますので時々清掃をすること。
3. 取扱注意事項の詳細については取扱説明書を見ること。

エアクリーナの取扱注意
1. エアクリーナの定期点検は少なくとも50時間毎に行うこと。
2. エレメントの清掃は、エアクリーナに指示してある通りに行うこと。

1ARADBWAP0380

①品番　97430001660

⚠ 注　意



エンジンを回転したままエンジンルームを開けるとファンやベルトでケガをするおそれがあるのでエンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

⚠ 注　意

エンジンルームをオープンし点検調整後は、必ず「クランプ」で確実にロックすること。ロックしないと走行中に不意にオープンすることがあり危険です。

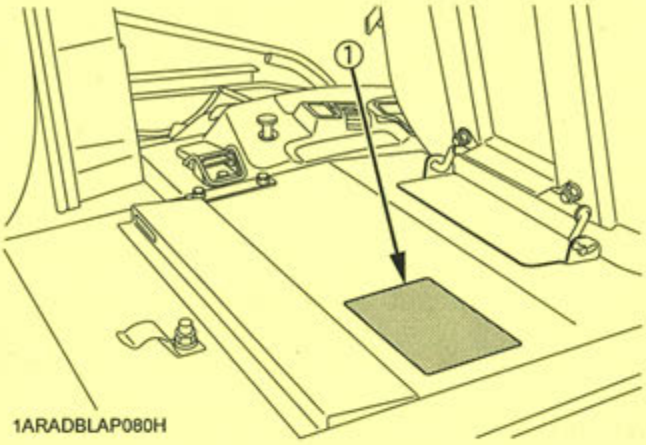
⚠ 注　意



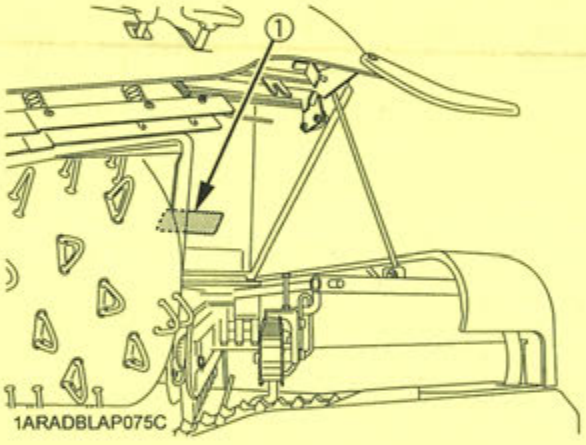
オーバヒートでエンジンルームを開けて点検整備するときは、次の手順を守ること。
1. エンジンを止める。
2. 必ず停止後30分以上経過してから、エンジンルームを開けること。

エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがある。

1ARADAKAP2240



1ARADBLAP080H



1ARADBLAP075C

①品番　97430001560



⚠ 警　告

1. 扱胴オープンした状態で脱こく機を回転させると非常に危険です。エンジンは、絶対に始動しないこと。
2. 扱胴をオープンして、受網の脱着や扱室の掃除をするときは扱胴が落下して身体がはさまれることがあるので、ストッパで必ず固定すること。
3. パワーアップ扱胴仕様には、ストッパの必要がない為、装備していません。



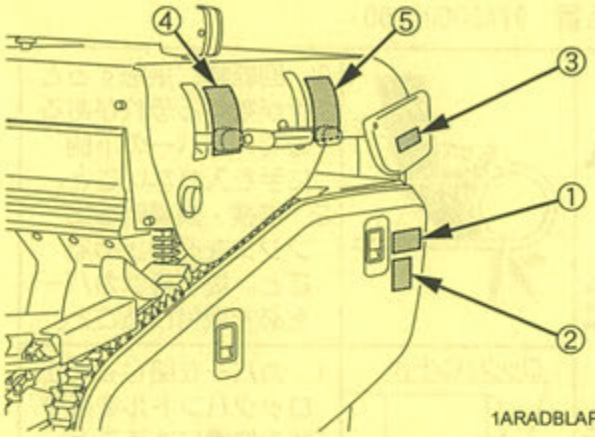
1ARADBEAP362J

①品番　97430001820

⚠ 警告

1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので，手を絶対に入れないこと。
2. チェーン・ベルトに接触すると，手をケガするので，手を絶対に入れないこと。
3. カッタ開閉時はエンジンを必ず止めること。
4. カッタをオープンしたまま運転しないこと。
5. 点検・調整，ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。
6. 点検・調整などが終わったら，カバーを元通りに必ず取り付けること。

1ARADAKAP2310



1ARADBLAP005I

②品番　97430001810

⚠ 注意



1. 回転物に接触するとけがをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2. 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。



1. カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。
2. ロックが確実にされていないと、落下して危険です。

1ARADBLAP2740

③品番　97430001760

⚠ 警告



1. カバーの中に回転物がありケガをするので手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付や詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

1ARADAKAP2320

④品番　97430001780



⚠ 警告



1. ワラなどの巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めること。
2. 手扱き作業で、手・腕をチェンに挟まれてけがをする恐れがあるので、下記を守ること。
・平坦な所で走行部・刈取部を止めること。
・手・腕をチェンの外側に位置させ、わらを少しずつ送り込むこと。

1ARADBLAP2750

⑤品番　97430001790



⚠ 警告



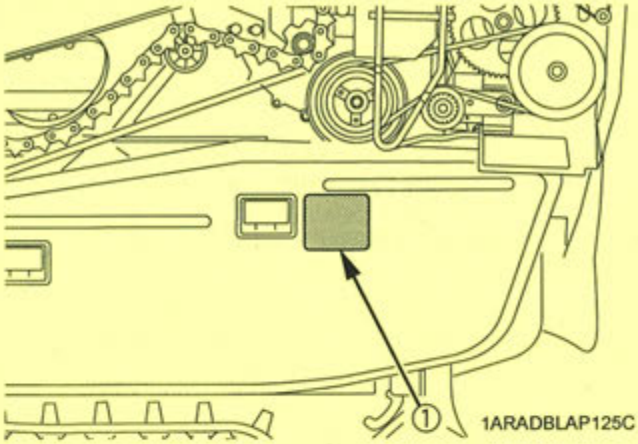
中で扱歯が高速で回転しているので、接触するとケガをします。
扱胴オープンするときにはエンジンを必ず止めること

1ARADBLAP2760

①品番　97430001800

⚠ 注意		1．回転物に接触するとけがをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。 2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。
意		1．カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。 2．ロックが確実にされていないと、落下して危険です。

1ARADBLAP2740



1ARADBLAP125C

[ホッパ仕様]

①品番　97430001540

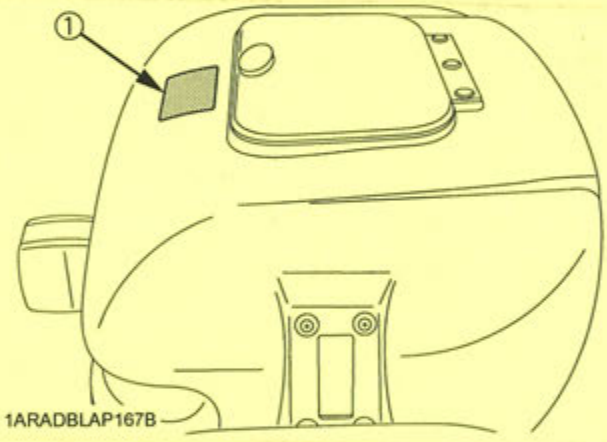


⚠ 警　告

1．ホッパの中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。
2．手を入れるときは必ずエンジンを停止すること。

変形や落下のおそれがあるので、ホッパの上に物を載せないこと。

1ARADBHAP2420

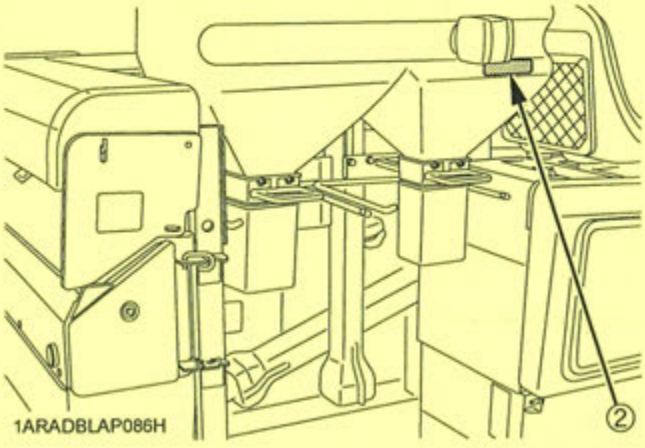


1ARADBLAP167B

②品番　97430001510

⚠ 注意	1．転落のおそれがあるのでもみ受けデッキ、補助デッキには乗らないこと。 2．移動するときは、人に当ってケガをさせるおそれがあるので、補助デッキを必ず収納すること。

1ARADAKAP2370

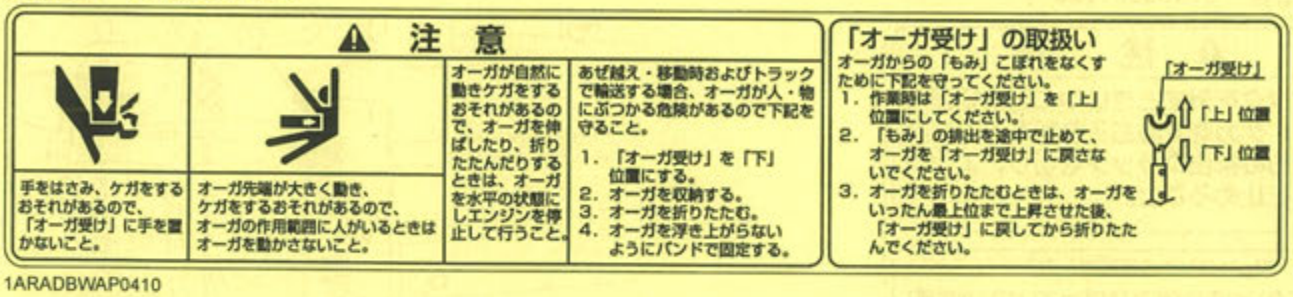


1ARADBLAP086H

[ホッパ仕様]

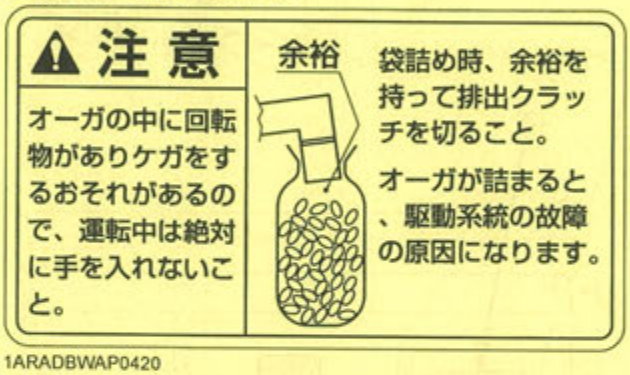
[G仕様]

①品番　97430001640

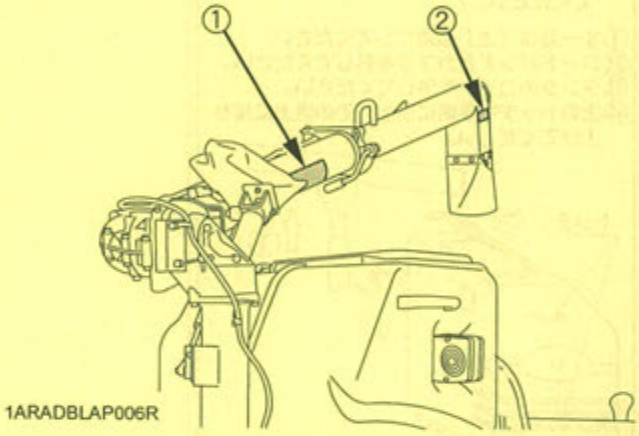


1ARADBWAP0410

②品番　97430001650

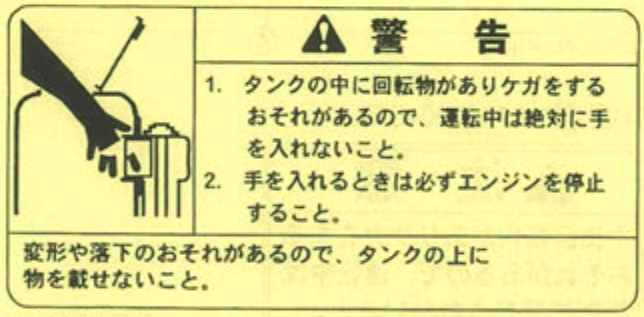


1ARADBWAP0420

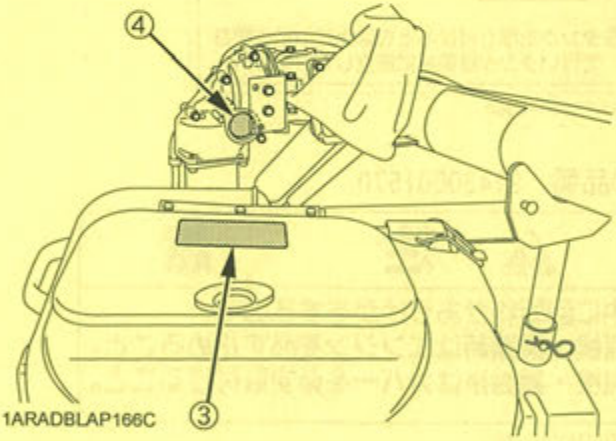


1ARADBLAP006R

③品番　97430001680



1ARADAKAP2350



1ARADBLAP166C

④品番　97430001630



1ARADAKAP2410

[G仕様]

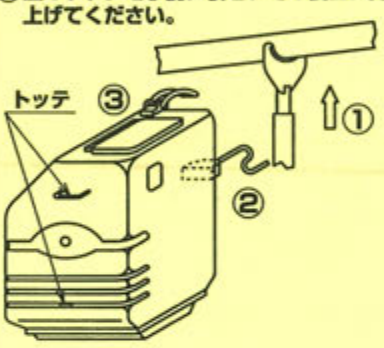
①品番　97430001720

⚠ 注　意

タンクを外すときは中に回転物があり、ケガをするおそれがあるので必ずもみ排出クラッチを切り、エンジンを止めること。

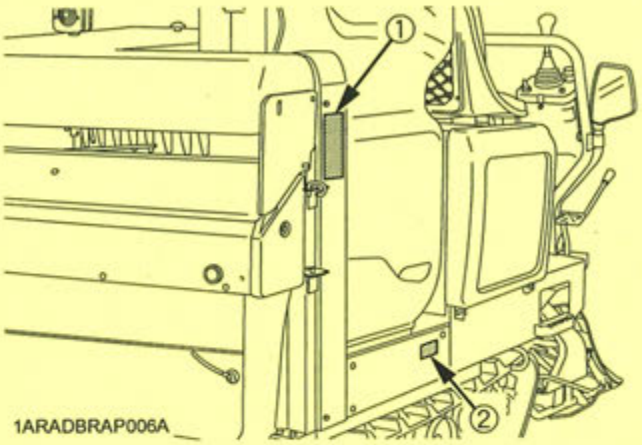
グレンタンクの脱着のしかた
（タンク内に「もみ」が残っていないか確認してください。）

①オーガは「上」位置にしてください。
②コードバンドとカプラを外してください。
③タンクのロックを外してください。
④上のトッテを手前に引き、その後上に持ち上げてください。

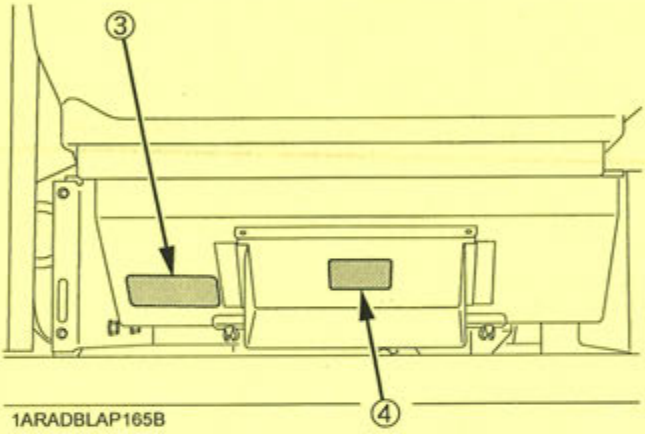


⑤タンクを取り付けるときは上記の逆の順番で行いタンクは確実に固定してください。

1ARADBWAP0390



1ARADBRAP006A



1ARADBLAP165B

②品番　97430001570

⚠ 注　意

中に回転物がありけがをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ARADAKAP2360

④品番　97430001530

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

1ARADAKAP2470

③品番　97430001580

⚠ 注意

掃　除　口

中に回転物がありけがをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

1ARADBEAP369J

[G仕様]

①品番　97430001620

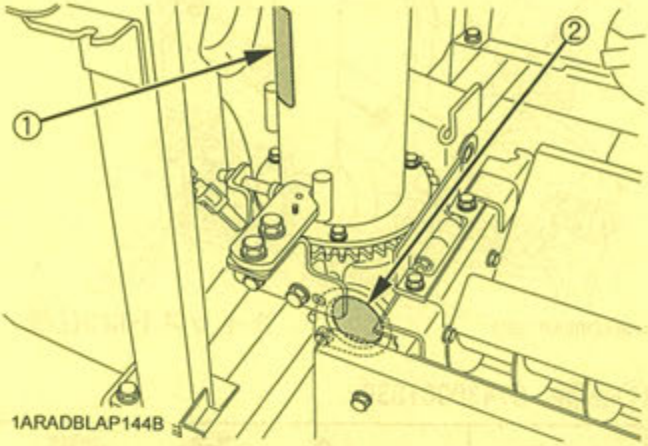


1ARADAKAP2460

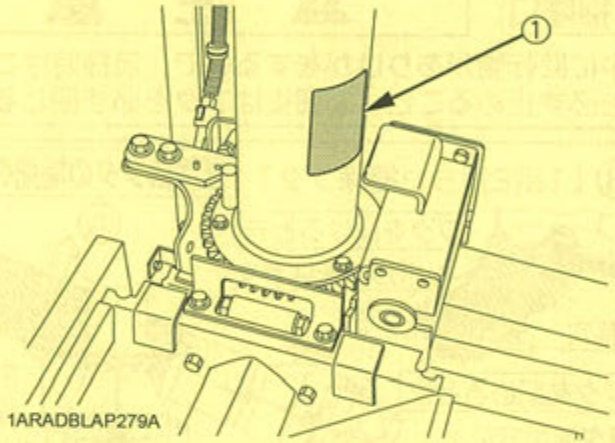
②品番　97430001630



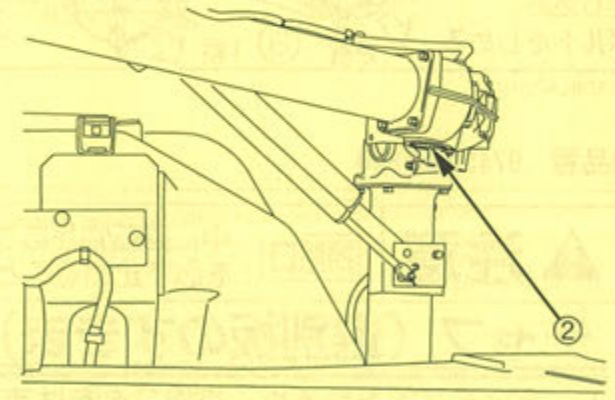
1ARADAKAP2410



1ARADBLAP144B

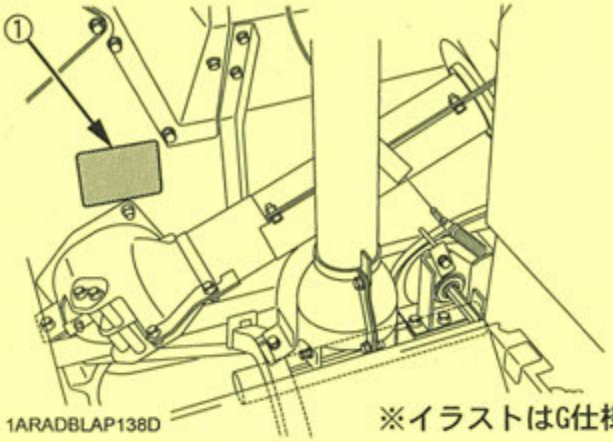


1ARADBLAP279A

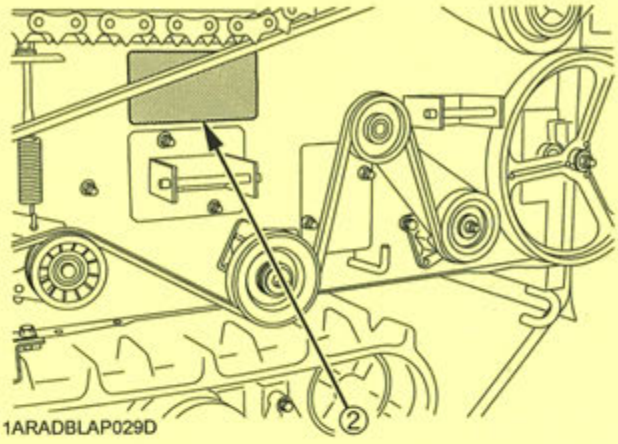


1ARADBLAP280A

[G仕様]



1ARADBLAP138D　※イラストはG仕様

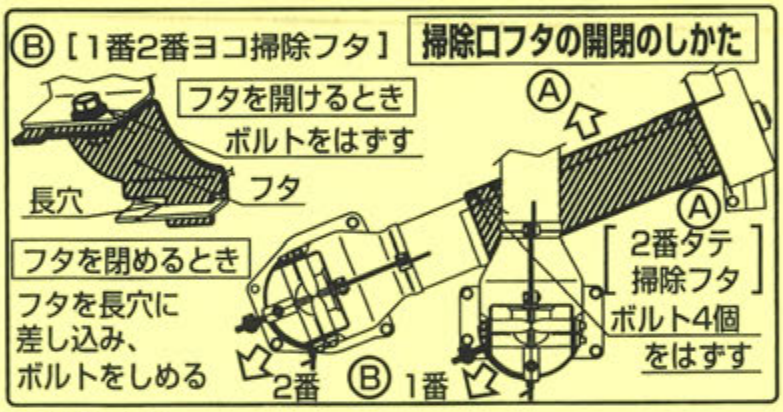


1ARADBLAP029D

①品番　97430001830

掃除口　⚠ 注　意

中に回転物がありけがをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。



1ARADBLAP2810

②品番　97430001840

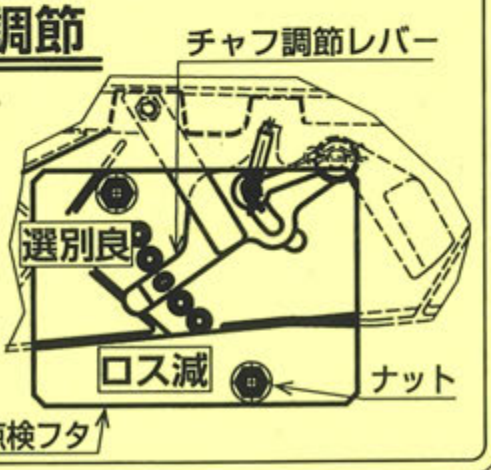
⚠注意　掃除口　中に回転物がありけがをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。

チャフ（選別板のすきま）調節

1．ナット2本をゆるめ、点検フタをはずす。
2．揺動流板を手で回動させ、右図のようにセットしやすい位置にする。
3．選別・ロスを良くしたい場合は、チャフ調節レバーを下記の方向にセットする。

「選別良」方向調節
選別が悪いとき、または小枝梗が多いとき。

「ロス減」方向調節
ロスが多いとき、または脱プが多いとき。



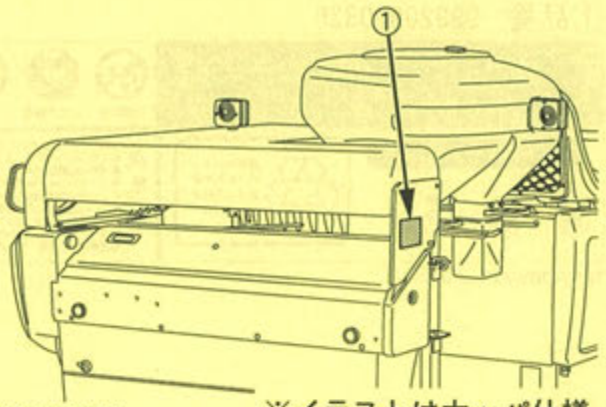
1ARADBWAP0400

①品番　97430001550

⚠警告

1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。

1ARADAKAP2480

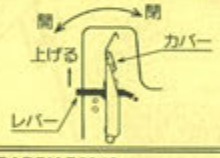


1ARADBLAP003Q　※イラストはホッパ仕様

②品番　97430001610

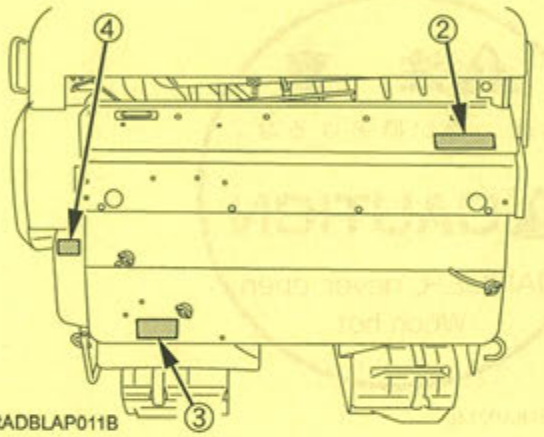
⚠警告

1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対にいれないこと
2. 点検・調整、わら・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること
3. 点検・調整などが終わったら、危険ですのでカバーを元通りに必ず戻すこと



1. このカバーを開く場合、カバーを押さえながらレバーを持ち上げます
2. カバーを閉じる場合、カバーを押しこむとレバーで固定されます
3. カバーを開いた状態でエンジンをかけ、脱こくクラッチを入れると、エンジンが停止します

1ARADBIAP2640



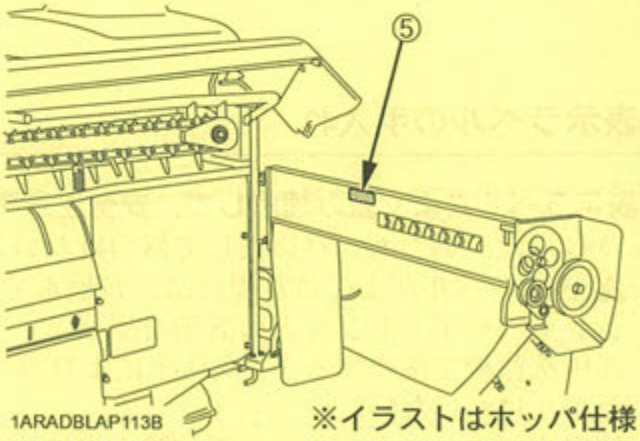
1ARADBLAP011B

③品番　97430001590

⚠警告

1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

1ARADBEAP373J



1ARADBLAP113B　※イラストはホッパ仕様

④品番　97430001770

⚠注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

1ARADAKAP2340

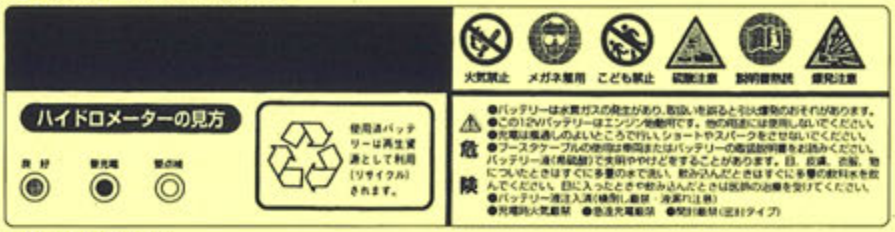
⑤品番　97430001600

⚠注意

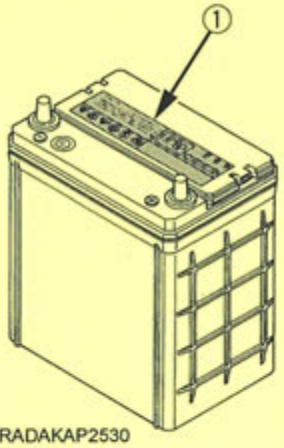
1. カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。
2. カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。

1ARADAKAP2510

①品番　99920000320



1ARADBWAP0230

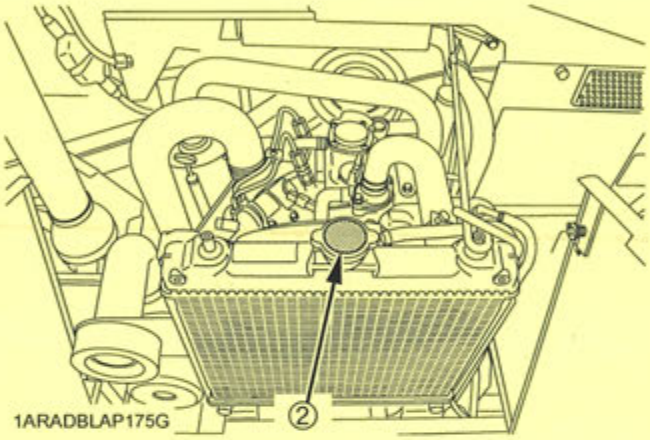


1ARADAKAP2530

②品番　97430001500



1ARADAKAP2540



1ARADBLAP175G

表示ラベルの手入れ

■表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにする。
- ⚠ 表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふく。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあるので，高圧水を直接ラベルにかけない。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替える。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼る。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換する。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

◆ ご相談窓口

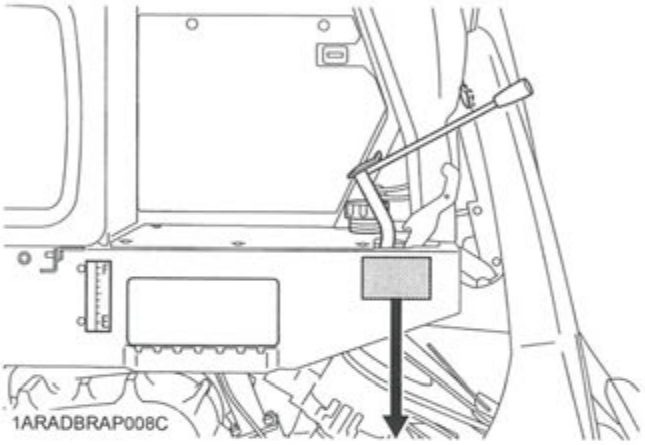
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**【ご相談窓口】**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際，

1. 販売型式名（商品名）・区分と車台番号
2. エンジンの型式名（model）と番号（serial）

をあわせてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

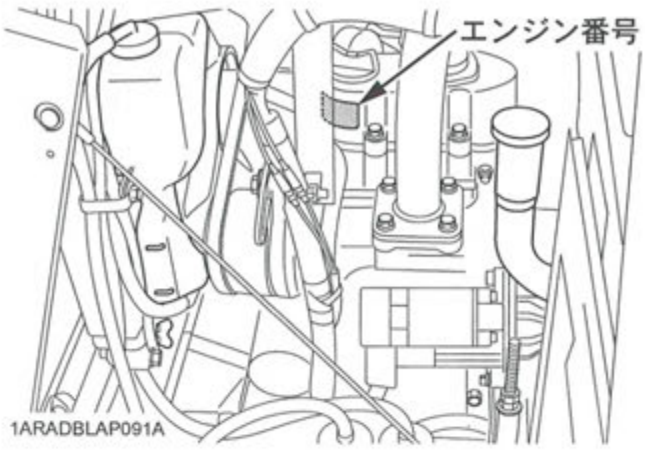


1ARADBRAP008C

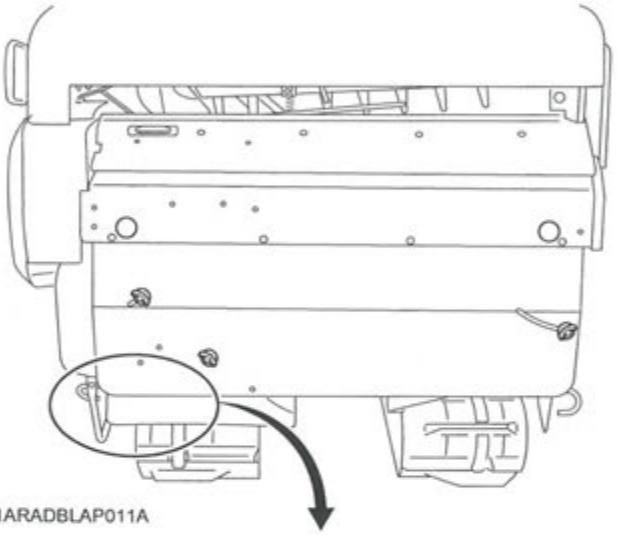
農業機械の種類	コンバイン(自脱型)
型式名	クボタ
販売型式名	
区分	
車両型式名	クボタ
車台(製造)番号	
製造会社	株式会社クボタ

三菱マヒンドラ農機株式会社

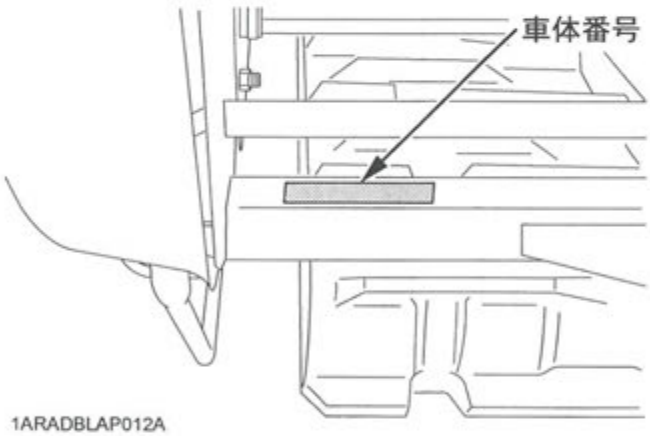
1ARADBWAP024A



1ARADBLAP091A



1ARADBLAP011A



1ARADBLAP012A

サービスと保証について

◆ 認定番号

安全鑑定・型式検査（国検）の農機型式名及び認定番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

商品名	農機型式名	安全鑑定番号	小型特殊自動車 車両型式名	摘　要
V211A	クボタ R1401	39047	クボタ C229	ホッパ仕様
V211AG	クボタ R1401G	39048	クボタ C229	グレンタンク仕様
V213A	クボタ R1402	39049	クボタ C230	ホッパ仕様
V213AG	クボタ R1402G	39050	クボタ C230	グレンタンク仕様

補　足

＊ 届出には型式認定番号が必要ですが，車台番号（打刻）で代用することができます。

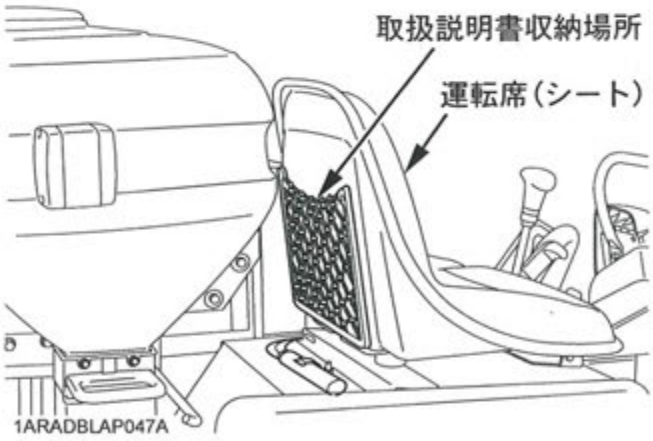
◆ 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

◆ 取扱説明書の収納場所について

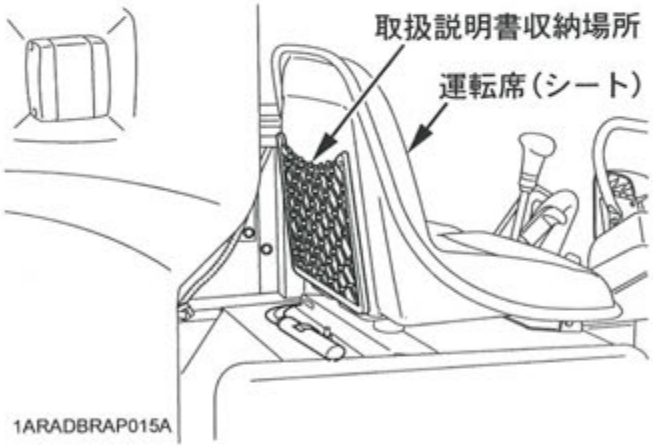
本冊子を付属部品のビニール袋にいれたあと，運転席（シート）裏側にある取扱説明書収納場所に本冊子を収納して，常時携帯してください。（出荷時は取扱説明書がビニール袋に入っています。）

[ホッパ仕様]



[ホッパ仕様]

[G 仕様]



[G 仕様]

補　足

＊ 取扱説明書収納場所は，デバイダキャップの保管場所としても使用してください。（41 ページ参照）

小型特殊自動車について

このコンバインは，道路運送車両法の農耕作業用小型特殊自動車に該当します。

警　告

＊ 道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

補　足

＊ 作業灯は**［道路運送車両法の保安基準］**第42条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

＊ このコンバインは，小型特殊自動車で道路運送車両法の保安基準が適用されます。下記のうち一つでも条件を満足しないと保安基準に適合しませんので特にご留意してください。

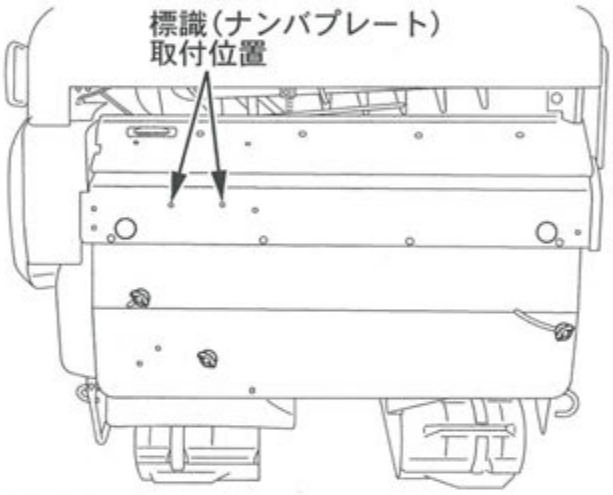
1. 認定を受けたエンジン以外は搭載して走行することはできません。
2. エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証はいたしません。
3. 認定時の構造を変更した状態では，道路走行することはできません。
4. ドロッパ，スーパーデバイダなどを装着した場合は公道を走ることができません。装着した状態で移動するときは，トラック輸送（36ページ参照）してください。（カッタは，装着したままで走行できます。）

◆ 小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバプレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届け，標識（ナンバプレート）の交付を受けなければなりません。

手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

1. 小型特殊自動車取得の証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバプレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバプレート）を車体の取付け位置に取付けてください。



1ARADBLAP011G

◆ 損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

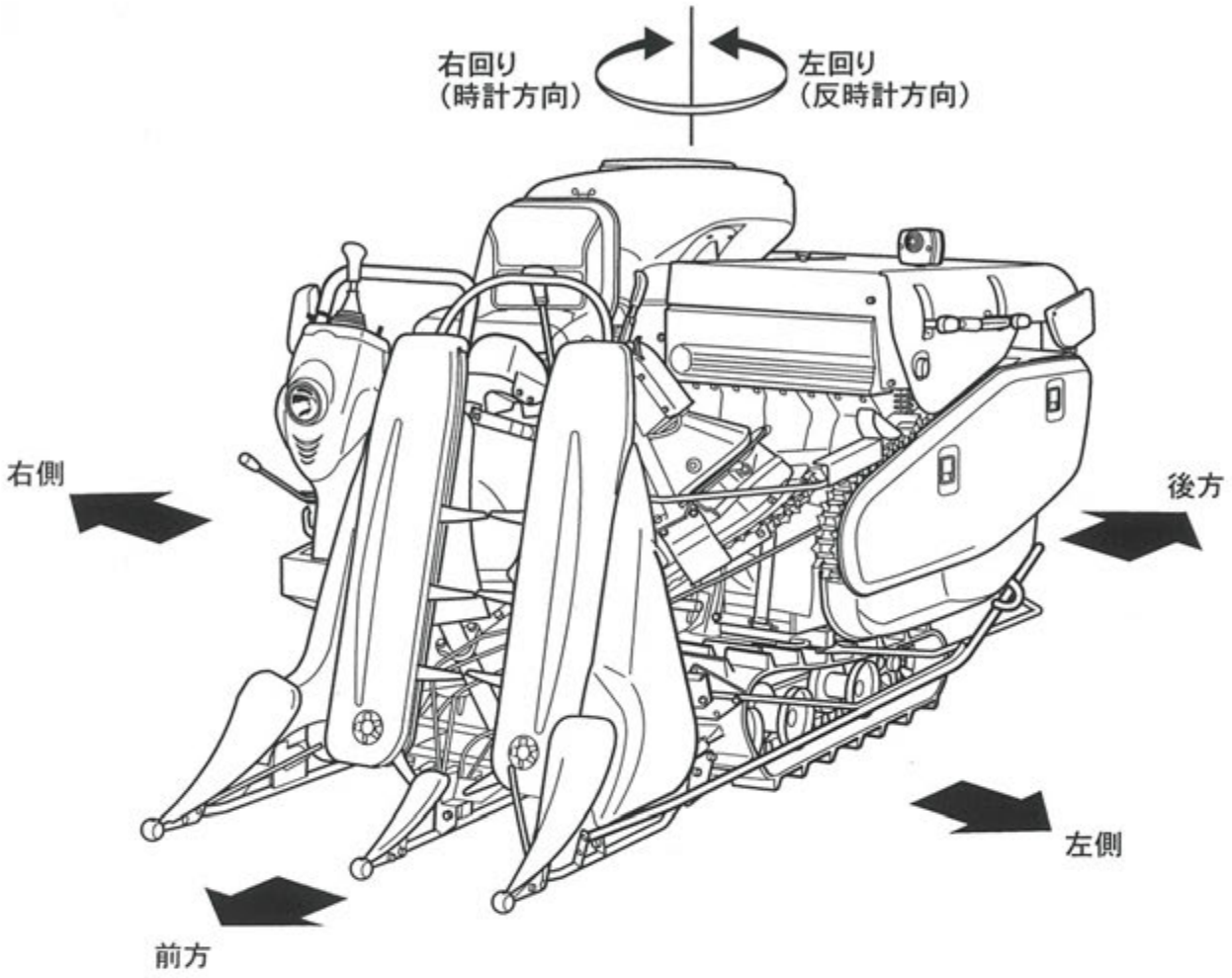
◆ 運転免許証の携帯

公道走行時は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。

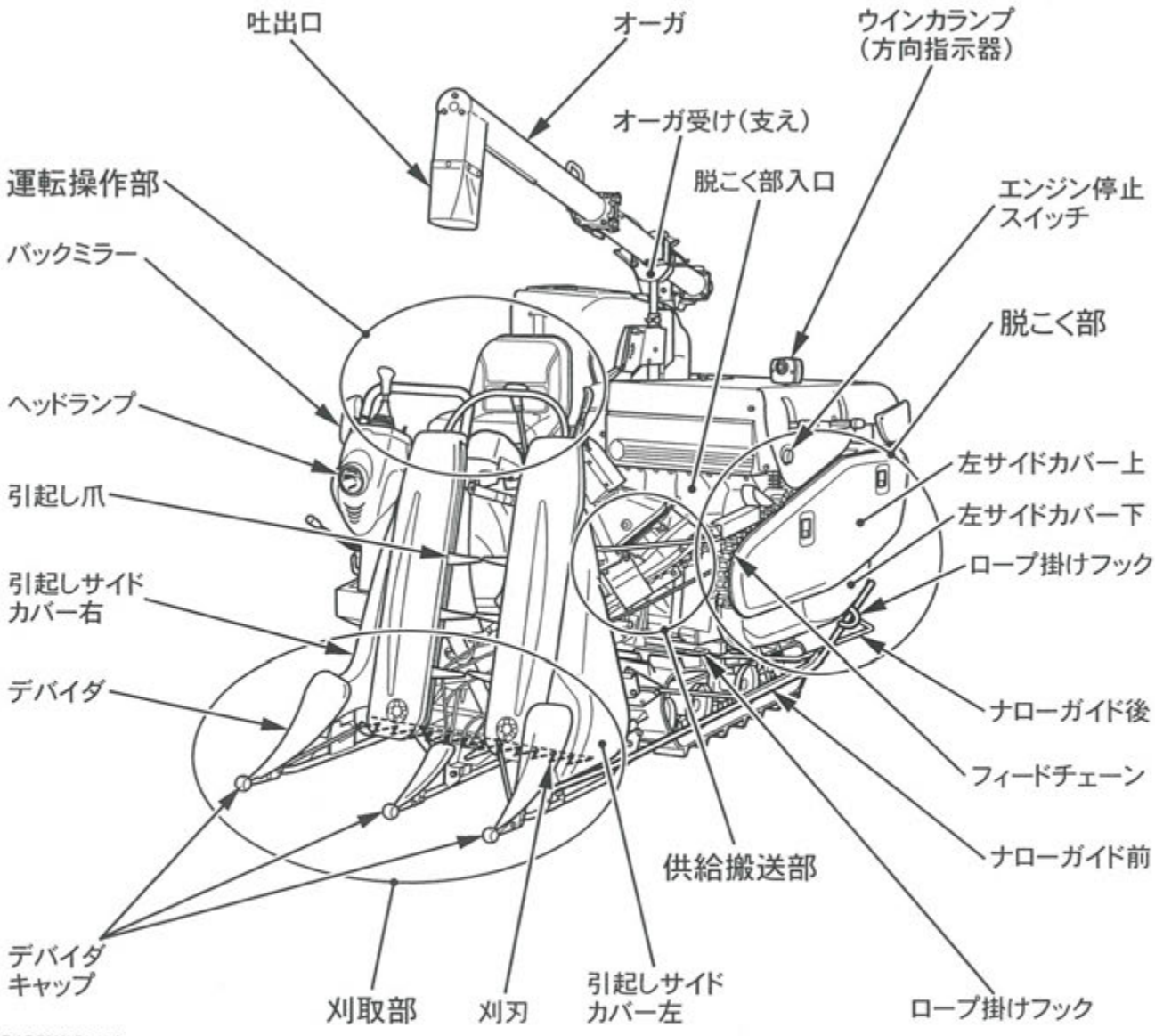


1ARADBWAP002A

※イラストはホッパ仕様

装置の名称とはたらき

[G 仕様]



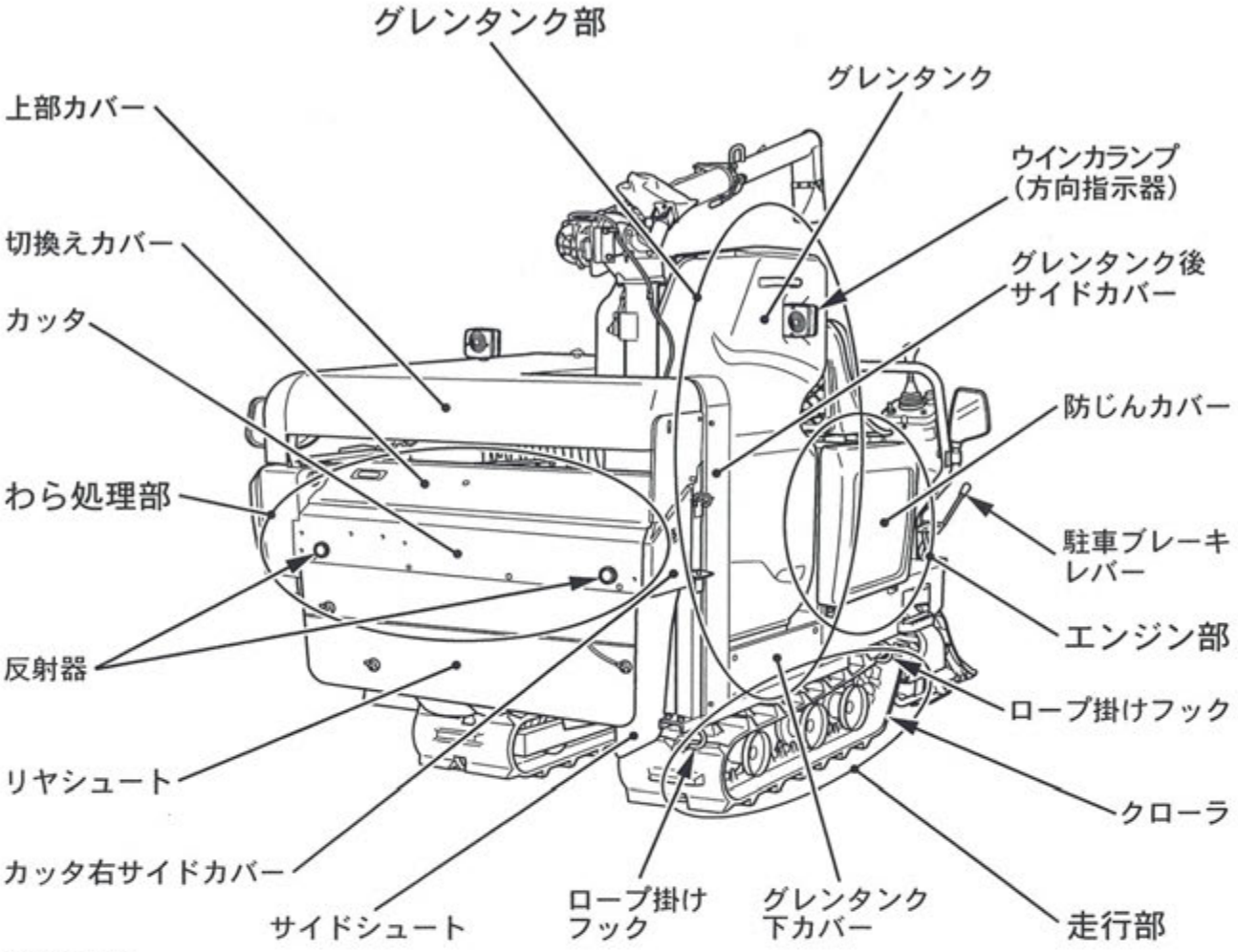
1ARADBWAP003A

- **運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**……作物の引起しと刈取を行なうところ
- **供給搬送部**……刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**……作物の脱こくを行なうところ
- **オーガ**……グレンタンクからもみを排出する筒

[G 仕様]

装置の名称と取扱い

[G 仕様]

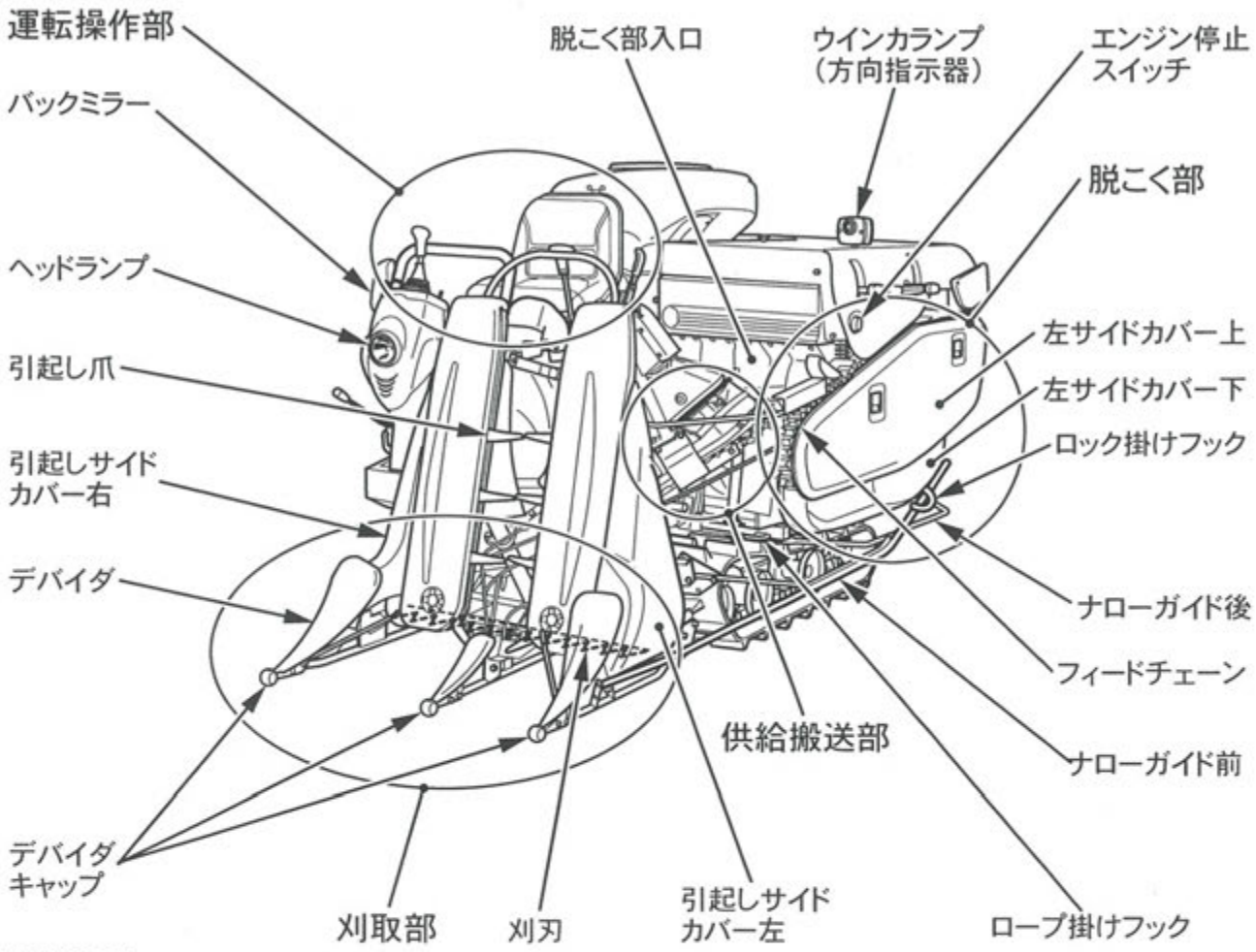


1ARADBRAP006B

- **エンジン部**……運転席下部にある動力装置
- **走行部**……クローラにより走行を行なうところ
- **グレンタンク部**……脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあとオーガで排出を行なうところ
- **わら処理部**……わらの切断やばら落しなどわらの処理を行なうところ

[G 仕様]

[ホッパ仕様]



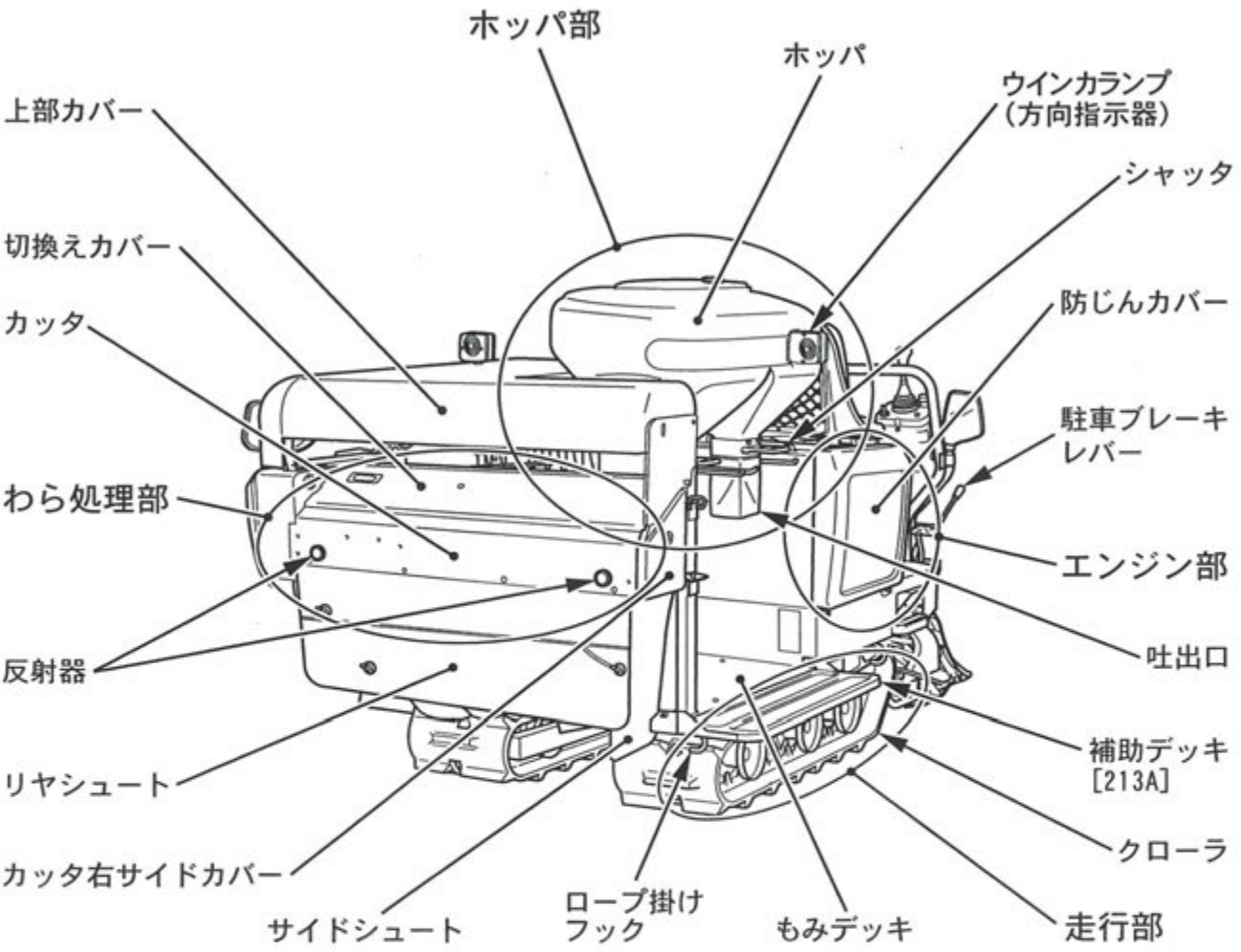
1ARADBWAP004A

- **運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**……作物の引起しと刈取りを行なうところ
- **供給搬送部**……刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**……作物の脱こくを行なうところ

[ホッパ仕様]

装置の名称と取扱い

[ホッパ仕様]

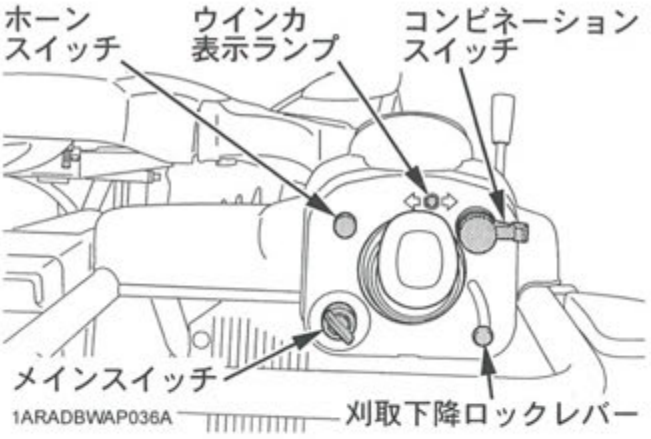


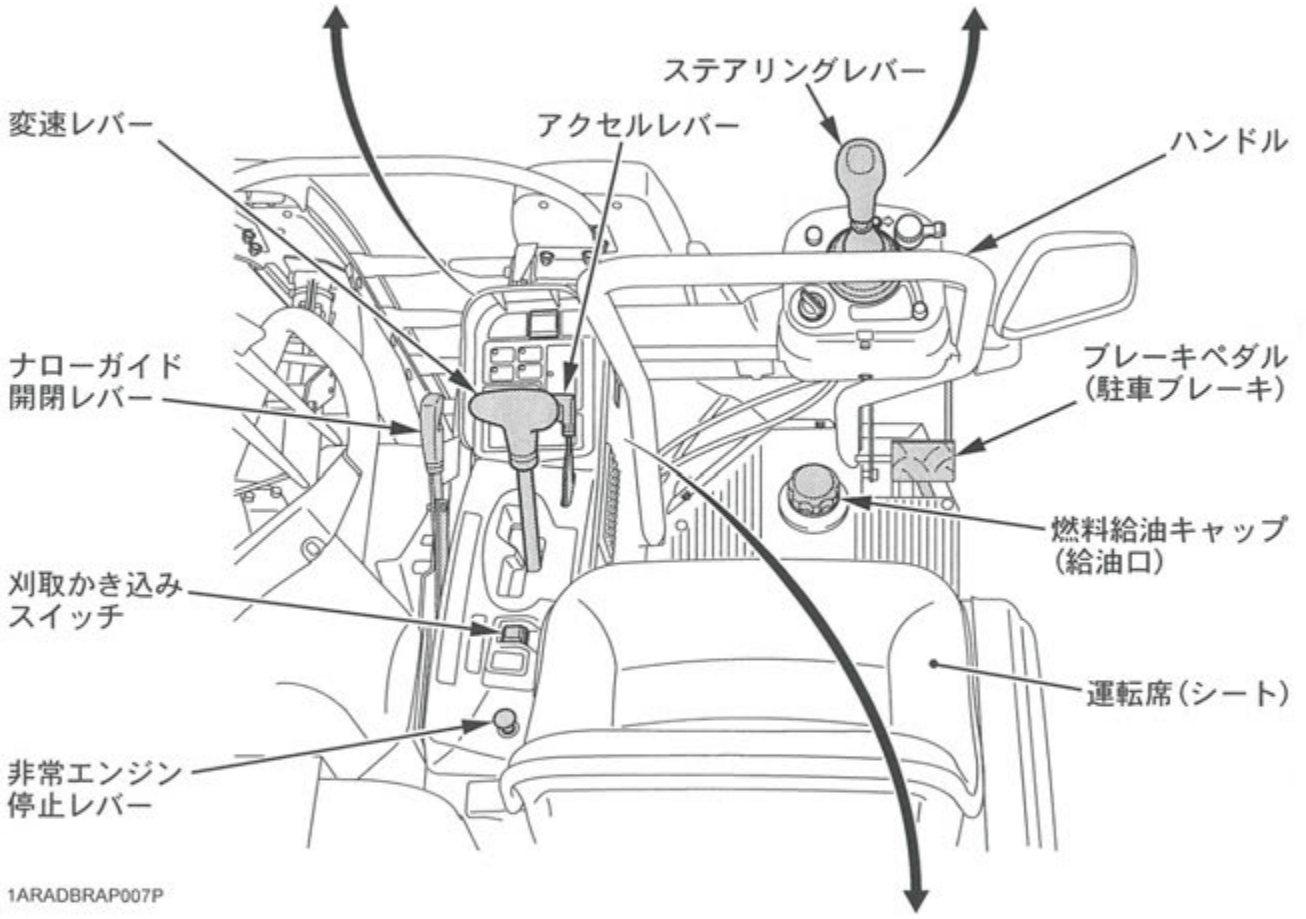
1ARADBRAP003E

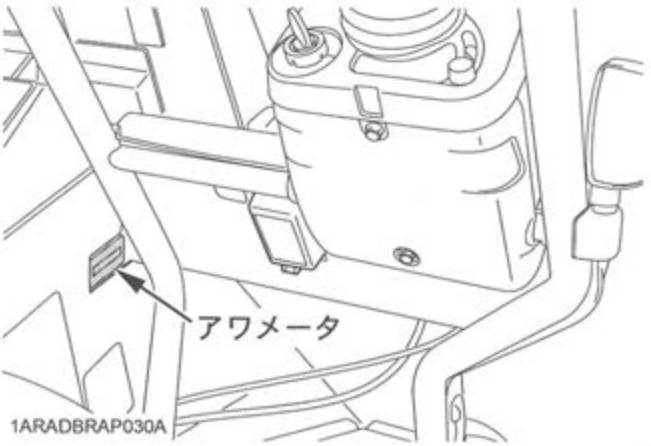
- **エンジン部**……運転席下部にある動力装置
- **走行部**……クローラにより走行を行なうところ
- **ホッパ部**……脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあと袋詰めを行なうところ
- **わら処理部**……わらの切断やばら落しなどわらの処理を行なうところ

[ホッパ仕様]


作業スイッチ
(刈取スタート
ボタン)
スイッチパネル
1ARADBWAP025A

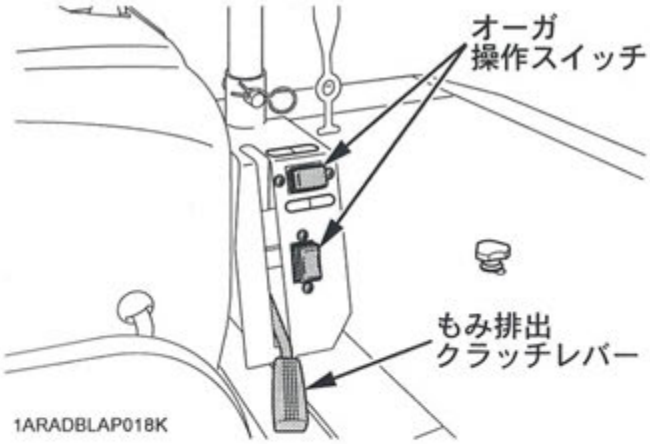

ホーン
スイッチ
ウインカ
表示ランプ
コンビネーション
スイッチ
メインスイッチ
刈取下降ロックレバー
1ARADBWAP036A


ステアリングレバー
変速レバー
アクセルレバー
ハンドル
ナローガイド
開閉レバー
ブレーキペダル
(駐車ブレーキ)
燃料給油キャップ
(給油口)
刈取かき込み
スイッチ
運転席(シート)
非常エンジン
停止レバー
1ARADBRAP007P


アワメータ
1ARADBRAP030A

装置の名称と取扱い

[G 仕様]

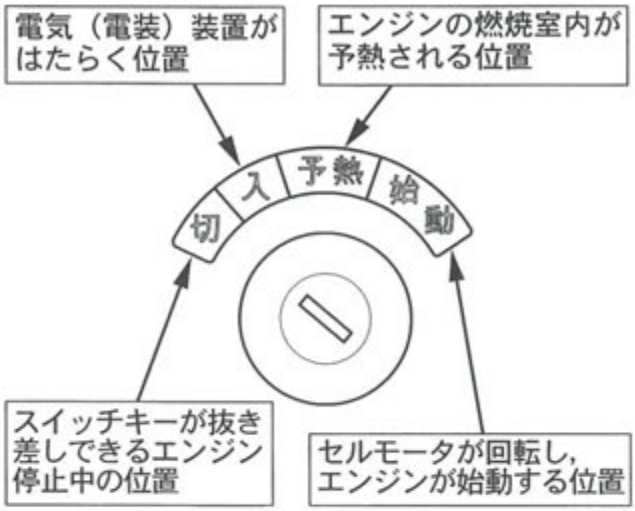


[G 仕様]

◆ **エンジン操作関係**

■メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。



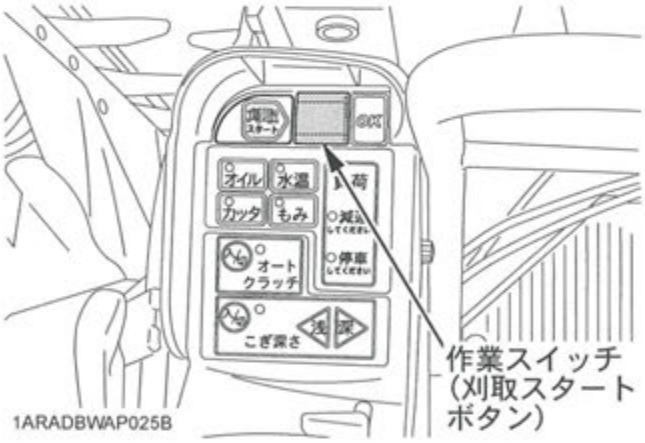
1ARADBEAP060A

補　足

＊ エンジン始動後，メインスイッチのキーから手を離すとキーは，［**入**］の位置に戻ります。

■作業スイッチ（刈取スタートボタン）

脱こく部，刈取部各動力の**入・切**及びエンジン回転数を，刈取作業時の回転数に自動調整するスイッチです。



1ARADBWAP025B

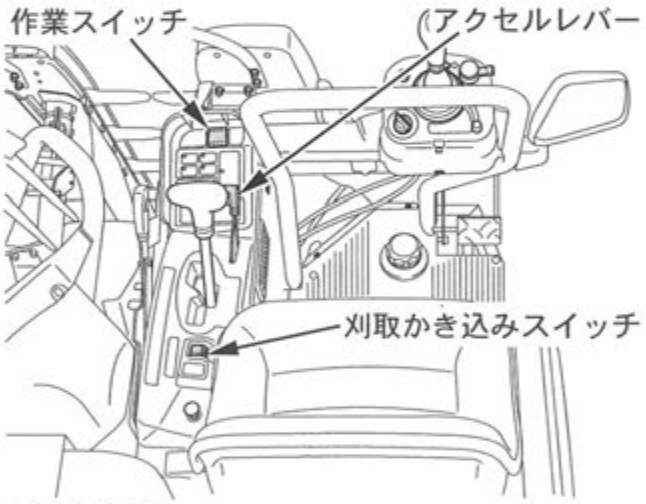
補　足

＊ エンジンをいったん停止したあと，再度エンジンを始動するときは，約５秒間待ってから始動してください。刈取・脱こくの各クラッチが切れていないため，メインスイッチのキーを［**始動**］位置にしてもエンジンは始動しません。また，このとき，作業スイッチのランプ（OK ランプ）が**点灯**又は，**点滅**状態となります。

＊ 作業スイッチが押され，作業可能状態（エンジン回転数（**作業範囲**），脱こく・刈取クラッチ［**入**］）になると**点灯**します。作業可能ランプが**点灯**したのを確認してから，刈取作業を開始してください。

＊ 変速レバーが［**N**］（**中立**）又は，［**後進**］位置のときは，作業スイッチを［**入**］にしても刈取部は作動しません。変速レバーを前進側に操作すると，機体が前進すると同時に刈取部が作動します。

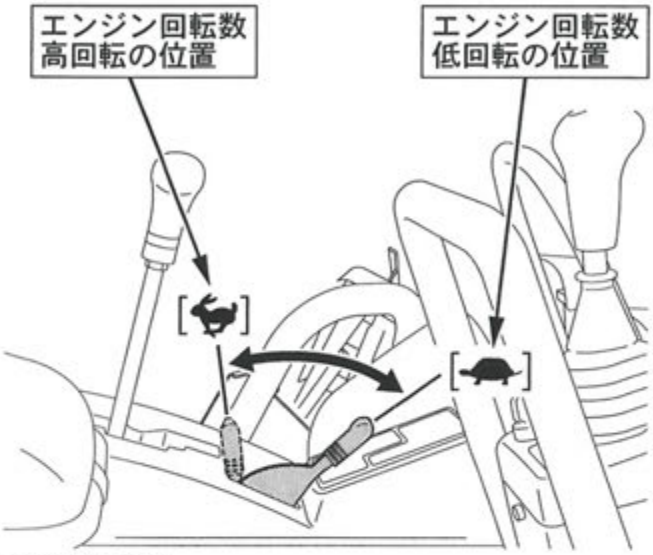
＊ エンジン停止中でメインスイッチのキーが［**入**］の状態のとき，作業スイッチを押したままの状態で刈取かき込みスイッチを押すと，脱こくクラッチが［**入**］の状態となります。そのあと，刈取かき込みスイッチを押すと刈取クラッチが［**入**］の状態となります。このとき，作業スイッチのランプ（OK ランプ）は**点滅**，刈取かき込みスイッチのランプは**点灯**状態となります。メンテナンスのベルトの点検・調整などで使用してください。



1ARADBRAP007B

■アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。レバーを後方に引くと回転数が上がります。



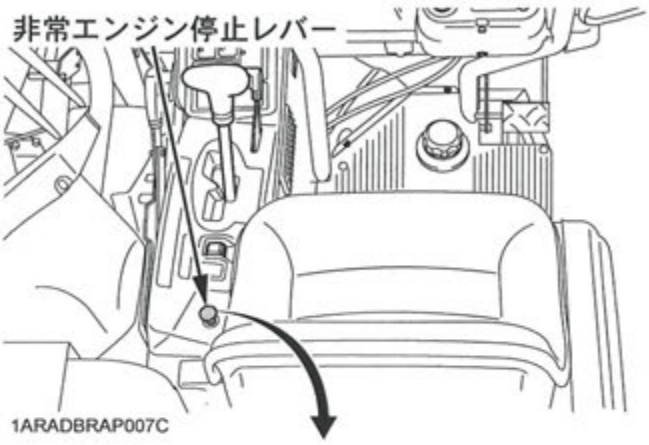
1ARADBLAP014B

補　足

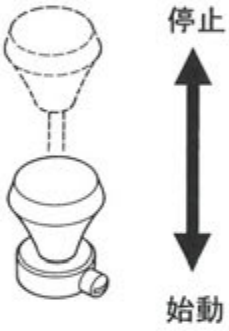
＊ エンジン始動後，作業スイッチが消灯状態のとき，作業スイッチを押すと，作業スイッチのランプが**点灯**すると同時にブザーが３回鳴り，アクセルレバーが**[🐇]**方向いっぱいまで自動的に動いて刈取作業時のエンジン回転数となります。

■非常エンジン停止レバー

メインスイッチのキーを**[切]**位置にしてもエンジンが止まらないときなど**非常時**に，エンジンの停止を行なうレバーです。



1ARADBRAP007C





1ARADAKAP014B

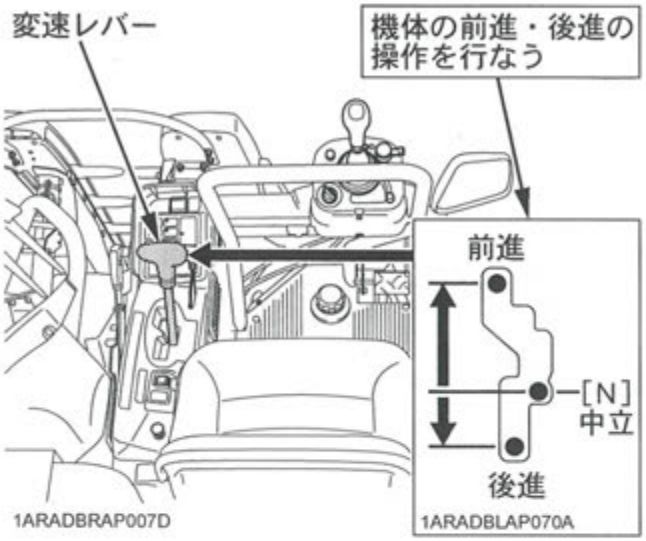
補　足

＊ レバーが停止状態では，エンジンは始動しません。

◆ **走行操作関係**

■変速レバー

移動走行時や刈取作業時に車速調整を行なうレバーです。



重　要

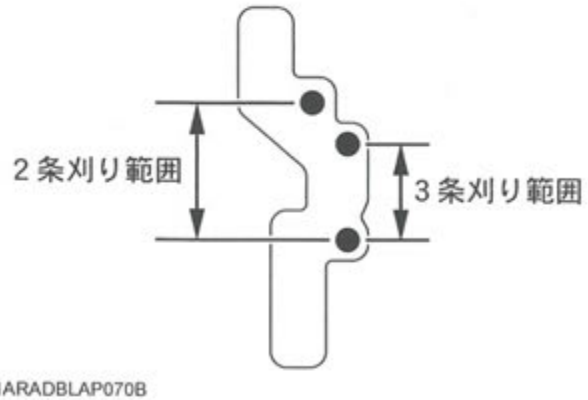
＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

補　足

＊ ブレーキペダルを踏込む又は，駐車ブレーキを掛けると変速レバーは，**[N]（中立）**位置に固定され，変速レバーを操作しても動きません。

＊ **[後進]**側に操作するとバックブザーが鳴ります。

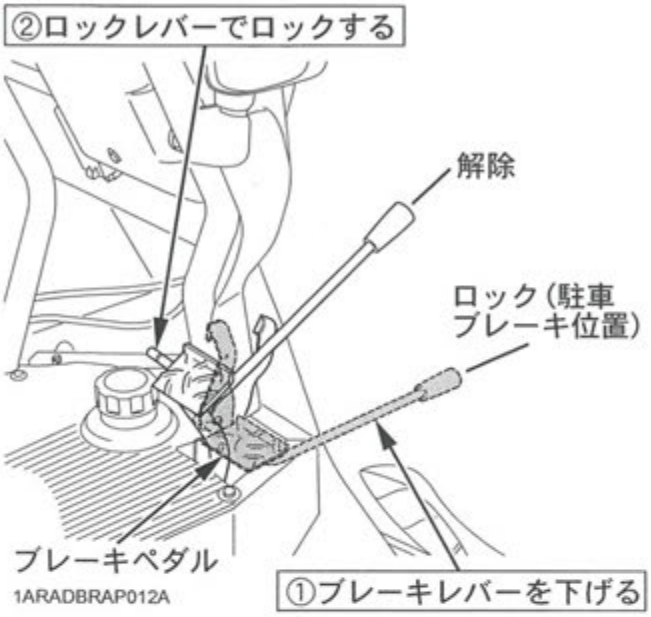
＊ 刈取作業を行なうとき，作物やほ場の状態に合わせて，変速レバーを**［２条刈り範囲］**又は，**［３条刈り範囲］**の範囲内で刈取速度の調整を行なってください。



■ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

レバーを下げるとブレーキが掛かり，ロックレバーで駐車ブレーキレバーをロックすると駐車ブレーキが掛かります。

駐車ブレーキを解除するときは，ブレーキペダルを強く踏込む又は，ブレーキレバーを押下げてロックを解除してください。



補　足

＊ 駐車ブレーキレバーを押さえると，減速すると同時に変速レバーが**[N]（中立）**側に戻ります。

＊ 駐車ブレーキを掛けると変速レバーは，**[N]（中立）**位置に固定され，変速レバーを操作しても動きません。

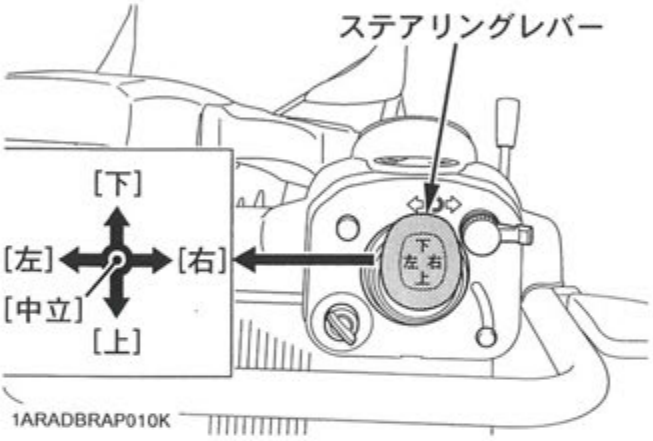
＊ 駐車ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは始動しません。

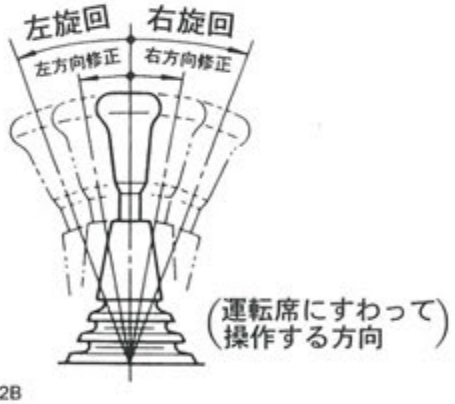
■ステアリングレバー

ステアリングレバーは，機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

[左]⟷[右] …… レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回を行ないます。

[下]
↕
[上] …… レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。



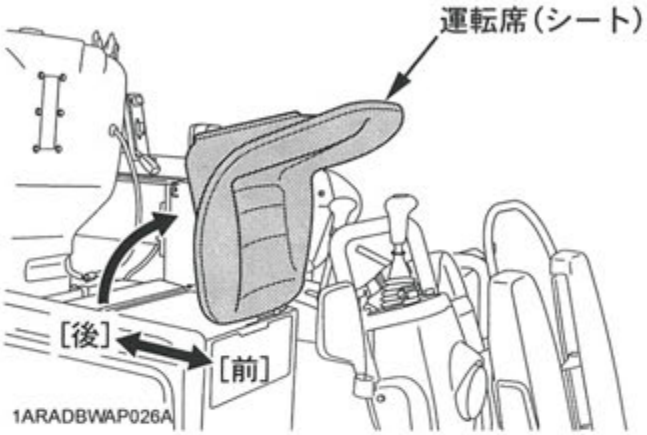


＊ エンジンが停止中で，刈取部が上がっているときにステアリングレバーを前方（**[下]** 方向）に倒しても刈取部は下がりません。

＊ ステアリングレバーの操作は**左右**又は，**上下**方向の同時操作は行なえません。

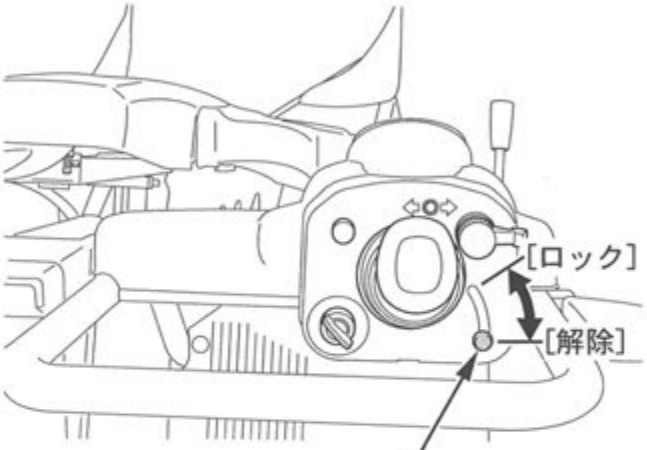
■運転席（シート）

運転席（シート）を前方に倒しながら，**前・後**に調節が行なえます。



■刈取下降ロックレバー

刈取部の下降防止を行なうロックレバーです。ロックレバーを**[ロック]**位置にすると，ステアリングレバーを操作しても刈取部は下降しません。ロックレバーを操作するときは，刈取部を上昇させた状態で行なってください。ロックレバーを動かすときは，つまみのネジをゆるめて**[ロック]**位置でネジを締付けてください。また，解除するときは**[解除]**位置でネジを締付けてください。



1ARADBWAP036B

補　足

＊ エンジンを始動しないと刈取部は上昇又は ，下降しません。

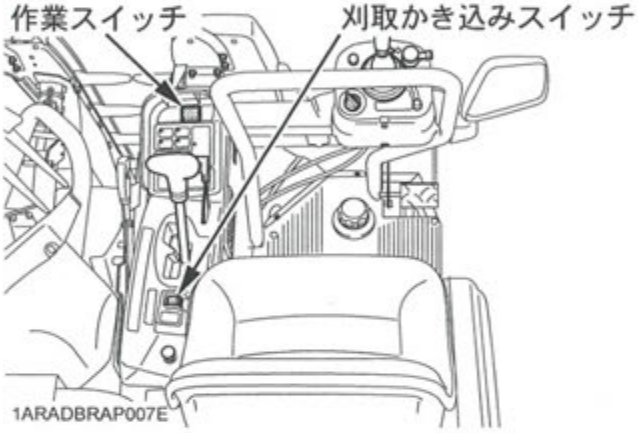
＊ メンテナンスなどで，刈取部を上げた状態で点検・調整などの作業を行なうときは，刈取下降ロックレバーを**[ロック]**位置にして刈取部の下降防止を行なってください。

◆ 刈取・脱こく関係

■刈取かき込みスイッチ

あぜぎわなどで前進しながら刈取作業が行なえないとき，機体の走行を停止した状態で作物の刈取りを行なうときに，刈取部を作動させるスイッチです。

変速レバーが**[N]（中立）**位置で，機体の走行が停止しているとき，作業スイッチを押して**[入]**にし，脱こく部が作動している状態で刈取かき込みスイッチを押すと刈取部が作動します。



1ARADBRAP007E

重　要

＊ 刈取作業中に刈取かき込みスイッチが**点滅**した場合は，刈取作業を中止して購入先に連絡してください。

補　足

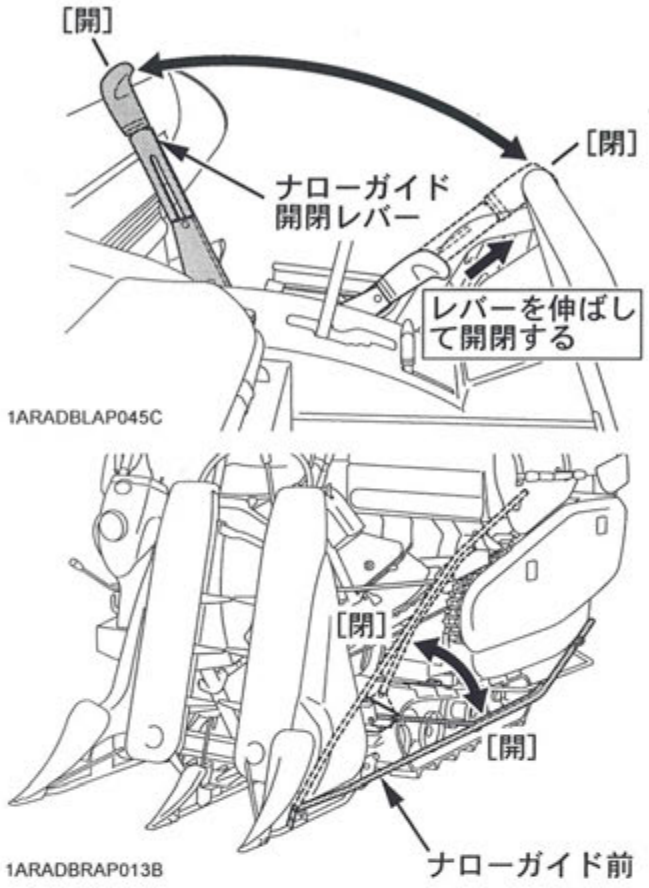
＊ 刈取オートクラッチが**[入]**の状態で，刈取部が**最上昇位置**にあるときには，刈取かき込みスイッチを押しても刈取部は作動しません。

＊ エンジン停止中でメインスイッチのキーが**[入]**の状態のとき，作業スイッチを押したままの状態で刈取かき込みスイッチを押すと，脱こくクラッチが**[入]**の状態となります。そのあと，刈取かき込みスイッチを押すと刈取クラッチが**[入]**の状態となります。このとき，作業スイッチのランプは**点滅**，刈取かき込みスイッチのランプは**点灯**状態となります。メンテナンスのベルトの点検・調整などで使用してください。

◆ 刈取・脱こく関係

■ナローガイド開閉レバー

ナローガイド前を開閉するレバーです。



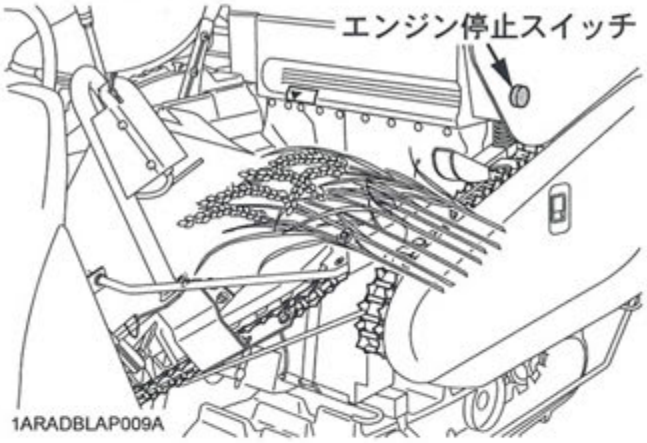
補　足

＊ ナローガイドを開閉するとき以外は，ナローガイド開閉レバーを収納状態にしてください。

＊ ナローガイド開閉レバーを操作するときは，変速レバーを **[N]（中立）** 位置にして機体の走行を停止した状態で行なってください。

■エンジン停止スイッチ

エンジンを停止するスイッチです。エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。



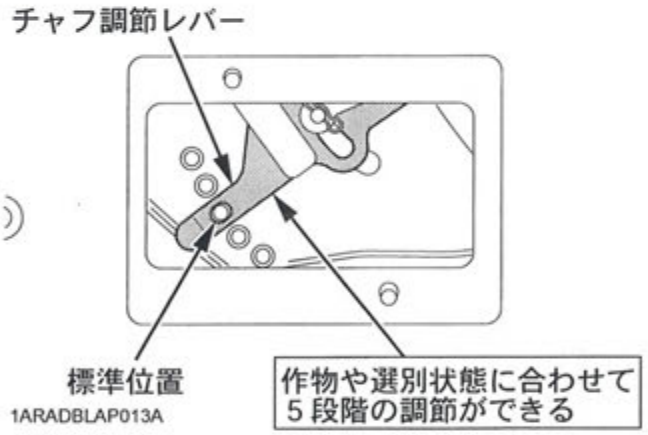
補　足

＊ メインスイッチのキーを **[切]** 位置にするとブザーは止まります。

＊ メインスイッチのキーを **[切]** 位置に戻してからエンジンを再始動してください。

■チャフ調節レバー

揺動流板にある選別板のすき間（開度）の調節を行なうレバーです。



補　足

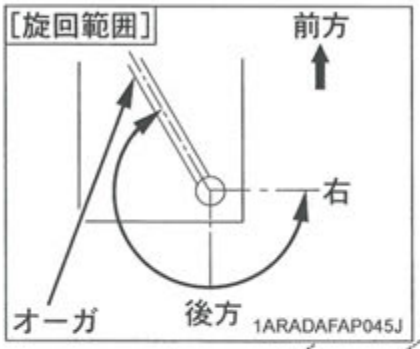
＊ チャフ調節レバーは，脱こく部左側の 1 番ラセン上部点検カバー前の内側にあります。
（87 ページ参照）

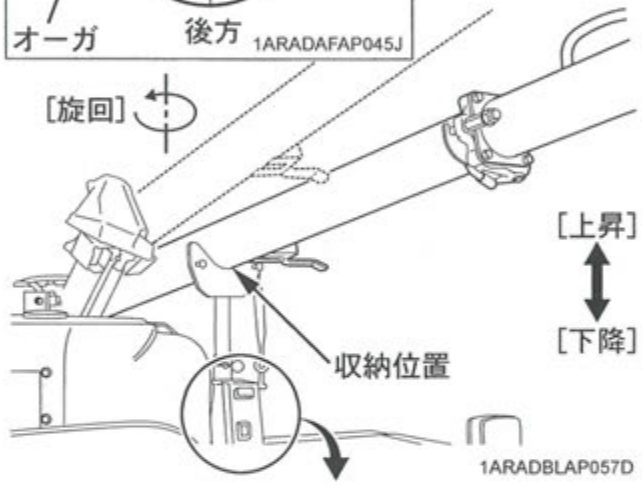
◆ グレンタンク関係［G 仕様］

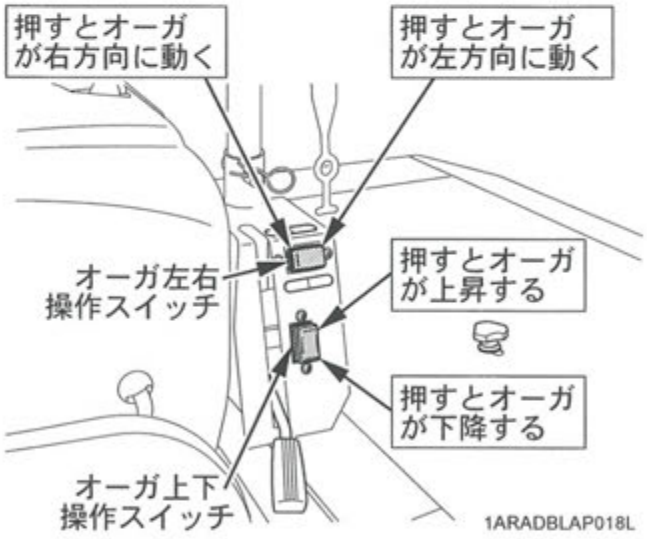
■オーガ操作スイッチ

［G 仕様］

オーガの旋回及び上昇・下降の操作を行なう手動の操作スイッチです。





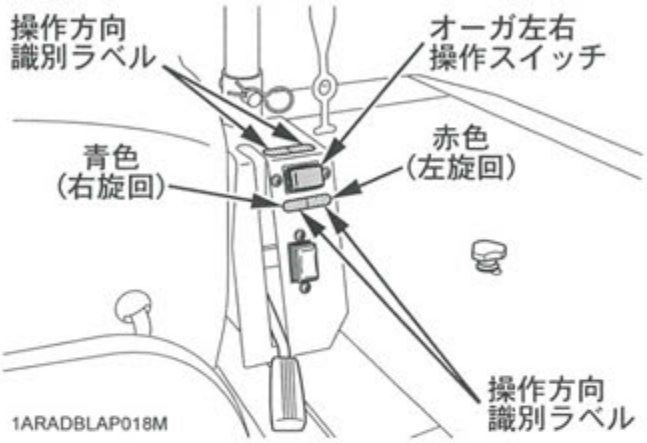


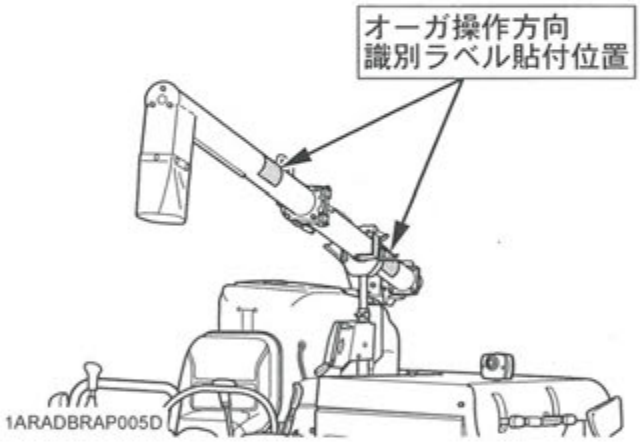
重　要

＊ エンジン停止中でもメインスイッチ**［入］**の位置で旋回操作はできますが，長時間エンジンを停止した状態で操作すると**バッテリ上り**の原因となりますので，操作するときは，エンジンを必ず始動して行なってください。

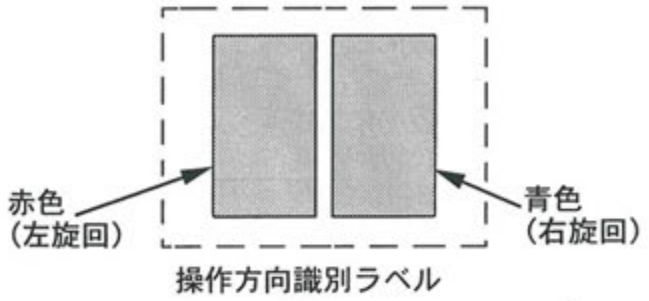
補　足

＊ オーガ左右操作スイッチ下側とオーガに貼付している操作方向認識ラベルを確認し，オーガスイッチを操作してください。オーガスイッチを**赤色**方向に操作するとオーガは左旋回（ラベル赤色方向）し，オーガスイッチを**青色**方向に操作するとオーガは右旋回（ラベル青色方向）します。









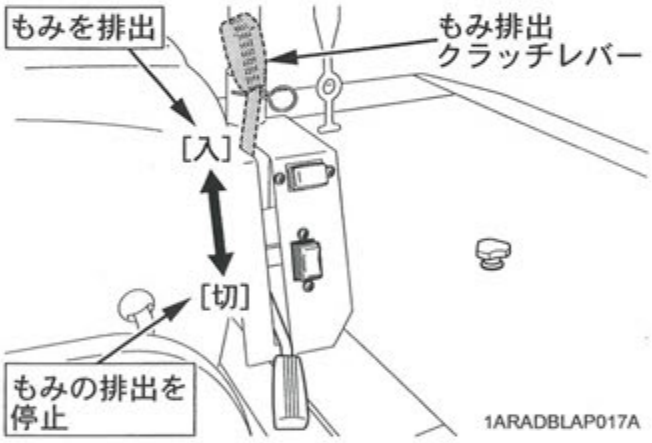
1ARADBHAP189A

[G 仕様]

■もみ排出クラッチレバー

[G 仕様]

グレンタンク内のもみ排出操作を行なうレバーです。



1ARADBLAP017A

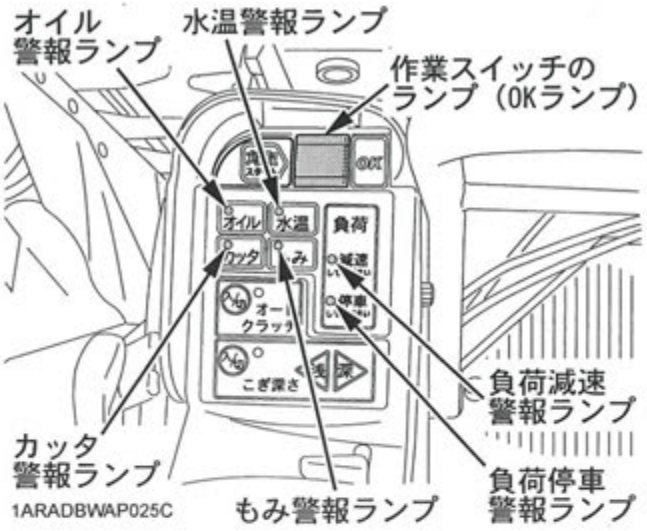
補　足

＊ もみ排出クラッチレバーを **[切]** 位置にしないと，エンジンは始動しません。

[G 仕様]

◆ 電装関係

■スイッチパネル



1ARADBWAP025C

◆ 各ランプ

補　足

＊ 処置については，73 ページを参照してください。

＊ エンジンが停止しているとき，メインスイッチのキーを **[入]** 位置にしたとき，各警報ランプが点灯しますが異常ではありません。

● 水温警報ランプ

エンジン冷却水温が高温になると点滅し，ブザーが鳴ります。**（水温警報）**
同時に作業スイッチのランプ（OK ランプ）が点滅します。

● オイル警報ランプ

エンジンオイルの圧力が，異常に低下すると点灯します。**（油圧不足警報）**

補　足

＊ オイルランプはエンジンが停止状態，オイル量の不足やオイルにエアが進入するなど圧力が低下すると点灯します。

● カッタ警報ランプ

わら処理（カッタ）部にわらが詰まり，エンジンが自動停止 **（エンジン自動停止装置）** すると点滅しブザーが鳴ります。**（カッタ詰まり警報）**
同時に作業スイッチのランプ（OK ランプ）が点滅します。

● **もみ警報ランプ**

ホッパ内又は，グレンタンク内のもみが満杯になると点滅し，ブザーが鳴ります。**（もみ満杯警報）** 同時に作業スイッチのランプ（OK ランプ）が点滅します。

● **負荷警報ランプ**

エンジンに負荷が掛かり，エンジンの回転数が低下してくると負荷警報の**減速ランプ**又は，**停車ランプ**が点滅し，ブザーが鳴ります。**（負荷警報）** 同時に作業スイッチのランプ（OK ランプ）が点滅します。

補　足

＊ エンジン回転数は，負荷が大きくなるほど下がります。負荷警報のランプ表示で以下のようになります。

適正状態…… 減速ランプ，停車ランプ**消灯**

⬇

即時減速…… 減速ランプ**点滅**
ブザーが鳴る

⬇

即時作業停止… 停車ランプ**点滅**
ブザーが鳴る

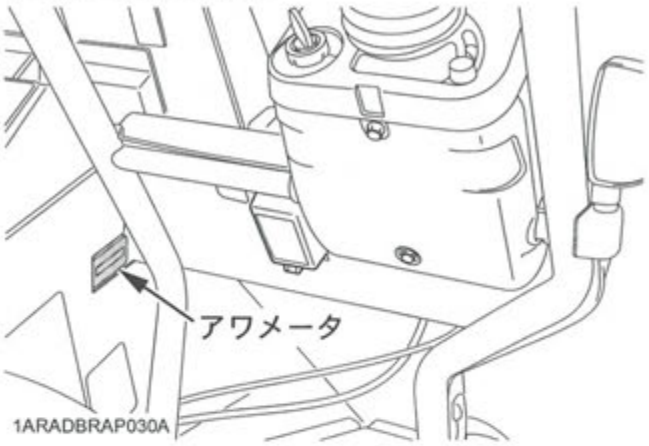
＊ 減速ランプ及び，停車ランプが点滅しているときは，ブザーは停止しません。また，負荷が小さくなるとエンジン回転数が上がるため，**停車ランプ➡減速ランプ**が順番に消灯し，ブザーが停止します。

＊ エンジンにいきなり大きな負荷が掛かると**減速ランプ**は点滅せずに**停車ランプ**が点滅すると同時にブザーが鳴る場合があります。

＊ **停車ランプ**が点滅し，ブザーが鳴り即時作業停止するときは，変速レバーを **[N]（中立）** 位置にしたあとしばらく待ち，**負荷警報ランプ**が**消灯**してから作業を再開してください。**停車ランプ**が点滅しても作業スイッチを**切**にしたり，エンジンを止めないでください。

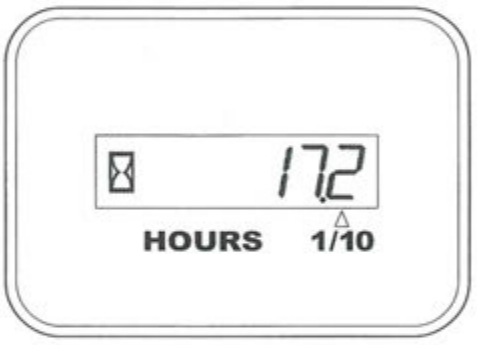
■アワメータ

メインスイッチが **[入]** 位置状態の積算時間を h [時間] 表示します。



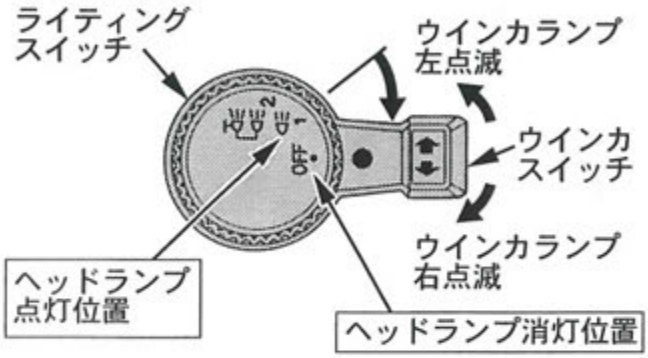
1ARADBRAP030A

[アワメータ表示例]

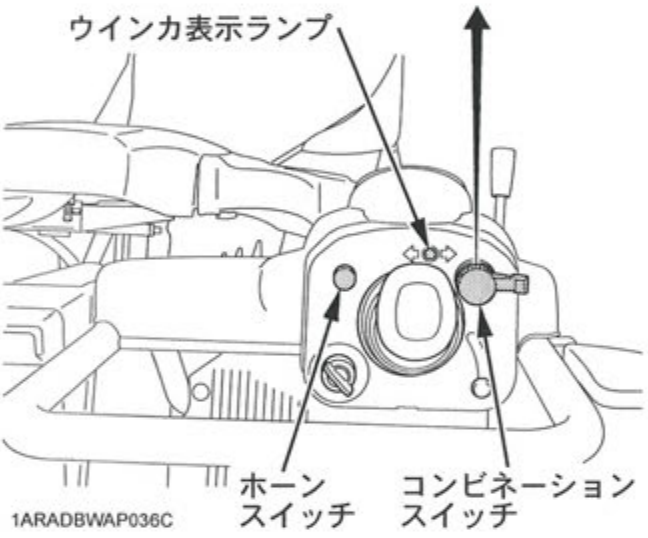


1ARADBRAP031A

■コンビネーションスイッチ，ホーンスイッチ



1ARADBEAP119K



1ARADBWAP036C

● ライティングスイッチ

スイッチを操作するとヘッドランプが点灯します。

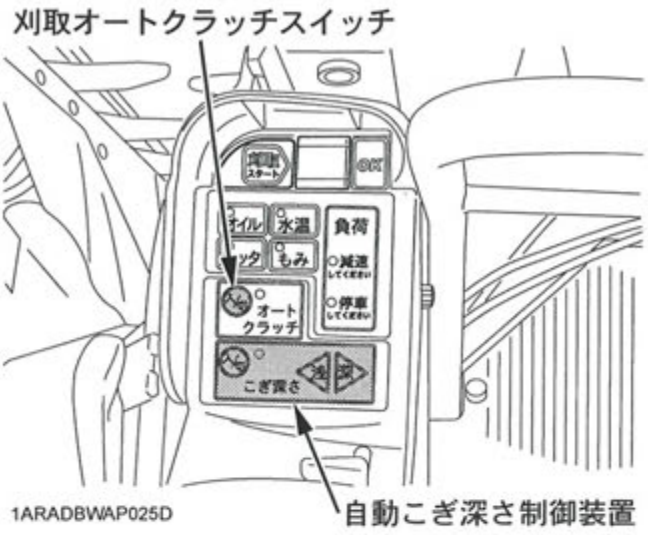
● ホーンスイッチ

ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

● ウインカスイッチ

旋回方向に操作すると，ウインカ表示ランプが点滅します。

自動化装置の名称とはたらき



1ARADBWAP025D

■自動こぎ深さ制御装置

自動こぎ深さ制御装置は，作物の長さに応じて，適正なこぎ深さを保つ装置です。

● こぎ深さ自動スイッチ

自動こぎ深さ制御の**入／切**をするスイッチです。

自動こぎ深さ制御［入］…… ランプが点灯し，自動こぎ深さ制御が作動します。

自動こぎ深さ制御［切］…… ランプが消灯し，自動こぎ深さ制御が解除されます。

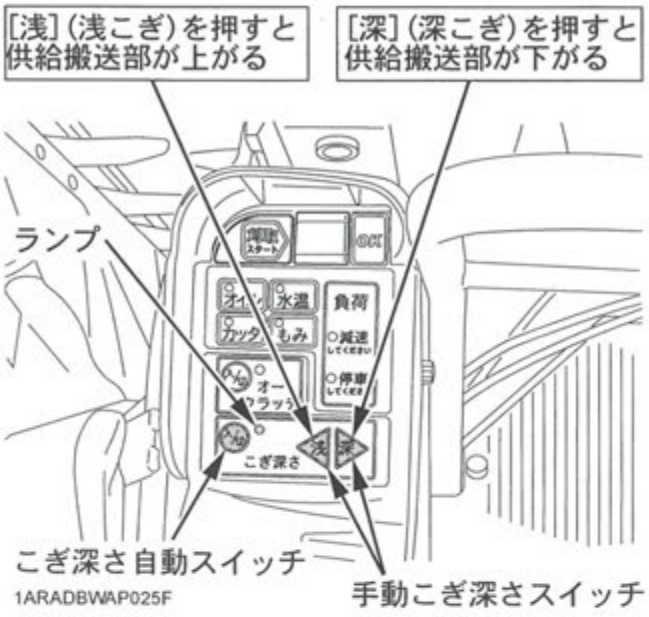


1ARADBWAP025E

■手動こぎ深さ制御装置

● 手動操作時

こぎ深さを手動で行なう場合は，こぎ深さ自動スイッチを**［切］（ランプ消灯）**にしてください。



スイッチの操作	供給搬送部の動き
深	下がる
浅	上がる

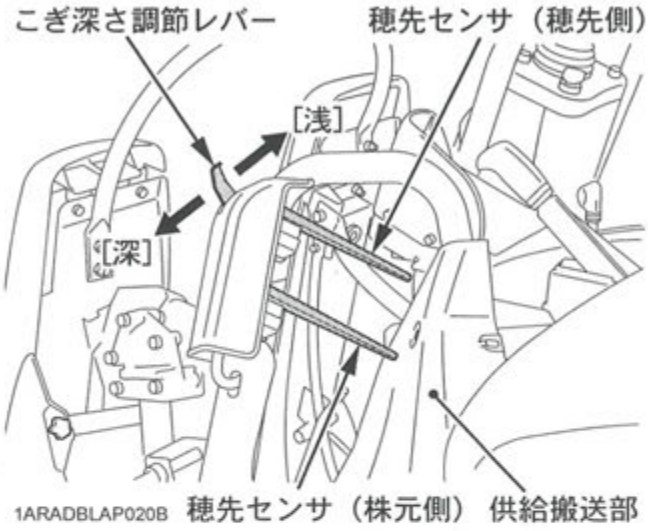
補　足

＊ 作業スイッチを押すと，こぎ深さ制御は自動制御の状態となります。手動でこぎ深さの調整を行なうときは，その都度自動こぎ深さ制御を**［切］**にしてください。

＊ 自動制御が，はたらいているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。

● 穂先センサの位置調節について

通常は**［ほぼ中央］**に合わせてください。調節は，こぎ深さ調節レバーを**［深］**の方向に倒すと，深こぎ気味に保持され，こぎ深さ調節レバーを**［浅］**の方向に倒すと，浅こぎ気味に保持されます。



補　足

＊ 穂先センサ（株元側，穂先側）に浮わらや雑草が引っ掛かると，正常な自動制御ができませんので取除いてください。

＊ 下記のときは，手動で操作してください。
- 長かん作物（約120cm以上）を刈取るとき
- 遅れ穂が多く，こぎ残しの出るとき
- 極端に作物の長さが不揃いのとき
- 作物よりも長い雑草が多いとき
- 倒伏作物を刈取るとき

＊ 長かん作物（約120cm以上）の作物を刈取るときは，株元払い出し棒の位置調節を行なってください。（70 ページ参照）

■刈取オートクラッチスイッチ

刈取オートクラッチは，刈取部及び脱こく部が作動中にステアリングレバーを操作したとき，刈取部が地面から一定の高さまで上昇すると刈取搬送部が停止し，一定の高さまで下降すると再度動き出す自動クラッチです。

- **オートクラッチ切換えスイッチ**
  刈取オートクラッチの**入／切**をするスイッチです。

オートクラッチ［入］… ランプが点灯し，刈取オートクラッチが作動します。

オートクラッチ［切］… ランプが消灯し，刈取オートクラッチが解除されます。



1ARADBWAP025G

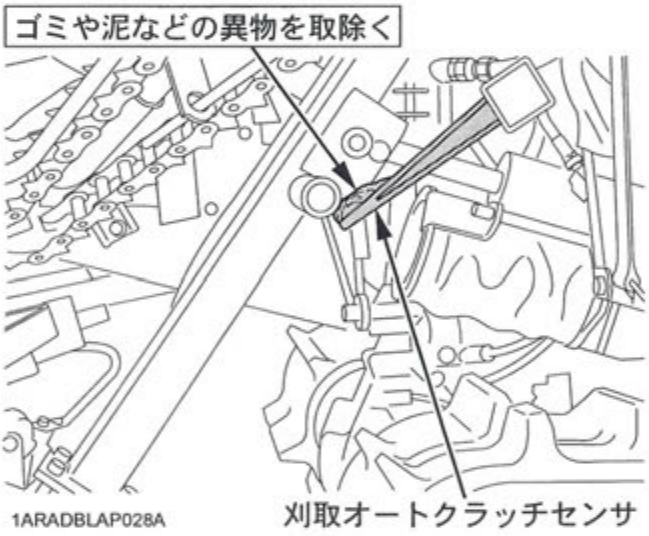
補　足

＊ 刈取オートクラッチ切換えスイッチ**［入］**（ランプ点灯）で，刈取搬送部が停止しているとき，切換えスイッチを**［切］**（ランプ**消灯**）にすると刈取搬送部を再度動かすことができます。

＊ 供給搬送部の作物がフィードチェーンに搬送されるまでは，通常オートクラッチが切れる一定の高さに刈取部が上昇しても刈取部の作動は停止しません。

＊ 刈取オートクラッチが**［入］**の状態で，刈取部が**最上昇位置**にあるときには，刈取かきこみスイッチを押しても刈取部は作動しません。

＊ 刈取作業中に刈取部を上昇してもオートクラッチが切れない（作物の搬送が停止しない）ときは，センサ部に溜まっている泥やゴミを掃除して取除いてください。



1ARADBLAP028A

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，76 ページ以降を参照）

警 告

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを始動してからの確認作業以外は，エンジンを止めて，メインスイッチのキーを抜き，駐車ブレーキを必ず掛けてから行なってください。
＊ バッテリの点検･充電･交換中は火気厳禁です。
＊ 各部の調整･点検･交換を行なうときは，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを止めて，メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，外したままでは衣服などを巻込むおそれがあり危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ 運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊ 刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重 要

各部への給油と交換

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，必ず指定の**［三菱純正オイル・グリース］**を使用してください。
＊ 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆ 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆ コンバインの周りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

■日常点検項目

<ここを> ➡	<点検し異常があれば> ➡	<こうする>	参照ページ
機体の回りを歩いて			
機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル（⚠マークのあるラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充，増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。	- - 122 91，160 ⚠-25
燃料ゲージ	・作業に必要な燃料はあるか。	・ディーゼル軽油を補給する。	114
刈刃，わら切刃，カッタ刃	・刃の損傷はないか。	・交換する又は，購入先に連絡してください。	☆
受あみ，こぎ歯	・極端な摩耗や破損はないか。（摩耗量の確認）	・組換え又は，交換する。	85，142
クローラ	・たるみや損傷はないか。	・調整又は，交換する。	155
防じんあみ	・詰まりはないか。	・掃除する。	123
反射器	・汚れや損傷はないか。	・掃除又は，交換する。	155
エンジンルームを開けて			
エンジンオイル	・油量は規定量（オイルゲージの**上限線と下限線の間**）あるか。	・規定量まで補給する。 ……三菱純正オイル マルチ STOU オイル又は， マルチ GD オイル	115
ラジエータ冷却水	・リザーブタンクの水量は規定量（タンクの **FULL 線と LOW 線の間**）あるか。	・清水を規定量まで補給する。	120
ラジエータフィン	・詰まりはないか。	・掃除する。	123
エアクリーナ	・エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	・掃除又は，エレメントを交換する。	121
ファン駆動ベルト	・たるみはないか。 ・損傷はないか。	・調整する。 ・交換する。	129
ホース，パイプ	・油もれ，水もれはないか。	・取付部の締付け又は，交換する。	122
配線コード	・コネクタなどの外れやゆるみ又は，被覆の損傷はないか。	・取付け又は，交換する。	152
運転席に座りメインスイッチを入れて			
各ランプ	・各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。 又は，購入先へ連絡してください。	152
ホーン	・スイッチを押すと鳴るか。		
バックブザー	・変速レバーを**［後進］**位置にするとブザーが鳴るか。		
バッテリ	・エンジンは始動するか。	・充電又は，交換する。	148

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。

<ここを> ➡		<点検し異常があれば> ➡	<こうする>	参照ページ
エンジンを始動して				
スイッチパネル	オイルランプ	・ランプは消灯するか。	・エンジンオイルを規定量まで補給する。 ……三菱純正オイル マルチ STOU オイル又は， マルチ GD オイル	112，115
エンジン（マフラ）		・異音はしないか。 ・排気ガスの色に異常はないか。	・購入先へ連絡してください。	-
刈刃，各チェーン		・注油後の動きに異常はないか。	・調整又は，交換する。	135，139
各レバー		・各レバーの作動に異常はないか。	・調整又は，購入先へ連絡してください。	126
駐車ブレーキ		・駐車ブレーキは効くか。	・調整する。	126
こぎ深さ制御（供給搬送部）		・手動こぎ深さスイッチを操作したときに，供給搬送部の作動（上昇⟷下降）に異常はないか。	・スライドガイドにグリースを塗布する。 ・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。又は，購入先へ連絡してください。	156，152
エンジン停止スイッチ		・スイッチを押すと，ブザーが鳴りエンジンが停止するか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。又は，購入先へ連絡してください。	16，152
非常エンジン停止レバー		・レバーを引くとエンジンは停止するか。	・購入先へ連絡してください。	12

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

運転のしかた

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊ 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊ 寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊ エンジンは規定刈取作業回転数以上に回さないでください。
＊ 高速での刈取作業は避けてください。
＊ 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

警 告

＊ エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。

注 意

＊ この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業をするために］の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
＊ コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ コンバインに乗り降りするときは，飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒・転落してケガをするおそれがあります。
＊ 始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

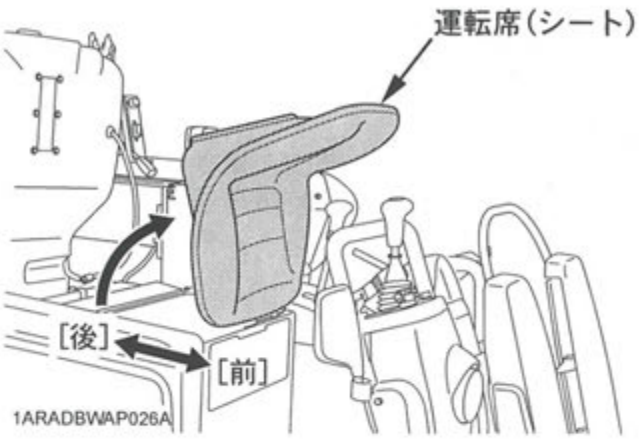
■始動のしかた

1. ハンドルをしっかりと握り，補助ステップに確実に足を掛けてすべらないように注意しながら運転席に座ります。

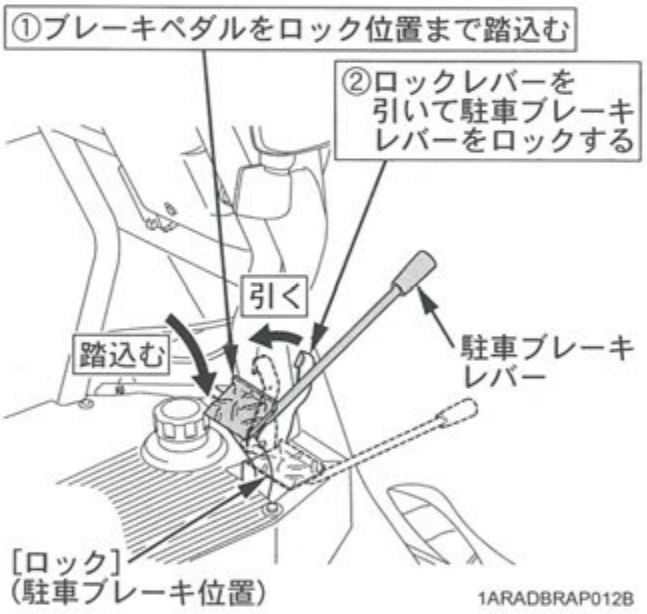
重 要

＊ 運転席へ乗降りするときは，ハンドル以外は握らないでください。特にステアリングレバーを握って乗降りすると，変形したり，破損する原因となります。また，ステアリングレバーが変形したり破損すると，正常なコンバインの運転が行なえなくなるおそれがあります。

2．運転のしやすい位置に運転席（シート）を調整します。



3．駐車ブレーキを掛けます。



補　足

＊ ブレーキペダルをいっぱいまで踏むと変速レバーが **[N]（中立）** 位置に戻ります。また，駐車ブレーキが掛かっているときには，変速レバーは動きません。

＊ 駐車ブレーキを掛けていないときは，ブレーキペダルをいっぱいに踏込まないとエンジンは始動しません。

4．各レバー位置の確認をします。



[G 仕様]



[G 仕様]

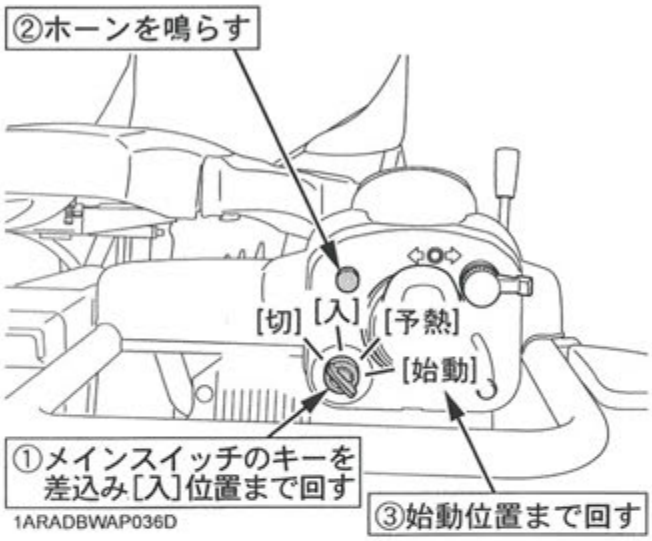
重　要

＊ ブレーキペダルを踏込んだ状態では変速レバーを前・後進方向に操作できません。
無理に操作するとレバーの変形や破損によるトラブルの原因となります。

補　足

＊ 変速レバーが **[N]（中立）** 位置にあり，作業スイッチが **[切]（ランプ消灯）** 状態で **[G 仕様]** は，もみ排出クラッチレバーを **[切]** 位置にし，ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは掛かりません。

5．エンジンを始動します。



1ARADBWAP036D

重　要

＊ メインスイッチのキーを **[始動]** 位置に回して 10 秒たっても始動しないときは，いったんキーを **[切]** 位置にして，30 秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。**[始動]** 位置で 10 秒以上回すと故障の原因になります。
＊ エンジン回転中に，メインスイッチのキーを **[始動]** 位置に回すと故障の原因になります。
＊ エンジン始動後，オイルランプが**消灯**しないときは，購入先へ連絡してください。

補　足

＊ ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。
＊ 作業スイッチが**点滅**又は，**点灯**してエンジンが始動しないときは，作業スイッチを押してランプを**消灯**状態にしてエンジンを始動してください。

■暖機運転について

エンジン始動後，アクセルレバーを **[🚗]** 位置のアイドリング状態で約 5 ～ 10 分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重　要

＊ オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。

■寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にメインスイッチのキーを **[予熱]** 位置で 5 ～ 10 秒間予熱したあと **[始動]** 位置に回してください。



1ARADBEAP060B

重　要

＊ 寒冷時は暖機運転を怠るとステアリングレバーの操作ができなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　温	暖機運転時間
0 ℃～ -10 ℃	約 10 分
-10 ℃～ -15 ℃	10 ～ 15 分
-15 ℃～ -20 ℃	15 ～ 20 分
-20 ℃以下	20 分以上

■燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は，

1. メインスイッチのキーを**［切］**位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. **始動のしかた**の**1～4**を確認後，メインスイッチのキーを**［入］**位置に2～3秒間保持したあと，**［始動］**を2～3回繰返します。

補　足

＊ メインスイッチのキーを**［入］**位置にすると約5～10秒で自動的にエア抜きされます。

■バッテリが上がったときの始動のしかた

危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは，バッテリの補充電又は，交換を行なってください。
補充電や交換がすぐに行なえないときは，救援車のバッテリにブースタケーブルを接続してください。

重　要

＊ 接続するバッテリは，必ず12Vのものを利用してください。故障の原因となります。
＊ バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。

補　足

＊ ブースタケーブルの取扱いは，ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

1. ブースタケーブル（赤）をコンバイン側と救援車側のバッテリの**（＋）端子**にそれぞれ接続したあと，ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの**（－）端子**に接続し，コンバイン側はバッテリから離れたところの金属部で塗装がされていないところに接続します。
2. 利用するバッテリが車などの場合は，エンジン回転を上げます。
3. コンバインのエンジンを始動します。
4. ブースタケーブルを取付けの逆の手順で取外します。

■停止のしかた

1. 作業スイッチを**［切］**位置にします。
2. アクセルレバーを**［🐢］**（低回転）位置にします。
3. メインスイッチのキーを**［切］**位置にしてエンジンを停止します。

重　要

＊ エンジン停止中でメインスイッチのキーが**［入］**位置の状態のまま長時間放置すると**バッテリ上り**となります。
＊ メインスイッチのキーを**［切］**位置にしてもエンジンが停止しないときは**非常エンジン停止レバー**を引いてください。そのあと，購入先へ連絡してください。

補　足

＊ エンジン停止後，すぐにエンジンを再始動するときは，約5秒間待ってください。5秒以内にメインスイッチのキーを**［始動］**位置にしても，刈取及び脱こくクラッチが切れていないため，作業スイッチが**点滅**又は**点灯**してエンジンが始動しませんので，作業スイッチのランプを**消灯**状態にしてからエンジンの再始動を行なってください。

移動走行について

注　意

＊ ホッパ又は，グレンタンク内に残っているもみは全て排出してください。
＊ 安全のためヘルメットを着用してください。
＊ 運転者以外の人は乗せないでください。
＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊ あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）での走行は，低速で走行してください。走行途中に停止するときは，変速レバーを操作して停止してください。
＊ あゆみ板を使うときや，前後左右とも 10 度をこえる傾斜地（坂道）を走行するときは，速度を最低速にし機械から降りて操作してください。また，変速レバー・ステアリングレバーを操作すると，機械の移動方向が変化したり，急降下，落下するおそれがありますので操作しないでください。
＊ あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは，速度を最低速にし，あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊ 下記のようなところは，転倒しケガをするおそれがあるので走行しないでください。
- **両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩**
- **道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）**
- **路肩の弱い道路**
- **路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ**

＊ オーガは必ず折りたたんでください。[G 仕様]

重　要

＊ 路面の凹凸（溝や穴など）や荒れた路面上は走行しないでください。クローラの破損や早期摩耗の原因となります。
＊ オーガ受けにオーガを必ず収納してください。

補　足

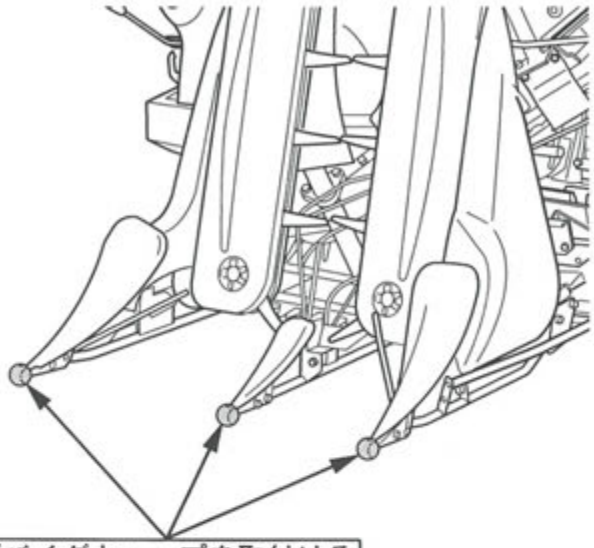
＊ ドロッパ，スーパーデバイダなどを装着している場合は，**[道路運送車両法]** の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。
＊ **[道路運送車両法]** の **[保安基準]** に抵触するおそれがあるため，公道走行する前には必ず下記項目を確認し，異常があるときは購入先に連絡して処置を行なってください。また，異常があるときは必ずトラック輸送を行なってください。
- 機械の周囲を回って油もれ，水もれ，燃料もれが発生している場合
- エンジン音に異常がある場合
- 旋回異常がある場合
- ブレーキ，各変速，各クラッチに異常がある場合
- 各警報（ブザー），灯火装置（スイッチ，ランプ）に異常がある場合

■移動走行前の準備

注　意

＊ 平たんな場所に置き，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 木や電線に接触して破損したり，周囲の人にケガをさせるおそれがあるのでオーガを収納状態にしてください。
＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

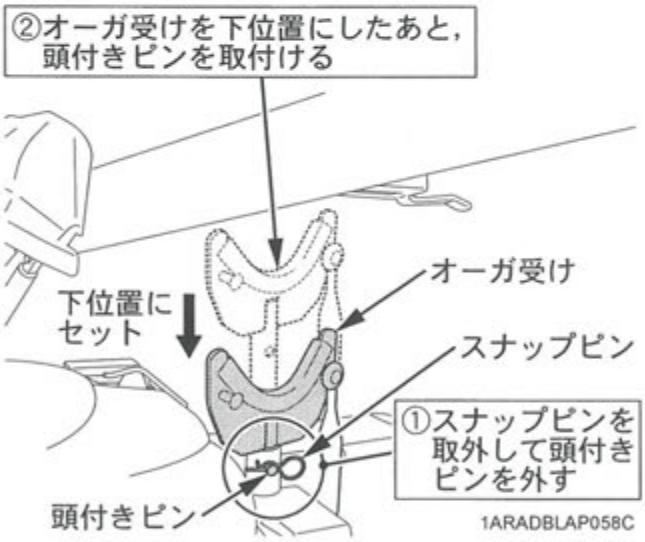
1. ホッパ又は，グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。(62 ページ参照)
2. デバイダキャップを取付けます。



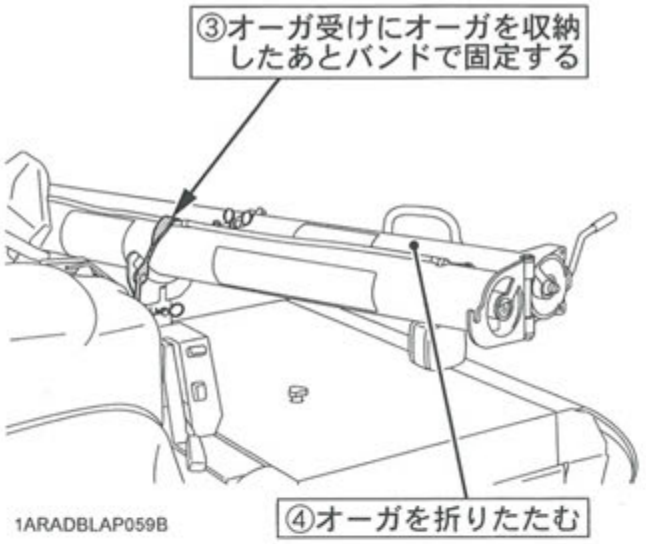
1ARADBWAP002C

[G 仕様]

3. オーガを折りたたんでオーガを固定します。(47 ページ参照)



1ARADBLAP058C



1ARADBLAP059B

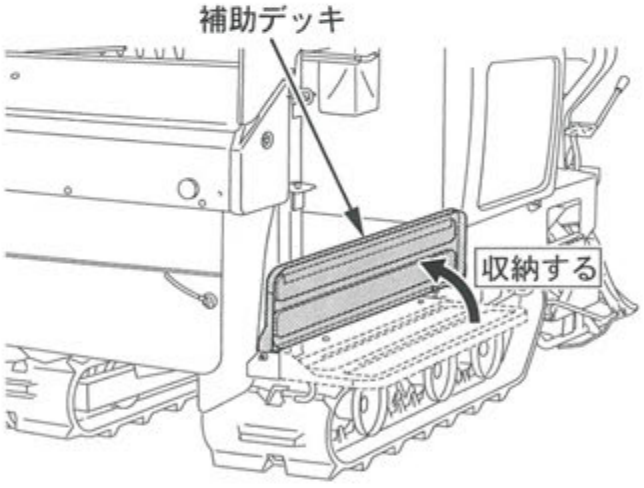
補　足

＊ オーガ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでオーガを一度最上昇させて収納してください。

[G 仕様]

[213A ホッパ仕様]

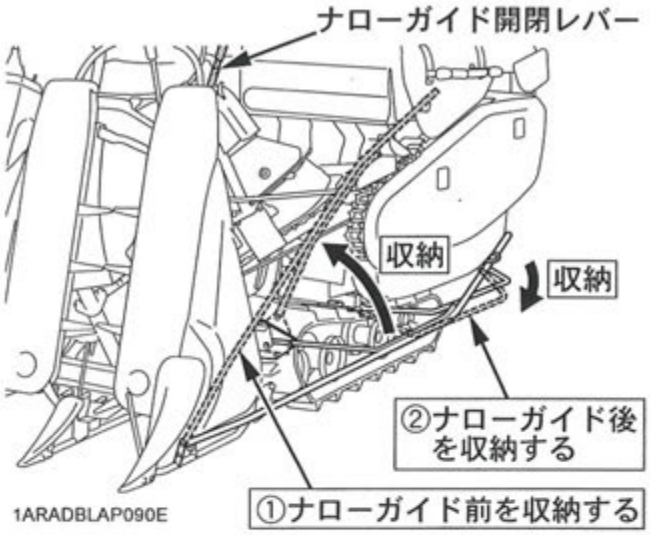
4. 補助デッキを収納します。



1ARADBLAP021A

[213A ホッパ仕様]

5. ナローガイド開閉レバーを操作して，ナローガイド前を収納したあと，ナローガイド後を収納します。

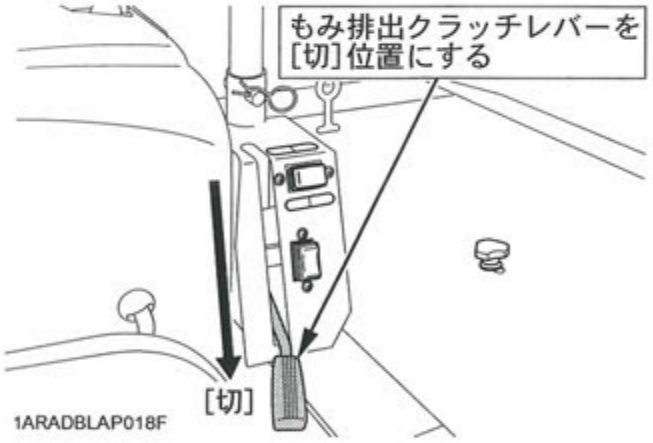


補　足

＊ ナローガイド後は手動で収納してください。
＊ ナローガイドを収納したあとは，ナローガイド開閉レバーを収納してください。

[G 仕様]

6. もみ排出クラッチレバーを **[切]** 位置にします。

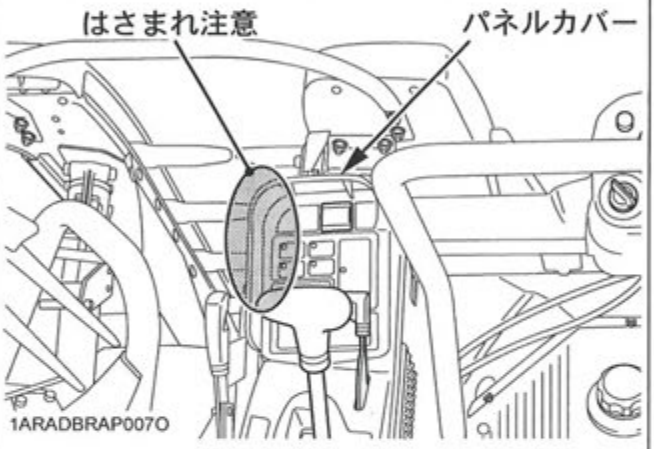


[G 仕様]

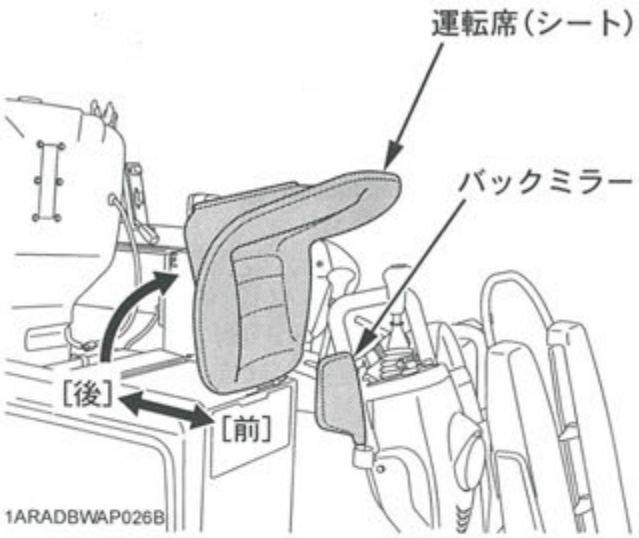
■発進のしかた

注　意

＊ 発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。
＊ 急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。
＊ 刈取部を上げたとき，手がはさまれるおそれがあるため，スイッチパネルのパネルカバーの刈取部側に手を置かないでください。

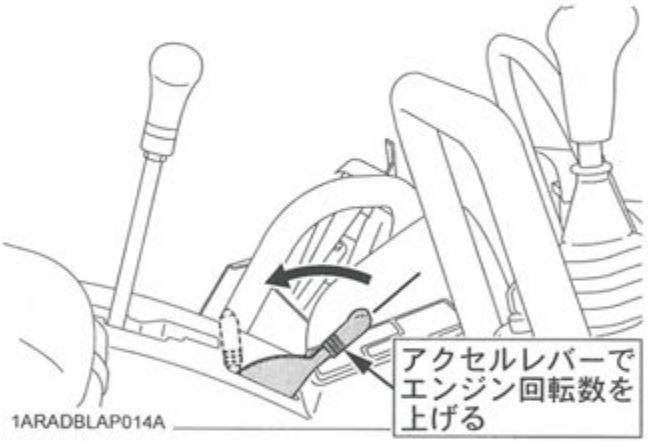


1. 運転席，バックミラーの調整を行ないます。

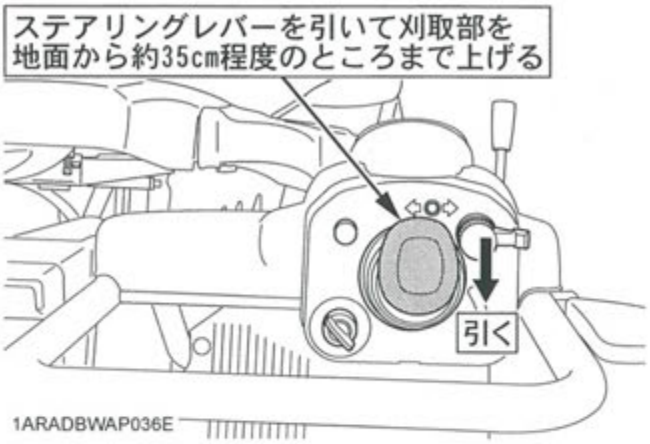


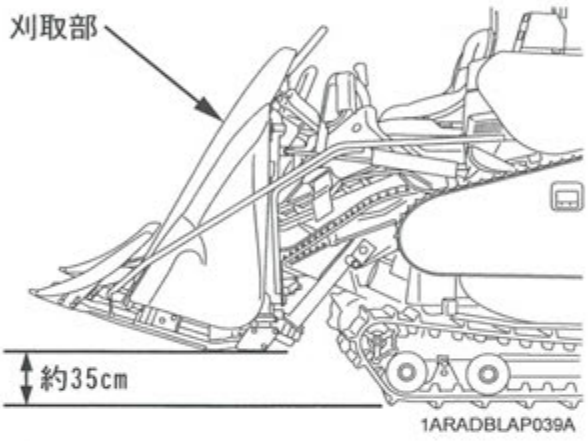
2. アクセルレバーを操作します。

エンジンを始動したあと，アクセルレバーを操作します。



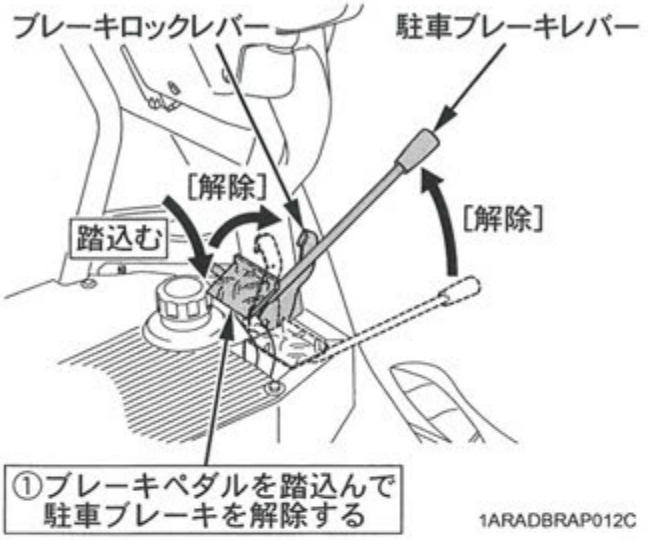
3. 刈取部を上げます。

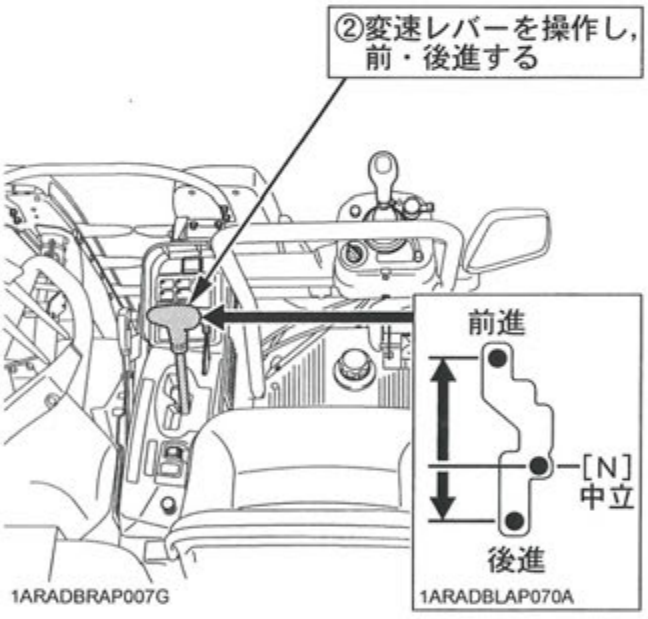




4.　走行速度を選んで発進します。

ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除したあと，変速レバーを**[N]（中立）**位置より前に押すと**前進**し，後ろに引くと**後進**します。





重　要

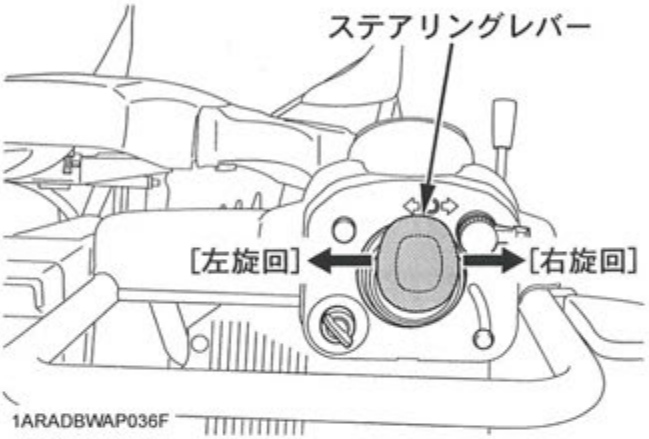
＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

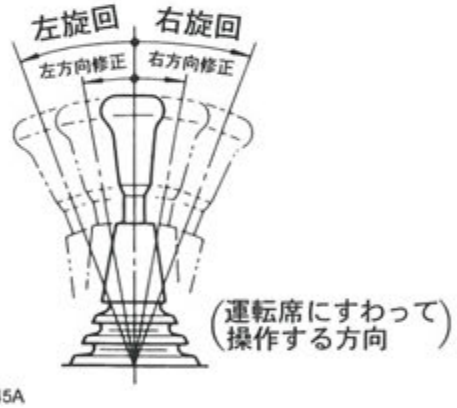
■旋回のしかた

注　意

＊ 高速走行時，ステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にステアリングレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回半径が変わります。また，いっぱいまで倒すと急旋回します。





重　要

＊ 砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

■停車・駐車のしかた

注　意

＊ コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ やむをえず坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

1. 変速レバーを **[N]（中立）** 位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けます。

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

3. アクセルレバーを **[🐢]（低回転）** 位置にします。
4. 刈取部を地面に着くまで降ろします。
5. エンジンを停止してメインスイッチのキーを抜きます。

■道路走行について

注　意

＊ ドロッパ，スーパーデバイダなどを装着した状態で移動するときは，トラック輸送してください。
＊ 夜間など暗いときに移動走行するときは，ヘッドランプを必ず点灯し，作業灯は必ず消灯してください。

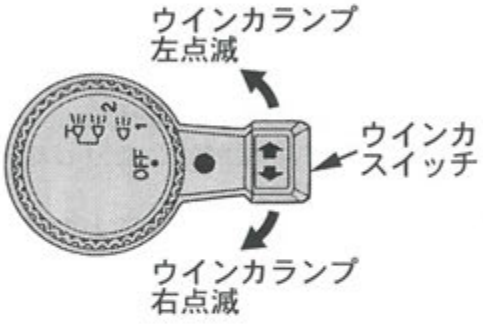
道路走行中，進路方向を変えるときは，ウインカ（方向指示器）で進路方向を他の自動車に知らせてください。

補　足

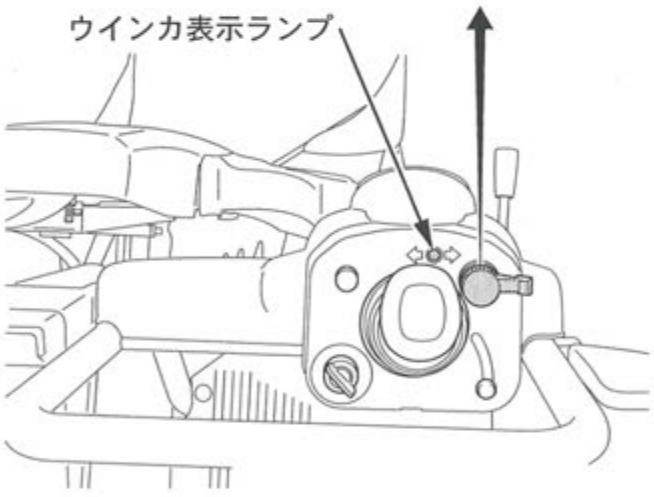
＊ 道路を走行するときは，小型特殊自動車の運転免許証を必ず携帯し，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。
＊ 作業灯は **[道路運送車両法の保安基準]** 第42条（灯火の色などの制限）において，**[走行中に使用しない灯火]** とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

● ウインカスイッチ

旋回方向に操作すると，ウインカ表示ランプが点滅します。



1ARADBEAP119L



1ARADBWAP036G

補　足

＊ 旋回が終わるとウインカスイッチを中央に戻してください。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注 意

* 積込み・積降しは平たん地を選び，トラックの駐車ブレーキを掛け，トラックの変速レバーを R（後進）又は，1 速に入れたあと，さらにタイヤに車止めを行ない，トラックが動かないようにしっかりと固定してください。
* あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅（45cm 以上），長さ（高さの 4 倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
* あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	45cm 以上
数　量	2 枚
強　度	1 枚が 700kg 以上の重量に耐えうる

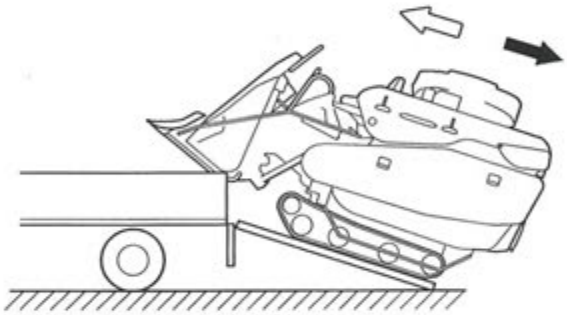
■トラックへ積込み時のコンバインの準備

もみをすべて排出又は降し，**[G 仕様]** はオーガ受けを下（収納）位置にしてオーガを収納後，折りたたみ式オーガを折りたたみ，バンドで固定し，もみ排出クラッチレバー **[G 仕様]** を **[切]** 位置にし，左補助デッキ **[213A ホッパ仕様]** やナローガイド前，後をそれぞれ収納したあと，デバイダキャップを取付けます。（30 ページ参照）

■トラックへの積込み・積降ろしのしかた

注 意

* 積込みは前進で，積降ろしは後進で行なってください。
* 積込み・積降ろし作業を行なうときは，機体から降りて発進させてください。
* あゆみ板を走行中のコンバインから離れてください。



1ARADBLAP023A

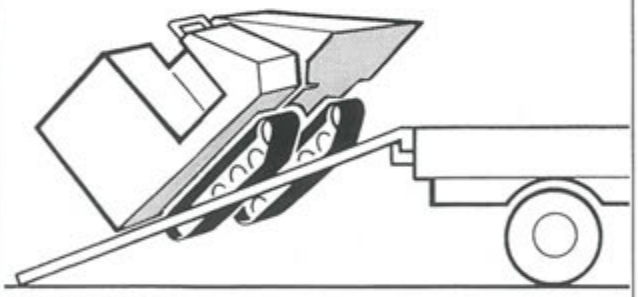
注　意

＊ 走行中に異常が発生し，緊急に停止するときは，駐車ブレーキレバーを素早くいっぱい押下げて，ブレーキロックレバーで駐車ブレーキを掛けてください。

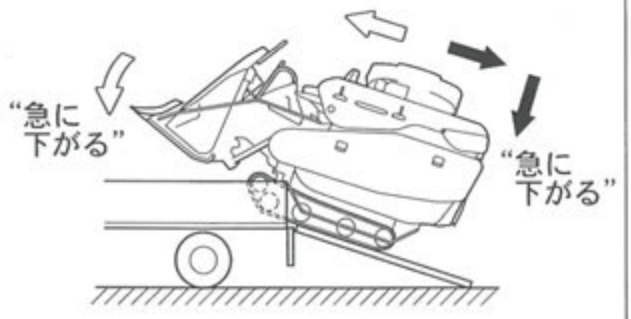


1ARADBRAP012D

＊ あゆみ板の途中でステアリングレバーを操作すると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。


1ARADAFAP4440

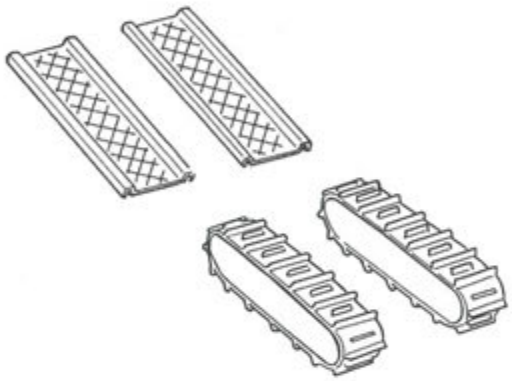
＊ 機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



1ARADBLAP022B

◆ 操作のしかた

1. **[G 仕様]** は，もみ排出クラッチレバーを **[切]** 位置にします。
2. ステアリングレバーで刈取部を上げます。
3. アクセルレバーを操作してエンジン回転数を上げたあと，変速レバーをゆっくり操作して，**低速**で走行します。
4. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，機体から降りてあゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。


1ARADBEAP124A

5. 荷台に載せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

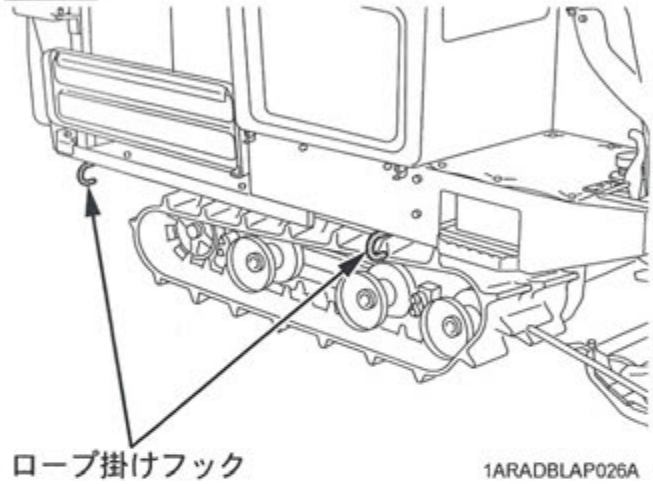
■トラック上での処置

注　意

＊ 刈取部を床まで降し，駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

[ホッパ仕様]

[右側]



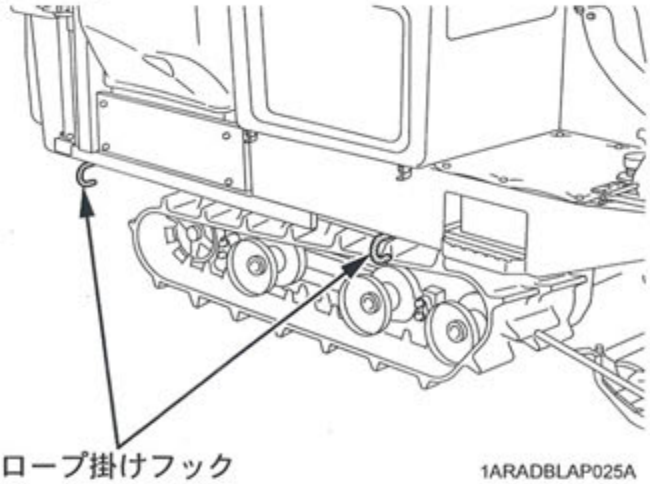
ロープ掛けフック

1ARADBLAP026A

[ホッパ仕様]

[G 仕様]

[右側]

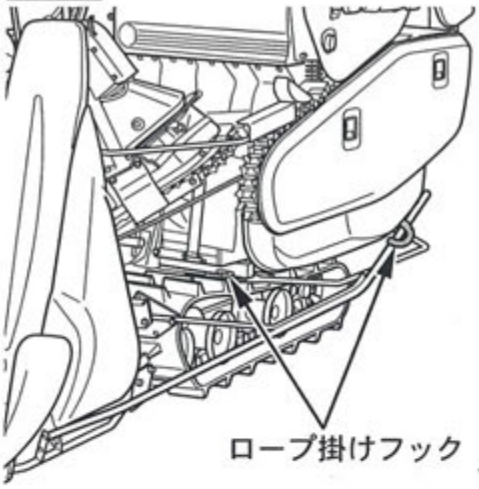


ロープ掛けフック

1ARADBLAP025A

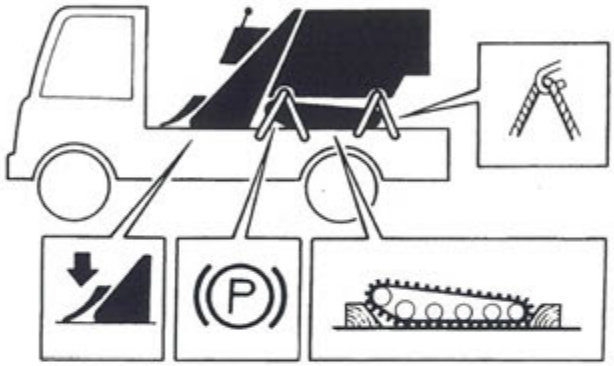
[G 仕様]

[左側]



ロープ掛けフック

1ARADBWAP002G



1ARADAFAP349A

重　要

＊ ロープ掛けフック以外の所には，ロープを掛けないでください。

＊ ロープ掛けフックはけん引作業に使用しないでください。また，けん引作業を行なうときにロープをロープ掛けフックに掛けないでください。

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の状態やほ場の状態によっては，刈取作業ができない場所があります。作業を始める前によく確かめて，収穫量が上がる能率のよい作業を行なってください。

■作物の条件

◆ 作物の長さ

刈取れる長さは，標準の刈高さで全長約 60 ～ 130cm。

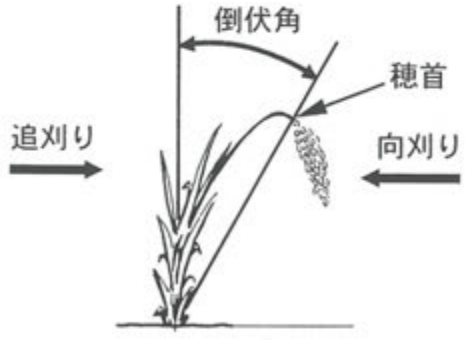


1ARADBEAP129A

◆ 作物の倒伏

作物の倒れかた（倒伏角）により，刈取り方向に注意してください。

刈取りかた（方向）	倒　伏　角
追刈り	85 度以下
向刈り	70 度以下



1ARADBEAP130A

◆ 作物のぬれ

作物は乾いて，手でしごいてぬれていない状態が適期です。

重　要

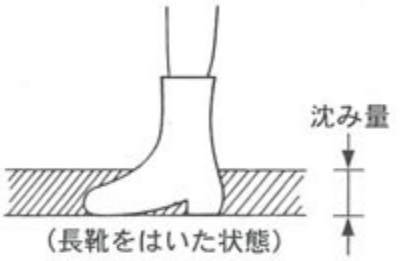
＊ 湿田の倒伏やぬれ作物の刈取作業を行なうとき，受あみが目詰まりを起すことがあります。この場合排じんロス（もみの飛散）が多くなります。このような場合には作業をいったん中止し，受あみの目詰まりを取除いてください。
掃除を行なうときは，必要に応じて受あみを取外してください。(85 ページ参照)

■ほ場の条件

◆ ほ場のぬかるみ

足の沈み量を測って目安にしてください。また，クローラの仕様によって，目安の沈み量は異なります。

仕　様	沈　み　量
標　準	15cm まで
W	20cm まで



1ARADAFAP352A

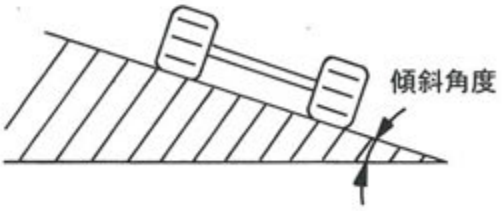
補　足

＊ 刈取作業が行なえるほ場のぬかるみの沈み量は，土の性質によって変わります。

収穫作業のしかた

◆ ほ場の傾き

傾斜角度５度以上では，作業できません。

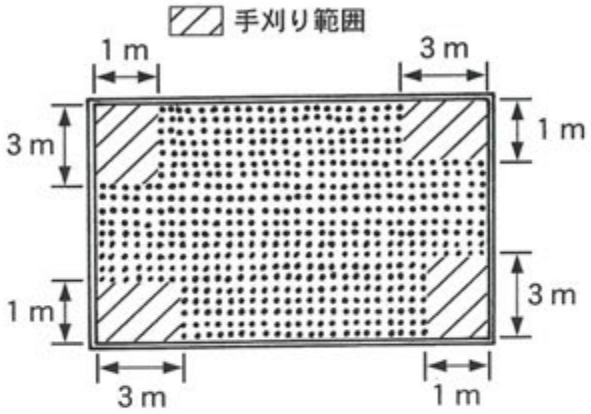


1ARADAFAP353A

ほ場の準備

■ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四隅で旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲（面積）の手刈り（枕刈り）をします。

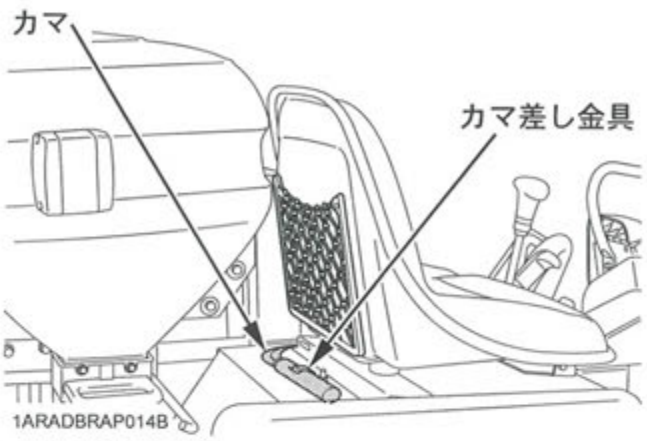


1ARADAFAP354E

補　足

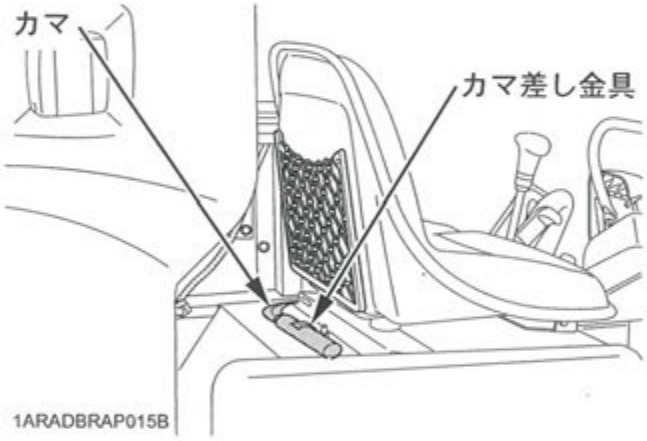
＊ カマの収納場所は下図の位置にあります。

[ホッパ仕様]



[ホッパ仕様]

[G 仕様]



[G 仕様]

コンバインの準備

注　意

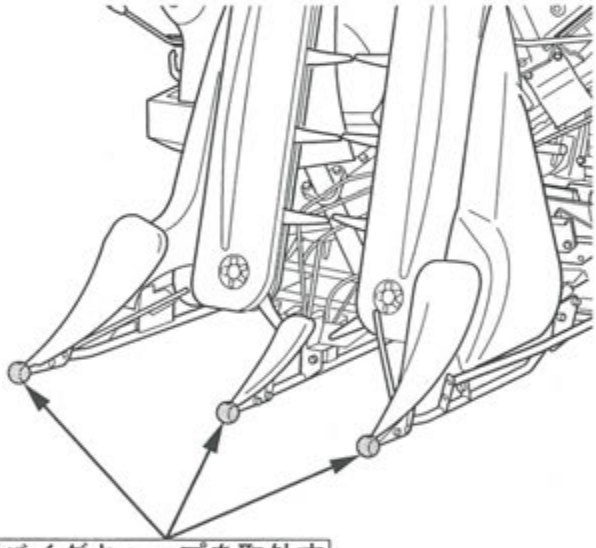
＊ 平たんな場所に置き，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

■コンバインの準備のしかた

1.　各部への注油

作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。(98 ページ参照)

2.　デバイダキャップの取外しと収納



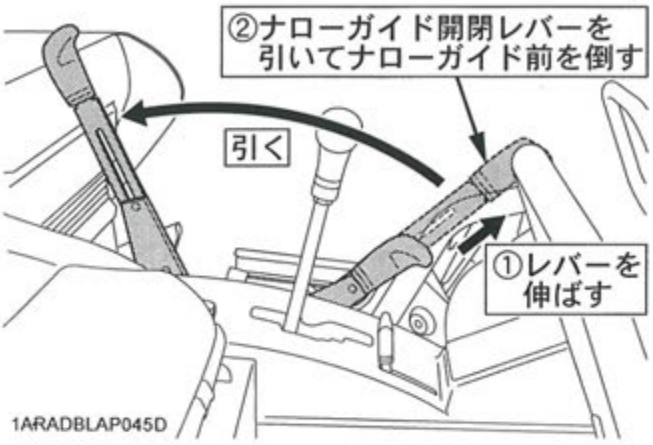
デバイダキャップを取外す

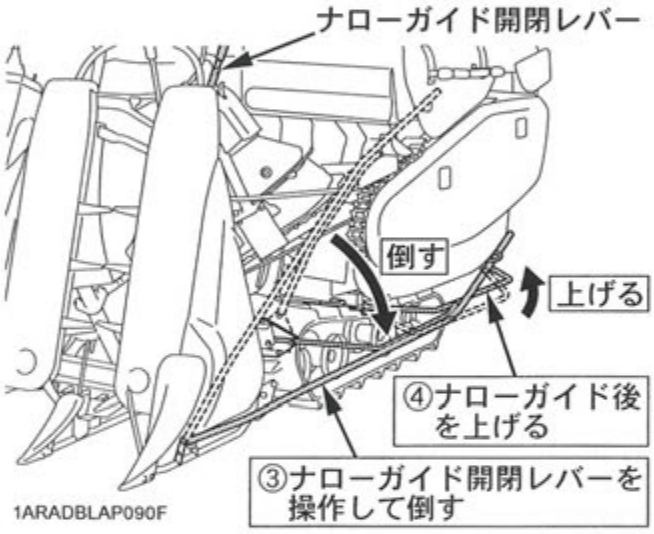
1ARADBWAP002D

補　足

＊ 取外したデバイダキャップは，ビニール袋などに入れてから，取扱説明書を収納する運転席後側の収納場所に入れて保管してください。

3. ナローガイドのセット





補　足

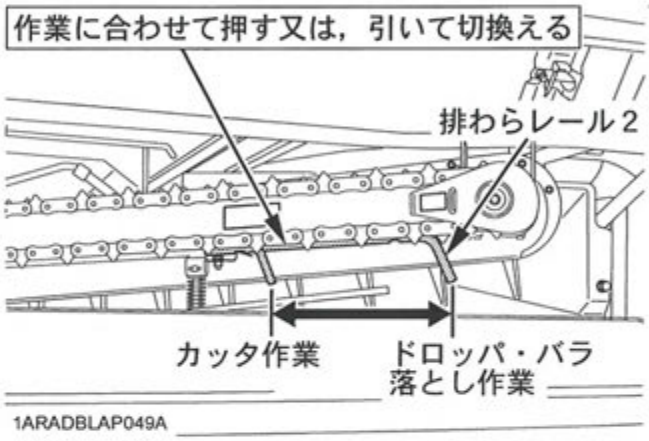
＊ ナローガイド後は手で上げてください。
＊ ナローガイドを倒したあとは，ナローガイド開閉レバーを収納してください。

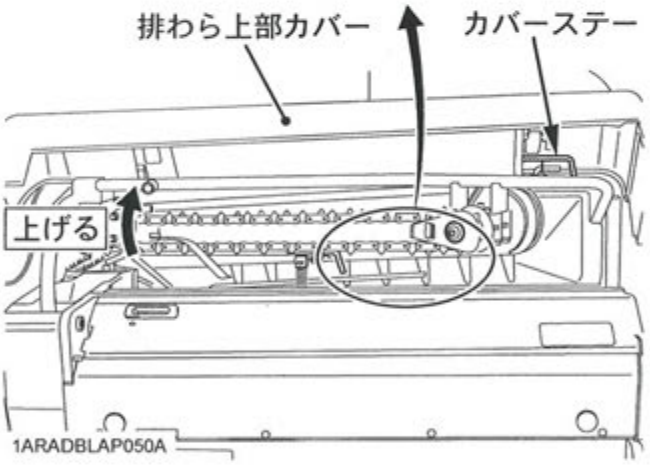
4. 排わら処理の選択

カッタ作業 ⟷ ドロッパ・バラ落とし作業の切換えを行ないます。

◆ 排わらレール２の設定

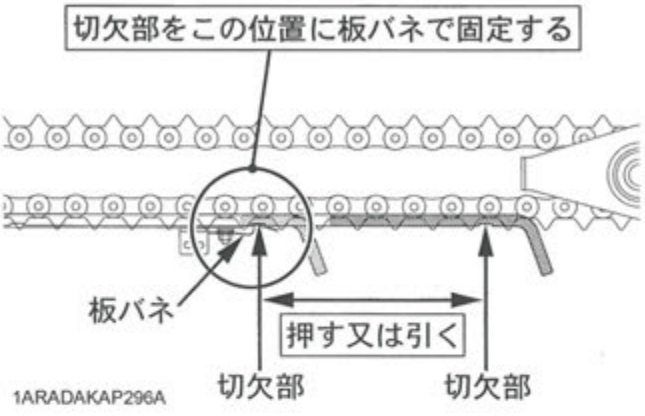
排わら上部カバーを上に開きカバーステーでカッタ切換えカバーを固定します。**カッタ作業**のときは排わらレール２を押し込み，**ドロッパ・バラ落とし作業**のときは排わらレール２を引出します。





補　足

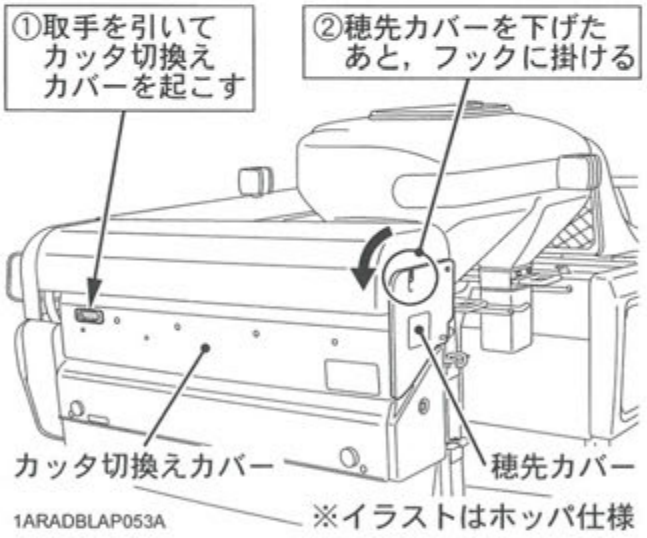
＊ 排わらレール２の切欠部を下図の位置に板バネで固定してください。



＊ 排わらレール２を引出すとき，**ドロッパ・バラ落とし作業**の切欠部より後ろに引出すと排わらレール２が外れます。

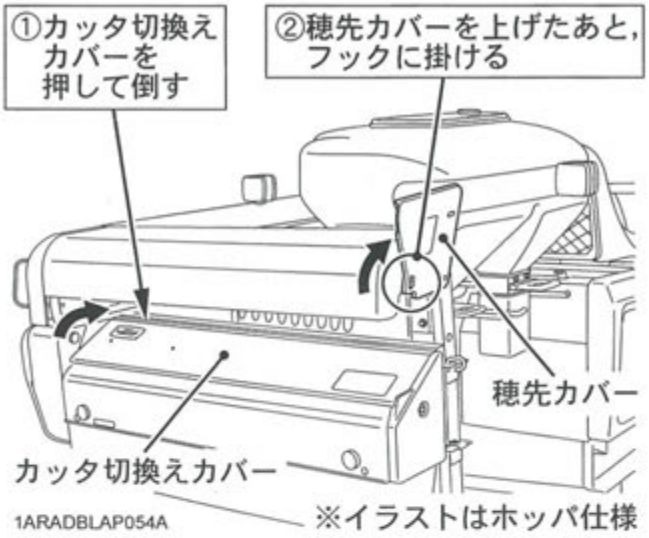
◆ カッタ作業

カッタ切換えカバーを**カッタ作業**位置にしたあと穂先カバーを閉じます。



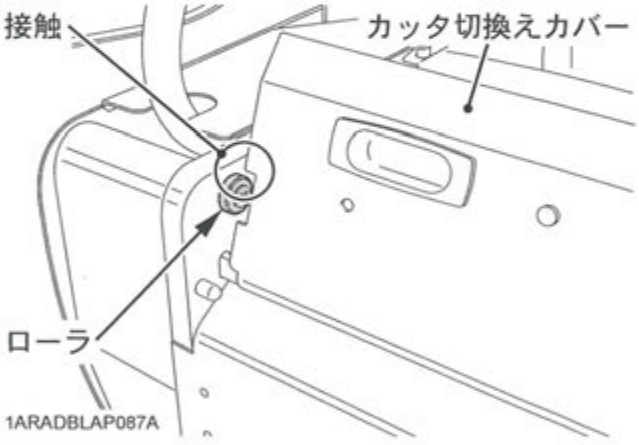
◆ ドロッパ・バラ落とし作業

カッタ切換えカバーを**ドロッパ・バラ落とし作業**位置にしたあと穂先カバーを開きます。



補　足

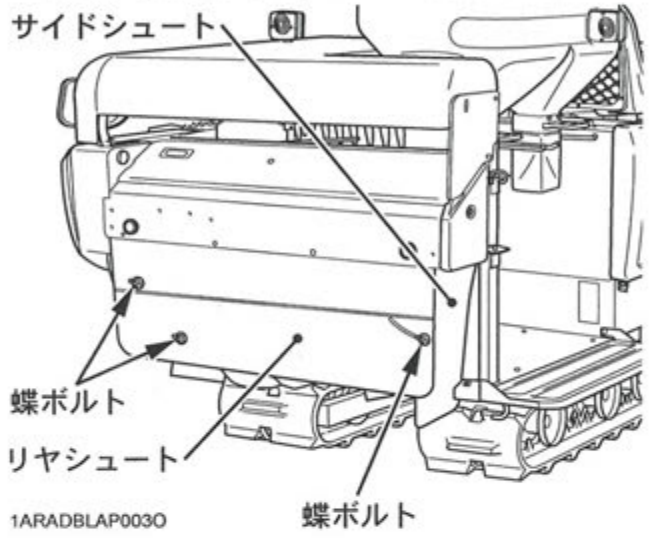
＊ カッタ切換えカバーとローラが接触した位置からさらに手前に引いて起こす又は，押して倒してください。



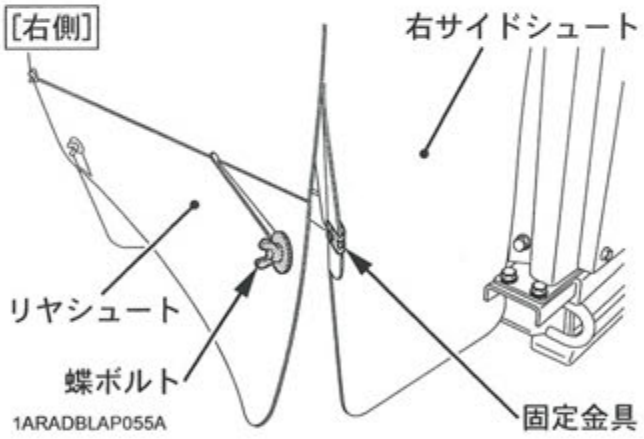
収穫作業のしかた

5. リヤシュート・サイドシュートの準備

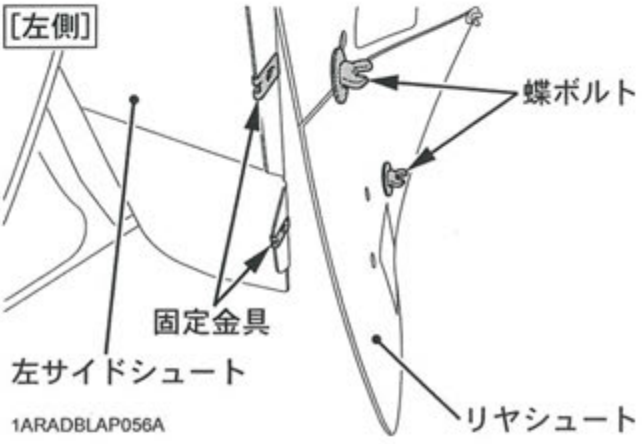
1. 収納状態のリヤシュートとサイドシュートを固定している左・右の蝶ボルトをそれぞれゆるめて外し，リヤシュートとサイドシュートを広げます。
2. リヤシュートを後方に広げ，刈取作業に合わせた**セット位置**に左，右のサイドシュートを広げ，固定金具に蝶ボルトを締付けます。



1ARADBLAP003O



1ARADBLAP055A

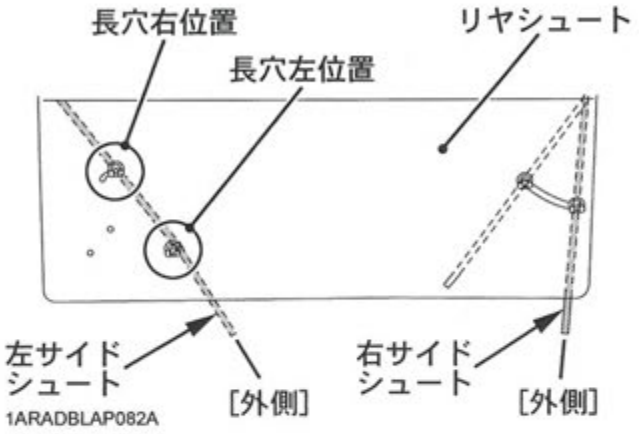


1ARADBLAP056A

◆ セット位置

● 通常作業時

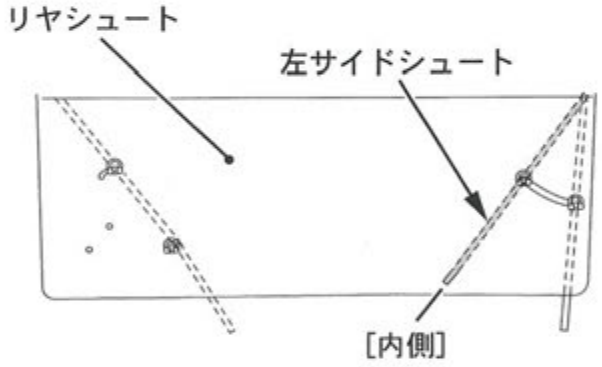
左サイドシュートは上部長穴**内側**（長穴の右側いっぱい）の位置，下部長穴**外側**（長穴の左側いっぱい）の位置，右サイドシュートは**外側**（長穴の右側いっぱい）の位置にします。



1ARADBLAP082A

● 中割り作業時

右のサイドシュートを**内側**（長穴のそれぞれ**内側**方向いっぱい）の位置にします。



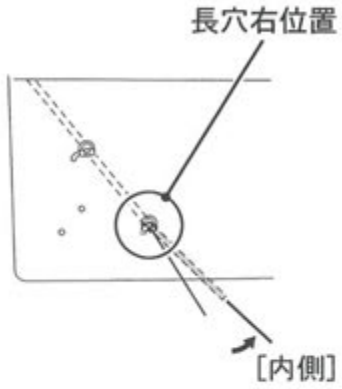
1ARADBLAP082B

補　足

＊ 中割り作業が終わったあとは，必ず**通常作業時**の位置にセットしてください。排わら処理を**［カッタ］作業**にしている場合は，わら詰まりの原因となります。

● 右デバイダで切断わらを押してしまうとき

ソリを地面に接地した刈りかた（52 ページ参照）で次行程の刈取作業中に右デバイダがわら押しをする場合は，左サイドシュートの下部長穴**内側**（長穴の右側いっぱい）の位置に調整してください。



1ARADBLAP083A

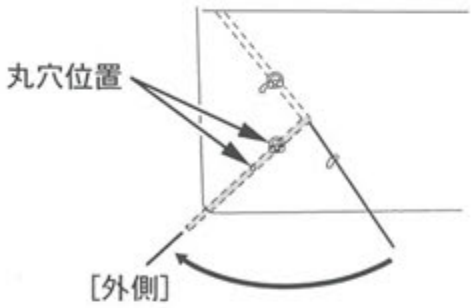
＊ 切断わらを分散するときは，左サイドシュートを外側方向に調整してください。このとき，ソリが切わらに乗り上げるおそれがあるため，**[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]** で刈取作業を行なってください。

補　足

＊ シュートを調整しても切断わらを押してしまう場合は，その都度刈取部を少し上げてから切断わらを除去してください。
＊ 湿った作物は詰まりの原因となるため**通常作業時**の位置にセットしてください。

● 湿田で左サイドシュートに土やわらが推積するとき

左サイドシュート下部を，丸穴の位置にセットします。



1ARADBLAP084A

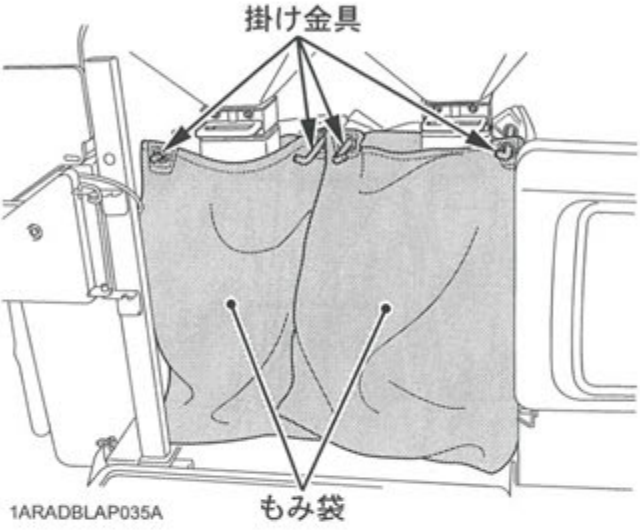
補　足

＊ 湿田ではデバイダ・ソリを地面に接地した刈りかたはできません。

[ホッパ仕様]

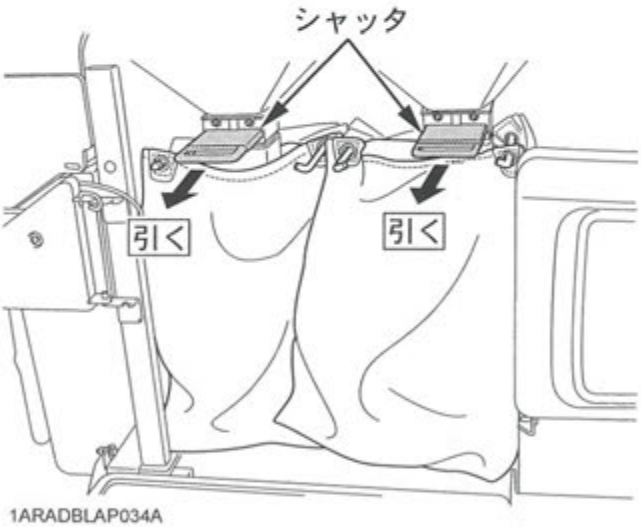
6. 補助デッキ [213A] ともみ袋の準備

1. 補助デッキ **[213A]** を開きます。
2. もみ袋のファスナを開き，掛け金具にもみ袋を取付けます。



1ARADBLAP035A

3. 各吐出口のシャッタを開きます。



1ARADBLAP034A

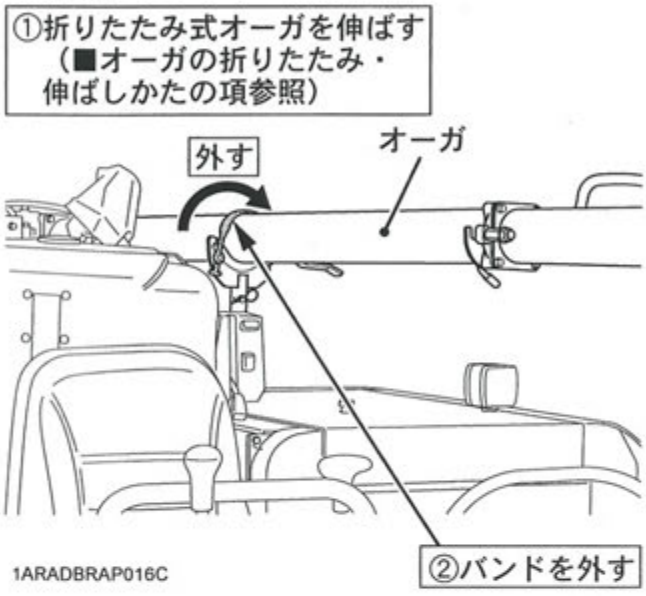
[ホッパ仕様]

収穫作業のしかた

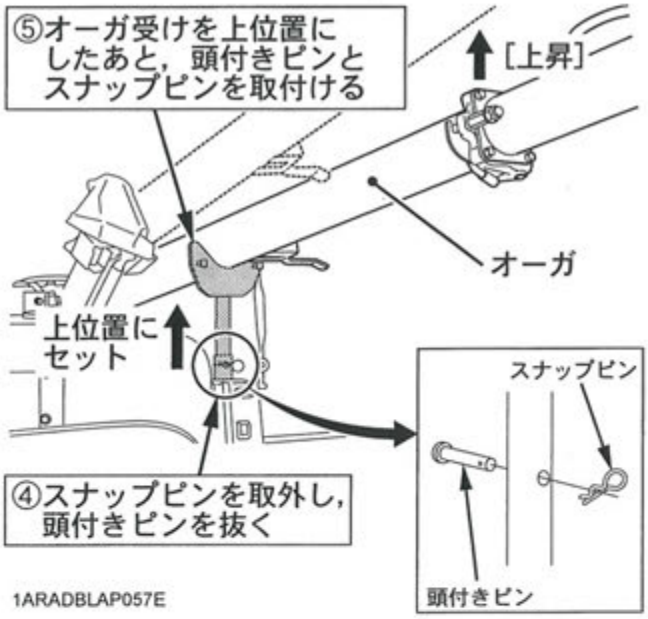
[G 仕様]

7. オーガの準備

1. エンジンを始動して，オーガを作業状態にします。









2. エンジンを停止します。

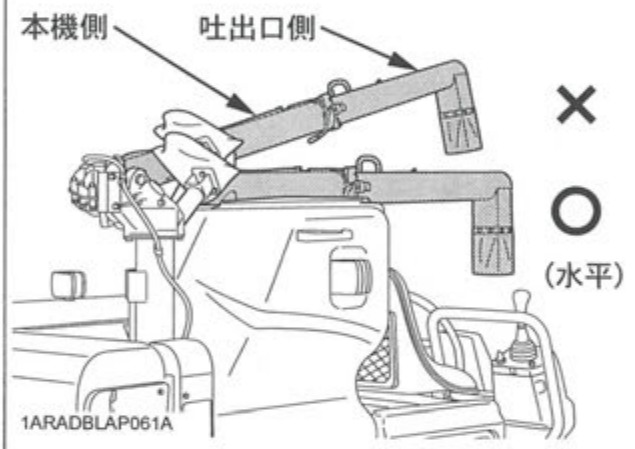
[G 仕様]

■オーガの折りたたみ・伸ばしかた

[G 仕様]

注 意

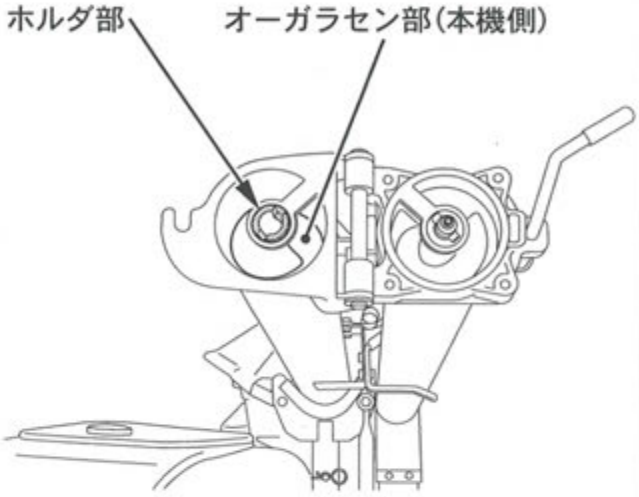
* **水平で平たんな場所でエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。**
* **機体やオーガが傾いていると，吐出口側のオーガが自然に動きケガをするおそれがありますので，オーガは必ず水平状態にしてください。**



* **オーガ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，オーガの旋回範囲に人がいるときは，オーガを動かさないでください。**
* **確実にロックがされていないと吐出口側のオーガが不意に動いてケガをするおそれがあります。**

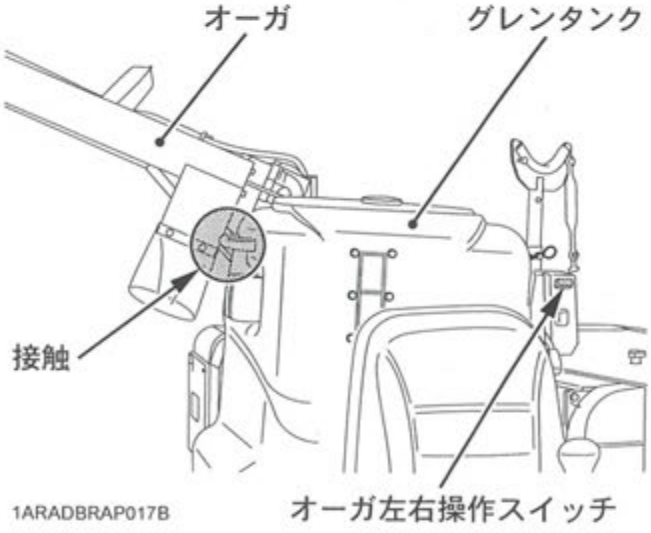


* **オーガを折りたたんだままエンジンを始動した状態でもみ排出クラッチを［入］位置にしないでください。オーガを折りたたんだ状態でもみ排出クラッチを［入］にすると，エンジンが停止します。**



重 要

* オーガを折りたたんだ状態で下記の操作及びオーガの旋回は行なわないでください。機械の破損や故障の原因となります。
- オーガ左右操作スイッチを操作して，左旋回を続けると下図のようにオーガの先端部がグレンタンクに接触し，グレンタンクが損傷します。



収穫作業のしかた

◆ 折りたたみかた

注 意

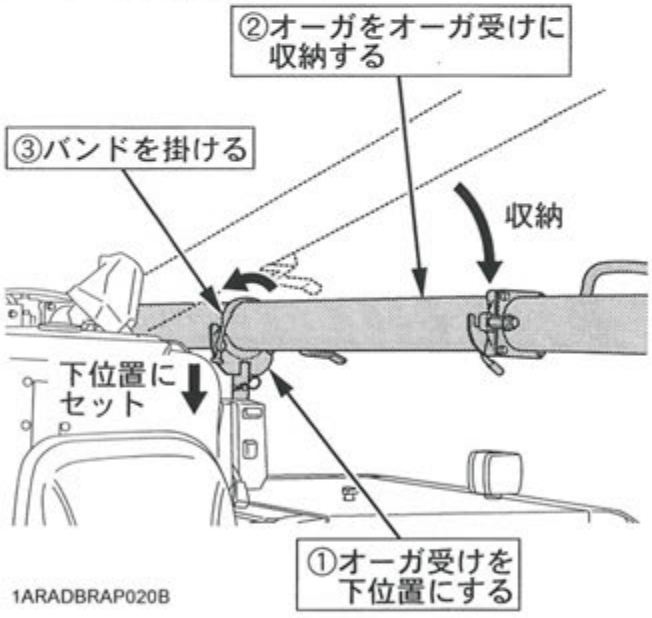
＊ あぜ越え，移動走行時及びトラックで輸送するときは，オーガが人や物にぶつかるおそれがあるので必ず折りたたんでください。
＊ オーガが開いて人や物にぶつかるおそれがあるので，必ずロック金具がフックの溝に入っていることを確認してください。

1. ステアリングレバーを操作して刈取部を地面に接地させます。

補 足

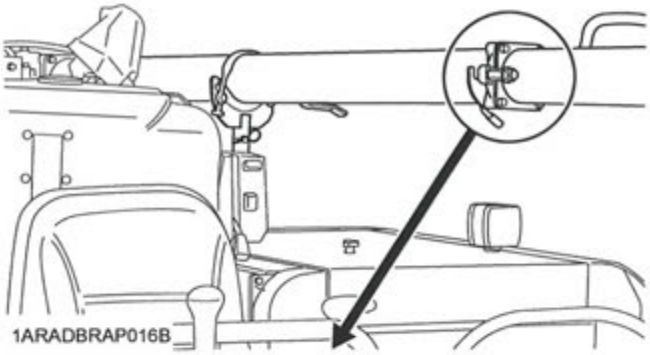
＊ オーガ内にもみが残っているときは，一度オーガを最上昇させてください。

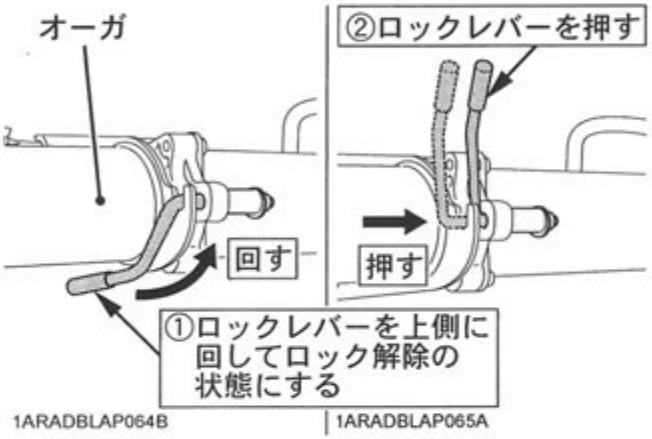
2. オーガを収納します。



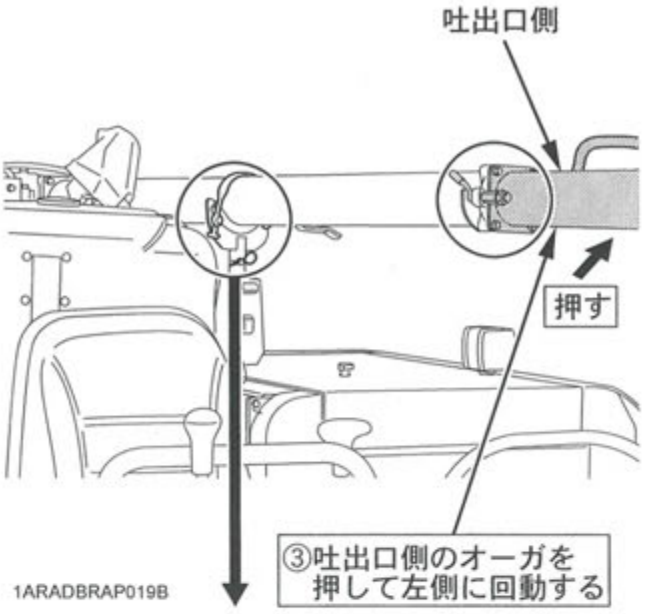
1ARADBRAP020B

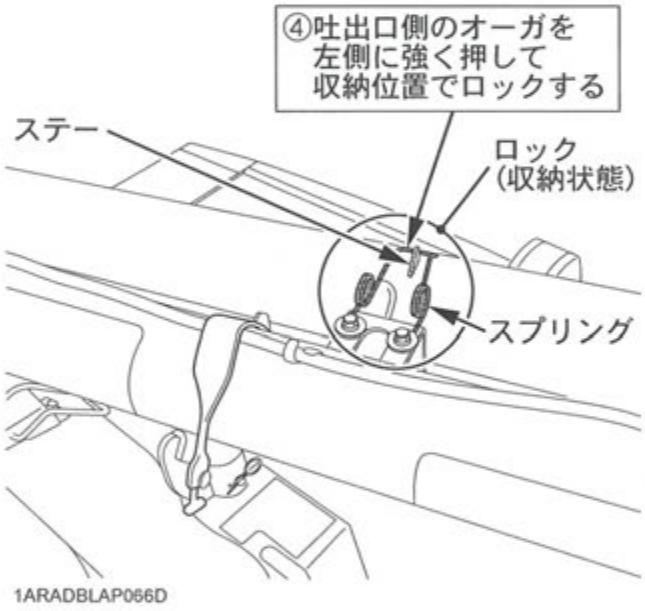
3. オーガを折りたたみます。


1ARADBRAP016B



1ARADBLAP064B　1ARADBLAP065A





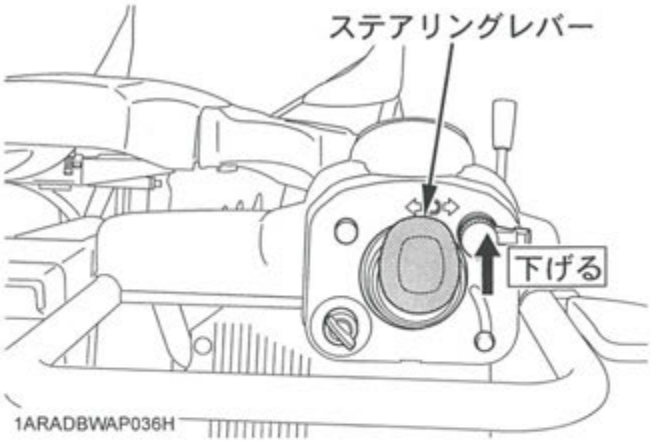
補　足

＊ 吐出口側のオーガを強く押すと自動的にロックされます。

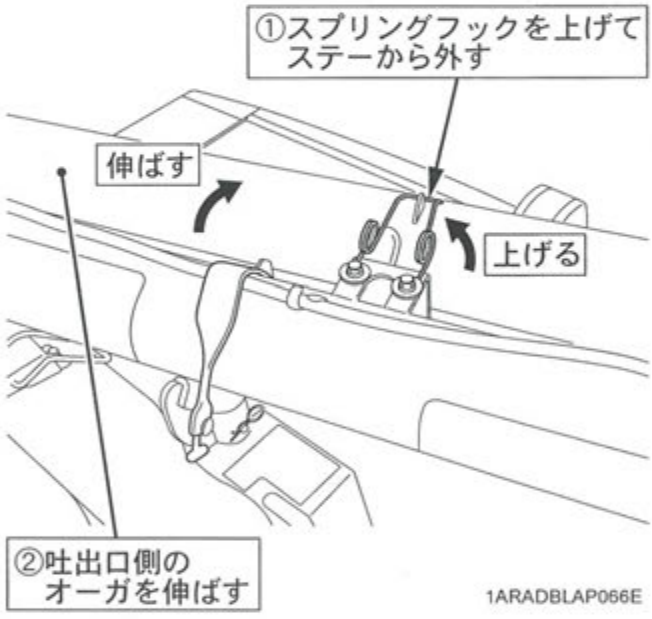
＊ もみの排出途中で排出を止めたとき，オーガ内に残っているもみがこぼれますので，オーガは折りたたまないでください。

◆ 伸ばしかた（作業時）

1. ステアリングレバーを操作して刈取部を地面に接地させます。

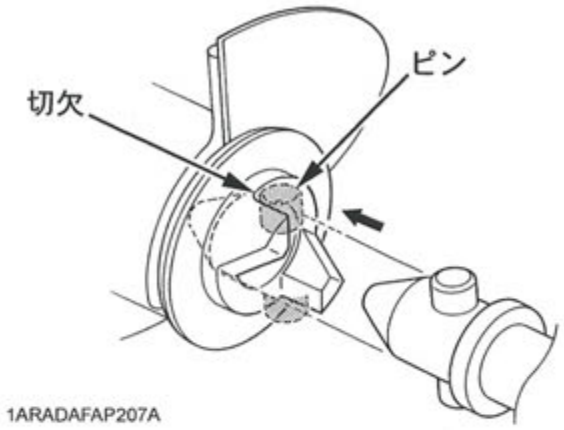


2. 吐出口側のオーガを伸ばします。

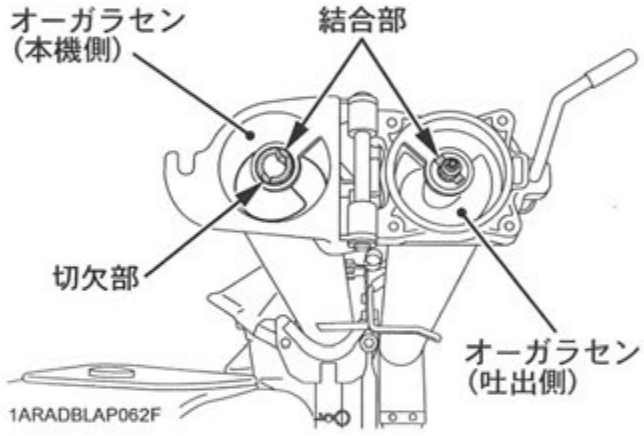


補　足

＊ オーガを伸ばすときは，本機側オーガラセンの切欠に吐出口側のピンを合せてください。

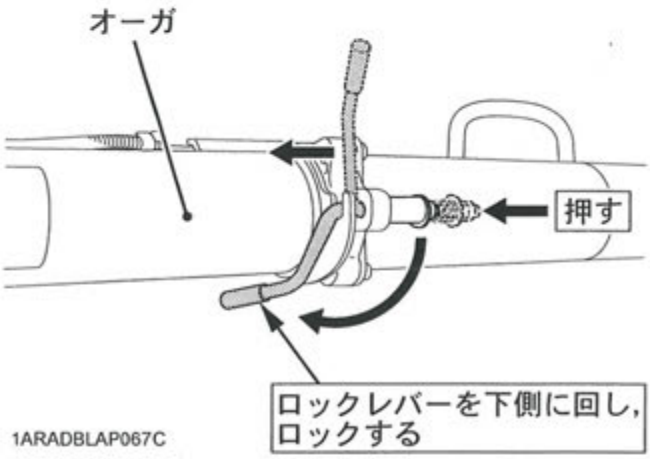


1ARADAFAP207A



1ARADBLAP062F

3. ロックレバーで本機側と吐出口側のオーガを固定します。このとき，スプリング部を指で押して，ロック溝にレバーを通して，下側に回してロックします。



1ARADBLAP067C

4. バンドを外します。
5. メインのスイッチのキーを**[入]**位置にしたあと，オーガ上下操作スイッチを操作してオーガを上昇させます。
6. オーガ受けを**上位置**にします。
7. オーガ上下操作スイッチを操作してオーガ受けに収納します。

[G 仕様]

刈取作業のしかた

■ほ場の出入りのしかた

注 意

* ホッパ又は，グレンタンク内に残っているもみは全て排出してください。
* 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。機械が破損するおそれがあります。
* あゆみ板はじゅうぶんな強度，幅（45cm 以上），長さ（高さの 4 倍以上）のある基準（36 ページ参照）に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。また，あゆみ板はあぜに直角に置いてください。
* あゆみ板を使うときや前後左右とも 10 度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にしてください。
* あゆみ板を使うときは，速度を最低速にし，あぜに対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
* 後進する場合は後方の安全確認，また後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
* 機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

1. アクセルレバーを操作してエンジン回転を［🐢］いっぱいまで引いて，変速レバーをゆっくり操作して，低速であぜ越えしてください。

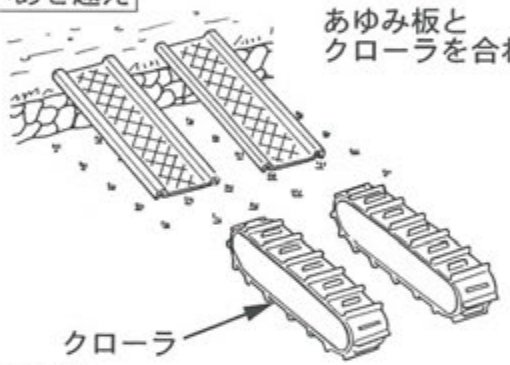
低いあぜ越え



1ARADBLAP024A

2. 10cm以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。

高いあぜ越え



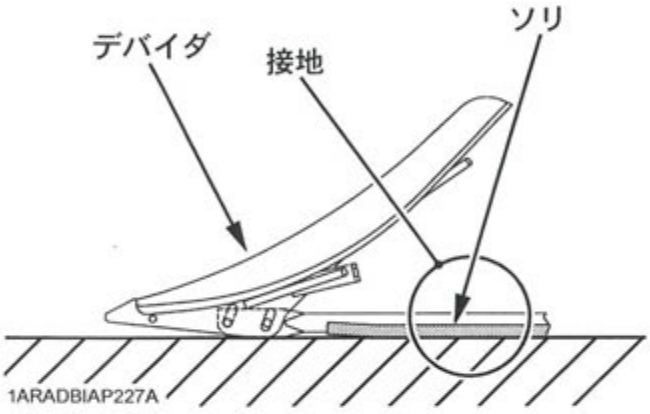
1ARADAFAP077A

収穫作業のしかた

■ソリを接地した刈りかた・ソリを浮かせた刈りかた

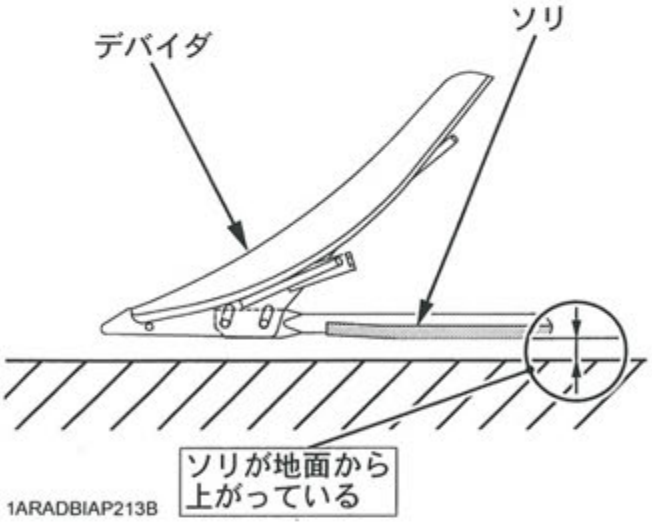
刈取作業は刈取部のソリを地面に接地した状態で刈取りを行なう刈りかた又は，地面からデバイダ・ソリを上げた状態で行なう刈りかたで行なってください。ソリを地面に接地した刈りかたは，ほ場や作物の条件により行なえない場合があります。

[ソリを地面に接地した刈りかた]



[ソリを地面に接地した刈りかた]

[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]



[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]

◆ソリを地面に接地した刈りかたについて

乾田のほ場で稲の刈取りを行なうときにはソリを地面に接地した刈りかたを行なうことができます。この刈りかたは，固い地面にソリを接地して刈取りを行なうため，下記の条件では正常な刈取りができない場合がありますので，デバイダ・ソリを地面から上げた状態で刈取作業を行なってください。

重　要

＊ ソリが接地している状態でステアリングレバーを前方に押すと，デバイダが地面に突込むおそれがあり，トラブルの原因となりますので，ステアリングレバーを前方に押さないでください。

◆ ソリを地面に接地した刈りかたができない条件

● ほ場条件

湿田やほ場面の軟かいほ場

補　足

＊ ソリを接地した刈りかたは，ソリが固いほ場面（乾田）に接地した状態が必要です。ソリが沈み込むほ場では，ほ場面にデバイダが突っ込みトラブルの原因となります。

● 作物条件

稲の倒伏状態により，デバイダ先端部を下げて（68 ページ参照）刈取りを行なう場合

重　要

＊ デバイダ先端を下げた状態でソリを接地して刈取りを行なうと，ほ場面にデバイダが突込みトラブルの原因となります。

● 刈取条件

排わら処理を**［カッタ］作業**にして刈取作業を行なうとき，右デバイダが切わらを押す場合

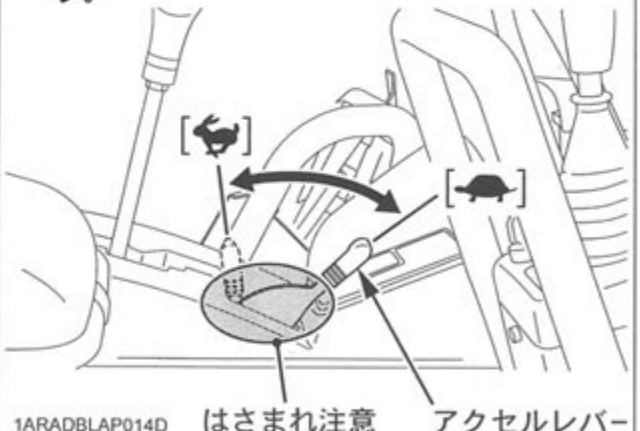
補　足

＊ 切わらの中を進むとソリが切わらに乗り上げて正常な刈取作業が行なえなくなるおそれがあります。

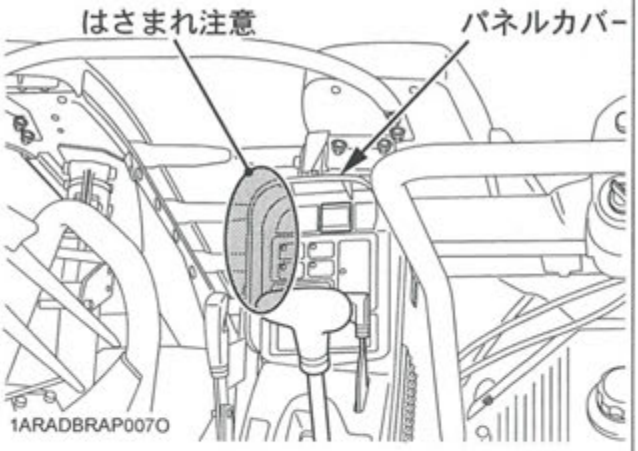
■刈取作業の手順

注 意

* コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。
* 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
* 機体後方に補助者がいないことを確認してください。機体に接触しケガをするおそれがあります。
* 小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
* 夜間など暗い場所で作業するときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。
* 共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なってください。
* 作業スイッチを押すと約２秒後にアクセルレバーが自動的に［🐇］位置まで動くため，アクセルレバーから手を離してください。指がはさまれてケガをするおそれがあります。



* 刈取部を上げたとき，手がはさまれるおそれがあるため，スイッチパネルのパネルカバーの刈取部側に手を置かないでください。

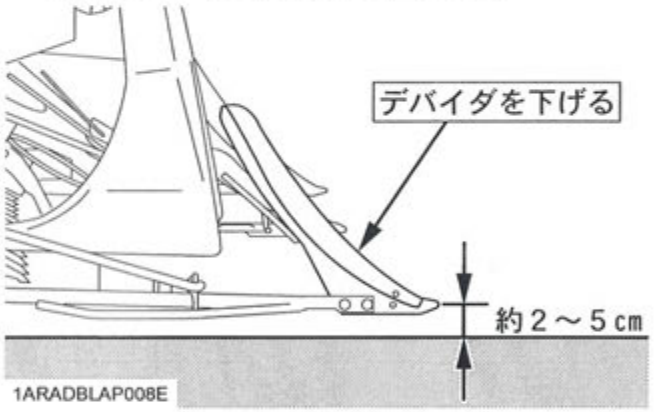


収穫作業のしかた

重　要

* 枕地を刈取るとき，オーガの先端が，障害物（電柱や壁など）に当たり，破損するおそれがありますので，オーガは折りたたんだ状態で作業を行なってください。**[G 仕様]**
* 作業中エンジン周りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますので注意してください。
* 湿田で作業をする場合，特に一方刈りで何回も後進するときは，フレーム下部に切わらを大量に抱込み，トラブルの原因になりますので，切わらの無い場所を後進するか早めにわらを排出してください。
* 変速レバーを **[移動]** 位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。

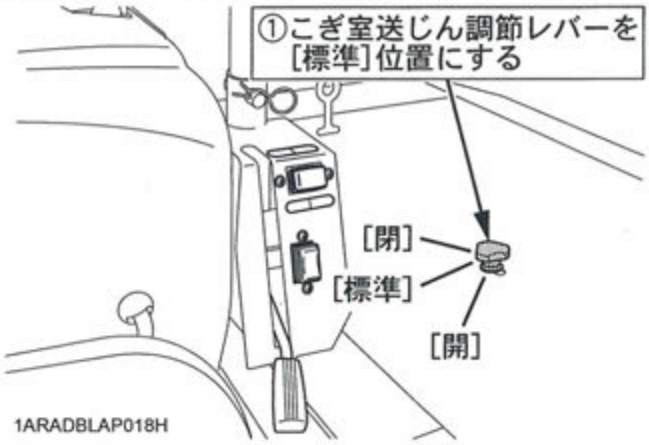
1. ステアリングレバーを操作し，**[ソリを地面に接地した刈りかた]** を行なうときはデバイダ先端を地面に接地（52 ページ参照），**[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]** を行なうときはデバイダの先端を地面から２～５cmのところまで刈取部を下げます。

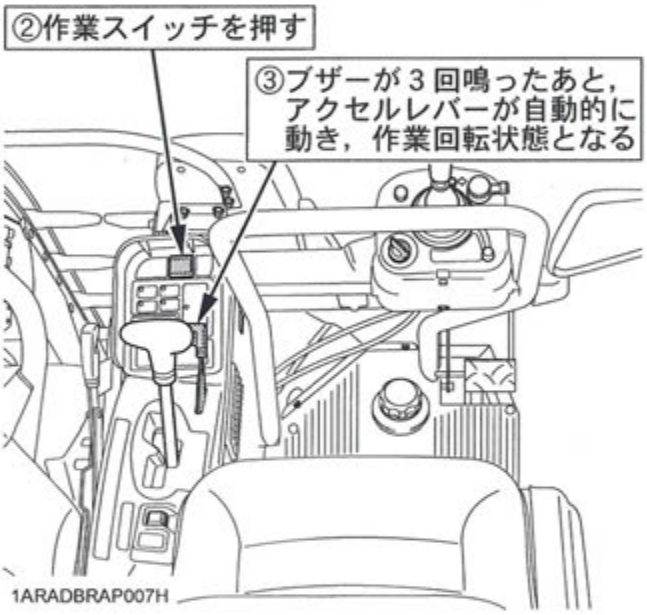


補　足

* 長かん作物，麦，雑草の多い作物は，高刈りしてください。
* ソリを地面に接地した刈りかたを行なうとき，デバイダ先端位置がソリより下がっているときは，デバイダの上下調整を行ない（68 ページ参照）デバイダの先端部をソリより高い位置にしてください。
* 乾田で立毛作物の刈取作業時，**低刈り** を行なうときは，デバイダの上下調整を行ない（68 ページ参照）デバイダの先端部を上げてください。

2. 各レバー・スイッチの操作を行ないます。





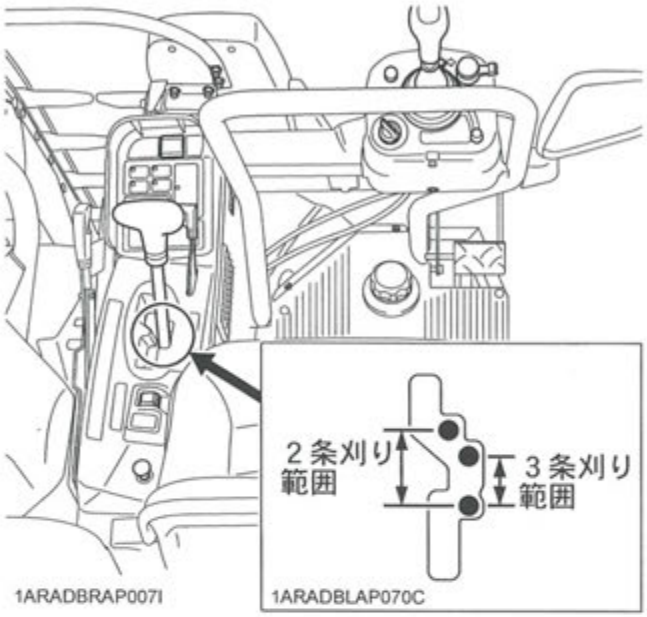
補　足

* 変速レバーが **[N]（中立）** 又は，**[後進]** 位置のときは，作業スイッチを **[入]** にしても刈取部は作動しません。変速レバーを前進側に操作すると，機体が前進すると同時に刈取部が作動します。
* 刈取オートクラッチが **[入]** の状態で，刈取部が**最上昇位置**にあるときには，刈取部は作動しません。
* 作業スイッチを押すと，こぎ深さ自動スイッチのランプが**点灯**（自動こぎ深さ **[入]**）します。

3. 作物の長さを確認したあと，刈始めのこぎ深さの調節をします。調節するときは，こぎ深さ自動スイッチは **[入]**（ランプ**点灯**）のままで手動こぎ深さスイッチで合わせます。(20 ページ参照)
4. 作物の条件に合わせた速度に変速レバーを前進側に操作し刈始めます。(61 ページ参照)

重　要

＊ **中割り・周囲刈**りなど３条分を刈取るときは，**３条刈り**の範囲内で変速レバーを調整してください。範囲より高速刈りを行なうと脱こく部やエンジンなどに負荷が掛かり破損するおそれがあります。



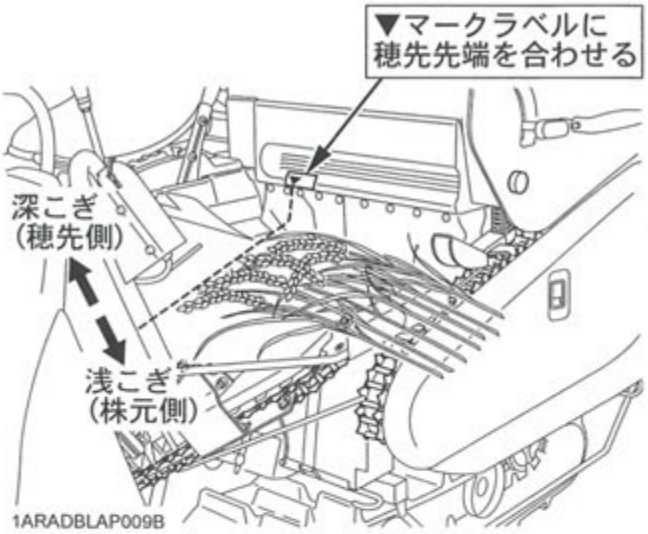
補　足

＊ 刈取作業を行なうとき，作物やほ場の状態に合わせて，変速レバーを**２条刈り**又は**３条刈り**の範囲内で，刈取速度の調整を行なってください。(61 ページ参照)

＊ 刈取作業中に**２条刈り**の範囲を越えて変速レバーを操作すると，負荷警報の減速ランプが**点滅**すると同時にブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは，変速レバーを**２条刈り**範囲内に減速してください。ブザーが停止すると同時に負荷減速ランプが**消灯**します。



5. 作物の穂先先端を脱こく入口の**[▼マーク]**（こぎ深さ標準位置）に合うようにこぎ深さを調節します。(20 ページ参照)



補　足

＊ **浅こぎ状態**では，こぎ残しが出たり，**深こぎ状態**では，負荷が大きくなり作業能率が上がりません。

＊ 長かん作物（約 120cm 以上）の作物を刈取るときは，株元払い出し棒の位置調節を行なってください。(70 ページ参照)

6. 刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節（71，72 ページ参照）を行なってください。

7. 刈取作業が終わると，脱こくが終わり，もみが全てホッパ内又はグレンタンク内に入ったことを確認して，作業スイッチを**[切]**にします。

■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

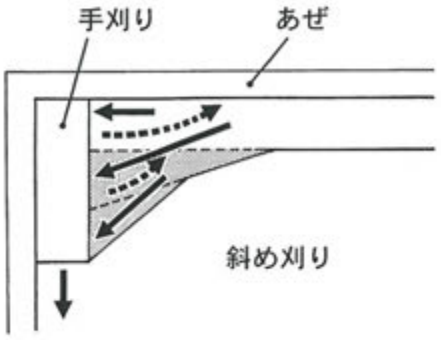
ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈りで左回りの２方向刈りを行なってください。

重　要

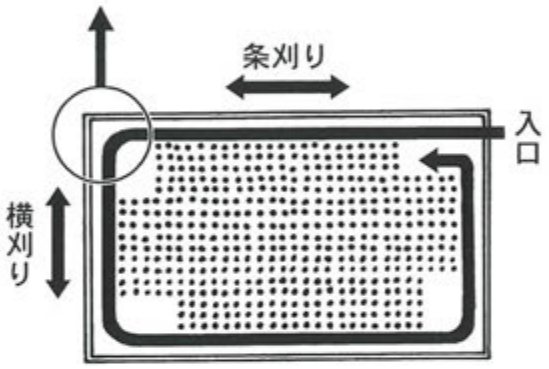
＊ 枕地を刈取るとき，オーガの先端が，障害物（電柱や壁など）に当たり，破損するおそれがありますので，オーガは折りたたんだ状態で作業を行なってください。**[G 仕様]**

収穫作業のしかた

1. 1 周目は手刈り（枕刈り）したところから進入し，あぜぎわから左回りで 3 条分を刈始めます。2 周目からは 2 条分を刈取ります。
2. 隅を旋回できるまで 2～4 回斜め刈りします。



1ARADAFAP355A

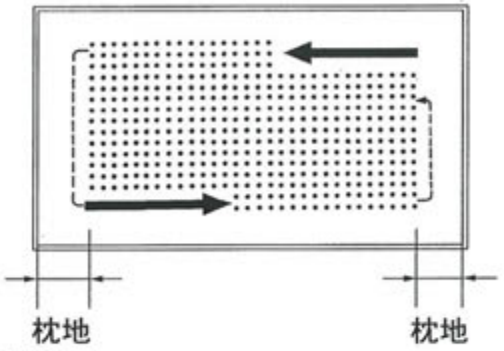


1ARADAFAP356A

補　足

＊ 斜め刈りをするとき，刈取途中で方向修正をすると，かん長が不揃いとなり正常な脱こくができない場合があります。
＊ 刈り終わりのとき，脱こく部内へ刈取った作物が搬送されるまで刈取部は動かしてください。かんこぼれが発生することがあります。

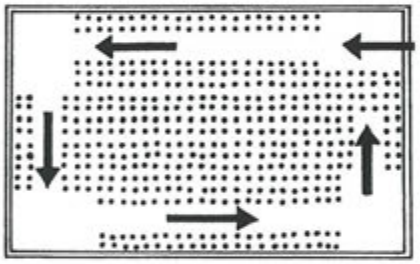
3. 両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら両端は刈取らずに旋回し，2 方向刈りを行なってください。



1ARADAFAP357A

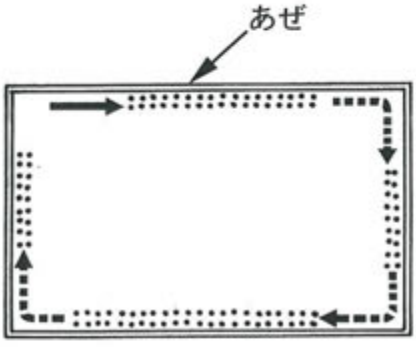
◆ あぜぎわの刈りかた

1. あぜぎわの条があぜに近く，右クローラがあぜに乗り上げたり，ブロックに当たるときは，1 周目は周囲 2 条分を残して 3 条分を刈取ります。



1ARADAFAP358A

2. あぜぎわに残した作物の刈取りは，ナローガイドを収納し，**低速**で**右回り**で行ないます。このとき，あぜに突っ込むおそれがあるので，**[デバイダ・ソリを接地から上げた刈りかた]**で刈取りします。

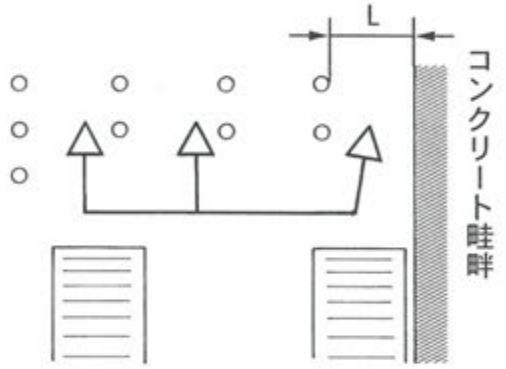


1ARADAFAP359A

重　要

＊ あぜぎわ刈りをするとき，デバイダをあぜに突込まないように，少し高刈りをしてください。また，ナローガイドをあぜに強く当てると刈取部が変形しますので，収納して作業してください。

＊ コンクリート畦畔にクローラをこすりつけると，クローラを切損する場合がありますのでクローラの仕様により，コンクリート畦畔から下図の距離（L）以上離れていることを確認して作業を行なってください。



1ARADBIAP210A

クローラの仕様	距離（L）	
	ホッパ仕様	G 仕様
標準	17cm 以上	15cm 以上
W	19cm 以上	21cm 以上

※ 上記距離（L）はコンクリート畦畔やあぜの高さが 30cm 以下の場合です。

＊ 高さが30cm以上あるコンクリート畦畔やあぜの場合は，機体が接触して損傷しない距離を確保してください。

補　足

＊ 自動こぎ深さ装置を **[切]** 位置にして，こぎ残しが出ないように手動スイッチで**深こぎ**ぎみにしてください。

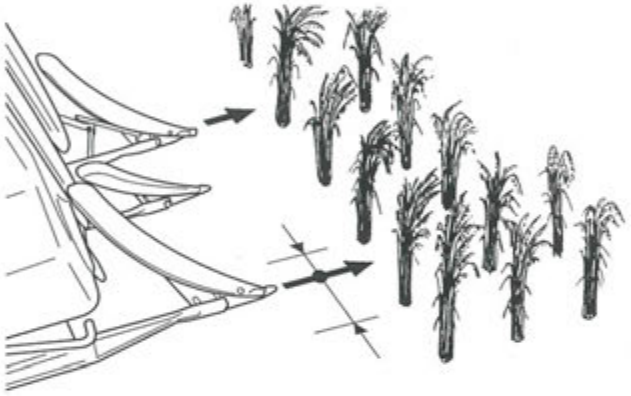
＊ **[213A ホッパ仕様]** は，補助デッキを収納してください。

◆ デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた

条合わせをするときは，コンバインの速度を落としてください。

● 刈り始め・中割り作業のとき

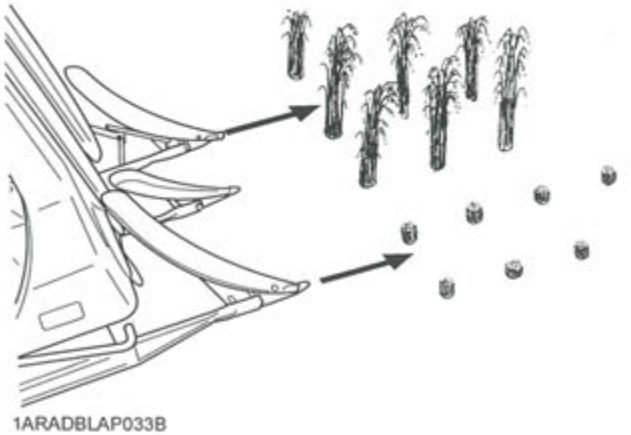
右デバイダを条間のほぼ中央になるように合わせて３条分を刈取ります。（低速で作業してください）



1ARADBLAP032B

● 通常の回り刈りのとき

右デバイダを条間のほぼ中央になるように合わせて２条分を刈取ります。（低速で作業してください）



1ARADBLAP033B

補　足

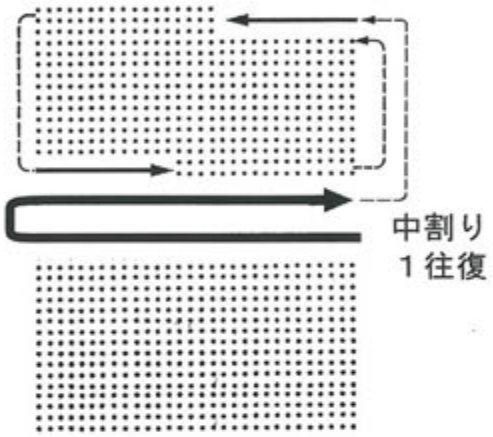
＊ 条合わせのときは，ステアリングレバーを小刻みに操作してください。

収穫作業のしかた

◆ 広いほ場の場合

[ソリを地面に接地した刈りかた]

中割り刈りで分割して，3 条分を刈取ります。このとき，必ず**1 往復**を同じ要領で刈取ります。また，右デバイダがわら押しするのを防ぐため左右のサイドシュートをそれぞれ長穴の内側の位置（41 ～ 47 ページ参照）にします。1 往復刈取りが終わると右サイドシュートを外側に広げてください。



1ARADBIAP211A

補　足

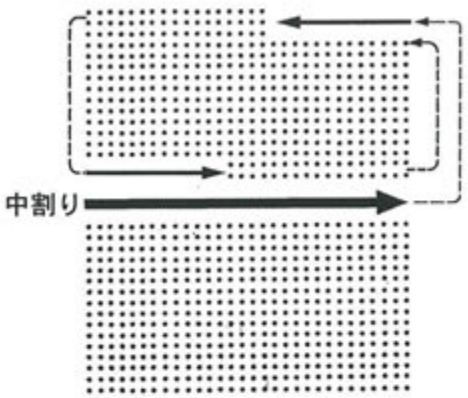
＊ 1 往復するとき，復路で刈取作業中に右デバイダがわら押しするときは，左サイドシュート下部長穴の内側の位置に調整してください。(41 ～ 47 ページ参照)

＊ 中割り刈りが終わったあと，右サイドシュートが長穴の内側の位置にあるとカッタ詰まりの原因となりますので中割り作業後は，必ず右サイドシュートを外側に広げた位置にしてください。

[ソリを地面に接地した刈りかた]

[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]

中割り刈りで分割して，3 条分を刈取ります。



1ARADAFAP362A

[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]

補　足

＊ 中割り刈り以外のときは，通常の回り刈りをしてください。

＊ **[213A ホッパ仕様]** は，補助デッキを収納してください。

◆ 旋回のしかた

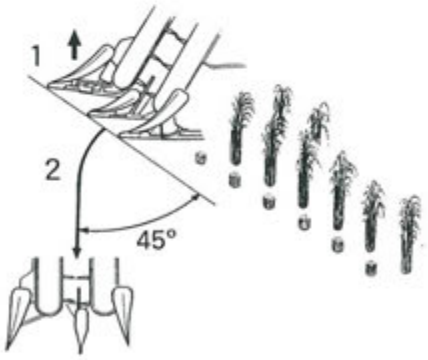
1. 刈終わると前進しながら刈取部を上げます。

補　足

＊ 刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。

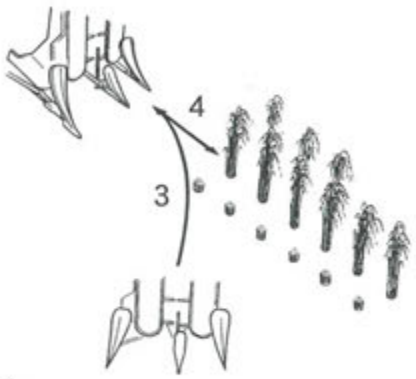
＊ エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。

2. ステアリングレバーを左に倒し，45 度くらい旋回した位置で走行を停止します。



1ARADAFAP363A

3. 変速レバーを**後進**位置に入れ，後進しながらステアリングレバーを右に倒し，次に刈る方向に刈取部を合わせます。
4. 刈取部を下げて前進します。



1ARADAFAP364A

重　要

＊ エンジン回転数は，下げないでください。**選別が悪くなったり詰まりの原因**になります。

補　足

＊ 刈取オートクラッチを**［入］**位置にしておくと，刈取部を上げたとき，自動的に刈取部の回転が停止するため，旋回が楽に行なえます。
＊ 供給搬送部の作物がフィードチェーンに搬送されるまでは，通常オートクラッチが切れる一定の高さに刈取部が上昇しても刈取部の作動は停止しません。

収穫作業のしかた

■湿田作業のしかた

注　意

＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いて処置してください。

湿田で刈取作業を行なうときは，デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかたで作物の状態（倒伏角の大きさなど）やほ場の状態（ぬかるみや起伏の大きさなど）をよく確認してください。また，異常が発生したときは，下表を参照してください。

現　象	処　置
● スリップする。 ● 沈下して動かなくなる。 ● 機体が傾く。	● 低速で作業を行なう。 ● 同じ場所での旋回は避ける。 ● 急旋回はしない。（ステアリングレバーを小刻みに操作し，大廻りする。） ● 急発進はしない。 ● 機体を軽くする。 （ホッパ内又は，グレンタンク内のもみを早期排出する。） ● 水口場所や深いところでは，下車し，機体を軽くする。
● 刈取部が詰まる。	● 巻付いた作物，わらくずや泥の付着を取除く。（パッカ（スターホイール）下部や搬送部） ● 少し高刈りする。
● カッタ部が詰まる	● わらくずや泥の付着を取除く。

■作物に合わせた変速の選びかた

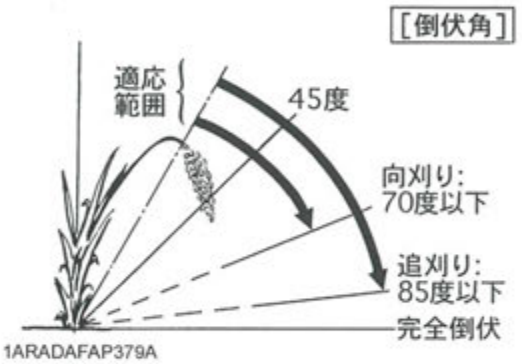
作物の状態により適正な速度の位置を選んでください。

◆ 作業速度の選びかた

下表を参考にして適正な作業速度を選んでください。通常は倒伏角が大きい場合や水分が多い場合は，作業速度を遅くし，倒伏角が小さい（立毛）場合や水分が少ない（乾燥）場合は，作業速度を速くすることができます。



1ARADAFAP378A



1ARADAFAP379A

作物のぬれ	作業速度	変速レバー	倒伏 刈取り方向	立毛	倒伏角
乾燥 ⇧ 水分多い	速い ⇧ 遅い	高速（前進側） ⇧ 低速（中立側）	①（向刈り）③（左倒伏刈り）30度以下の ④（右倒伏刈り） ②（追刈り）	⇕	小さい ⇧ 大きい

1ARADBLAP0950

補　足

＊ 収量・成熟度合やその他の要因により適正な速度は変化します。この表はあくまでも目安ですので，その作物と機械に合った速度で作業を行なってください。

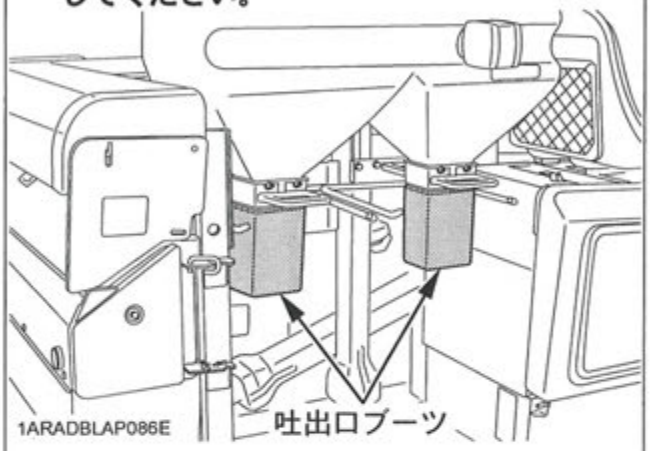
収穫作業のしかた

■もみの排出のしかた

[ホッパ仕様]

注 意

＊ コンバインを必ず停止してください。
＊ 吐出口に手は入れないでください。また，吐出口ブーツが破損したときは，直ちに交換してください。



1. ホッパが満杯になると，スイッチパネルの**[もみ]** ランプが点滅すると同時にブザーが鳴ります。



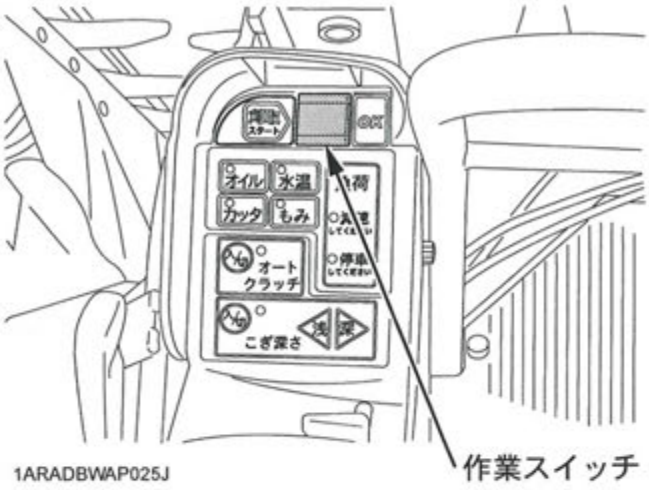
重 要

＊ ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，１番ラセンが詰まったりして，故障の原因となります。

補 足

＊ ブザーを止めるときは，ホーンスイッチを約１秒間押してください。ブザーは停止しても，**[もみ]** ランプは点滅したままの状態です。**[もみ]** ランプはもみを排出すると消灯します。

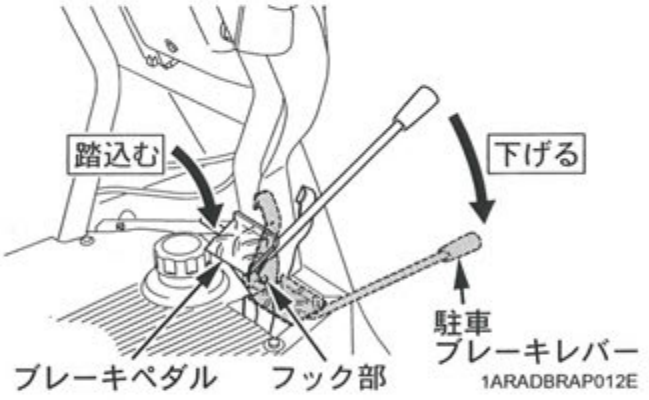
2. 作業をいったん中止し，30 秒以上待ってから作業スイッチを **[切]（ランプ消灯）** にします。



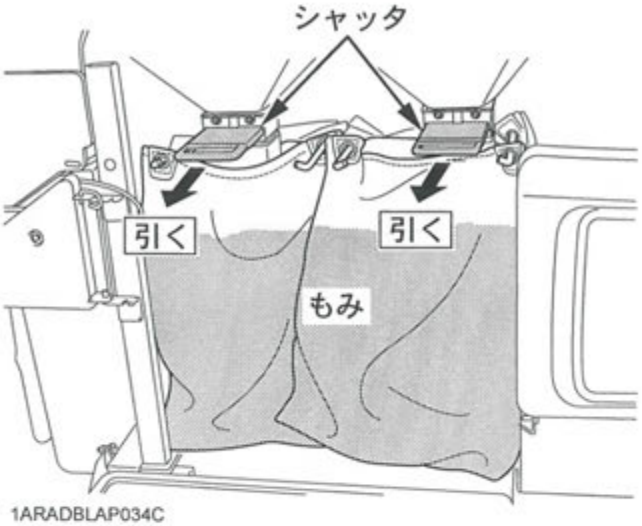
補 足

＊ 選別不良の原因となりますので，走行停止後 30 秒以上経過して行なってください。

3. 平坦な場所を選んで変速レバーを **[N]（中立）** 位置にして，走行を停止したあと，駐車ブレーキを掛けます。



4. シャッタを押して閉じ，新しいもみ袋と交換したあと，シャッタを引きます。



1ARADBLAP034C

補　足

＊ もみを排出すると，**[もみ]**ランプが消えます。

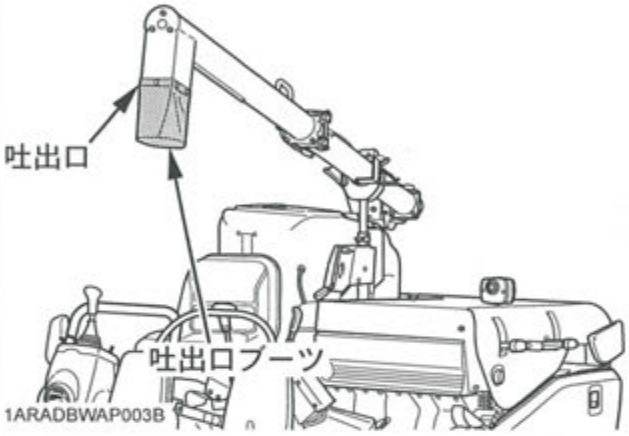
5. 駐車ブレーキを解除したあと，作業を始めてください。

[ホッパ仕様]

[G 仕様]

注　意

＊ コンバインを必ず停止してください。
＊ 吐出口に手は入れないでください。また，吐出口ブーツが破損したときは，直ちに交換してください。



1ARADBWAP003B

＊ 手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，オーガ受けの上に手を置かないでください。
＊ もみ排出クラッチレバーを［入］位置にして，もみがオーガ排出口から排出されるとき，頭部や顔などをオーガ先端部に近付けないでください。もみの重みでオーガ先端部がわずかに下がります。
＊ オーガの旋回範囲に人がいるときは，オーガを動かさないでください。オーガ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあります。


1ARADAFAP076A

＊ 排出時は機体を水平な場所に停車させ，脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置にしてから排出作業を行なってください。

収穫作業のしかた

1. グレンタンクが満杯になると，スイッチパネルの**[もみ]**ランプが点灯すると同時にブザーが鳴ります。



1ARADBWAP025I

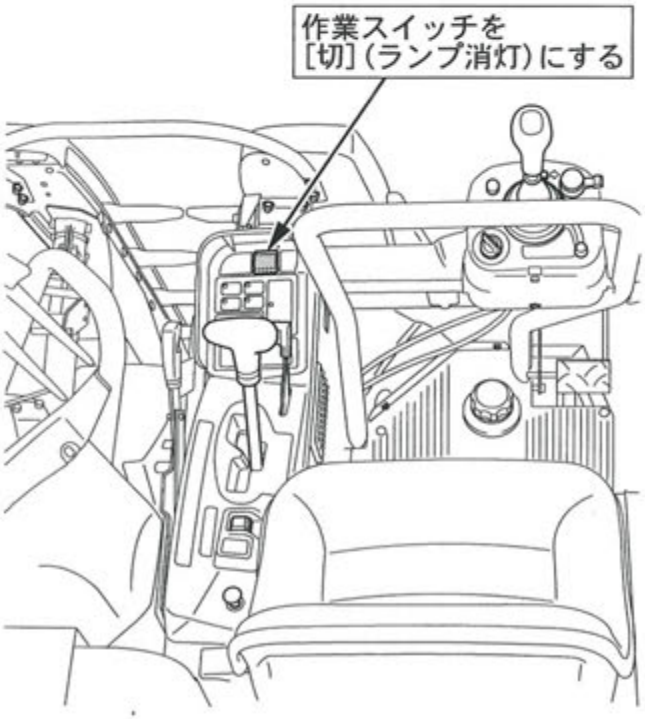
重　要

＊ ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，１番ラセンが詰まったりして，故障の原因となります。

補　足

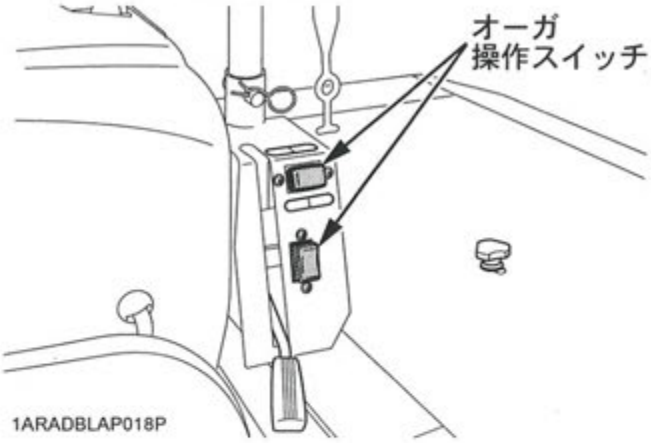
＊ ブザーを止めるときは，ホーンスイッチを約１秒間押してください。ブザーは停止しても，**[もみ]**ランプは点滅したままの状態です。**[もみ]** ランプはもみを排出すると消灯します。

2. 作業をいったん中止し，30秒以上待ったあと，作業スイッチを**[切]（ランプ消灯）**にします。

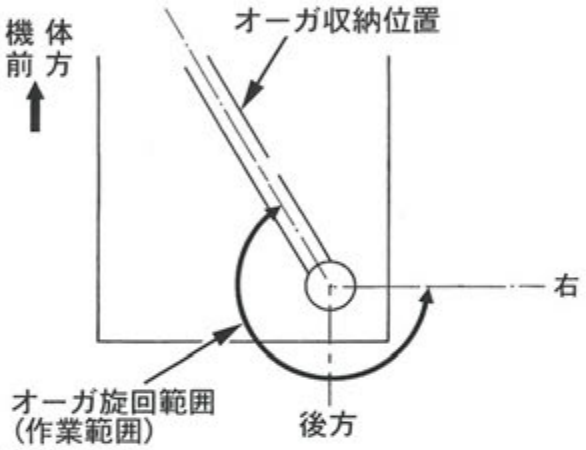


1ARADBRAP007J

3. 変速レバーを**[N]（中立）**位置にして，駐車ブレーキを掛けます。
4. オーガ操作スイッチを操作して，オーガを排出位置まで移動します。



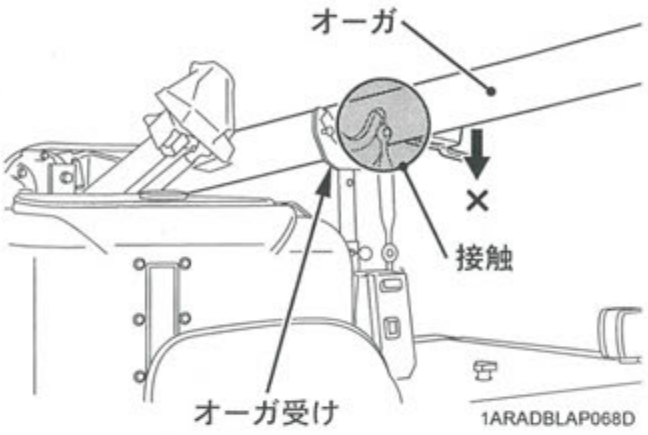
1ARADBLAP018P



1ARADAFAP424F

重　要

* オーガは，必ずオーガ受けより上げてから，旋回を行なってください。
* オーガをオーガ受けより下げると，オーガ受けに接触し，破損の原因となります。



* エンジン停止中でもメインスイッチ**［入］**の位置で操作できますが，長時間エンジンを停止した状態で操作すると**バッテリ上り**の原因となりますので，操作するときは，エンジンを必ず始動して行なってください。

補　足

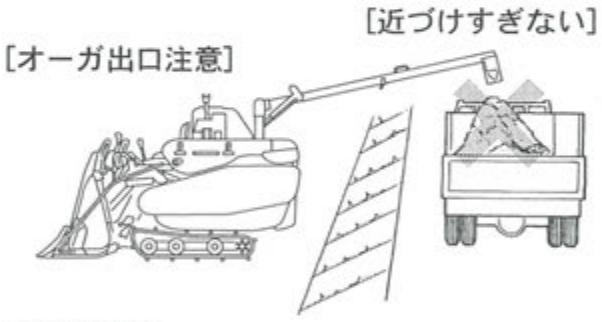
* オーガ左右操作スイッチを操作方向識別ラベルの**赤色**方向に操作するとオーガは左旋回（ラベル赤色方向）し，オーガ左右操作スイッチを**青色**方向に操作するとオーガ右旋回（ラベル青色方向）します。(17 ページ参照)
* オーガの左右操作と上下操作は，操作スイッチを同時に押しながら行なえます。
* コンバインが傾いている傾斜地などではオーガの動きが遅くなるときがあります。

5. もみ排出クラッチレバーを**［入］**位置にし，もみを排出します。

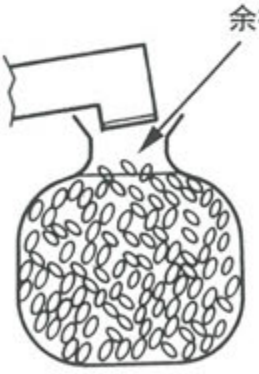


重　要

* 吐出口をふさがないようにオーガの位置を調整してください。故障の原因となります。



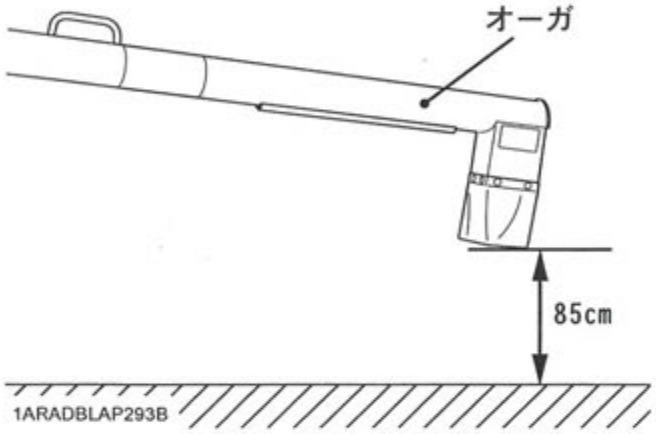
* オーガには，絶対物を吊るさないでください。
* オーガで袋詰め作業を行なうとき，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，もみ排出クラッチレバーを切ってください。オーガが詰まると駆動系統の故障の原因になります。



収穫作業のしかた

補　足

＊ 排出作業は刈取作業時の回転のままでしてください。アクセルレバーを操作して回転数を下げると一定回転数以下になると負荷警報が発生します。
＊ オーガを折りたたんだ状態でもみ排出クラッチレバーを**【入】**位置にするとエンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。
＊ オーガの最下降位置は，オーガ吐出口の先端部から地面まで約 85cm です。



6. 排出が終わると，もみ排出クラッチレバーを**【切】**位置にし，オーガ操作スイッチを操作してオーガをオーガ受けに収納します。

補　足

＊ オーガを最上昇位置にして旋回後，オーガ受けに収納してください。
＊ オーガ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでオーガを一度上昇させて収納してください。

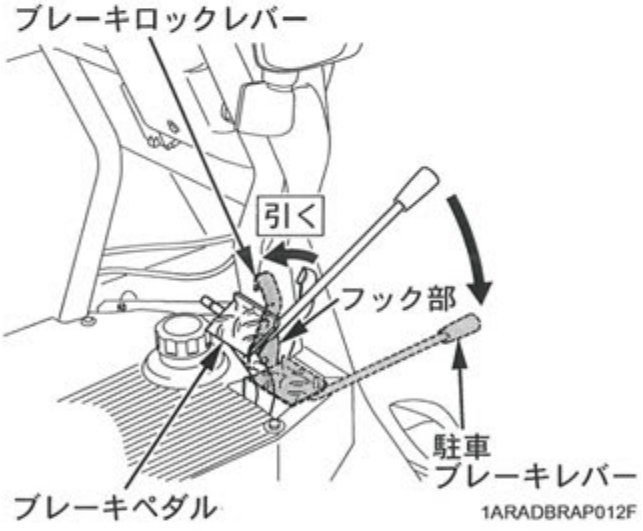
[G 仕様]

■手刈り（枕刈り）脱こくのしかた

警　告

＊ そで口はきっちり止めて，手袋，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。
＊ コンバインは平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。
＊ 刈取部は地面に接地させて，停止してください。
＊ 手刈り（枕刈り）脱こくするときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側（コンバインから離れる位置）にして，作物を少量ずつ供給してください。
＊ 脱こく部入口プレートの上にたまったわらやもみなどを脱こく部に押込むときは，エンジンを必ず停止してください。中に回転物がありケガをするおそれがあります。

1. 平たんな場所を選んで走行を停止したあと，駐車ブレーキを掛けます。

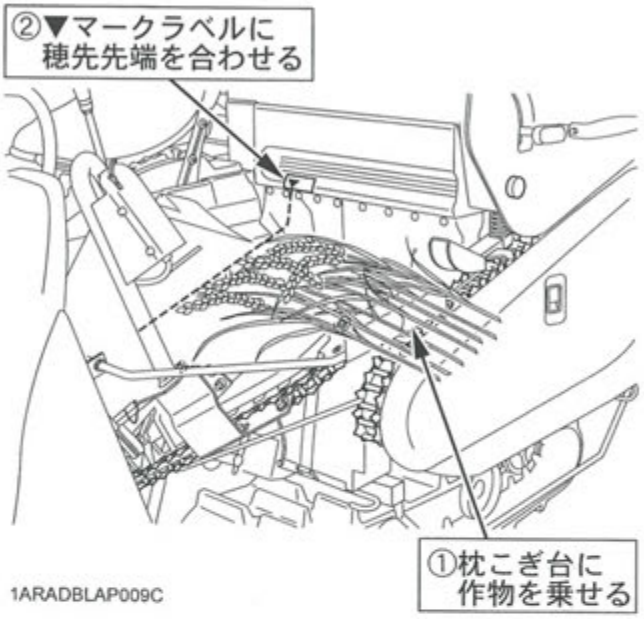


2. 作業スイッチを **[入]** にします。

補　足

＊ 手刈り脱こく作業は刈取作業時の回転のままでしてください。

3. 手刈り作物を枕こぎ台に乗せたあと，作物の穂先先端 **[▼マーク]** に合わせ，少量ずつフィードチェーンに供給します。

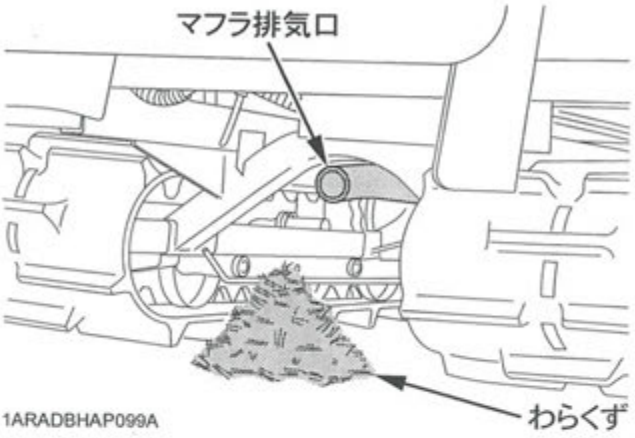


1ARADBLAP009C

重　要

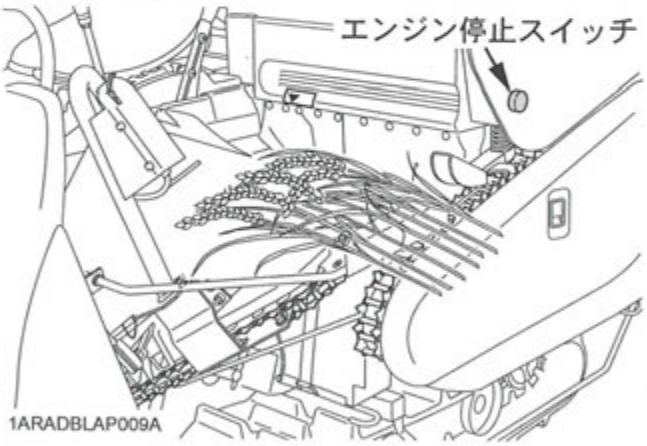
＊ 1箇所で多量の手こぎをする場合，カッタやドロッパの下に排わらや切断わらの堆積が原因で，カッタなどが詰まることがありますから，機体を定期的に移動させてください。

＊ 切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は，エンジンを必ず止めて取除いてください。



1ARADBHAP099A

＊ 手刈り脱こく時に万一異物などのかみ込みが発生したときは，エンジン停止スイッチを押してください。



1ARADBLAP009A

収穫作業のしかた

■作業に合わせた各部の調整･調節のしかた

警 告

＊ 作業中の調整以外は，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから，調整・調節を行なってください。
＊ 衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので，取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。

注 意

＊ 平たんで安定した場所で行なってください。
＊ コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

◆刈取部

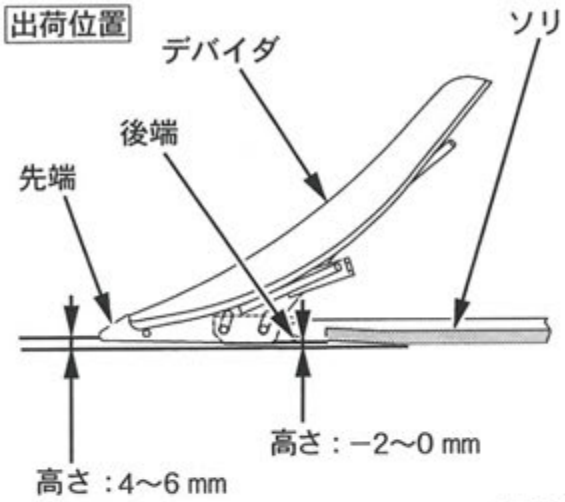
■デバイダの上下調整

出荷時のデバイダ位置では，**[ソリを地面に接地した刈りかた]**と**[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]**のいずれの刈りかたでも行なえますが，

- **[ソリを地面に接地した刈りかた]**で刈取作業を行なう場合は，必ず**出荷時**の位置にセットしてください。
- **[ソリを地面に接地した刈りかた]**で刈取作業が行なえない場合（52 ページ参照）は，**[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]**で刈取作業を行なってください。

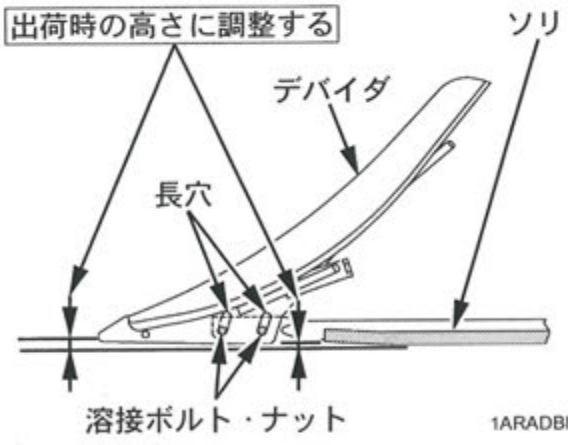
◆ デバイダの出荷時の位置について

出荷時のデバイダ位置は，ソリ底面からデバイダ先端下側の高さが４～６ ㎜，また，ソリ底面からデバイダ後端の高さが -2 ～０ ㎜ です。



1ARADBIAP213G

- **出荷位置**への調整のしかた
  (1) ナット２個をゆるめたあと，デバイダ全体を長穴の下端部に溶接ボルトが接触するまで上げます。
  (2) デバイダが下がらない程度に後側のナットを仮締めします。
  (3) ソリの底面からデバイダの先端下側とデバイダ後端の高さをそれぞれ**出荷時**の高さに調整します。
  (4) ナット２個を締付けます。
  (5) 他のデバイダ全ても同じ高さに調整します。

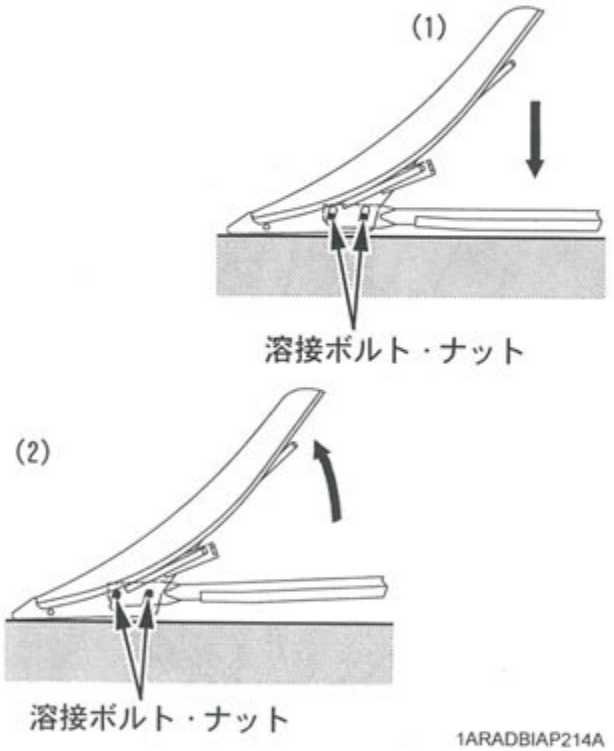


1ARADBIAP213D

◆ ソリを地面から上げて刈取作業を行なう場合

下表の作物条件を目安にして，調整を行なってください。調整のしかたは，**出荷位置**への調整のしかたを参照して同じ要領で調整を行ないます。

作物・ほ場条件	セット位置
湿田で前上りになるとき	デバイダ全体を下げる (1) の位置
うね作業のとき	
雑草が多く高刈りしたいとき	
倒伏刈りで刈り残しがあるとき	
株の引抜きが多いとき	デバイダ先端を下げる (1) 又は (2) の位置



重　要

＊ ソリを地面に接地して刈取作業を行なうときは，必ず**出荷時**の位置にしてください。デバイダが地面に突込み，トラブルの原因となるおそれがあります。

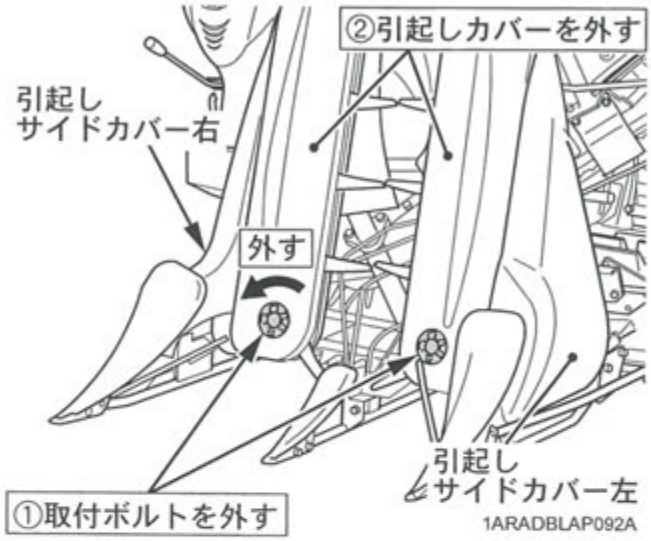
補　足

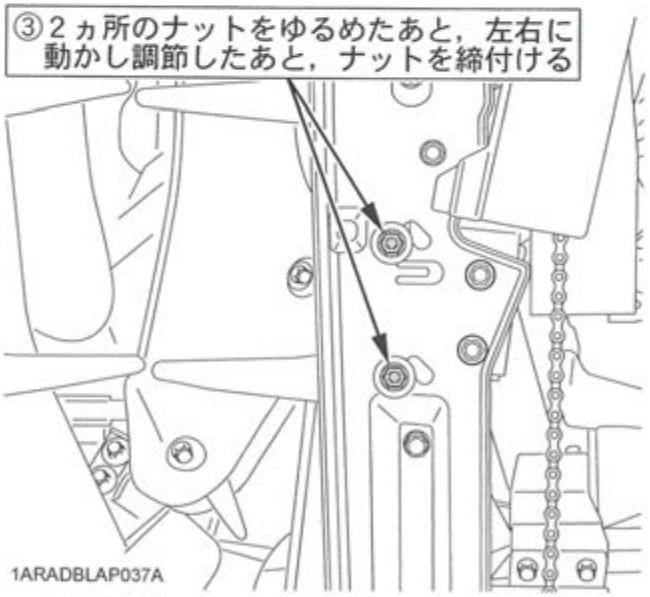
＊ デバイダの上下高さは，全てのデバイダを同じ高さにしてください。

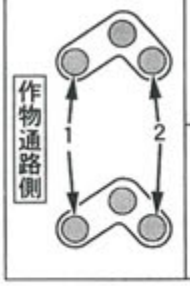
■引起し爪高さの調節

作物条件に応じて，引起し爪が収納される位置の調節を行なってください。調節は必ず**全条同じ位置**にしてください。

1. 引起しサイドカバー左，右を取外したあと，引起しカバーのノブボルトを外して，引起しカバーを全て外します。





調節位置		作物条件
	1	立毛状態の長かん作物
		立毛状態の標準かん長作物
		倒伏した作物
	2	立毛状態の標準かん長で脱粒や浮きわらが発生しやすい作物（過熟小麦など）
		立毛状態の短かん作物

補　足

＊ 出荷時は **[1]** の標準位置です。

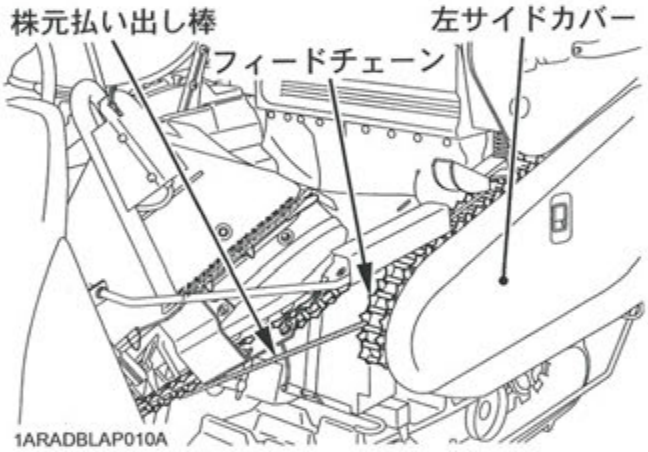
＊ **[2]** の位置に調節する場合は，ナット（2 箇所）をゆるめて，上側のナットを **[2]** の位置で溝の上側に押付けた状態で，下側のナットを締付けてください。

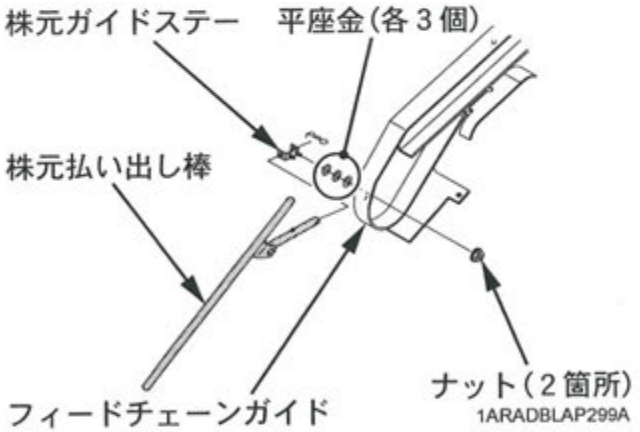
2. 引起しカバーを全て装着したあと，ノブボルトを締付けます。
3. 引起しサイドカバー左，右を取付けます。

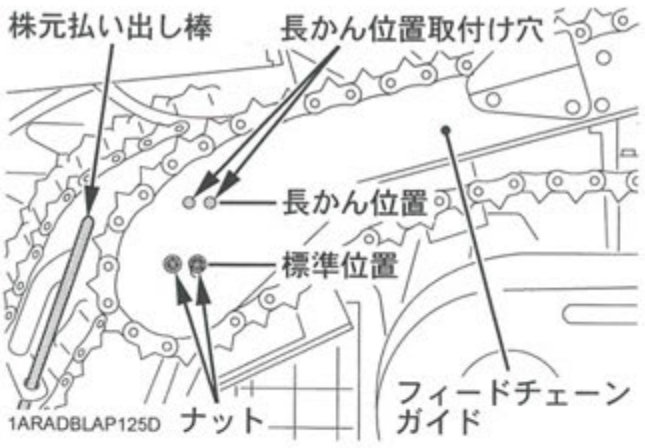
■株元払い出し棒の調節

約120cm以上の長かん作物の刈取りを行なうときは，株元払い出し棒の調節を行なってください。

1. 刈取部を地面に着くまで降ろしたあと，エンジンを停止します。
2. 左サイドカバー上を取外します。
3. 株元払い出し棒を**長かん位置**に変更します。
   (1) 株元払い出し棒をフィードチェーンガイドに取付けている株元ガイドステーのナットを取外します。
   (2) 株元ガイドステーに株元払い出し棒が取付いている状態で，フィードチェーンガイドから株元ガイドステーと各平座金を外します。
   (3) 株元ガイドステーと各平座金を**長かん位置**用の取付け穴に取付けたあと，ナットを取付けます。







補　足

＊ 平座金はなくさないように注意してください。

4. 左サイドカバー上を取付けます。

補　足

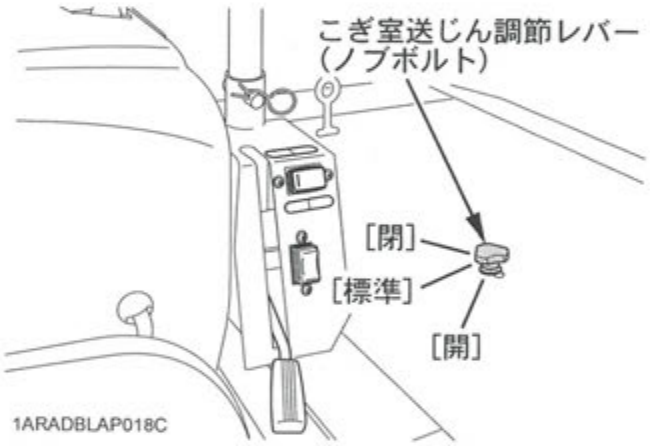
＊ 60cm～120cmの作物の刈取りを行なうときは，**標準位置**（右側ナット取付部は長穴の上側位置）に戻してください。
＊ 株元払い出し棒を**標準位置**で長かん作物の刈取りを行なったり，**長かん位置**で60cm～120cmの作物の刈取りを行なうと，作物が刈取部からフィードチェーンへ搬送されるとき，詰まりが発生してトラブルの原因となります。

◆脱こく部

■こぎ室送じん調節レバーの調節

1. ノブボルトをゆるめます。
2. 下表を参照してこぎ室送じん調節レバーで調節します。

調節方向	現　象（状　態），条　件
[開] ↑ [標準] ↓ [閉]	● ゴトゴトと大きな異音がする（こぎ胴の負荷が大きい） ● 倒伏作物やぬれ作物の刈取り ● 脱ぷや損傷（胴割れや欠け）粒が多い
	● 選別が悪い 　● 芒・枝梗粒が多い 　● 穂切れ粒が多い 　● ササリ粒が多い ● 排じんロス（もみの飛散）が多い



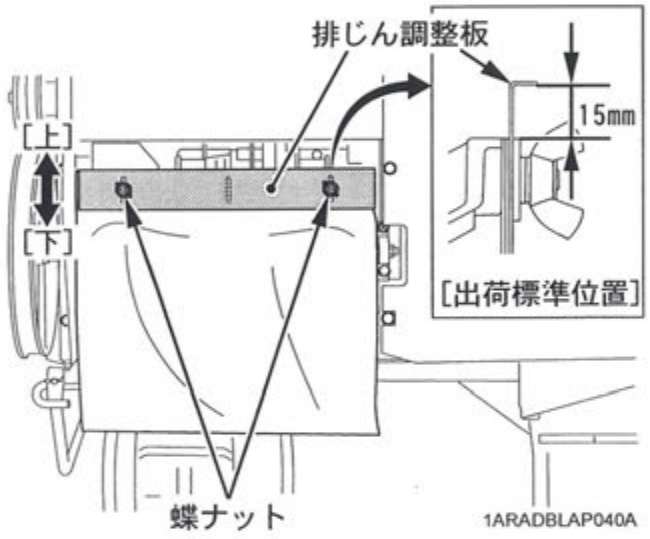
3. ノブボルトを締付けます。

■排じん調整板の調整

下表を参照して排じん調整板を調整してください。

1. カッタ部を開きます。(78 ページ参照)
2. 蝶ナットをゆるめます。
3. 排じん調整板を動かして調整します。

調節方向	現　象（状　態）
上 ⬆ [標準] ⬇ 下	● 排じんロスが多い
	● ぬれ作物の刈取り ● 雑草が多い ● 能率を上げる（高速刈取り）



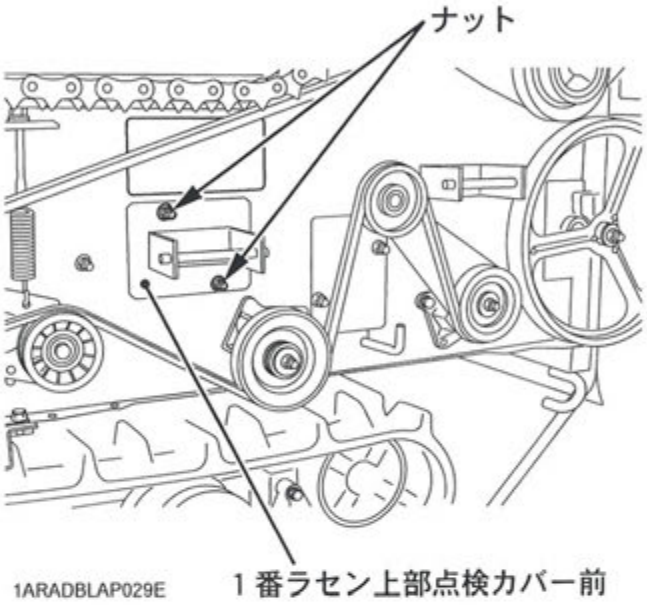
4. 蝶ナットを締付けて，カッタ部を閉じます。

■チャフ（選別板のすき間）の開度の調節

作物に合わせ，表を参照してチャフ調整レバーで調節してください。

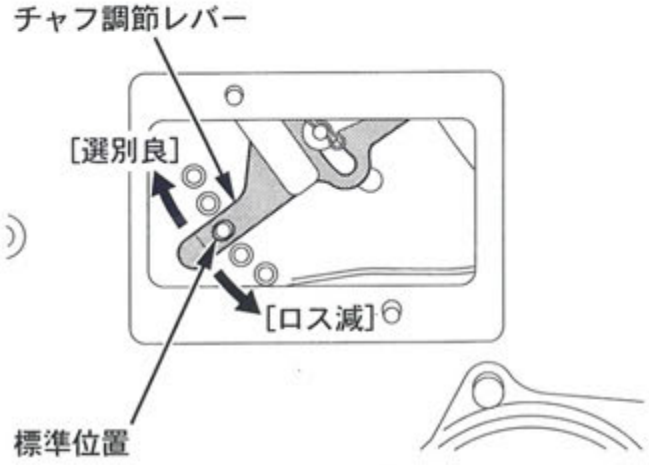
作物の選別や飛散状態に合わせ，下表を参照してチャフ調節レバーで調節してください。

1. 左サイドカバー上，下を取外します。
2. ナットを取外して１番ラセン上部点検カバー前を外します。



3. チャフ調節レバーで調節します。

調整方向	現象（状態）
[選別良] ⬆ [標準] ⬇ [ロス減]	● 選別が悪い ● 小枝梗が多い
	● 排じんロス（もみの飛散）が多い ● 脱ぷが多い



4. 1番ラセン上部左カバーを取付けてナットで締付けたあと，左サイドカバー（上，下）を取付けます。

補　足

＊ チャフの調節は，脱こく部内にこく粒が残っていないときに行なってください。
＊ チャフ（選別板のすき間）はもみの量により自動開閉するようになっています。

■スイッチパネルによる異常と処置

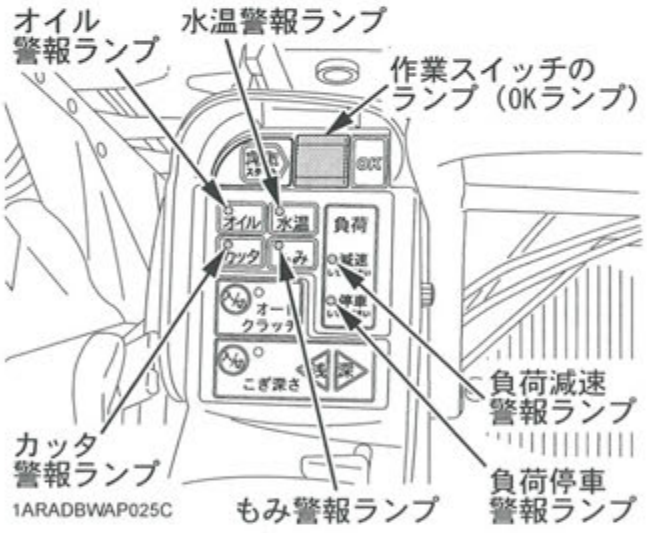
警　告

＊ 各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

注　意

＊ エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。

スイッチパネルの各警報ランプが表示したときは，次の表を参照して処置してください。



収穫作業のしかた

警報の種類	警報ランプ表示	警報ブザー(吹鳴時間)	現象	処置	参照ページ
油圧不足警報	オイル警報ランプ点灯	−	・エンジンオイルの圧力が不足しています。	・エンジン停止後，オイル量を点検します。 ・オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。 ・バンドの増締めをします。	115 122 122
			・そのまま作業を続けると…**[エンジンが焼付きを起こし停止します。]**	・購入先へ連絡してください。	−
水温警報	水温警報ランプ点滅，作業スイッチのランプ(OKランプ)点滅	○ 継続 (処置後停止)	・エンジンの冷却水温が上昇しています。	・エンジンを停止し，30分以上たってから点検と処置をします。 (1) 冷却水量の点検 不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給 水もれ…排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増締め (2) ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 (3) 防じんあみ・ラジエータフィンの点検 汚れ・詰まり…掃除して取除く	 120 122 129 129 123
			・そのまま作業を続けると…**[エンジンが焼付きを起こし停止します]。**	・購入先へ連絡してください。	−
負荷減速警報	負荷警報ランプ点滅，作業スイッチのランプ(OKランプ)点滅	○ 継続 (処置後停止)	・エンジンや脱こく部に負担が掛かっています。	・作業速度を落としてください。 ・作業条件に合った調節や調整を行なってください。	13, 20 61, 71 72
			・そのまま作業を続けると…**[停車ランプが点滅します。]**		18
負荷停車警報		○ 継続 (処置後停止)	・刈取量が処理能力を超えています。	・走行を停止し，刈取作業を中止してから脱こく部を空運転します。 (エンジン及び脱こく部は運転状態) ⬇ ・空運転後も警報が解除されないときは，こぎ胴を開いて受あみ及び揺動流板上の詰まりを取除きます。	11 77, 85 92
			・そのまま作業を続けると…**[エンジンが停止します。]**		−

警報の種類	警報ランプ表示	警報ブザー(吹鳴時間)	現象	処置	参照ページ
もみ満杯警報	もみ警報ランプ点滅，作業スイッチのランプ(OKランプ)点滅	○ 継続 (処置後停止又は，ホーンスイッチを押すと停止)	・グレンタンク内又は，ホッパ内のもみが満杯です。 ・そのまま作業を続けると…**[グレンタンク又は，ホッパからもみがあふれます。又は，1番ラセンが詰まります。]**	・刈取作業を中止，もみを排出します。 ※ブザーはホーンスイッチを約1秒間押すと止まります。	62 20
カッタ詰まり警報	自動的にエンジンが停止すると同時に カッタ警報ランプ点滅，作業スイッチのランプ(OKランプ)点滅	○	・フィードチェーン終端部，排わら搬送部，カッタ部のわら詰まりです。 **異常箇所** (1) カッタ部にわらが詰まっています。 (2) フィードチェーン終端部・排わら搬送部にわらが詰まっています。	・異常の原因を取除いて復帰します。 (1) カッタの切換えカバーを開いて，わらを取除いてください。 (2) こぎ胴を開いて，わらを取除いてください。	89,92 160 77,92

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡して修理を依頼してください。

各部の開閉と脱着のしかた

警 告

* 平たんで安全な場所で，機械の移動や各部を動かすとき以外は，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
* 傾斜地では，開閉や脱着を行なわないでください。
* 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

注 意

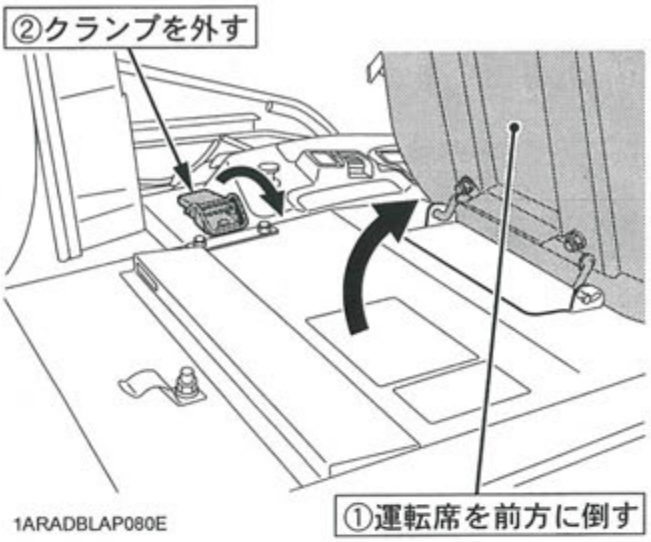
* エンジンルームを閉じたときは，クランプで必ずロックしてください。

■エンジンルームの開閉

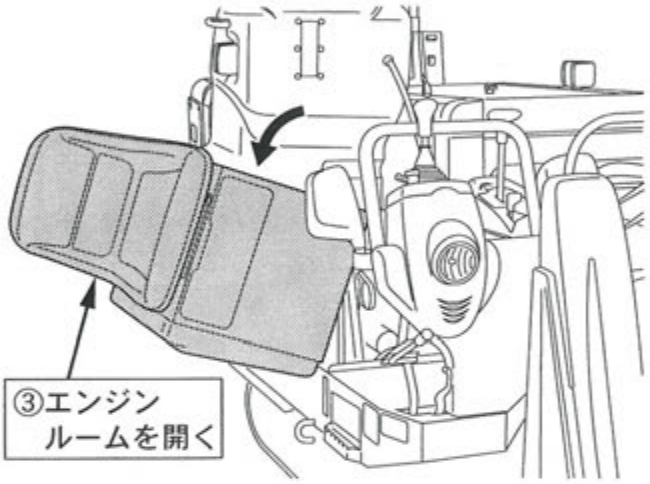
注 意

* オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
  (1) 作業を中止する。
  (2) エンジンを約5分間アイドリング回転で運転したあと，エンジンを停止し，メインスイッチのキーを抜く。
  (3) エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
  (4) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
* エンジンが冷えていないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部より熱湯の噴出のおそれ，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

◆開きかた



1ARADBLAP080E



1ARADBWAP027A

※イラストはG仕様

◆ 閉じかた

逆の手順でエンジンルームを閉じたあと，クランプでロックします。

■こぎ胴の開閉

警 告

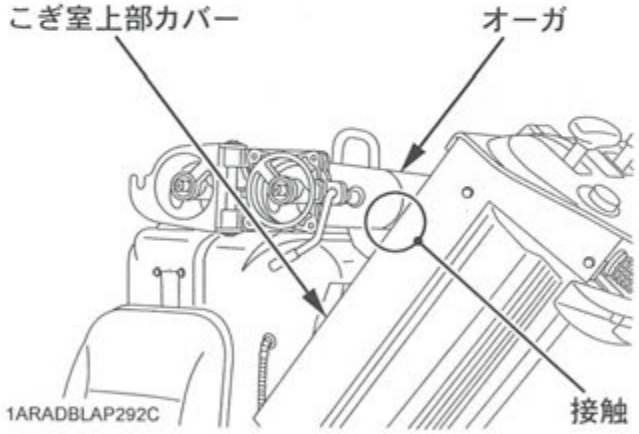
＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴を開くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ こぎ胴を開いて，受あみの脱着やこぎ室の掃除をするときは，こぎ胴が落下して身体がはさまれるおそれがあるので，オープンストッパで必ず固定してください。

◆開きかた

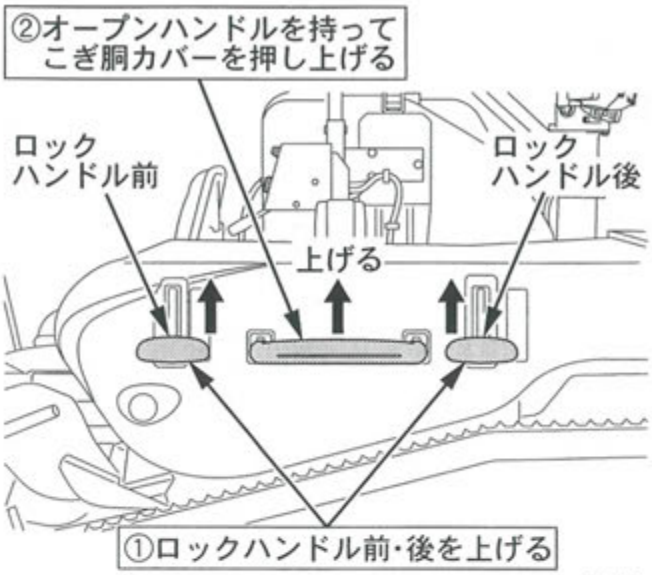
1. エンジンを始動し，オーガを最上昇させたあと，エンジンを停止し，メインスイッチのキーを抜きます。

重 要

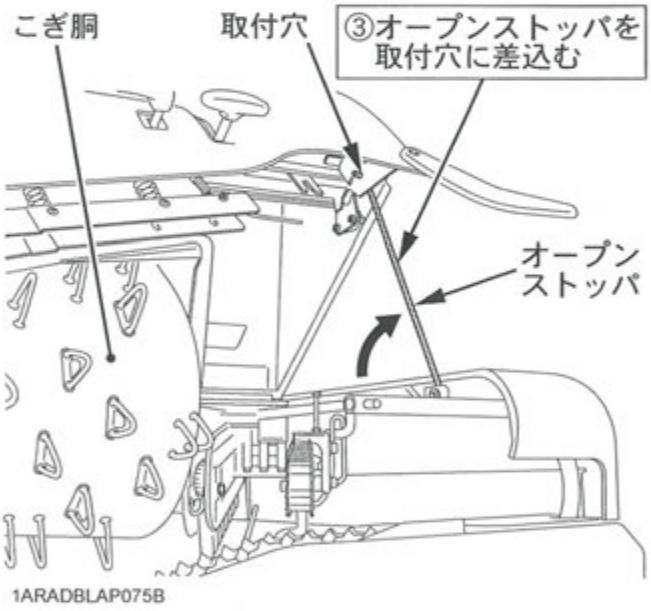
＊ オーガが折りたたまれているときにこぎ胴を開くと，こぎ室上部カバーがオーガに接触し，破損するおそれがあります。



2. こぎ胴を開きます。



※イラストはG仕様

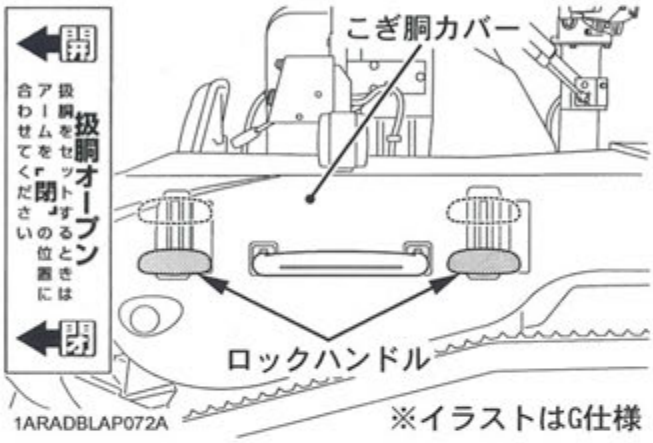


◆閉じかた

1. オープンストッパを取付穴から外します。
2. オープンハンドルを持って，こぎ胴カバーを押下げます。

重　要

＊ こぎ胴カバーを閉じたとき，ロックハンドルの前と後が，ハンドル横の**［開］⟷［閉］**ラベルの**［閉］**の位置にあることを確認してください。**［閉］**の位置以外で作業を行なうと，こぎ室フレームが変形することがあります。



※イラストはG仕様

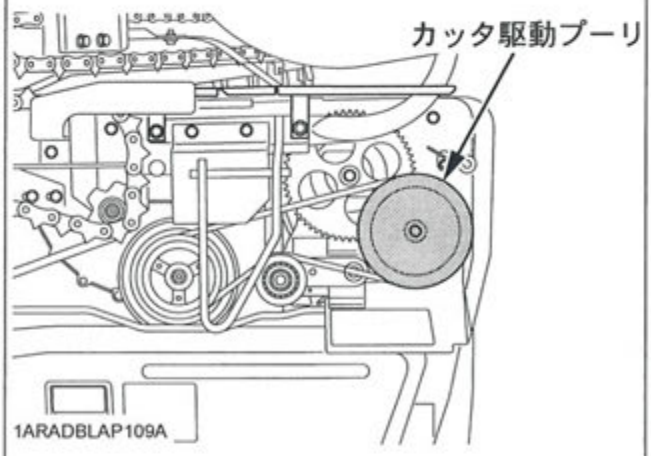
■カッタ部の開閉

警　告

＊ **カッタ部を開いているときは，カッタの刃先に注意してください。**
＊ **平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
＊ **カッタ部を開いた状態で走行をしないでください。**
＊ **カッタ部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
＊ **取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

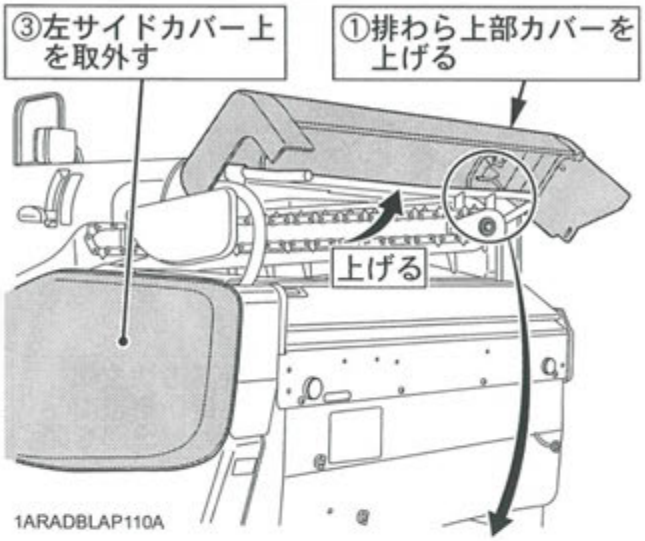
注　意

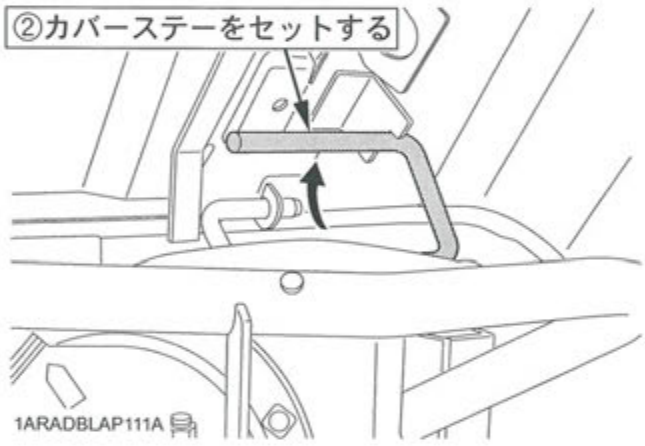
＊ **傾斜地ではカッタ部の開閉をしないでください。**
＊ **カッタ部を開いて掃除をするときは，ステーで必ず固定してください。**
＊ **厚手の手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。**
＊ **カッタ駆動ベルトを取外すとき，カッタ駆動プーリの端部に手が触れないように注意してください。ケガをするおそれがあります。**



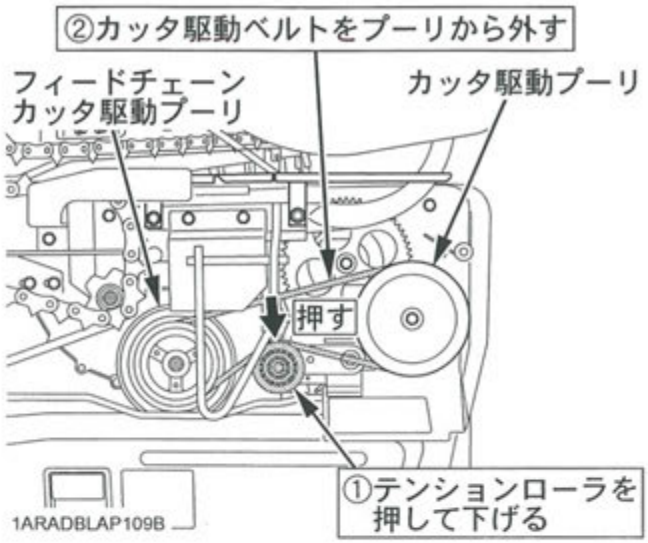
◆開きかた

1. 排わら上部カバーを上げ，カバーステーをセットして排わら上部カバーの落下防止をしたあと，左サイドカバー上を取外します。



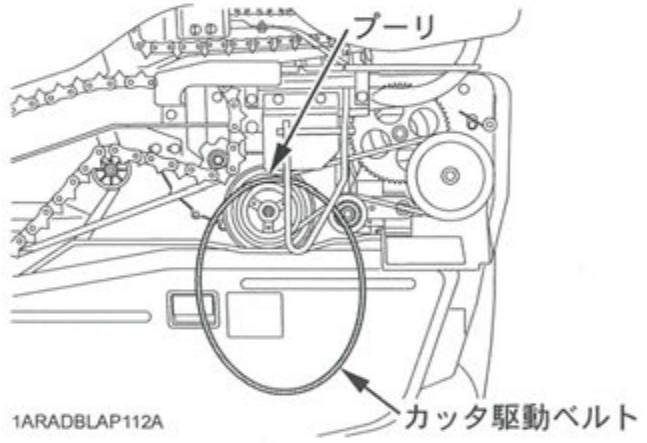


2. カッタ駆動ベルトを外します。

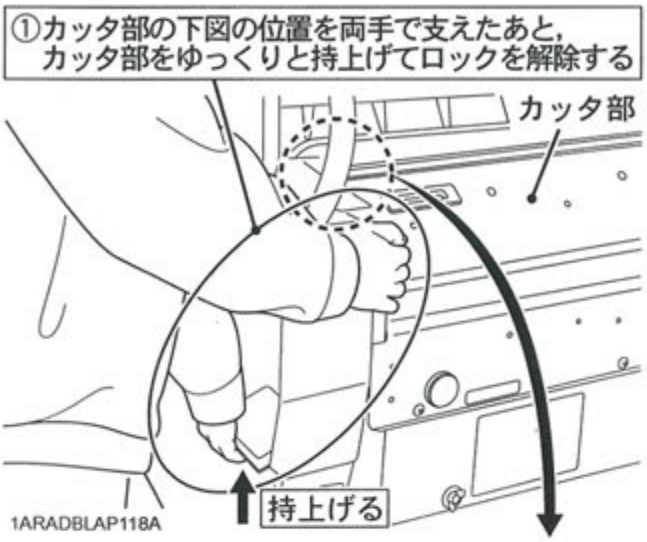


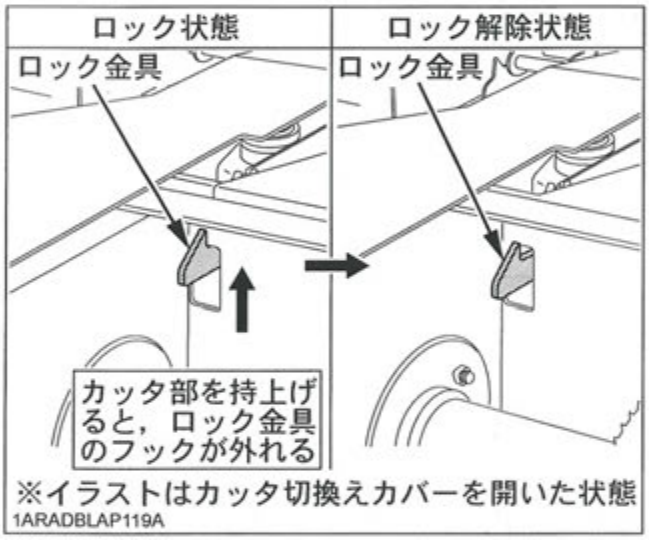
補　足

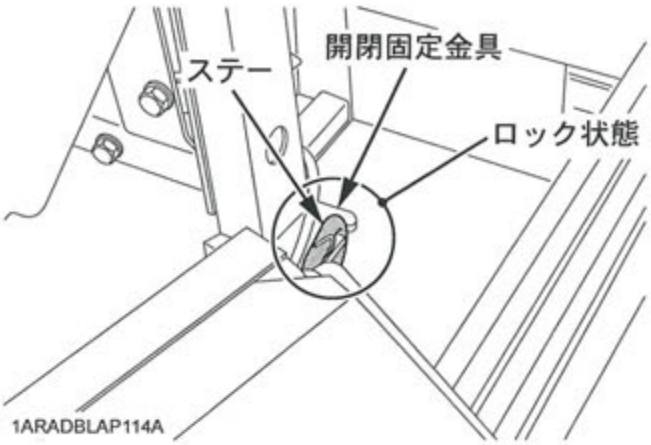
＊ カッタ駆動ベルトは，プーリから取外して，なくさないように保管してください。

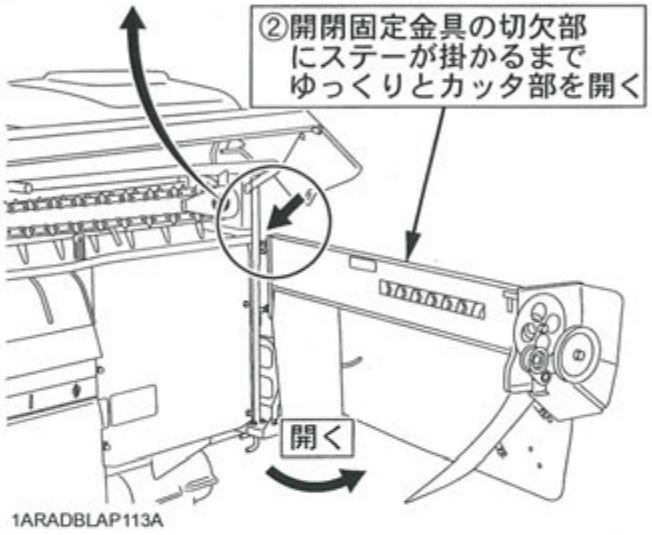


3. カッタ部を開きます。









重　要

＊ カッタ部を開きすぎないでください。開きすぎると，破損の原因となります。

◆閉じかた

開閉固定金具の切欠部からステーを外してロックを解除したあと，開き方と逆の手順で閉じます。

重 要

* 閉じたあと，ロック金具が確実にロックされていることを確認してください。
* ベルトは，掛け間違えないでください。

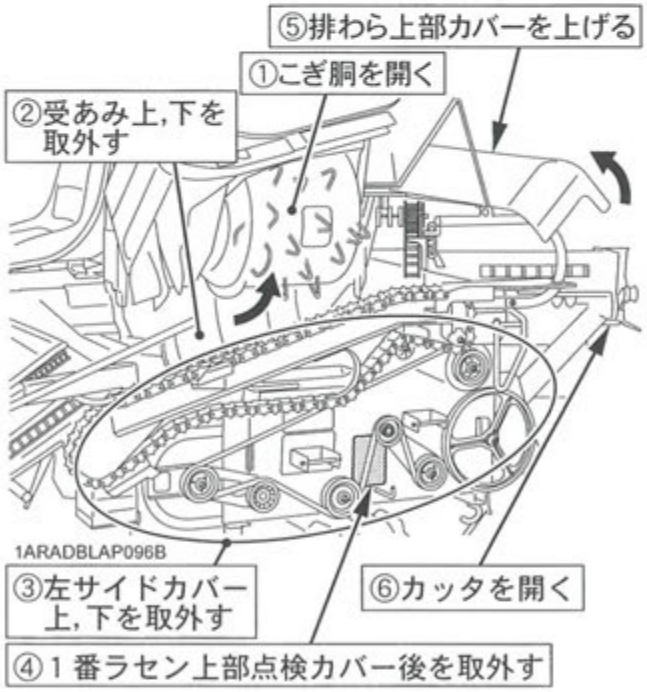
■揺動流板の脱着

注 意

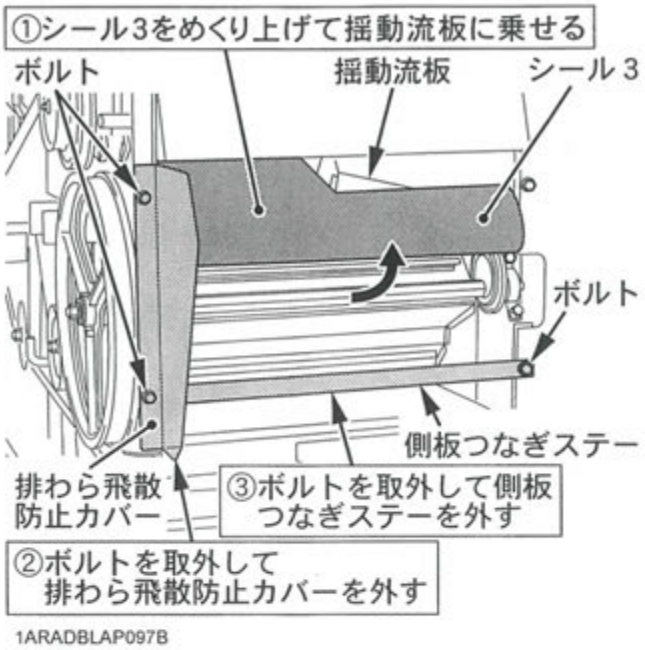
* **平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
* **脱着作業は，合図を掛け合って 2 人以上で行なってください。**
* **取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

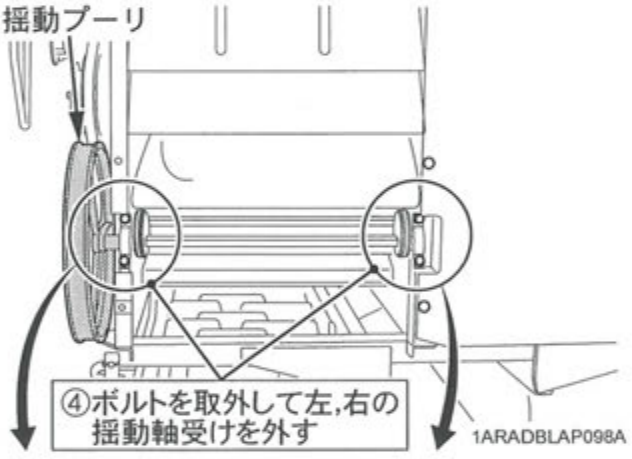
◆ 抜出しかた

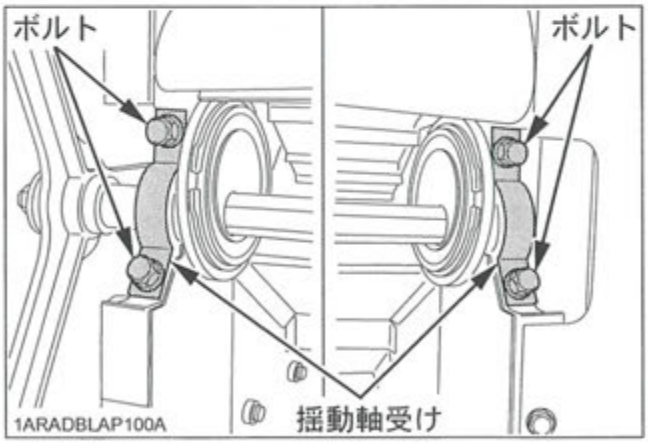
1. 各部を開き，各部の取外しを行ないます。



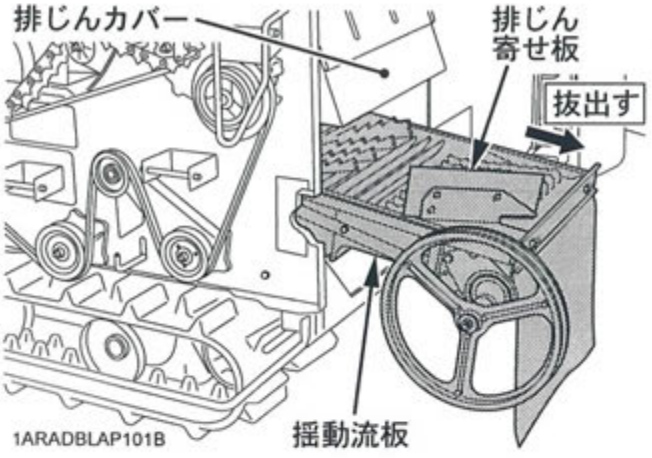
2. 揺動流板を抜出す準備をします。







3. 揺動流板を抜出します。

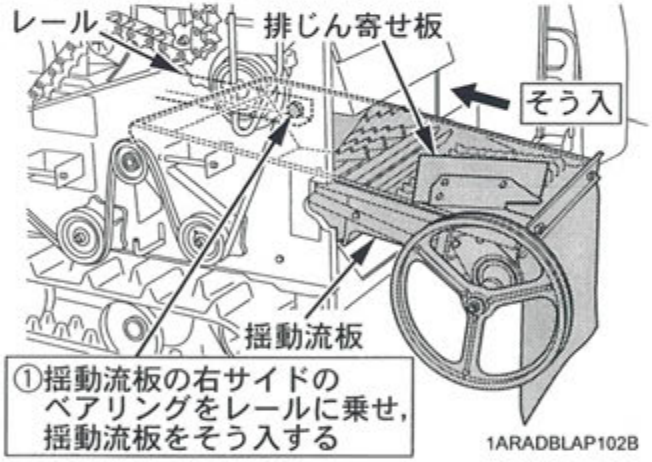


重　要

＊ 揺動流板を抜出すとき，排じんカバーに排じん寄せ板が引掛からないようにしてください。破損すると選別不良の原因となります。

◆ 取付けかた

1. 揺動流板をそう入します。



補　足

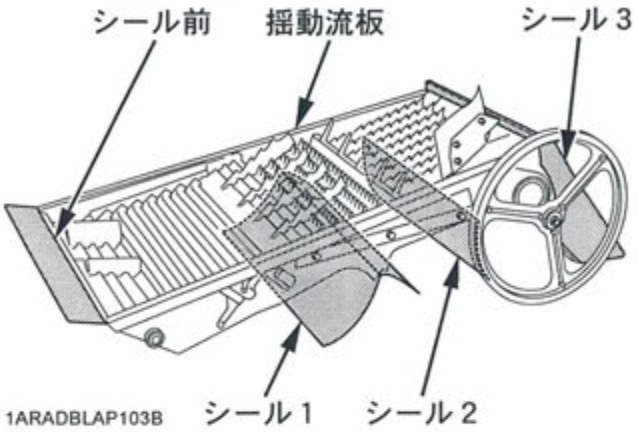
＊ 揺動流板をそう入するとき，排じん寄せ板を確認し，先端部が折れ曲がっていたり，破損しているときは購入先に連絡してください。選別不良の原因となります。

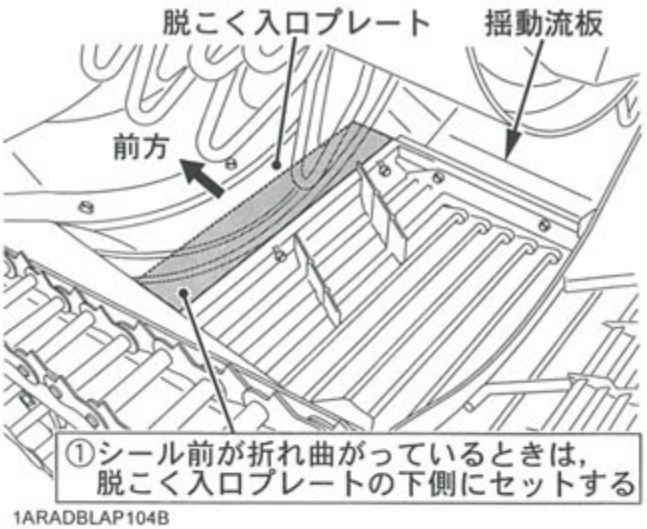
＊ 揺動流板をそう入するとき，レールからベアリングが外れて揺動流板が傾いたときは，いったん抜出してから再度そう入してください。

2. シール前及びシール１，２をセットします。

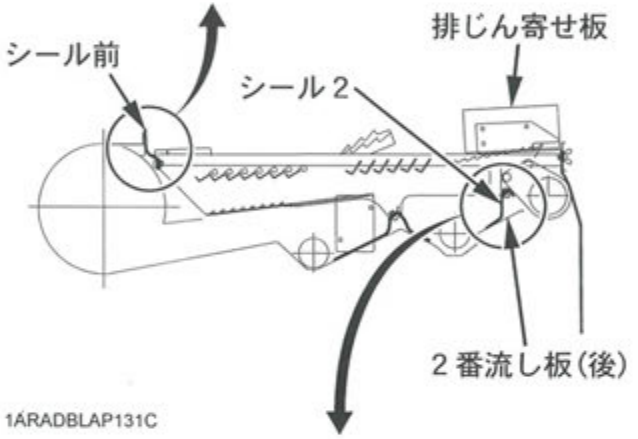
補　足

＊ 各シールが正しくセットされていないともみ漏れや飛散の原因となりロスが増加します。

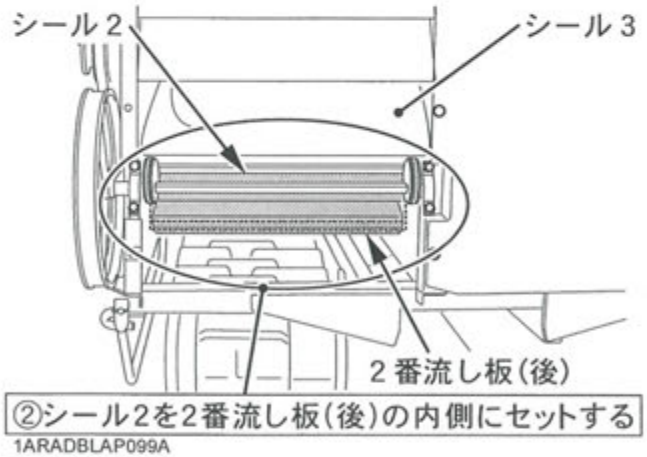




1ARADBLAP104B



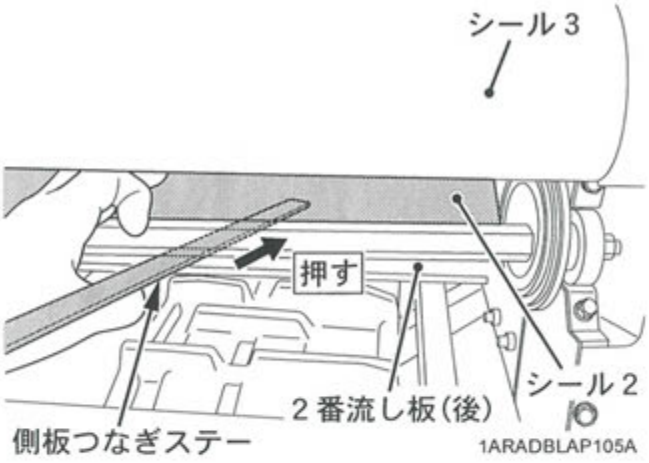
1ARADBLAP131C



1ARADBLAP099A

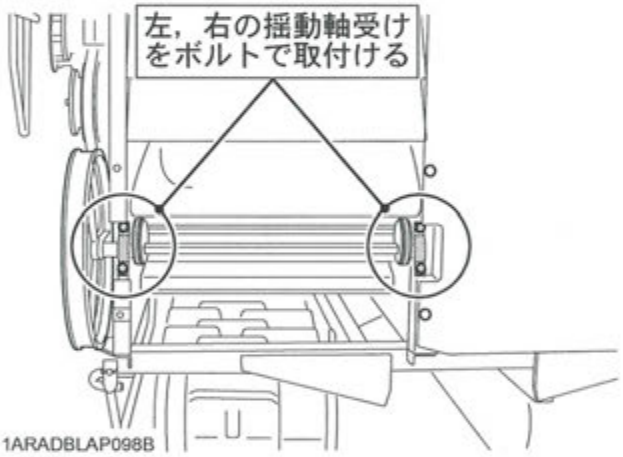
補　足

＊ シール２をセットするときは，抜出しかたの手順で取外した側板つなぎステーを使って２番流し板（後）にセットしてください。



1ARADBLAP105A

3. 揺動軸受けを取外した逆の手順で取付けます。

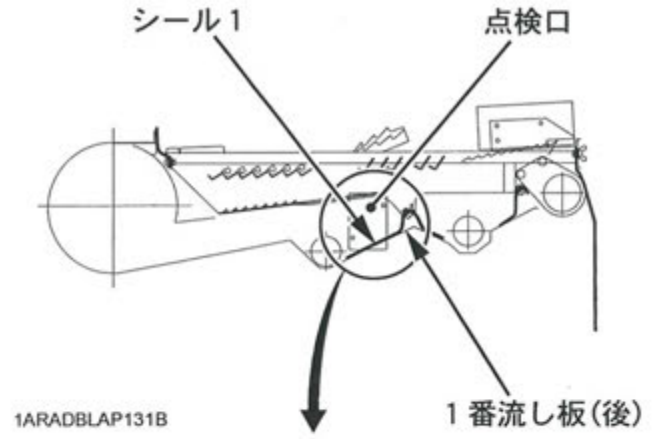


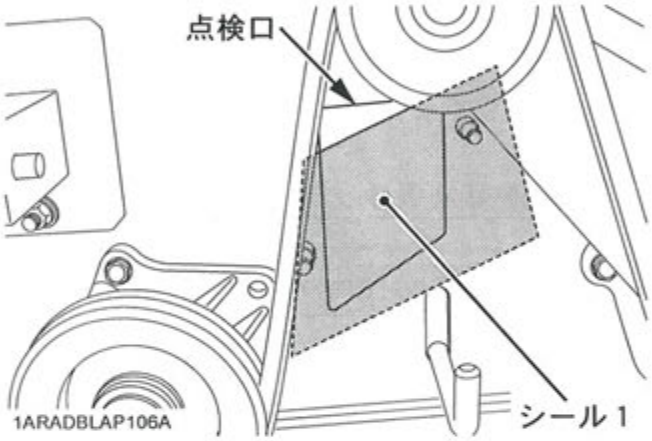
1ARADBLAP098B

補　足

＊ 揺動流板は**最上昇位置**の状態にしてください。

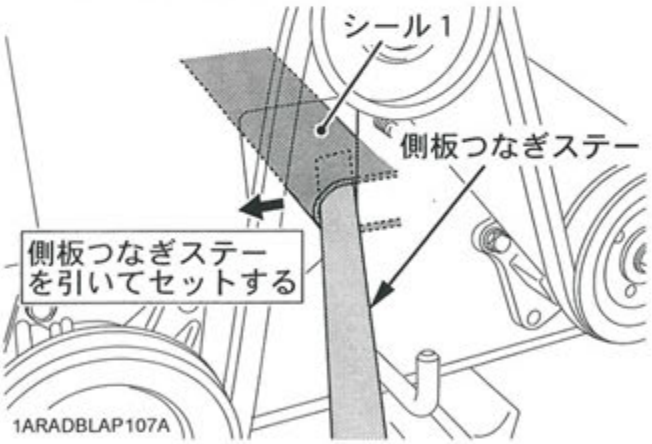
4. 点検口からシール１をセットします。



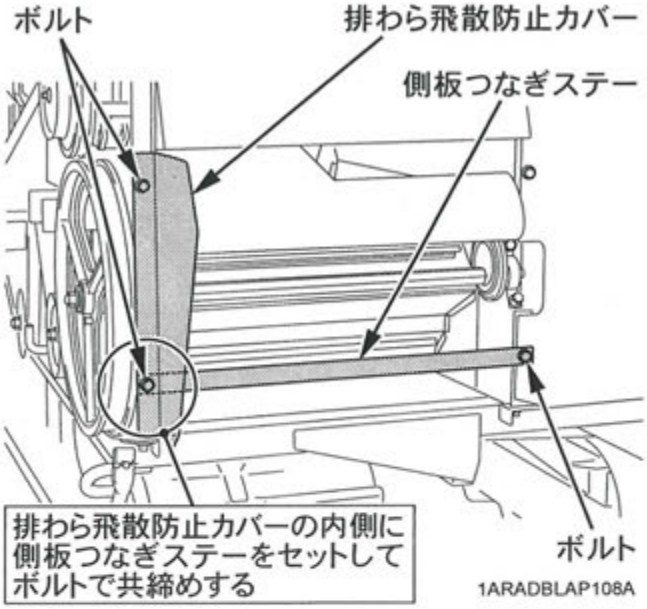


補　足

＊ シール１をセットするときは，抜出しかたの手順で取外した側板つなぎステーを使って１番流し板（後）にセットしてください。



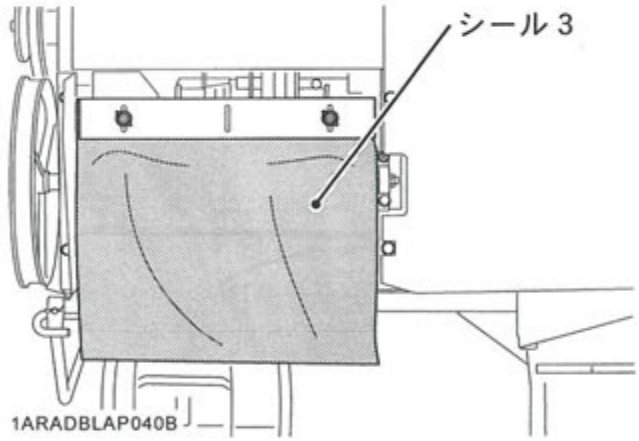
5. １番ラセン上部点検カバー後を取付けます。
6. 側板つなぎステー及び排わら飛散防止カバーを取付けます。



補　足

＊ 排わら飛散防止カバーの内側に側板つなぎステーを取付けてください。

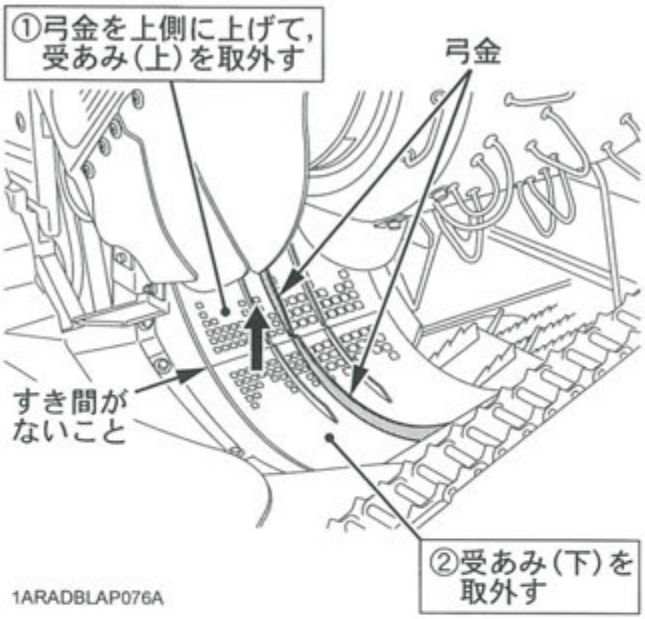
7. シール３を側板つなぎステーの後側に垂らします。



8. カッタを閉じたあと，排わら上部カバーを下げます。
9. 左サイドカバー上，下を取付けます。
10. 受あみ上，下を取付けます。
11. こぎ胴を閉じます。

■受あみの脱着

1. こぎ胴を開きます。
2. 受あみ（上），（下）を取外します。
3. 逆の手順で受あみ（下）を取付け，受あみ（上）を取付けます。

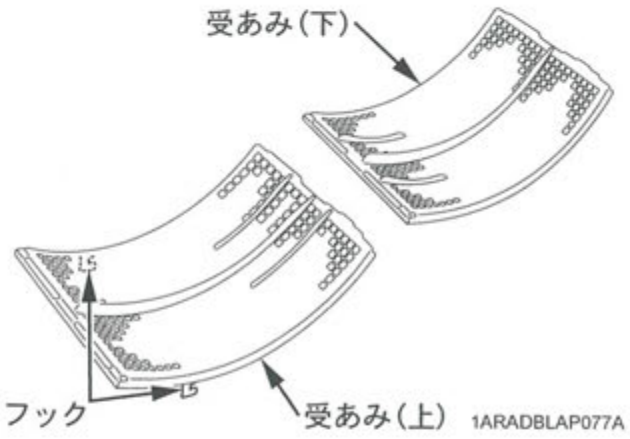


重　要

＊ 取付けたときに受あみ（上），（下）の間にすき間があったり，受あみ（上），（下）を逆に組付けると，脱こく部の故障の原因となります。

補　足

＊ 受あみが確実に取付いていることを確認してください。
＊ 受あみ（上）の上側にあるフックを脱こく部側に引掛けてから取付けてください。

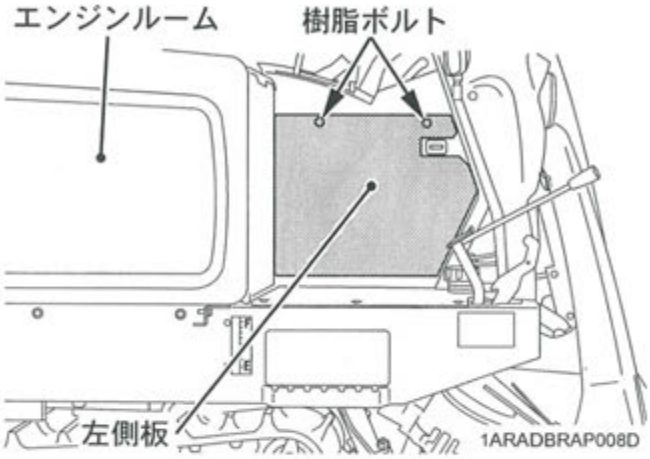


4. こぎ胴を閉じます。

■運転席左側板の脱着

◆ 取外しかた

1. エンジンルームを開きます。
2. 樹脂ボルト２本を取外して，左側板を取外します。



◆ 取付けかた

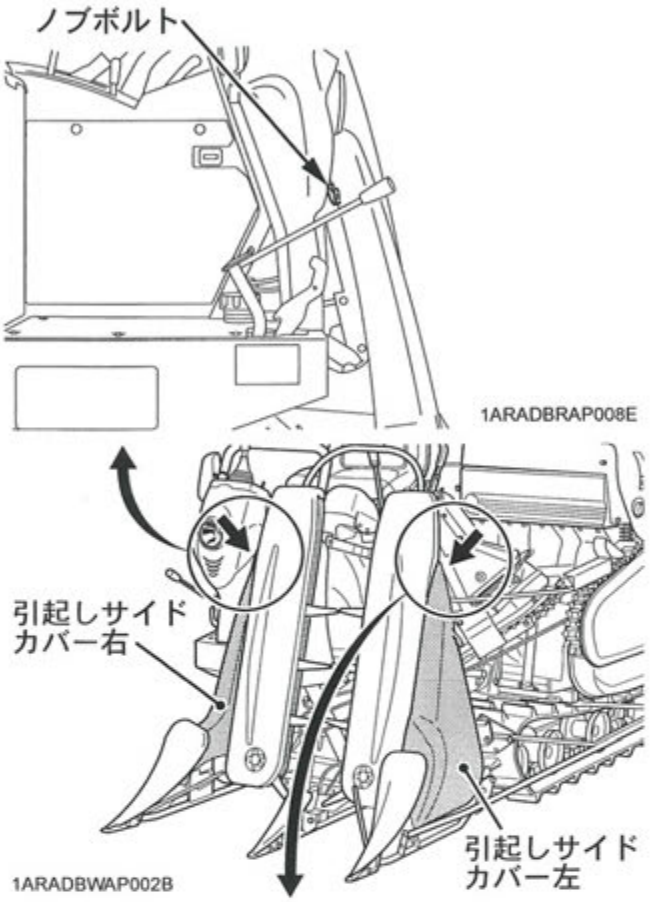
取外しかたの逆の手順で取付けてください。

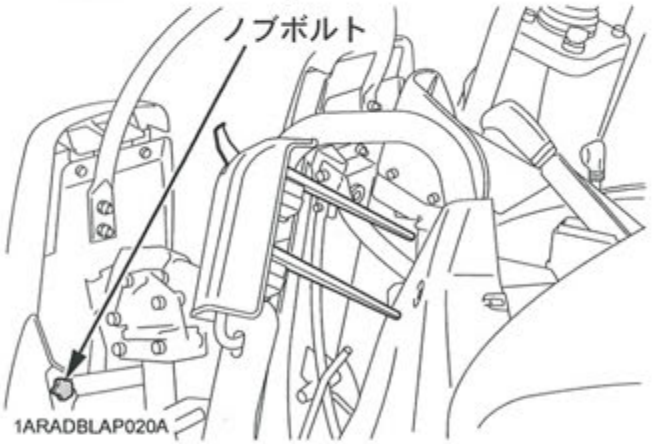
■引起しサイドカバーの脱着

刈取部を地面まで降ろして行なってください。

◆取外しかた

ノブボルトをゆるめて取外します。





◆ 取付けかた

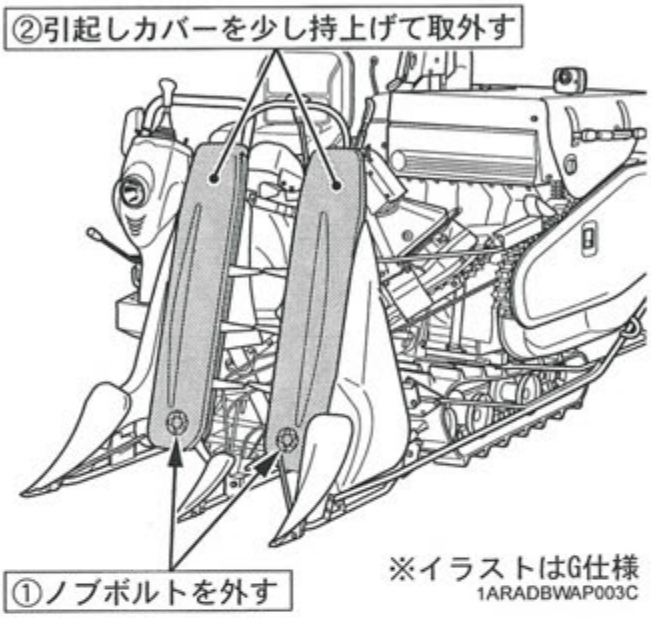
引起しサイドカバー側に出ている引起し爪を全て上側に倒したあと，カバーを取付けます。

■引起しカバーの脱着

刈取部を地面まで降ろして行なってください。

◆取外しかた

ノブボルトを外したあと，引起しカバーを少し持上げて取外します。



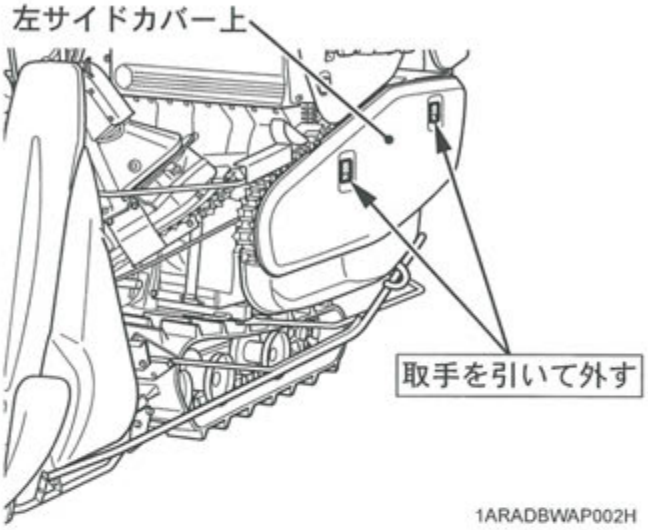
◆取付けかた

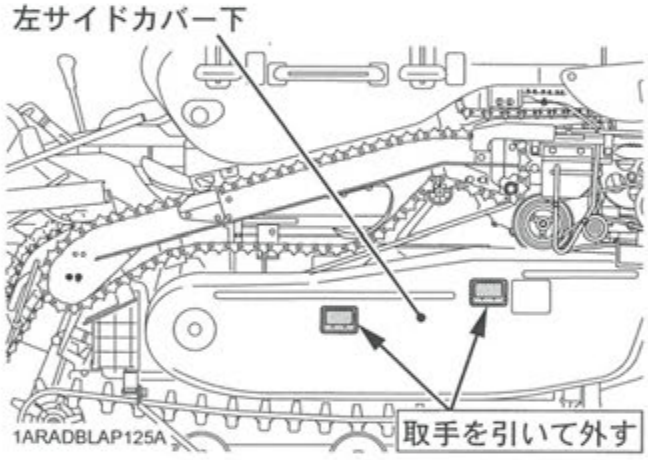
引起しカバーを取付けてノブボルトを締付けてロックします。

■左サイドカバーの脱着

◆ 取外しかた

● 左サイドカバー上，下





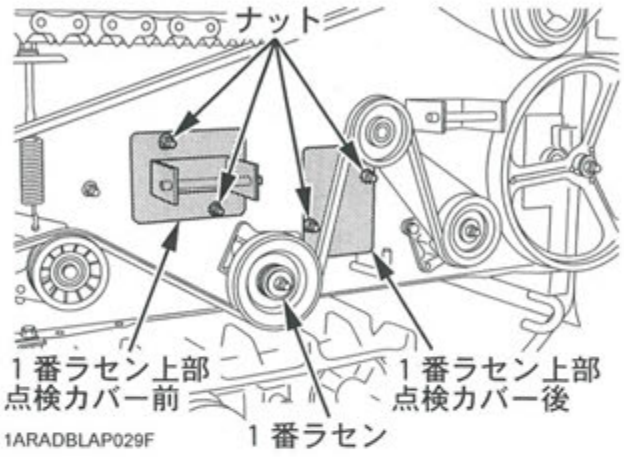
◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

■１番ラセン上部点検カバーの脱着

◆ 取外しかた

1. 左サイドカバー上，下を取外します。
2. ナットを取外したあと，１番ラセン上部の点検カバー前，後を取外します。



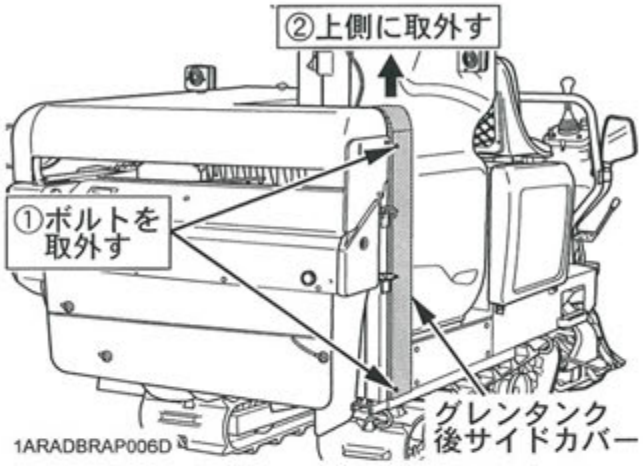
◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

■グレンタンク後サイドカバーの脱着

[G 仕様]

◆ 取外しかた

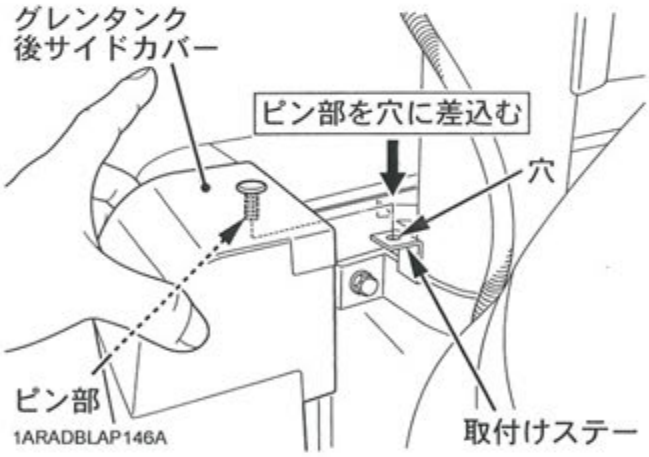


◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

補　足

＊ グレンタンク後サイドカバー上部にあるピン部を取付ステー側の穴に差込んでから取付けてください。

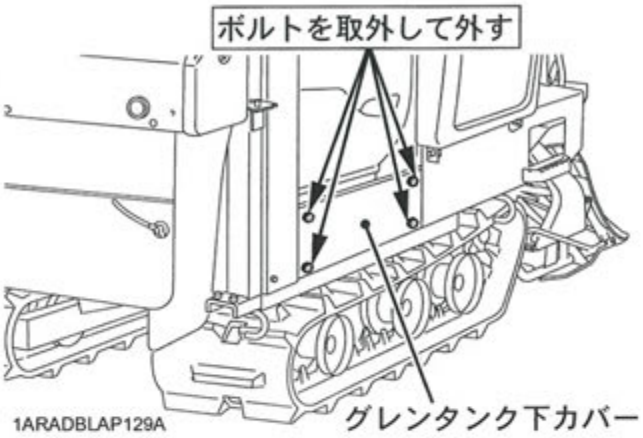


[G 仕様]

■グレンタンク下カバーの脱着

[G 仕様]

◆ 取外しかた



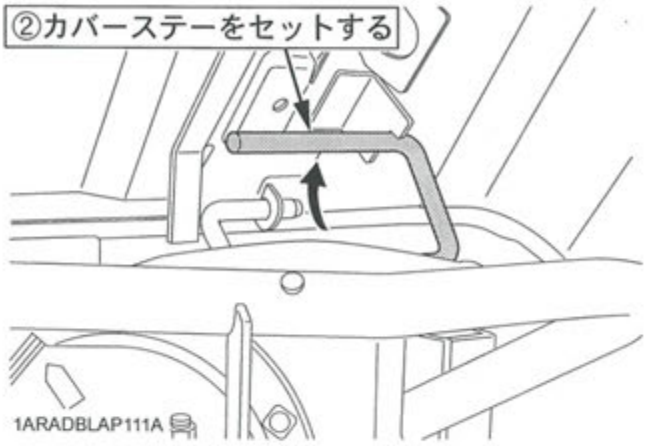
◆ 取付けかた

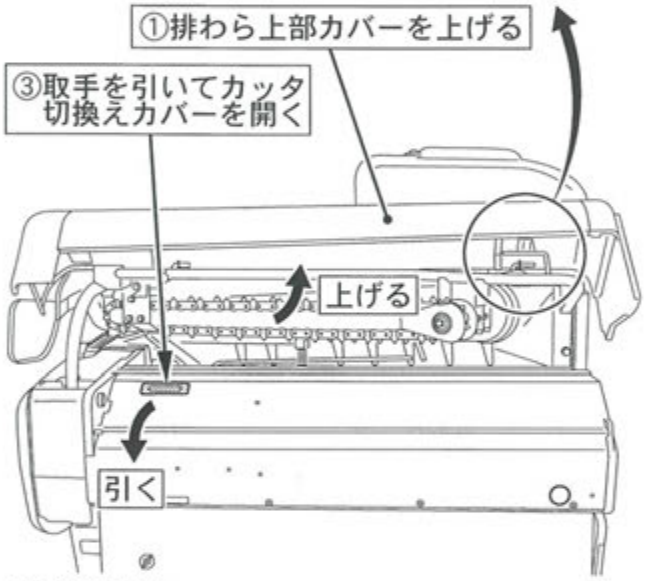
取外しかたの逆の手順で取付けてください。

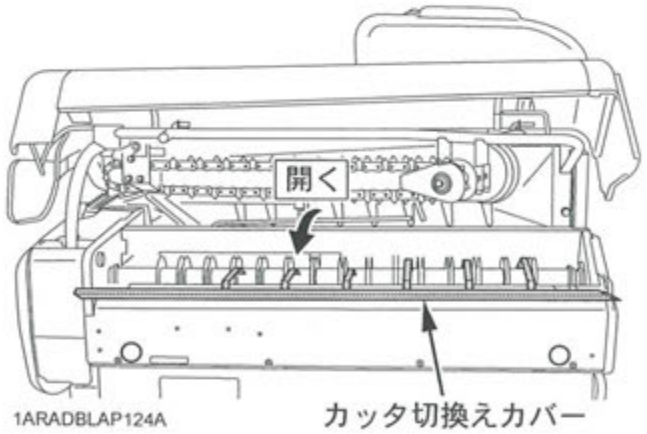
[G 仕様]

■カッタ切換えカバーの開閉

◆ 開きかた

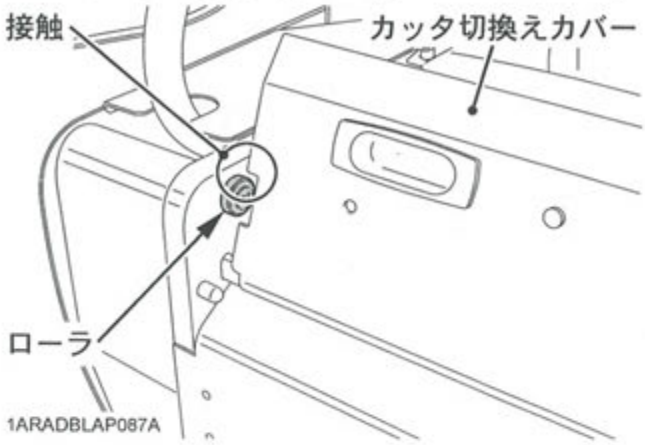






補　足

＊ カッタ切換えカバーとローラが接触した位置からさらに手前に引いて起こしてください。



◆ 閉じかた

カッタ切換えカバーを押して確実に閉じてください。

補　足

＊ カッタ切換えカバーを後方いっぱいまで開いた状態で，エンジンを始動するとエンジンは始動しますが，作業スイッチを押すとエンジン自動停止装置がはたらき，数秒後にエンジンが停止します。

■グレンタンクの脱着

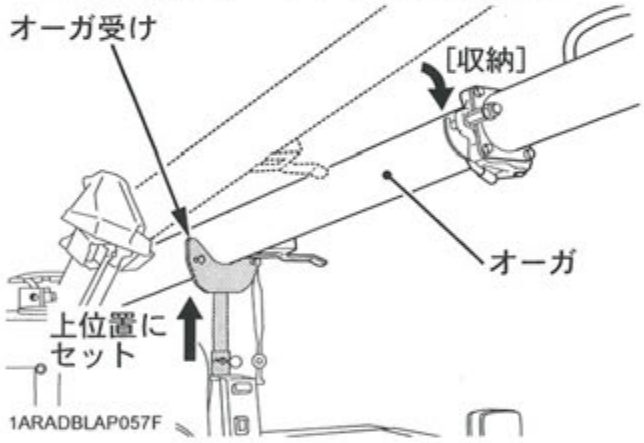
[G 仕様]

警 告

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

◆ 取外しかた

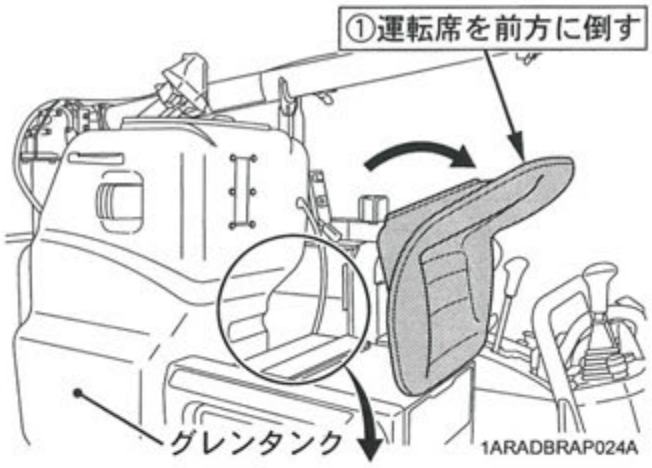
1. グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。(62 ページ参照)
2. 変速レバーを **[N]（中立）** 位置にし，もみ排出クラッチレバーを **[切]** 位置にします。
3. オーガ受けを上位置にして，オーガをオーガ受けに収納し，エンジンを停止します。

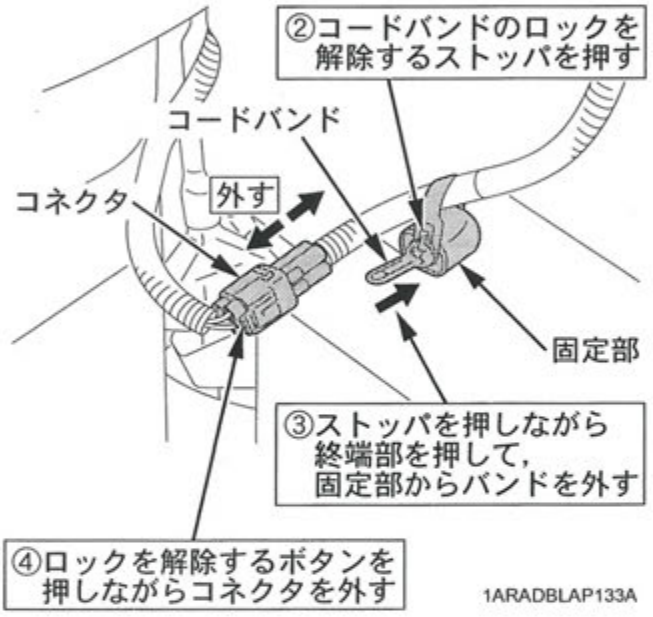


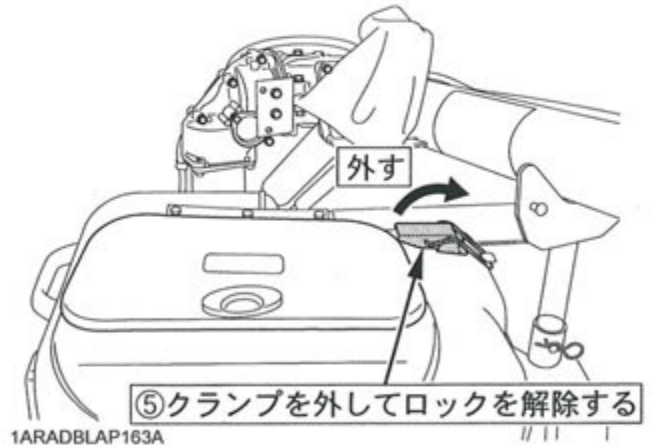
重 要

＊ グレンタンクの脱着を行なうときは，オーガを必ず収納位置にしてください。

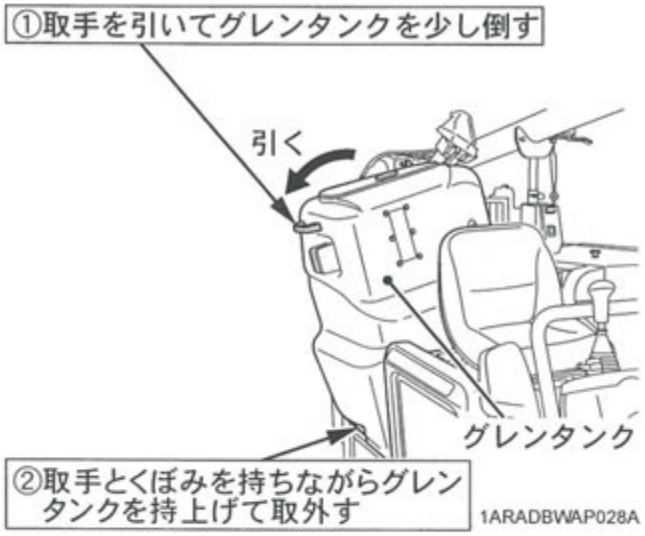
4. グレンタンクを取外す準備をします。







5. グレンタンクを取外します。



◆ 取付けかた

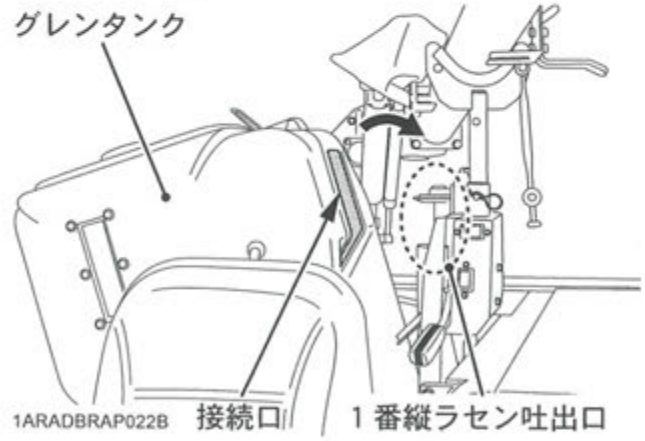
取外しかたの逆の手順で取付けます。

重 要

* グレンタンクを取付けたときは，クランプで必ずロックしてください。
* コネクタ，コードバンドは確実に取付けてください。

補 足

* グレンタンクの接続口と１番縦ラセン吐出口にすき間や傾きが出ないように確実に取付けてください。



各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警 告

＊ エンジンを必ず止めてメインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。
＊ 取外したり，開いた回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にわらくずなどのごみや燃料の付着，泥の堆積やカッタ部の切断軸にわらの巻きつきなどわらくずの付着があると火災の原因になることがありますので，取除いてください。

注 意

＊ 刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックレバーを［ ロック ］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ 空運転するときには必ず機体各部の開いたところは閉じ，カバー類を取付けてください。
＊ オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。（クローラなどのゴム製品が劣化します。）
＊ 刈刃やカッタの掃除・注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重　要

* 水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
* 掃除口を閉じるときは，掃除口にもみの付着がないことを確めてから閉じてください。また，掃除の後，ふたを取付け忘れるともみが飛散します。
* 機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているともみが機内に付着して残留もみが多くなります。
* 湿田で作業したあとは，必ずクローラ部分の泥を取除いてください。
* 取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

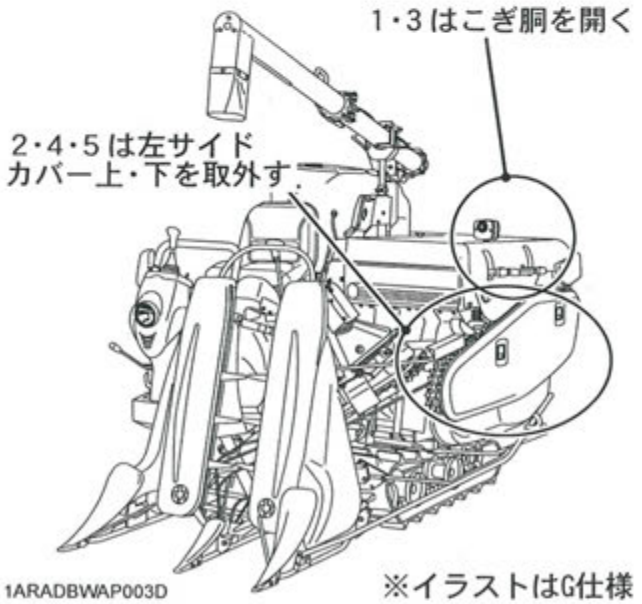
■各部の掃除

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

◆ 掃除のしかた

刈取作業が終わり，もみの排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，いったん機体各部を収納状態（30 ページ参照）にし，作業スイッチを**［切］**にしたあと，エンジンを止めます。
掃除をするときには，各部を開閉部を開き，掃除口カバーを取外してください。

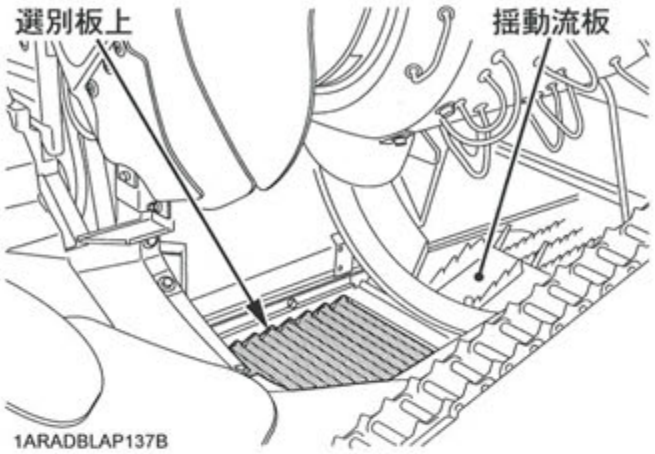
◆掃除箇所



※イラストはG仕様

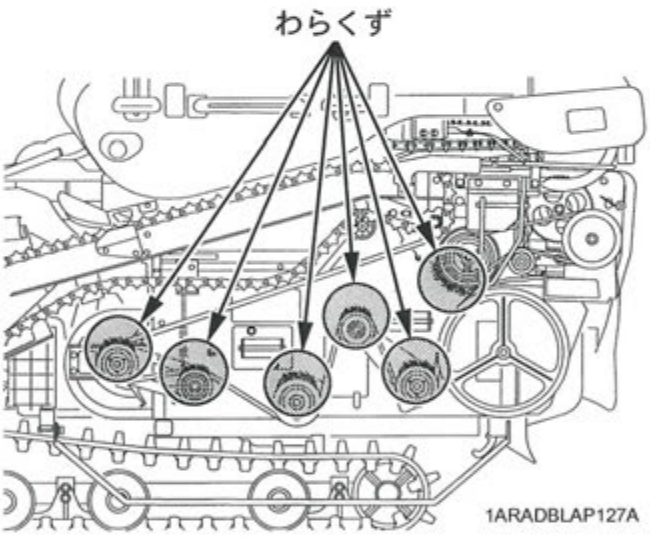
1. 脱こく部内（揺動流板内選別板上）

受あみ（上，下）を取外して掃除してください。掃除後は，受あみ（上，下）を取付け，こぎ胴を閉じてください。（85 ページ参照）



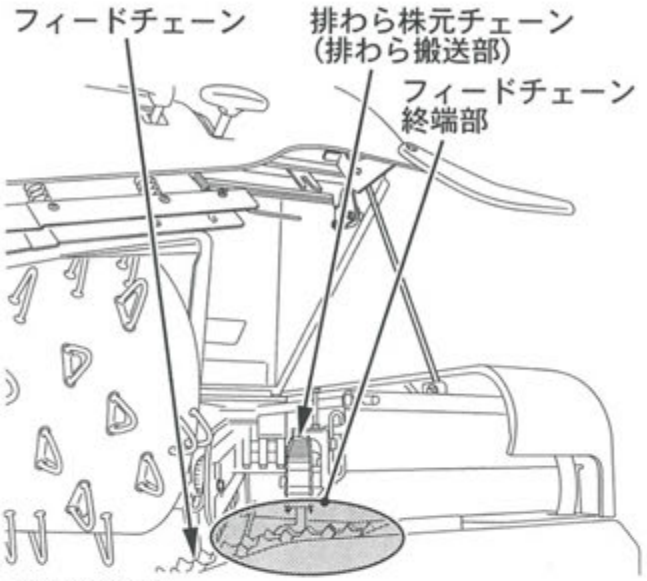
2. ベルトカバー内

左サイドカバー上，下を取外して掃除してください。掃除後は各カバーを取付けてください。
（87 ページ参照）



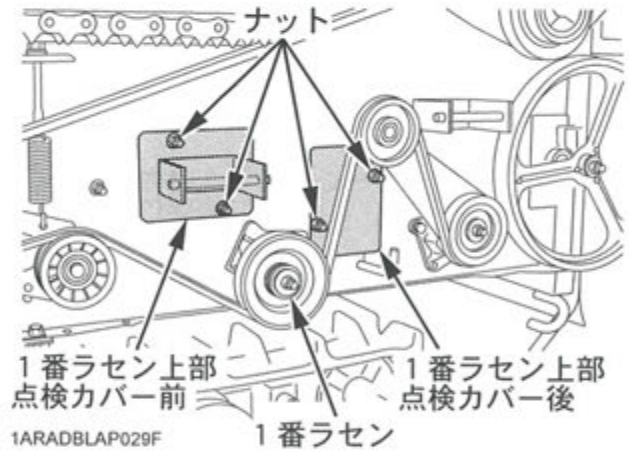
3. フィードチェーン終端部・排わら搬送部

自動エンジン停止装置がはたらいたとき**[わら詰まりのとき]**に掃除してください。掃除後は，こぎ胴を閉じてください。



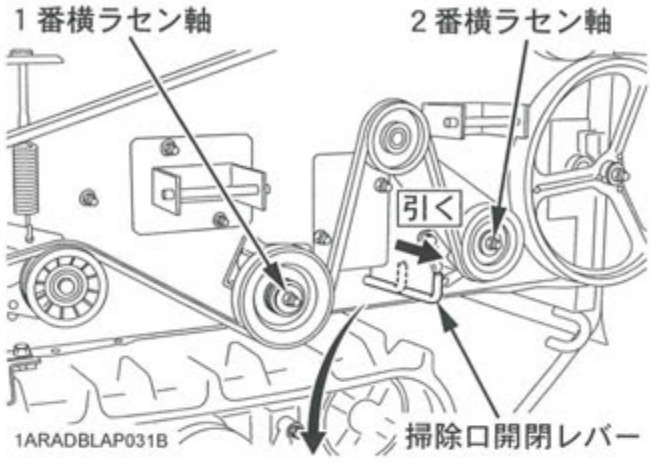
4. 1番ラセン上部点検口

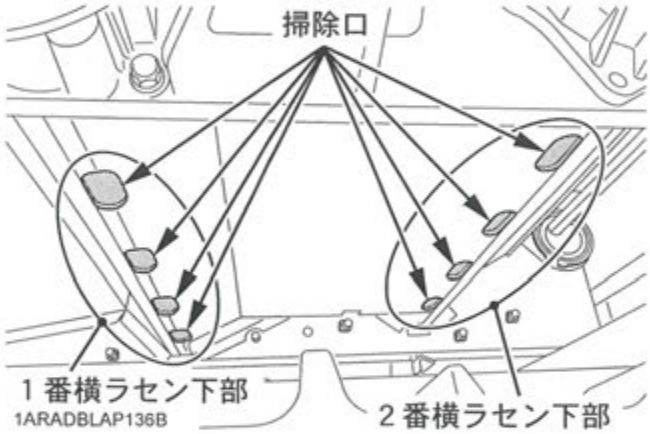
ナットを外し，1番ラセン上部の点検カバーを取外して掃除してください。掃除後は，点検口カバーを取付けてください。



5. 1番・2番横ラセン下部掃除口

掃除口開閉レバーを引いて，1・2番横ラセン下部にある掃除口を開いてください。掃除後は，掃除口開閉レバーを押し込んでください。

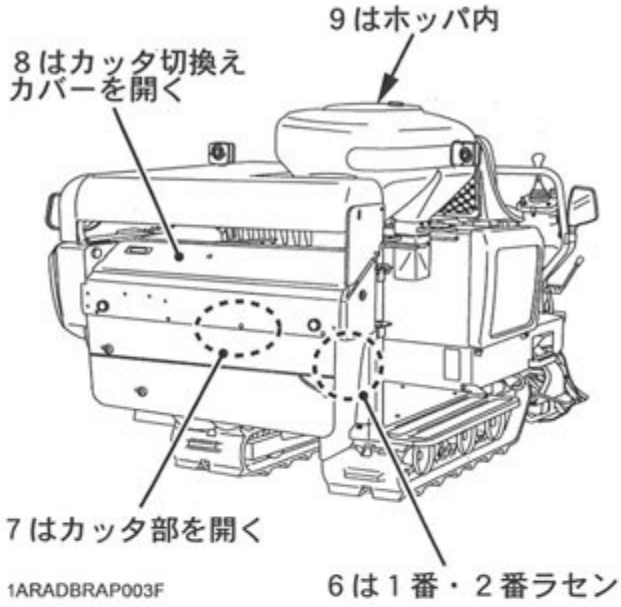




補　足

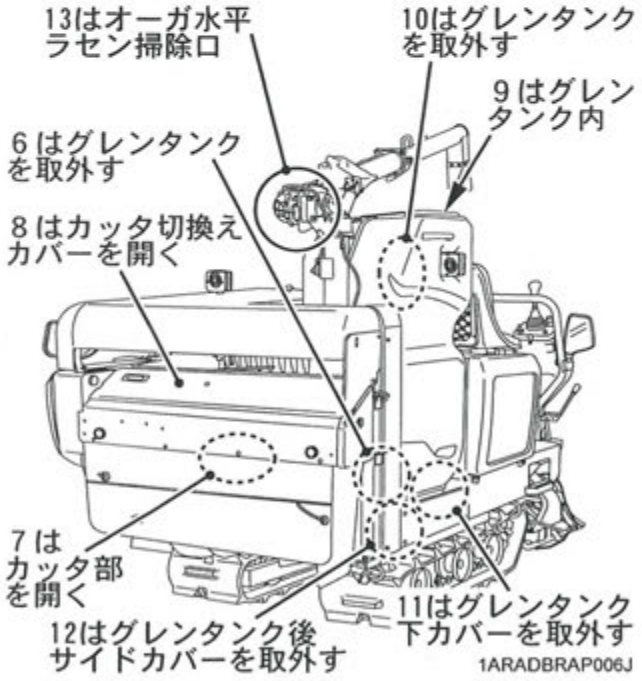
＊ もみが漏れる原因となりますので，掃除口開閉レバーは掃除口が閉じるまで押し込んでください。

[ホッパ仕様]



[ホッパ仕様]

[G 仕様]

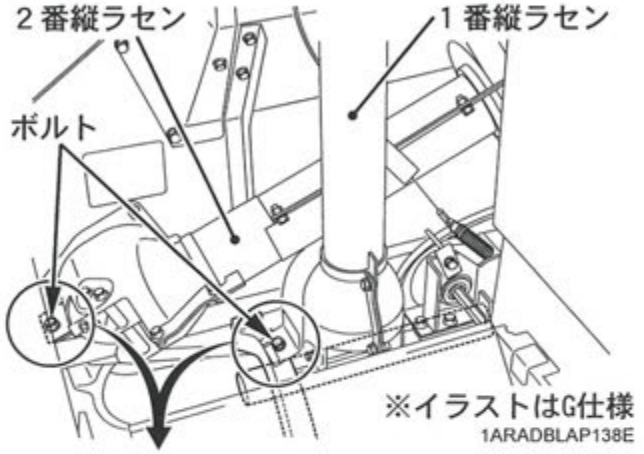


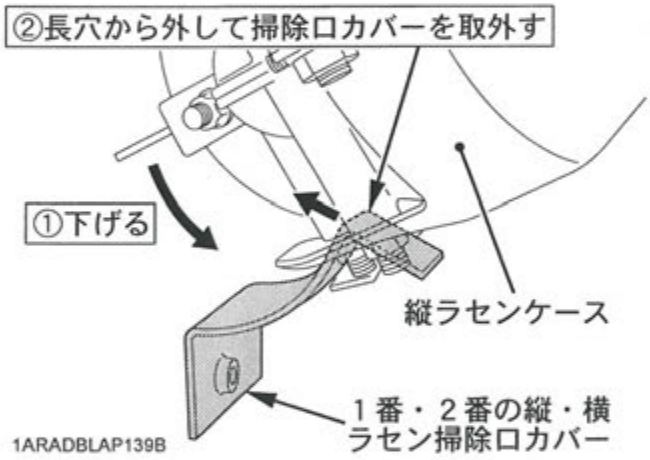
[G 仕様]

6. 1番・2番ラセン掃除口

● **1番・2番の縦・横ラセン掃除口**

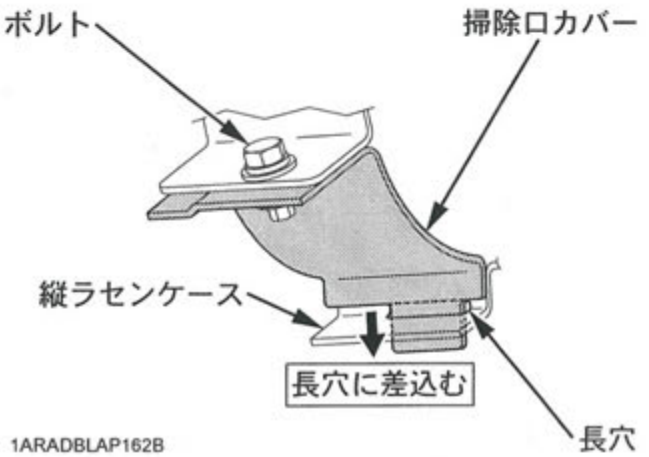
ボルトを外して，1番・2番の縦・横ラセン掃除口の掃除口カバーを取外して掃除します。掃除後は，掃除口カバーを取付け，**[G 仕様]** はグレンタンクを取付けてください。





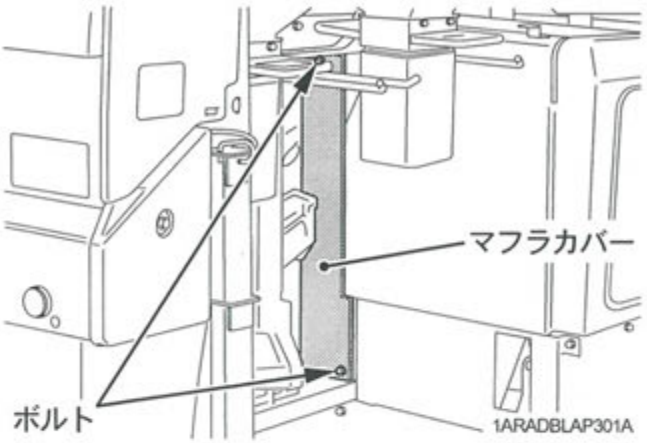
補 足

＊ 掃除口カバーを取付けるときは，下図のように縦ラセンケースの長穴部に掃除口カバーを差込んでからボルトで取付けてください。掃除口カバーが縦ラセンケースから外れるともみが漏れるおそれがあります。

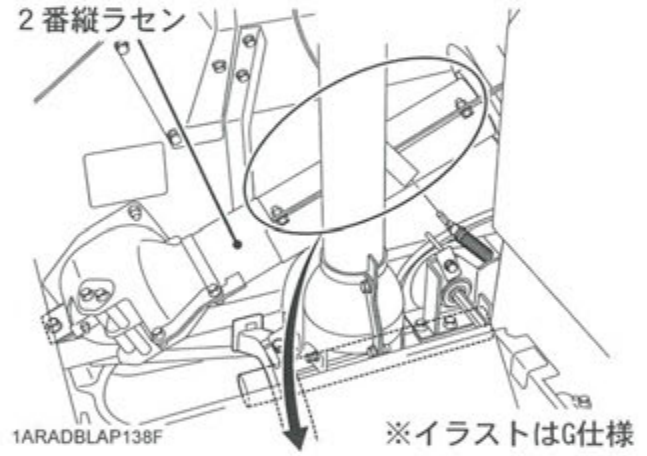


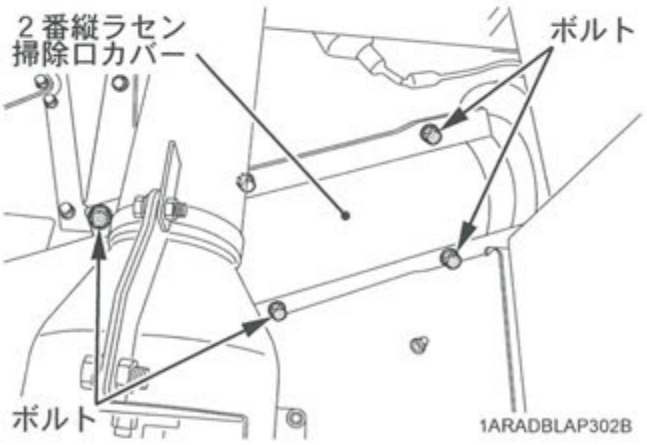
● **2番縦・横ラセン掃除口**

1. **［ホッパ仕様］**はボルトを取外してマフラカバーを取外します。



2. ボルトを取外して，2番縦ラセン上部掃除口カバーを取外します。

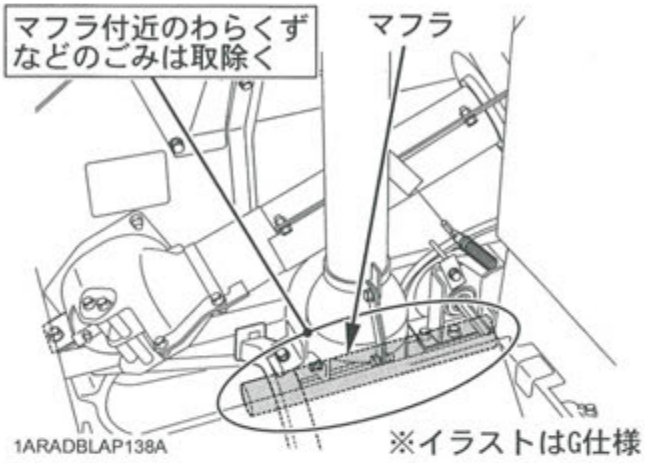




3. 掃除後は，掃除口カバーを取付けます。
4. **［G仕様］**はグレンタンクを取付け，**［ホッパ仕様］**はマフラカバーを取付けます。

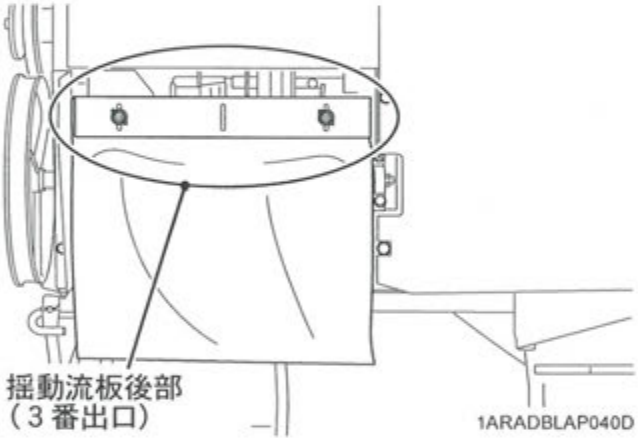
補　足

＊ マフラやその周辺に付着しているごみは必ず掃除して取除いてください。



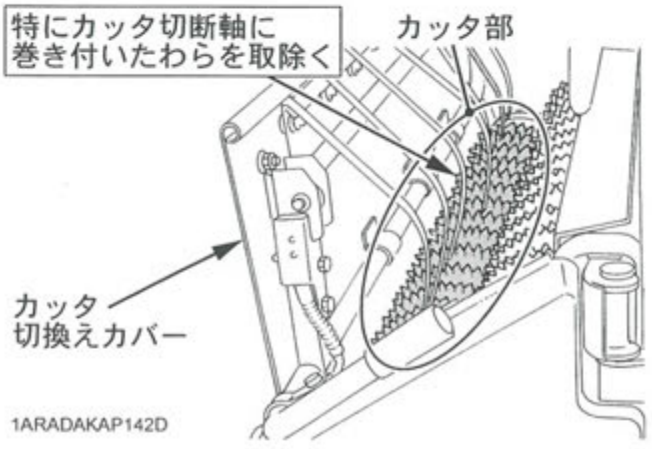
7. 揺動流板後部（3番出口）

カッタ部を開いて掃除してください。掃除後は，カッタ部を閉じてください。



8. カッタ部内

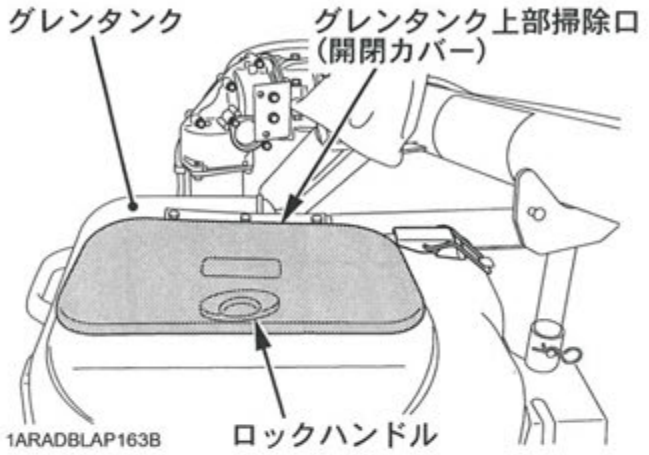
カッタ切換えカバーを開いて掃除してください。掃除するときは，特にカッタの切断軸に巻付いたわらは全て取除いてください。掃除後は，カッタ切換えカバーを閉じてください。



9. ホッパ内・グレンタンク内

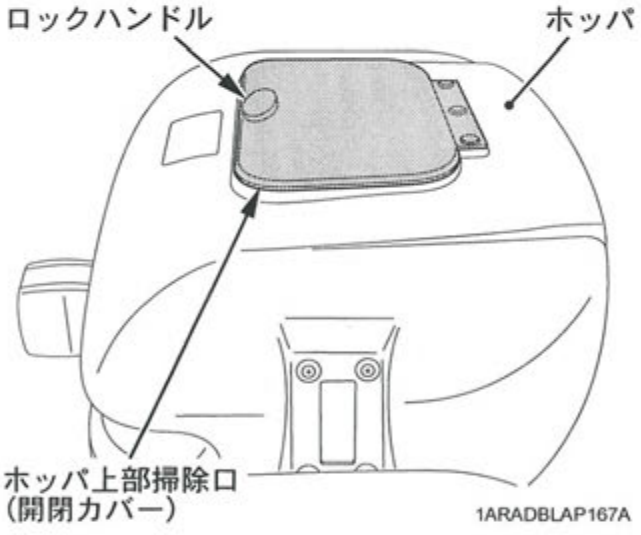
ロックハンドルを回して掃除口の開閉カバーを開いて掃除してください。掃除後は，開閉カバーを閉じたあと，ロックハンドルを回してカバーをロックしてください。

[G 仕様]



[G 仕様]

[ホッパ仕様]

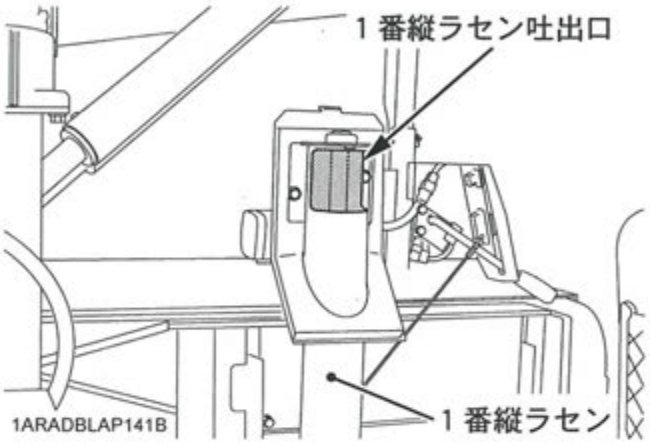


[ホッパ仕様]

10. 1 番縦ラセン吐出口

[G 仕様]

グレンタンクを取外して掃除してください。掃除後は，グレンタンクを取付けてください。

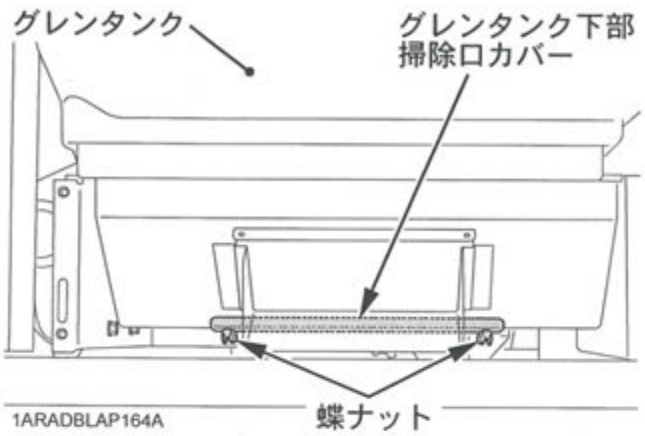


[G 仕様]

11. グレンタンク下部掃除口

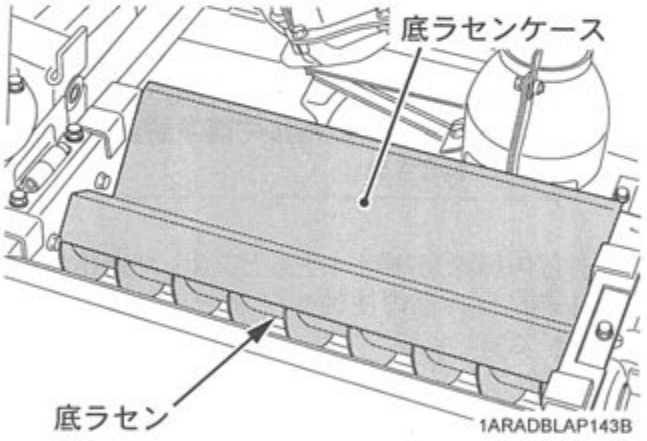
[G 仕様]

蝶ナットを外し，掃除口カバーを開いて掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンク下カバーを取付けてください。



補　足

＊ 必要に応じてグレンタンクの底ラセンケース内も掃除してください。

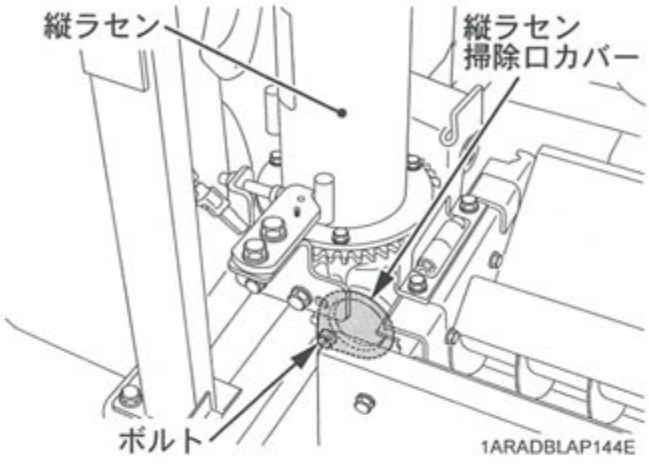


[G 仕様]

12. 縦ラセン掃除口

[G 仕様]

グレンタンク後サイドカバーを取外したあと，ボルトを外して，縦ラセン掃除口の掃除口カバーを取外して掃除します。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンク後サイドカバーを取付けてください。

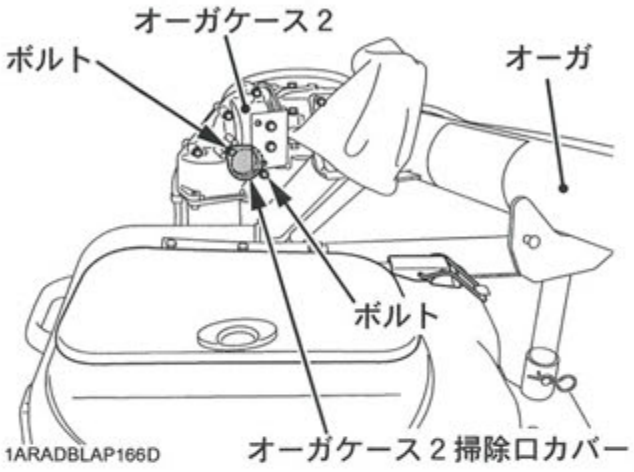


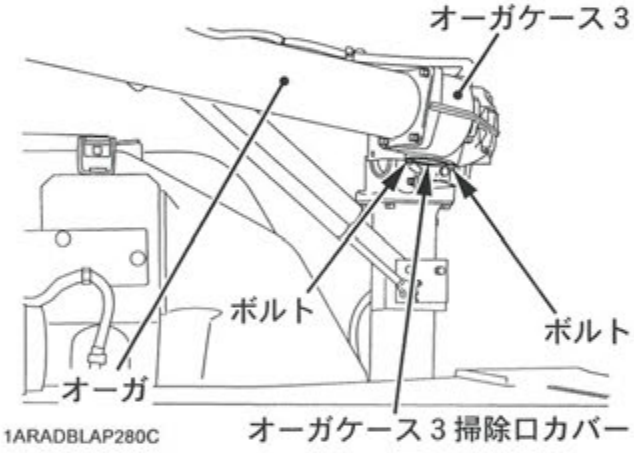
[G 仕様]

13. オーガ水平ラセン掃除口

[G 仕様]

ボルトを外して，オーガケース２・３掃除口の掃除口カバーを取外して掃除します。掃除後は，掃除口カバーを取付けてください。





[G 仕様]

◆掃除後の処置と確認

掃除終了後は，取外したり，開いた掃除口カバーや安全カバーは必ず閉じる又は，取付けてください。

■各部の注油

警 告

＊ 回転物や可動部に手や腕など体を近付けないでください。巻込まれてケガをするおそれがあります。特に機械が動いているとき，油差しを使っての注油作業を行なうときは，エンジン回転数を落としてじゅうぶん注意してください。
＊ そで口はきっちり止めて，手袋，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。

注 意

＊ エンジン始動時や作業スイッチを操作するときは，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。
＊ 刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックレバーを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

補 足

[211A]

各部のチェーンはエンジンを停止した状態で注油してください。そのあと，エンジンを始動させ低速状態で刈取・脱こく部を作動して，エンジンを停止してから各チェーンに油が回っていることを確認してください。油が回るまで，繰り返注油してください。

[211A]

[213A]

集中注油で注油が行なえる箇所以外の注油は上記 **[211A]** と同様に油差しで手差し注油してください。

[213A]

[213A]

◆ 集中注油装置による注油

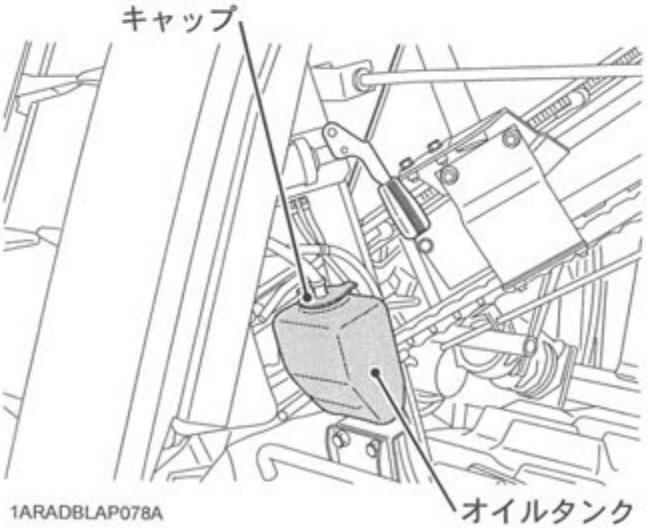
集中注油装置の注油レバーを押して各作動部（刈刃と引起しチェーン）に注油してください。

補 足

* 気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では，気温の上がる昼間に注油してください。
* 各チェーン部に巻付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取除いてください。
* 注油するときは，注油レバーを強く押して勢いよく注油してください。

● 注油のしかた

1. 平たんな場所に刈取部を地面から５～15cmの位置にしたあと，駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー左を取外し，オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。



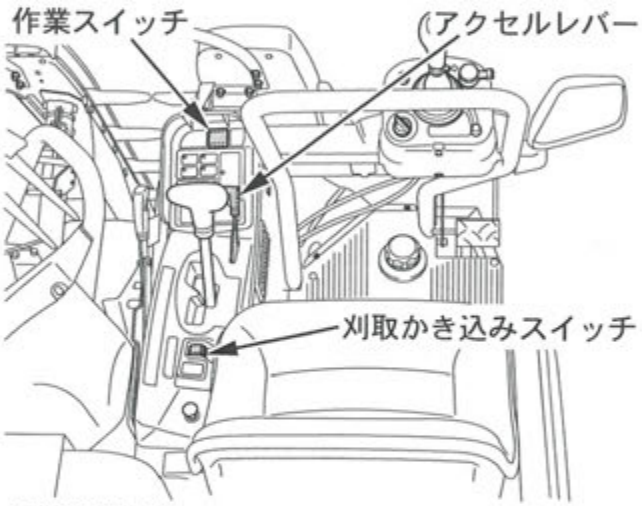
1ARADBLAP078A

重 要

* 廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると，ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

オイルの種類	オイルタンク容量
三菱純正オイル D10W-30	約 0.5L

3. エンジンを再始動したあと，作業スイッチを **[入]** にします。
4. アクセルレバーを **[🐢]** と **[🐇]** の中間位置（エンジン中速回転）に操作したあと，刈取かき込みスイッチを **[入]** にして刈取部を動かします。

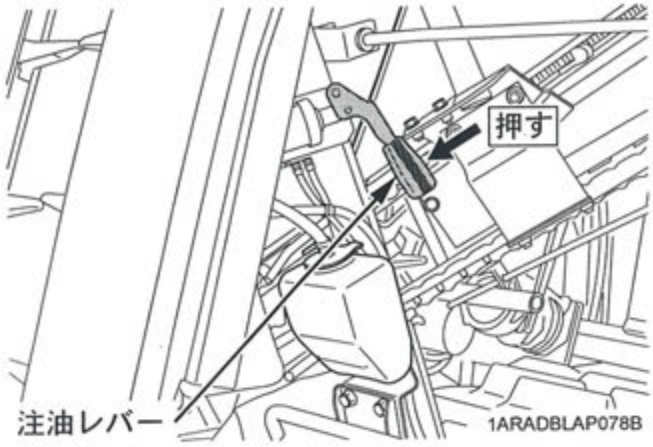


1ARADBRAP007B

補 足

* エンジン回転を中速回転にして注油してください。
* 注油したときチェーンが停止していると，オイルが1箇所に集中するため，ベルトやカバーにオイルが付着したり，チェーンのスリップの原因となります。

5. 注油レバーを３～４回強く押して注油します。



重　要

＊ 必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく，故障の原因になります。

補　足

＊ オイルタンクに給油したあとは，オイルを吸い上げるまで注油レバーを押してください。
＊ 集中注油装置を最初に動かすときは，各部にオイルがじゅうぶんに注油されるまで注油レバーを押してください。このとき，左刈刃と左引起しチェーンのオイルの量が，多くでます。

6. エンジンを停止したあと，引起しチェーンや刈刃に注油されていることを確認します。

補　足

＊ 注油されていないときは，各注油ホースのノズルの掃除を行なってください。

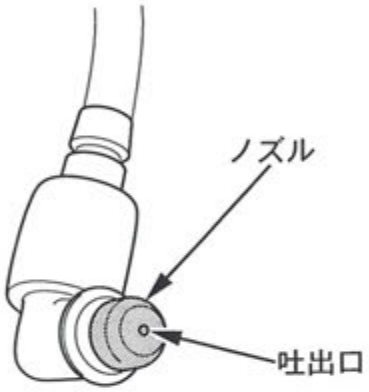
7. 引起しサイドカバー左を取付けます。

◆ 集中注油のノズルの掃除のしかた

ノズルからオイルが出ていないときは，**エンジンを必ず止めて**，各ノズルの吐出口の掃除を行なってください。掃除を行なうときは，水洗い又は，圧縮空気などを使用してください。

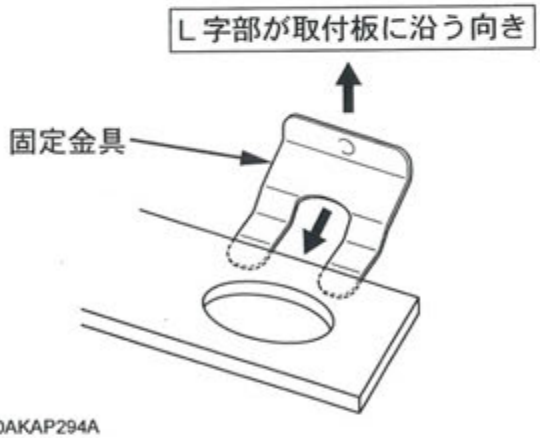
補　足

＊ ノズル先端部の吐出口の掃除を行なうときは，つまようじなど折れやすい物を使用すると詰まりの原因となります。また，各ノズルの先端を固定している金具・ボルト・スナップピンなど各固定部品を外すと掃除が容易に行なえます。



1ARADAFAP481A

＊ 引起しチェーンのノズル（左）固定金具を取付けるときは，必ず金具のＬ字部が取付板に沿う向きに向けて取付けてください。

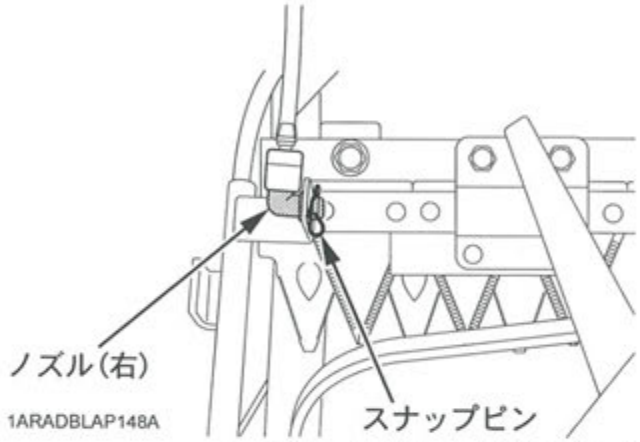


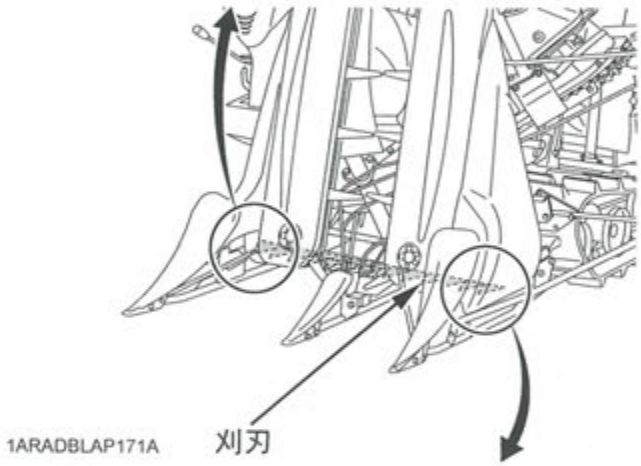
1ARADAKAP294A

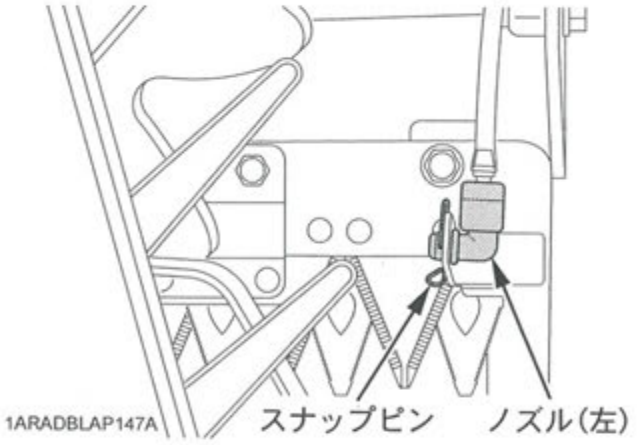
掃除箇所

● **刈刃**

刈取部を最上昇したあと刈取下降ロックをし，泥などの異物を取除いてください。また，引起しサイドカバー左右を取外したあと，ノズルからスナップピンを外して掃除してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，引起しサイドカバー左右を取付けてください。

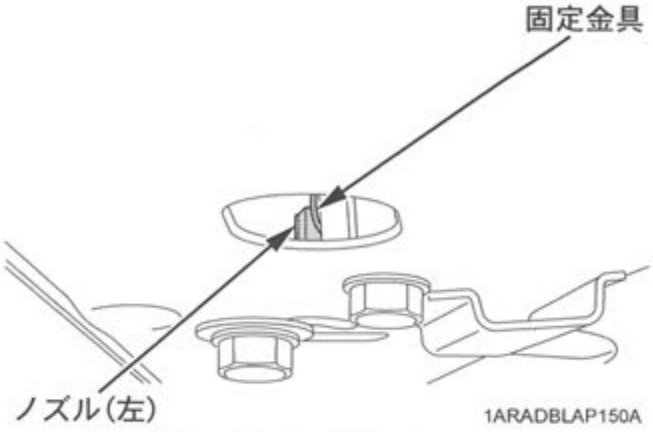


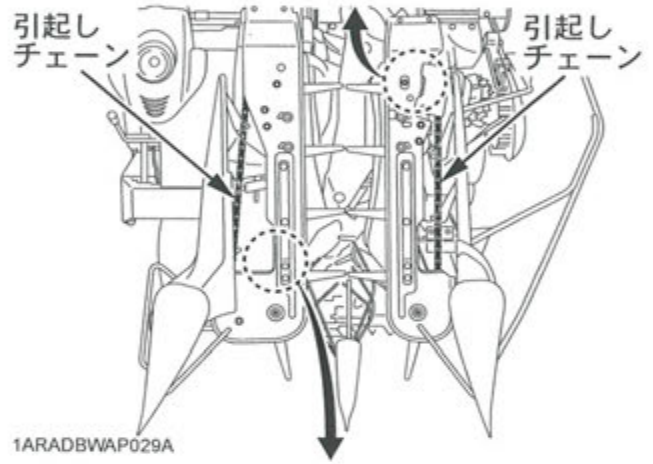


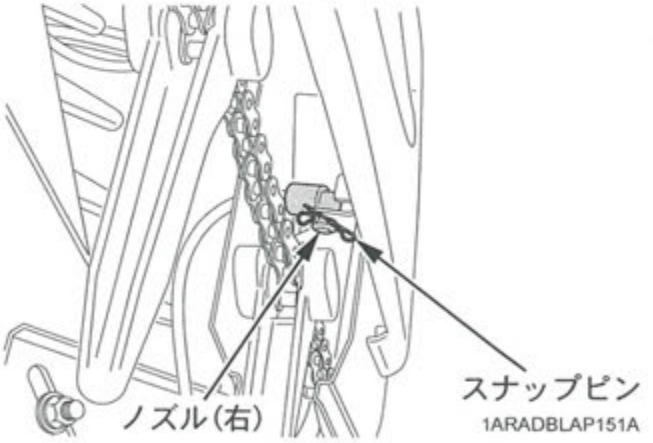


● **引起しチェーン**

各引起しカバーを取外したあと，スナップピン又は，固定金具を取外してください。掃除後は，スナップピン又は，固定金具を取付けたあと，引起しサイドカバー左右を取付けてください。







[213A]

◆ 油差しによる手差し注油

手差し注油で各チェーンや回動部に注油してください。

補　足

＊ 寒い地域では，気温の上がる昼間に注油してください。
＊ 各チェーン部に巻付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取除いてください。

● 注油のしかた

1. エンジンを停止した状態で各チェーン及び回動部に注油します。

補　足

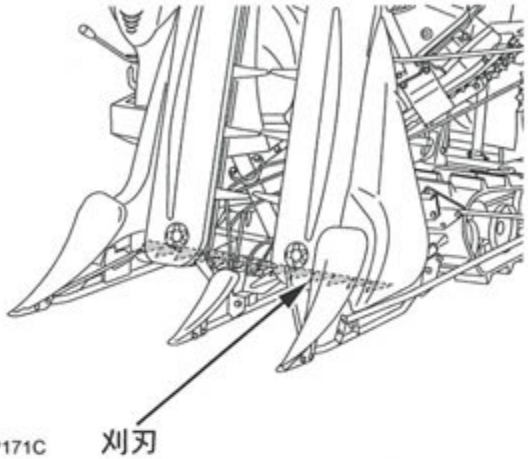
＊ 排わら穂先チェーンの注油はエンジンを始動し，脱こく部を作動状態で行なってください。

2. エンジンを始動したあと，作業スイッチ及び刈取かき込みスイッチを**【入】**にして刈取・脱こく各部を動かします。
3. アクセルレバーを操作してエンジンを低速回転で運転したあと，エンジンを停止します。
4. 各チェーンに均等に注油されるまで繰返し注油します。

注油箇所

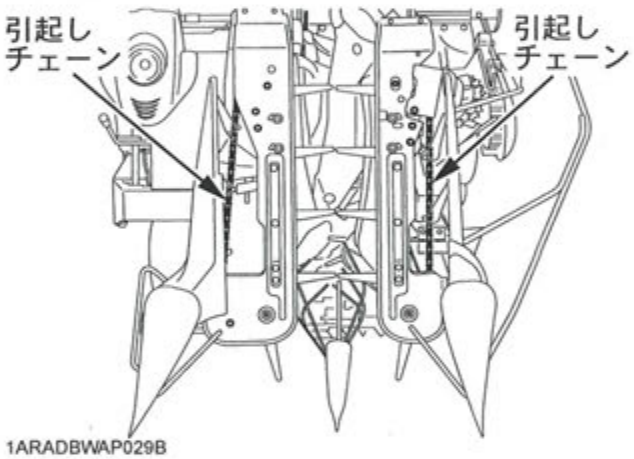
[211A]

● 刈刃



1ARADBLAP171C

● 引起しチェーン

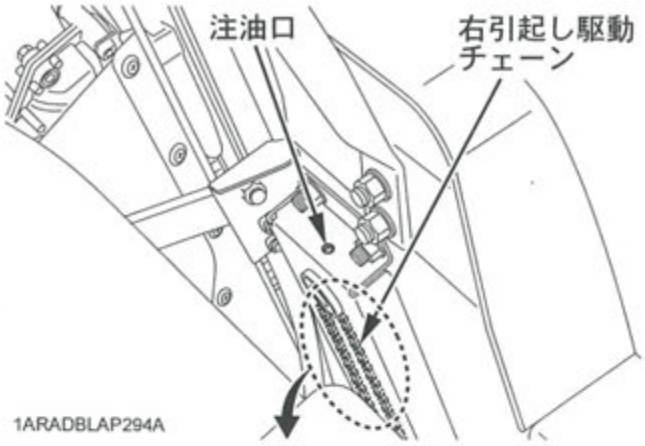


1ARADBWAP029B

[211A]

● **右引起し駆動チェーン**

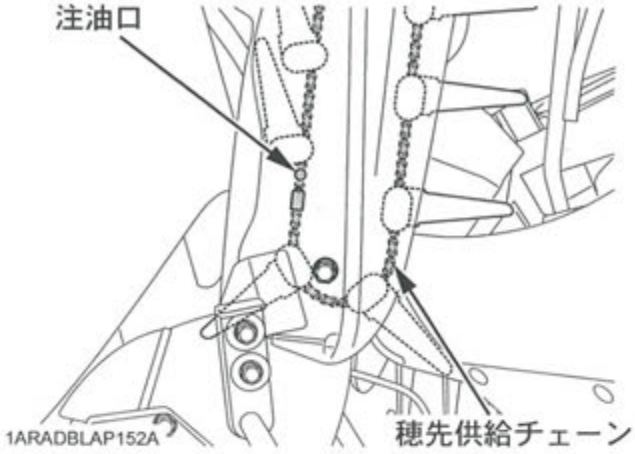
右引起し駆動チェーンは，注油口から注油してください。

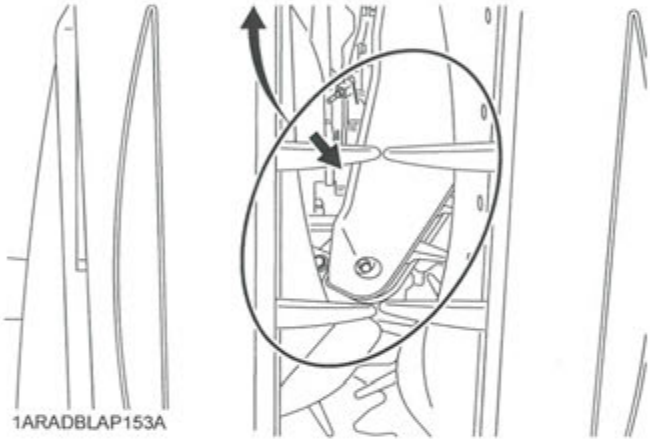


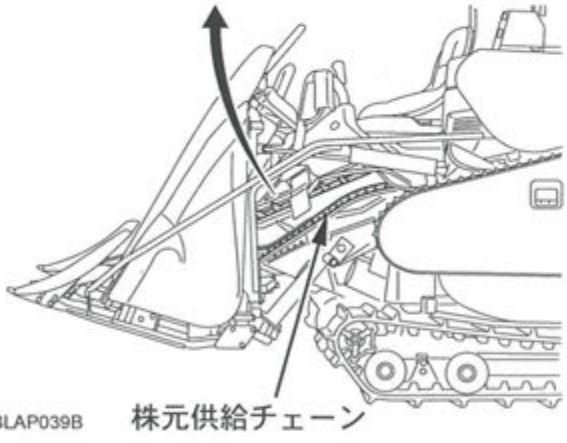


● **株元供給チェーン・穂先供給チェーン**

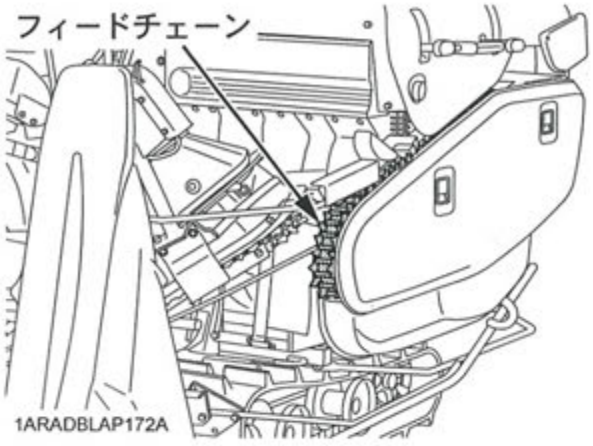
穂先供給チェーンは，注油口から注油してください。





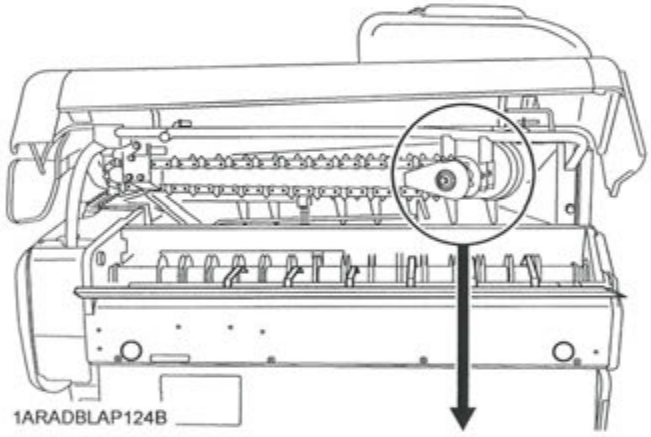


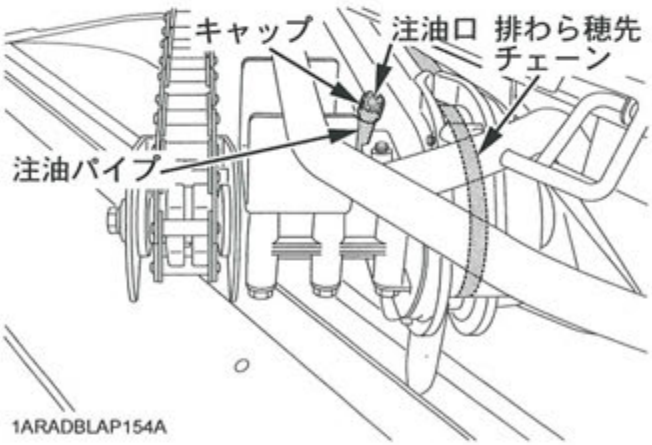
● フィードチェーン



● 排わら穂先チェーン

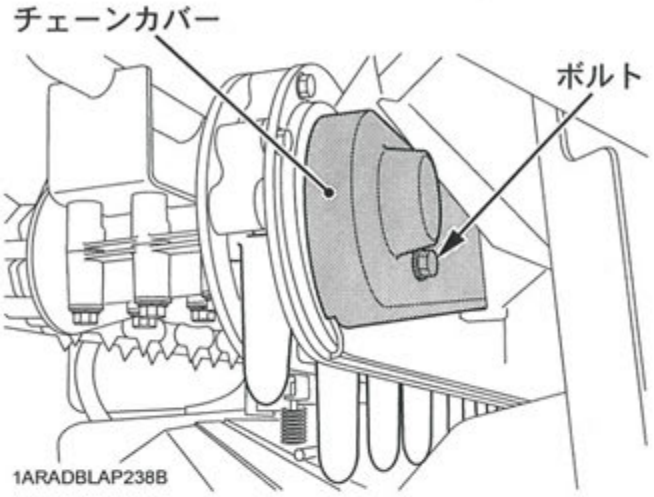
注油口のキャップを外してエンジンを始動したあと，脱こく部を中速回転しながら，脱こく上部後方にある注油口から注油してください。注油後は，注油口にキャップを取付けてください。

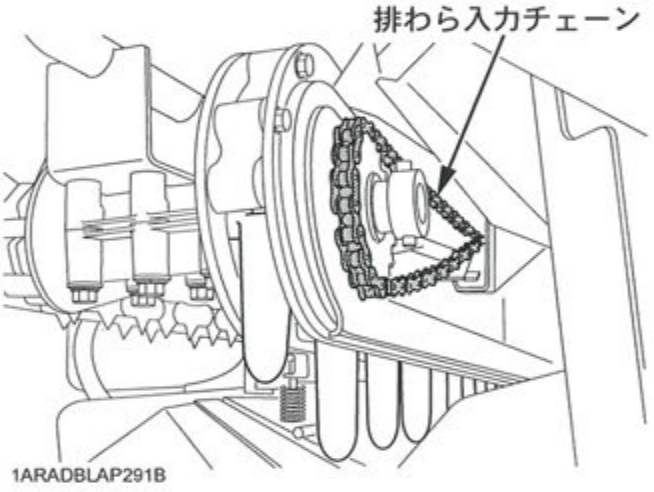




●排わら入力チェーン

ボルトを外してチェーンカバーを取外して注油してください。注油後は，チェーンカバーを取付けてください。

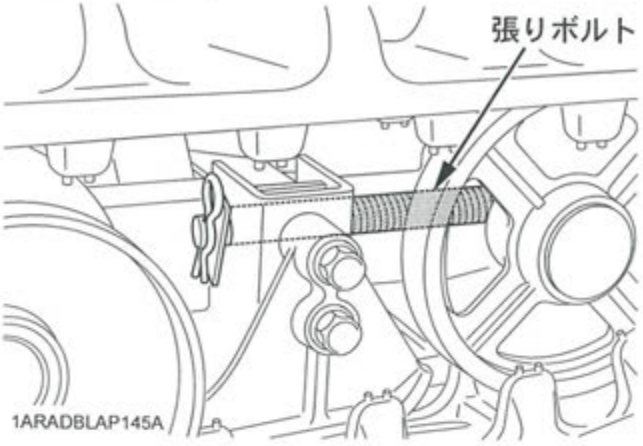


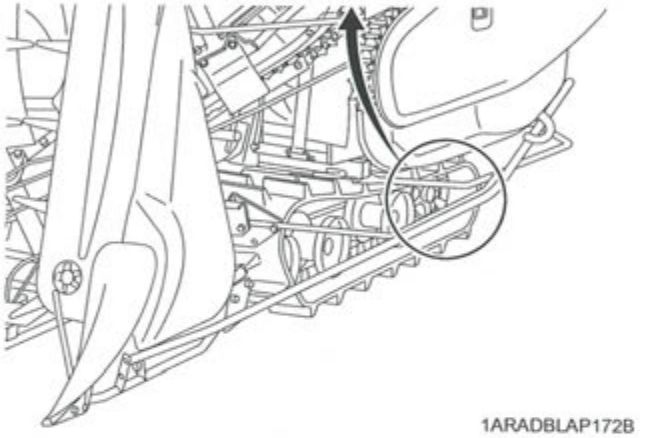


◆ **グリース塗布箇所**

● **クローラ張りボルト（左，右）**

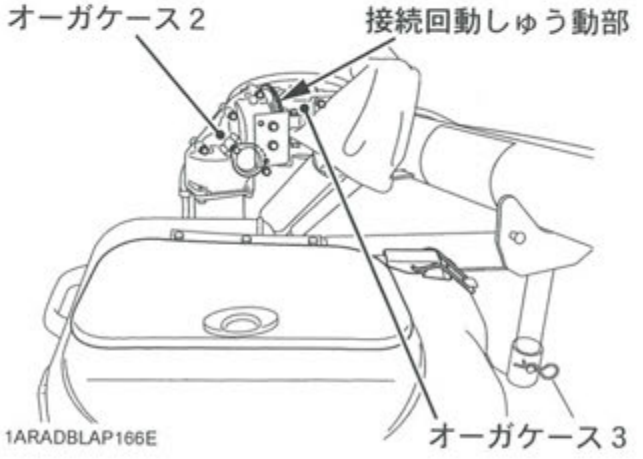
クローラの張り調整を行なう前にグリースを塗布してください。





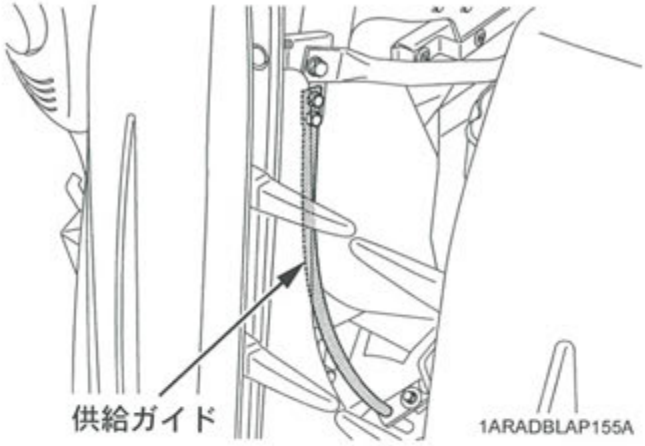
● **オーガケース２・３接続回動しゅう動部**

[G 仕様]



[G 仕様]

● **供給ガイド**



● **サポートスプリングガイド**

刈取部を最上昇し，刈取下降ロックを行なったあと，さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてエンジンを停止してください。



定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮されるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警 告

＊ 各部の調整・点検・交換を行なうときは，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊ 点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降ろしてください。
もし刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックレバーを［ロック］位置にし，つまみを締付けて，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ エンジンルームを開いて各部の点検・調整・交換などの作業を行なうときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイル交換中は火気厳禁。
＊ 刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
＊ 機械は平たんで，周りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

補 足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先又は，整備工場で行なってください。

■オイル，フィルタ類の交換とチェーン，ベルト，クローラの張り調整

1. 新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル・フィルタ類は初期 30 時間（ミッション，HST は 10 時間）で交換してください。
2. チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。チェーンやベルト類は初期 10 時間（ミッション駆動ベルトは 5 時間），クローラは初期 5，及び 10 時間で張り調整をしてください。
（交換したときも同様です。）

■廃棄物の処理について

警 告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

■洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤まると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注　意

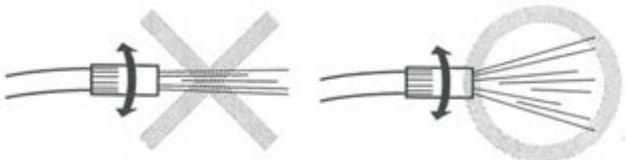
洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1. **電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引起こすおそれがあります。**
2. **マフラ，排気管や周辺の断熱材の破損・はがれにより，火災を引起こすおそれがあります。**
3. **油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**

重　要

＊ 洗車のしかたが不適切な場合，以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。
[例]
(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内，キャビン室内等への浸入による故障
(3) クローラ，タイヤ，オイルシール等のゴム類，化粧カバー等の樹脂部品，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁

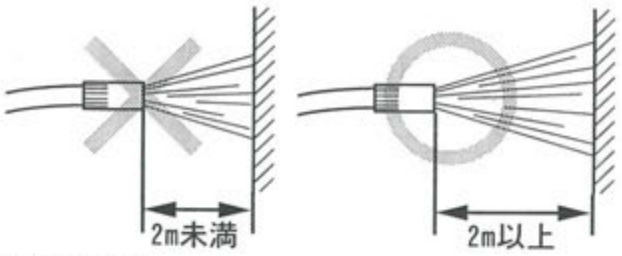


直射　　拡散

1AGACBRAP067A

＊ 直接オルタネータに水や油類をかけないでください。発電不良の原因になります。

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

■使用者が行なってはいけない修理

下記部位に異常があるときは，購入先に必ず連絡して修理を依頼してください。

- エンジン本体
- トランスミッション
- ギヤ(ベベルギヤを含む)を内蔵したケース類
- 油圧系統（HST 含む）
- 電気部品と電気系統

重　要

＊ 分解・調整・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また，メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。

メンテナンス

■定期点検一覧表

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆エンジン部				
ファン駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	129 ☆
	交換	250 時間ごと		
燃料噴射ノズル開弁圧	点検	1500 時間ごと	全型式	☆
バルブクリアランス	調整	800 時間ごと	全型式	☆
燃料噴射管	掃除	200 時間ごと	全型式	☆
エアクリーナエレメント	掃除	50 時間ごと	全型式	121
	交換	250 時間ごと		
インレットパイプ（エアクリーナ）	締付け	100 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	☆
	交換	250 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
インレットマニホルド	点検	200 時間ごと	全型式	☆
燃料フィルタアッシ	交換	250 時間ごと	全型式	124
オイルフィルタカートリッジ	交換	初回：30 時間後，それ以降 200 時間ごと（エンジンオイルの交換が２回目のとき，同時交換）	全型式	124
燃料パイプ	締付け	100 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	☆
	交換	250 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
燃料こしあみ	掃除	100 時間ごと	全型式	114
オイルドレーンゴムホース	締付け	100 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	☆
	交換	250 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
ラジエータホース	締付け	100 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	☆
	交換	250 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
各ホース，パイプの締付けバンド	締付け	100 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	☆
	交換	250 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
防じんあみ	掃除	5 時間ごと	全型式	123
ラジエータフィン	掃除	50 時間ごと	全型式	123

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重 要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆走行・操作部				
ミッション駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：５時間後，それ以降 50 時間ごと	全型式	130 ☆
	交換	150 時間ごと		
駐車ブレーキ	調整	50 時間ごと	全型式	126
アクセルワイヤ	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと	全型式	
ステアリングワイヤ	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		
刈取昇降ワイヤ	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	☆
	交換	250 時間ごと		
ナローガイドワイヤ	調整	初回又は，交換後：10 時間後，それ以降 50 時間ごと	全型式	☆
	交換	150 時間ごと		
ミッション・HST オイルフィルタカートリッジ	交換	初回：10 時間後，２回目：50 時間後， それ以降 200 時間ごと （ミッション・HST オイル交換が２回目のとき同時交換）	全型式	125
クローラ	調整	初回又は，交換後：５時間後，それ以降 10 時間ごと	全型式	155 ☆
	交換	250 時間ごと		
◆刈取部				
刈取駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：10 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	130 ☆
	交換	250 時間ごと		
補助搬送（突起付）ベルト	調整	初回又は，交換後：10 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	132 ☆
	交換	500 時間ごと		
引起しチェーン	交換	自動テンションのラチェット歯の終端部で交換	全型式	136
引起し爪	交換	250 時間ごと	全型式	☆
引起しローラ	交換	250 時間ごと	全型式	☆
右引起し駆動チェーン	交換	250 時間ごと	全型式	☆
穂先供給チェーン	交換	250 時間ごと	全型式	137 ☆
穂先供給搬送爪	交換	250 時間ごと	全型式	☆
株元供給チェーン	交換	250 時間ごと	全型式	137 ☆
刈刃	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	139 ☆
	交換	200 時間ごと		
刈刃駆動ベアリング	点検	20 時間ごと	全型式	☆
	交換	100 時間ごと		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重 要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆刈取部				
株元センサ	交換	500時間ごと	全型式	☆
穂先センサ（上，下）	交換	500時間ごと	全型式	☆
パッカ（スターホイール）のトルクリミッタ	調整	パッカ（スターホイール）交換又は，分解調整後はトルクリミッタを調整	全型式	154 ☆
	交換	500時間ごと		
◆脱こく部				
脱こく駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：10時間後，それ以降50時間ごと	全型式	131 ☆
	交換	150時間ごと		
こぎ胴駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：10時間後，それ以降50時間ごと	全型式	133 ☆
	交換	150時間ごと		
トウミ駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：10時間後，それ以降50時間ごと	全型式	132 ☆
	交換	150時間ごと		
1番・2番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：10時間後，それ以降50時間ごと	全型式	134 ☆
	交換	150時間ごと		
フィードチェーン	調整	初回又は，交換後：10時間後，それ以降100時間ごと	全型式	138 ☆
	交換	250時間ごと		
排わら穂先チェーン	交換	250時間ごと	全型式	☆
排わら穂先搬送爪	交換	150時間ごと	全型式	☆
排わら株元チェーン	交換	250時間ごと	全型式	☆
排わら入力チェーン	交換	250時間ごと	全型式	138 ☆
わら切刃	交換	200時間ごと	全型式	143
こぎ歯	交換	250時間ごと	全型式	142
受あみ（弓金含む）	交換	500時間ごと	全型式	85
1番縦ラセン軸	交換	250時間ごと	全型式	☆
1番横ラセン軸	交換	250時間ごと	全型式	☆
2番縦ラセン軸	交換	250時間ごと	全型式	☆
2番横ラセン軸	交換	250時間ごと	全型式	☆
脱こく入口ハンプ	交換	250時間ごと	全型式	☆
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	ホッパ仕様	147

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重 要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆グレンタンク部				
グレンタンク駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：10 時間後，それ以降 50 時間ごと	G 仕様	135 ☆
	交換	150 時間ごと		
もみ排出クラッチワイヤ	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	G 仕様	126 ☆
	交換	250 時間ごと		
底ラセン軸	交換	250 時間ごと	G 仕様	☆
縦ラセン軸	交換	250 時間ごと	G 仕様	☆
水平ラセン軸	交換	250 時間ごと	G 仕様	☆
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	G 仕様	147
◆カッタ部				
カッタ駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	134 ☆
	交換	250 時間ごと		
カッタ刃	交換	150 時間ごと	全型式	☆
◆電装部				
バッテリ	充電	インジケータの色が黒色のとき	全型式	148
	交換	インジケータの色が透明のとき		
ワイヤハーネス・バッテリコード	点検	50 時間ごと	全型式	152 ☆
	交換	破損しているとき		
ヒューズ・スローブローヒューズ	点検	100 時間ごと	全型式	152
	交換	破損しているとき		
ランプ（電球）	点検	100 時間ごと	全型式	154
	交換	破損しているとき		
ホーン・ホーンスイッチ	点検	100 時間ごと	全型式	154 ☆
	交換	破損しているとき		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重 要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

■給·注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	処置			
燃料	燃料タンク	給油	作業前又は，作業後	－	・容量……約11	ディーゼル軽油	114
オイル	エンジン	補給・交換		・初回 …30時間目 ・2回目以降 …100時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間 **[211A]**……1.35～2.05 **[213A]**……1.5～2.5	三菱純正オイル スーパーマルチ STOUオイル 又は，スーパーマルチ GDオイル	115
	集中注油 オイルタンク	補給		－	・容量……約0.5		98
	HST・トランスミッション ケース	補給・交換	50時間ごと	・初回 …10時間目 ・2回目 …50時間後 ・3回目以降 …100時間ごと	＊規定量 検油口からオイルがにじむまで ……約3.0	三菱純正オイル スーパーマルチ STOUオイル	117
	フィードチェーン駆動ケース	補給	－	分解時	・容量……約0.3	三菱純正オイル マルチSHP ギヤオイル	118
	こぎ胴駆動ケース				・容量……約0.05		118
	引起しチェーン	注油	作業前及び，作業後（洗車後）	－	適量	三菱純正オイル D10W-30	98
	右引起し駆動チェーン						98
	供給チェーン（株元，穂先）						98
	フィードチェーン						98
	排わらチェーン（株元，穂先）						98
	排わら（株元，穂先，入力）チェーンテンション部						98
水・液	冷却水	補水	作業前又は，作業後	2年ごと（冬季停止時は排出又は，不凍液を入れる）	・冷却水容量 ……約0.96 ＊リザーブタンク規定量 タンク側面の **L（下限）**と **H（上限）**の間 L ……約0.15 H ……約0.25	清水又は，不凍液	120

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重 要

［各部への補給と交換］

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**三菱純正オイル・グリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期（アワメータ表示時間） 点検	点検・処置時期（アワメータ表示時間） 処置	容量・規定量（L）	種類	参照ページ
グリース	**◆刈取部**						
	刈刃ギヤケース	補給	分解時	－	適量	リチウムグリス	☆
	パッカ（スターホイール）駆動ケース						
	刈取ギヤケース						
	供給ギヤケース						
	引起しギヤケース						
	ベベルギアケース		100時間ごと				
	供給ガイド（こぎ深さ）	塗布	作業前及び，作業後（洗車後）	－			
	サポートスプリングガイド	補給		50時間ごと			
	◆脱こく部						
	排わらベベルケース	補給	分解時	－	適量	リチウムグリス	☆
	1番縦・横ラセン						
	2番縦・横ラセン						
	◆グレンタンク部						
	グレンタンク駆動ケース	補給	分解時	－	適量	リチウムグリス	☆
	オーガケース1						
	オーガケース2						
	オーガケース3						
	オーガケース2・3 接続回動しゅう動部	塗布					

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重 要

［各部への補給と交換］

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**三菱純正オイル・グリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料，オイル，グリースの点検･補給･交換

注　意

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ 燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。
＊ 燃料やオイルを補給又は，交換したあと，こぼれた燃料やオイルは必ずきれいに拭取ってください。また，燃料もれや油もれがあるときは購入先に連絡してください。

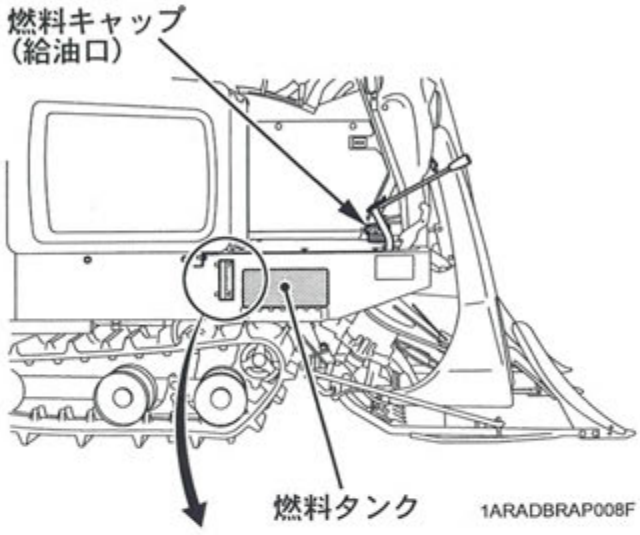
重　要

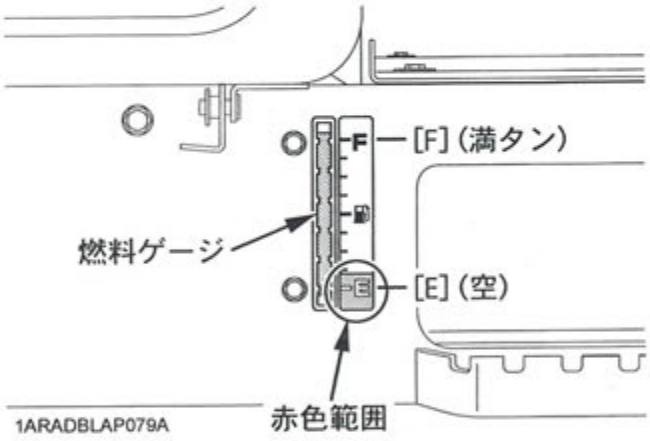
＊ 点検するときは，水平で平坦な場所にコンバインを移動して行なってください。コンバインが傾いていると正しいオイルの量が測定できません。
＊ コンバインの故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
- 廃油は使用しないでください。
- オイルを補給するときは，現在使用しているオイルと同じメーカ・同じ品質（粘度など）のオイルを補給してください。また，異なるメーカ・異なる品質（粘度など）のオイルを使用するときは，オイルを全て排出してから新しいオイルと交換してください。
- 燃料やオイルを補給・交換するときは，ゴミや異物の混入を防ぐため，給油口付近を掃除してください。また，給油口からゴミなどの異物を入れないでください。
- オイルを補給するとき，規定量の上限以上にオイルを補給しないでください。
- 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**三菱純正オイル･グリース**を使用してください。

■燃料の補給

ステップ下側にある燃料タンクの後部右側面にある燃料ゲージ（液面ゲージ）がラベル赤色範囲の**[E]**（空）に近づいたときは，給油してください。

◆ 点検





補　足

＊ 燃料の残量が **[E]**（空）に近づいたとき，機体が傾く場所（傾斜地やあぜ越えなど）で走行すると燃料切れとなりエンジンが停止することがありますので注意してください。

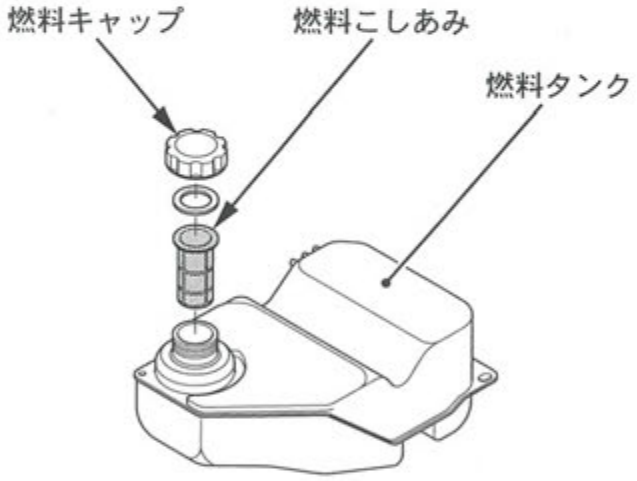
◆ 補給

燃料の補給を行なうときは，燃料キャップを取外してください。補給後は，燃料キャップを取付けてください。

燃料の種類	燃料タンクの容量
ディーゼル軽油	約 11 L

重 要

* 下記のような燃料を使用すると，エンジンの故障の原因となるため，使用しないでください。
  - 古い燃料
  - 錆，泥，水，ゴミなどの異物が混入した燃料（錆が発生している容器内に保管していた場合など）
  - 軽油以外の液体が混入した燃料（水など他の液体が混入した容器内に保管していた場合など）
* 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。



1ARADBLAP298A

■エンジンオイルの点検・補給・交換

注 意

＊ 交換をするときは，エンジンを必ず止めて，エンジンがじゅうぶん冷えてから，メインスイッチのキーを抜いて行なってください。ヤケドするおそれがあります。

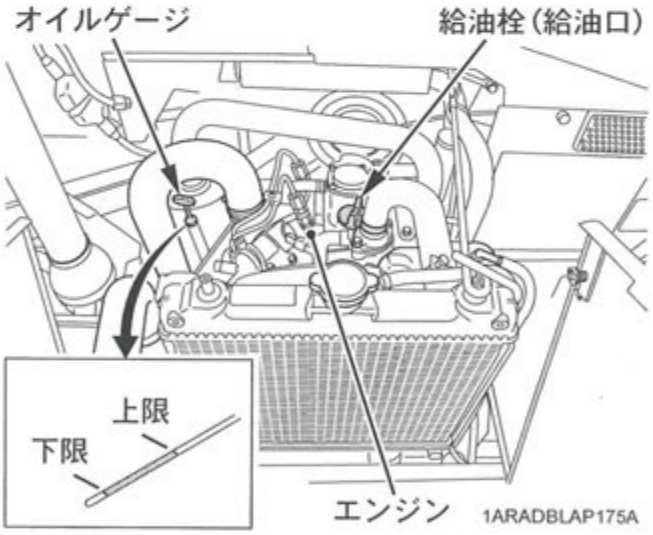
エンジンルームを開いてください。点検・補給・交換後は，エンジンルームを閉じてください。

重 要

* エンジンオイルをオイルゲージの**上限**以上給油しないでください。エンジントラブルの原因となります。

◆ 点検・補給

エンジン停止後，数分たってからオイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいまで差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



1ARADBLAP175A

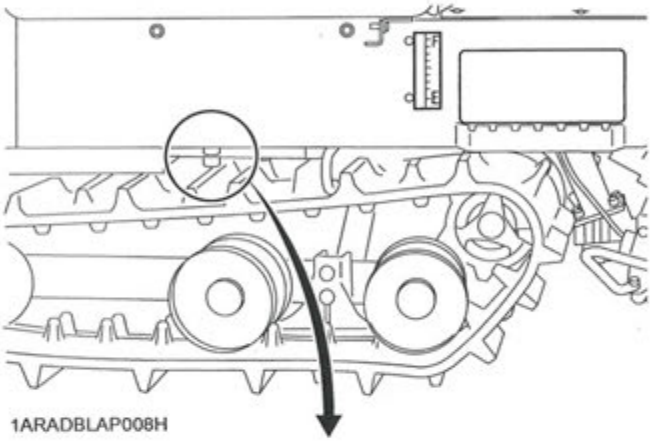
◆ 交換

補　足

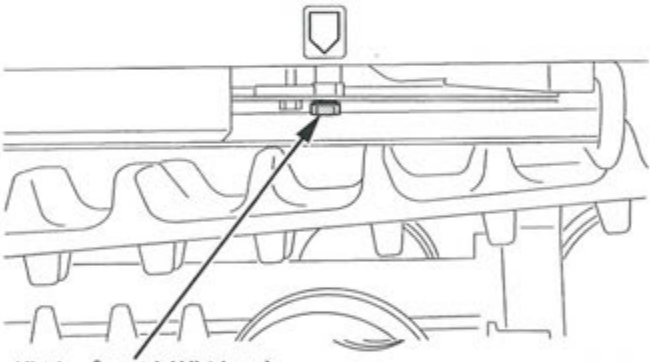
＊ オイル交換が２回目のときに，エンジンオイルフィルタカートリッジも交換してください。

● 排油のしかた

1. 給油栓を外します。
2. 排油プラグを外し，排油口からオイルを排出します。



1ARADBLAP008H



排油プラグ(排油口)　1ARADBLAP176A

3. 排油プラグを取付けます。

重　要

＊ 排油時にオイルがクローラに付着しないようにしてください。クローラの早期劣化の原因となります。
＊ 排油プラグを締め忘れると油もれが発生し，オイルがクローラに付着するとクローラが早期に劣化したり，オイルが少なくなるとエンジントラブルの原因となります。

● 給油のしかた

1. 給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けます。

重　要

＊ 指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。また，気温によりオイルを選んでください。

オイルの種類	規定オイル容量
三菱純正オイル マルチ STOU オイル又は， マルチ GD オイル	・上限線 **[211A]**……約 2.05L **[213A]**……約 2.5L ・下限線 **[211A]**……約 1.35L **[213A]**……約 1.5L

2. エンジンを始動し，アイドリング状態で約１分間運転します。
3. エンジンを停止したあと，５分間以上たってからオイル量の点検を行ないます。
4. オイルが不足しているときは，規定量になるまでオイルを追加補給します。

■トランスミッションケースオイルの点検・補給・交換

注　意

＊ 刈取部を上げて点検・補給・交換を行なうときは，刈取下降ロックレバーを上げて，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

点検を行なうときは，刈取部を最下降位置にしたあと，エンジンルームを開いてください。点検・補給・交換後は，エンジンルームを閉じてください。

重　要

＊ 点検するとき，刈取部が上昇していたり機体が傾いていると，正確な量を示しません。

◆ 点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

補　足

＊ 排油プラグと検油プラグのボルトサイズはM14 × 15 です。それ以外のボルトは外さないでください。

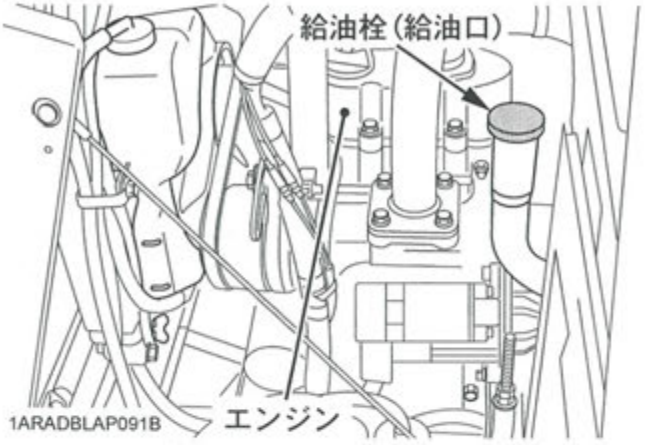
◆ 交換

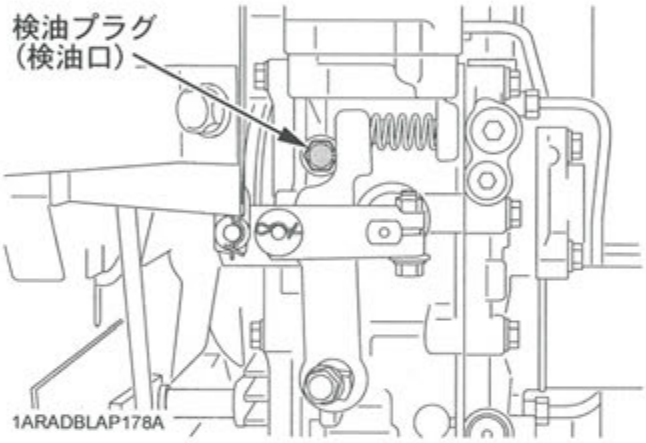
● 排油のしかた

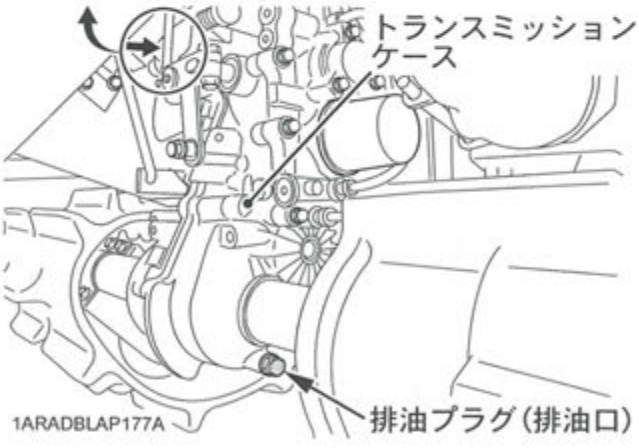
給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。







オイルの種類	規定オイル容量
三菱純正オイル スーパーマルチ STOU オイル	約 3.0L

重　要

＊ 給油したあとエンジンを約１分回転させて，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加補給してください。

■フィードチェーン駆動ケースオイルの補給

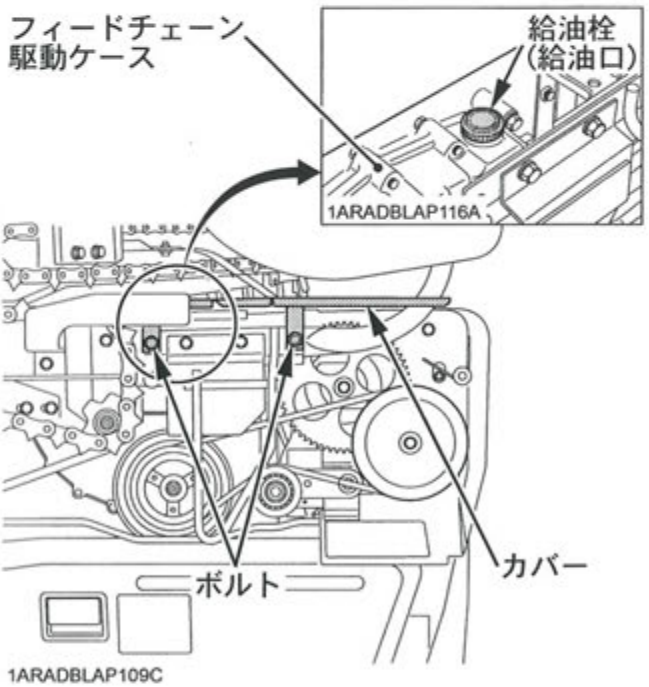
警　告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴を開くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

こぎ胴を開き，左サイドカバー上を外したあと，ボルト２本を取外してカバーを外します。

◆ 補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。補給後は，カバーを取付け左サイドカバー上を取付けたあと，こぎ胴を閉じてください。

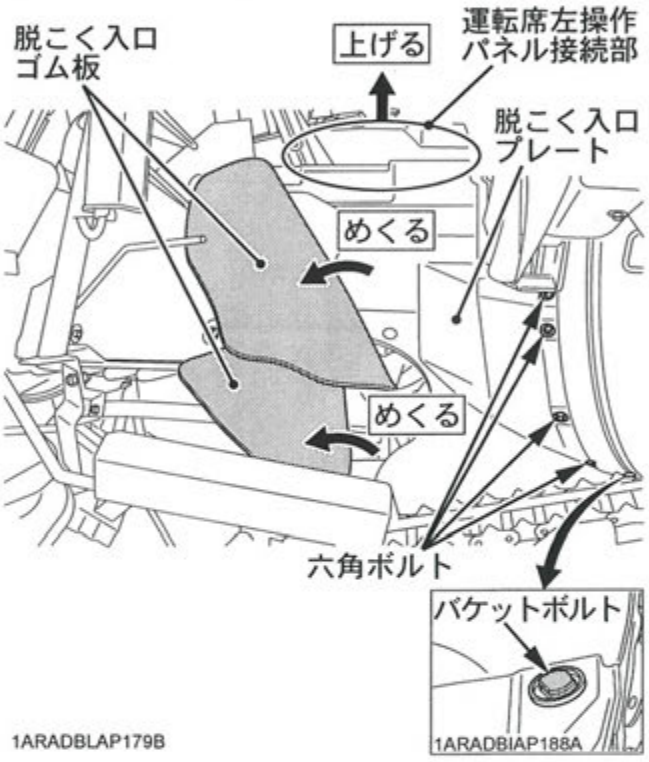


オイルの種類	オイル容量
三菱純正オイル マルチ SHP ギヤオイル	約 0.3L

■こぎ胴駆動ケースオイルの補給

こぎ胴を開いたあと，脱こく入口プレートを取外してください。

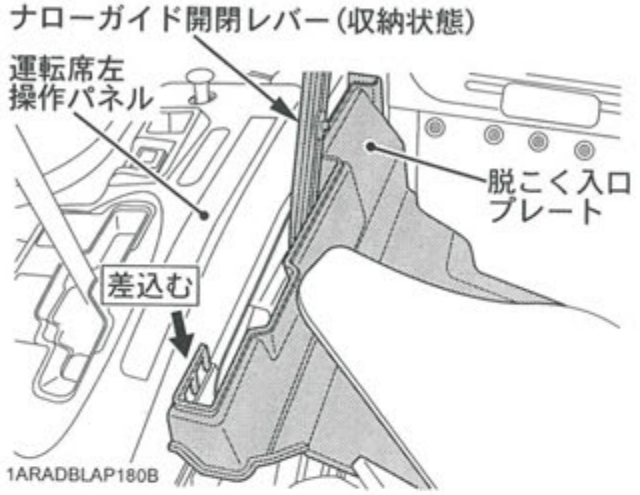
1. こぎ胴を開きます。
2. 脱こく入口プレートの六角ボルトとバケットボルトを取外します。
3. 脱こく入口ゴム板をめくり，脱こく入口プレートの運転席左操作パネルに接続している部分を上げ，各部の引掛かりに注意しながら脱こく入口プレートを取外します。

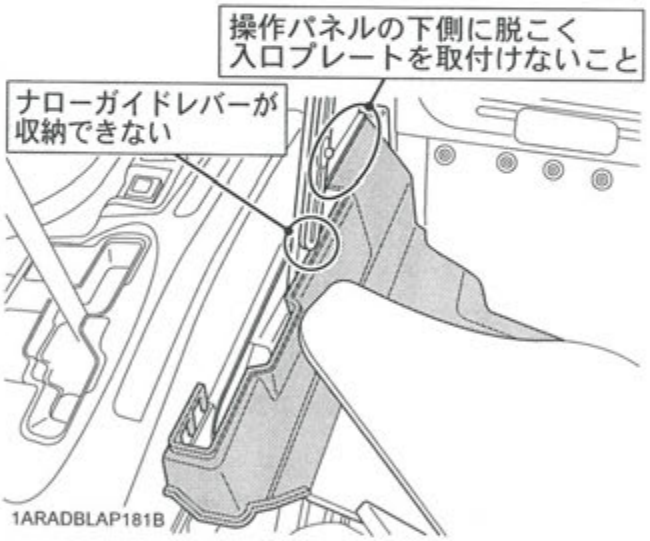


4. オイル補給後は逆の手順で脱こく入口プレートを取付けます。
5. こぎ胴を閉じます。

補　足

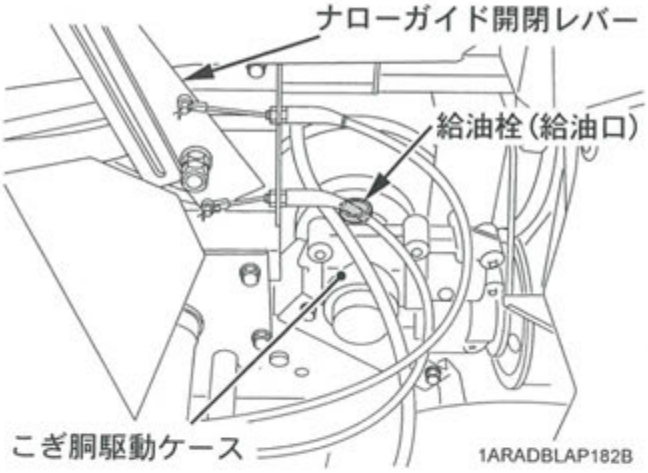
＊ 運転席左操作パネルに脱こく入口プレートを取付けるとき，操作パネルの後側の取付部に脱こく入口プレートを上側から必ず取付けてください。脱こく入口プレートを下側から取付けるとナローガイド開閉レバーが脱こく入口プレートに接触し，収納できなくなります。





◆ 補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。



オイルの種類	規定オイル容量
三菱純正オイル マルチ SHP ギヤオイル	約 0.05L

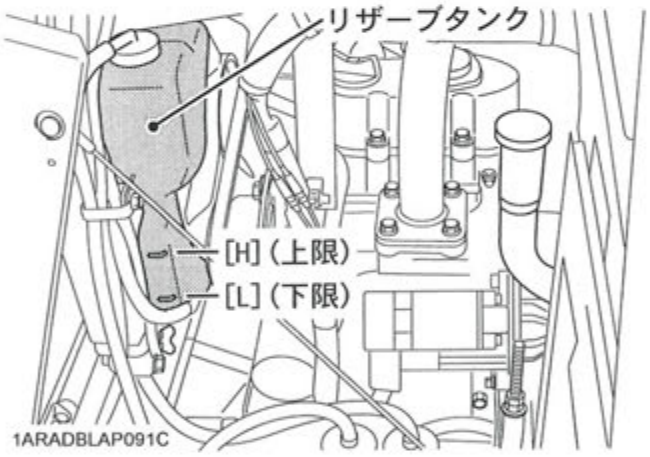
■ラジエータ冷却水の点検・補給・交換

注 意

＊ ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，エンジン停止後じゅうぶん冷えてから，メインスイッチのキーを抜いて行なってください。

◆ 点検・補給

エンジンルームを開いたあと，リザーブタンク水量が **[LOW]**（下限）と **[FULL]**（上限）の間にあるか確かめます。**[LOW]**（下限）の線より下にあるときは，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。点検・補給後は，リザーブタンクのキャップを取付けたあと，エンジンルームを閉じてください。



重 要

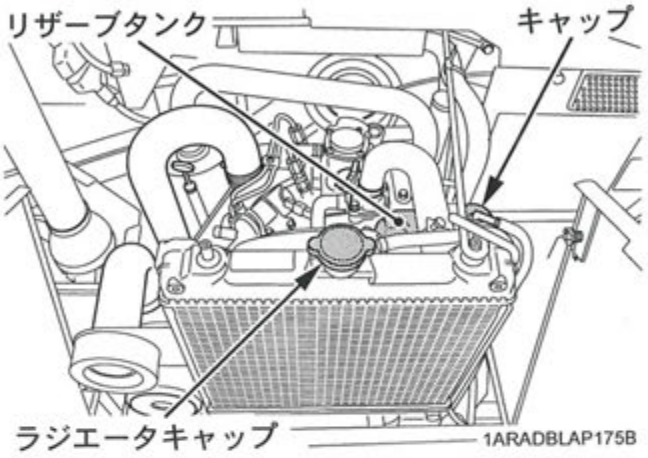
＊ オーバーヒート時は，ラジエータ内の冷却水の水量を確認し，水量が不足しているときは，清水を補給してください。
＊ 冷却水が自然に不足したときは，必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

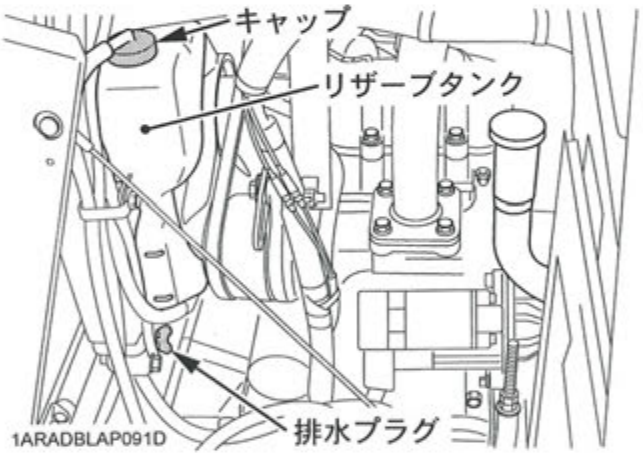
補 足

＊ リザーブタンクの規定量は，**[L]**（下限）で約 0.15L，**[H]**（上限）で約 0.25L です。
＊ **[H]**（上限）の線以上は補給しないでください。

◆ 交換

1. ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと，ラジエータキャップを外して排水します。
2. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取外したあと，リザーブタンクを上側に抜いて取外し，排水します。
3. 水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。





4. 排水プラグを締付けたあと，目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重　要

* 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
* 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
* 不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。
* 異なるメーカの不凍液を混用しないでください。エンジンの故障の原因となります。
* 排水プラグを締め忘れると水もれが発生したり，排水プラグ部を機体に取付け忘れると，ホースが破損するおそれがあります。

補　足

* 不凍液混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はエチレングリコール（EG）タイプの**ロングライフクーラント**をご使用ください。

● 不凍液混合比率表

外気温度（℃）		-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43
比率	水（%）	85	80	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	15	20	25	30	35	40	45	50	55

※ 出荷標準：不凍液 35%

※ 冷却水容量：約 0.96L

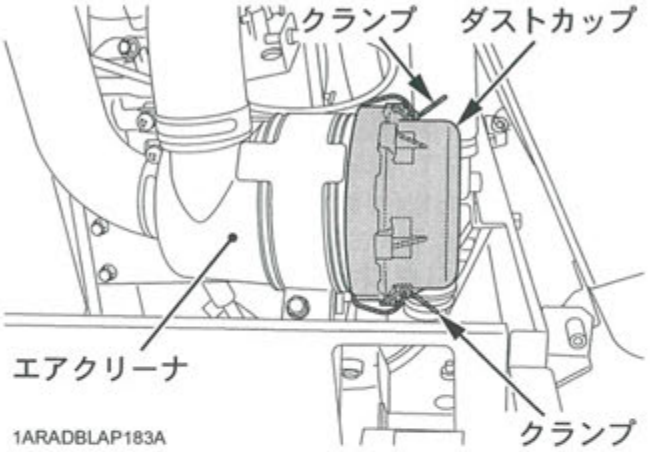
※ 新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，５分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

5. ラジエータキャップ及びリザーブタンク，キャップを取付けます。
6. エンジンルームを閉じます。

■エアクリーナの点検･掃除･交換

エアクリーナエレメントの点検・掃除・交換を行なうときは，ダストカップを取外してください。

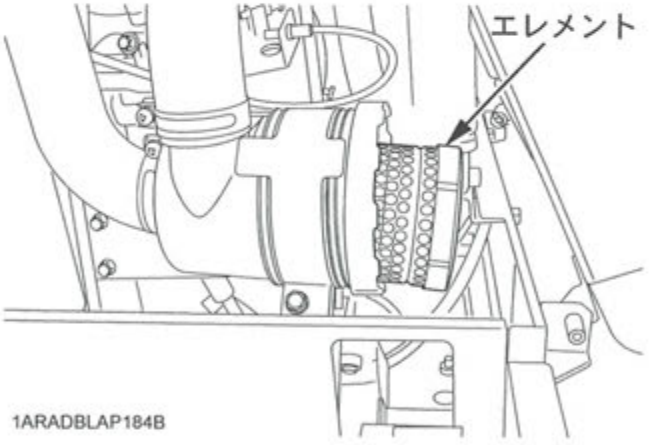
1. エンジンルームを開きます。
2. クランプ２箇所を外してダストカップを取外します。



1ARADBLAP183A

◆ 点検・掃除・交換

エレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。エレメントの掃除は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や運転時間が 250 時間を越えたときは，交換してください。作業終了後はダストカップを取付けてください。



1ARADBLAP184B

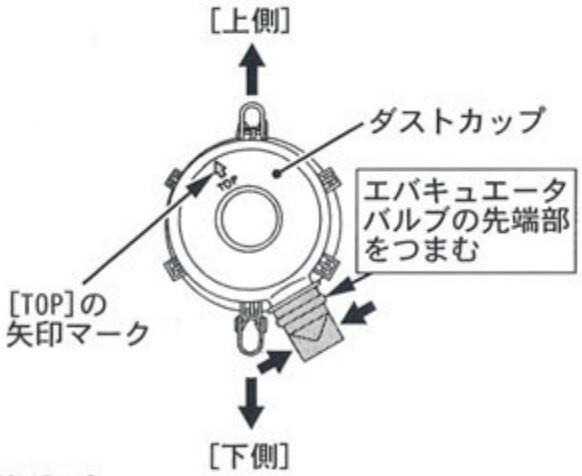
3. エンジンルームを閉じます。

重　要

* 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
* エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。
* エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。
* エレメントを取付けたあと，ダストカップの取付け方向に注意してください。
* エレメントを掃除する場合，エアの圧力は205kPa（2.1kgf/cm²）をこえないよう注意し，エアガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。
  また，エアはエレメントの内側から外側に通してください。

補　足

* エアクリーナの点検を行なったときには，ダストカップのエバキュエータバルブの先端部をつまんでダストカップ内に溜まったゴミを排出してください。
* ダストカップを取付けるときは，下図のように**[TOP]**の矢印マークを左に30度傾けた状態に取付けてください。また，ダストカップを乗り上げた状態で取付けるとすき間からほこりが侵入してエンジンの故障の原因となります。



1ARADBLAP200B

■パイプ，ホース類の点検

注　意

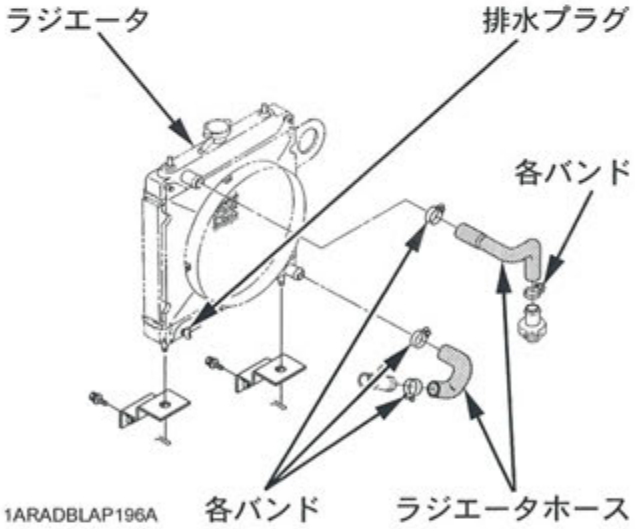
＊ 運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹出し，ヤケドをするおそれがあります。
＊ 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。
＊ 使用者は交換作業を行なわないでください。

◆ 点検

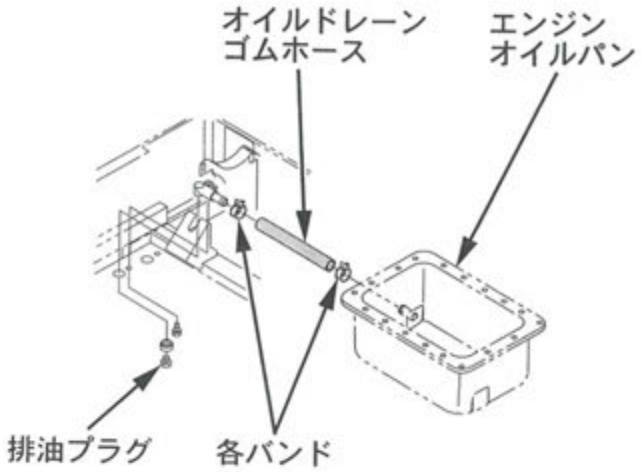
エンジン，エアクリーナ，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重　要

* オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付きを起します。
* 油もれや水もれをしていなくても，**2年経過しているときや劣化の激しい場合**は購入先に連絡して交換してください。

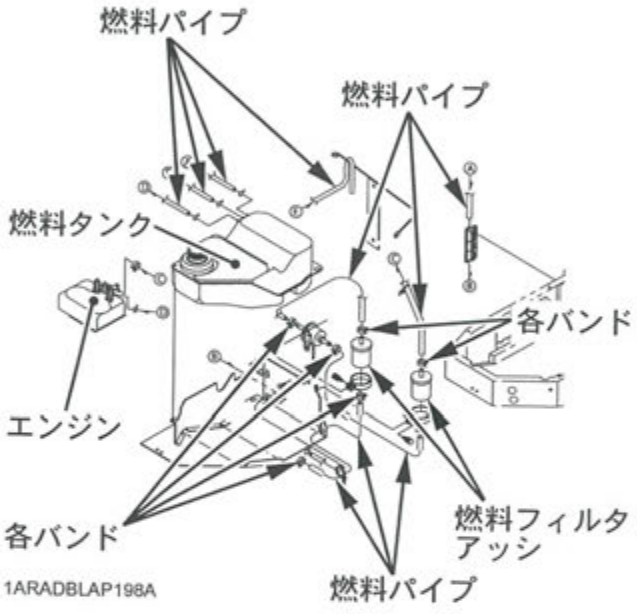


1ARADBLAP196A

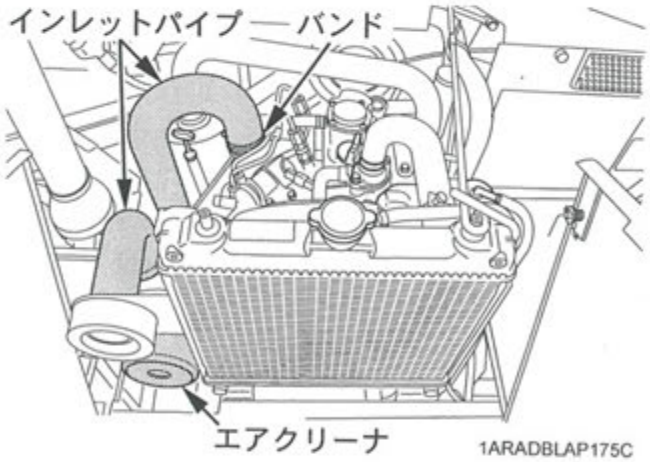


1ARADBLAP197C

※イラストは213N



1ARADBLAP198A



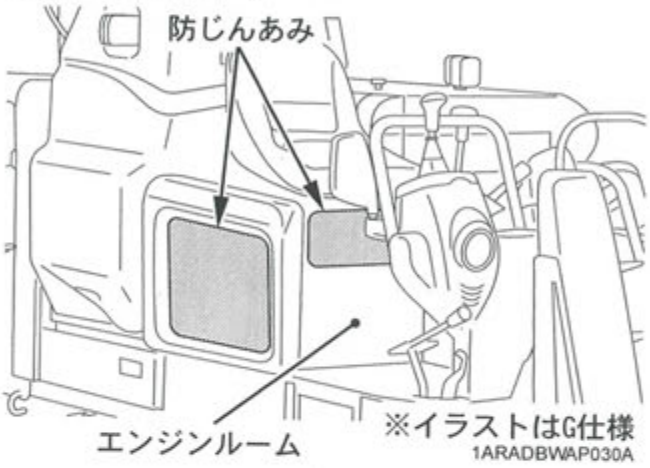
1ARADBLAP175C

■防じんあみ，ラジエータフィンの掃除

防じんあみやフィンの掃除を行なうときは，エンジンルームを開いてください。掃除後はエンジンルームを閉じてください。

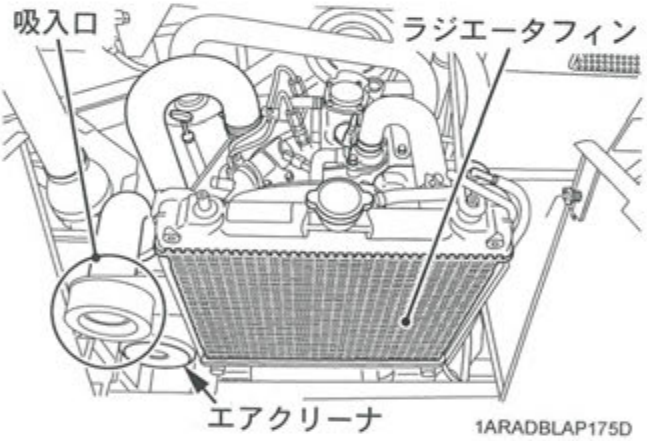
◆ 掃除

圧縮空気を吹付けるなどして，防じんあみ，ラジエータフィンやエンジン付近に付着したゴミを取除いてください。



※イラストはG仕様

1ARADBWAP030A



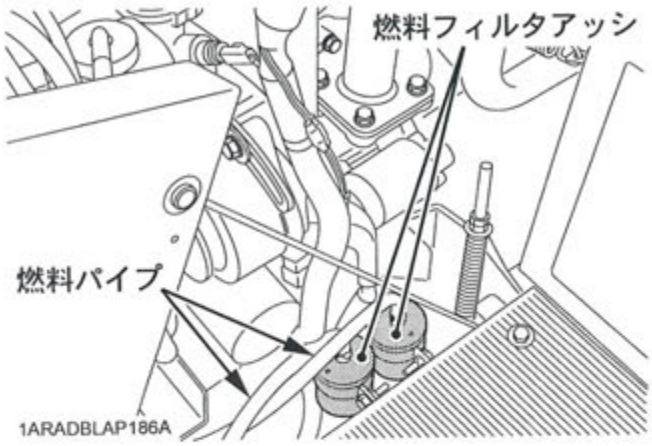
1ARADBLAP175D

重 要

* ヘラやドライバなど固いものや高圧洗車機を使用して，ラジエータフィンは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。
* エアクリーナの吸入口から水が入ると，エンジンの不調又は，故障の原因となりますので，水が入らないように吸入口を水を通さないもので覆ってください。

■燃料フィルタアッシの交換

燃料フィルタカートリッジの交換を行なうときは，エンジンルームを開いてください。交換後はエンジンルームを閉じてください。



◆ 交換

運転時間が250時間を越えたときは燃料フィルタアッシを交換してください。

重　要

＊ フィルタ下部に水が溜まっているときは，早目に交換してください。
＊ 燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ 交換後は，メインスイッチのキーを**［入］**位置にすると約5～10秒で自動的にエア抜きされます。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

2回目のエンジンオイルの交換(115ページ参照)と同時に交換してください。交換するときは，エンジンルームを開いてください。

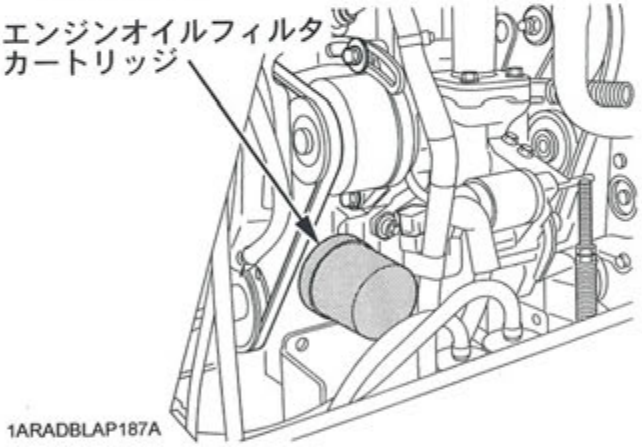
◆ 交換

1. エンジンルームを開きます。
2. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

3. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
4. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，5分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。



重　要

＊ 新しいカートリッジは0リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

5. エンジンルームを閉じます。

■ミッション，HST オイルフィルタカートリッジの交換

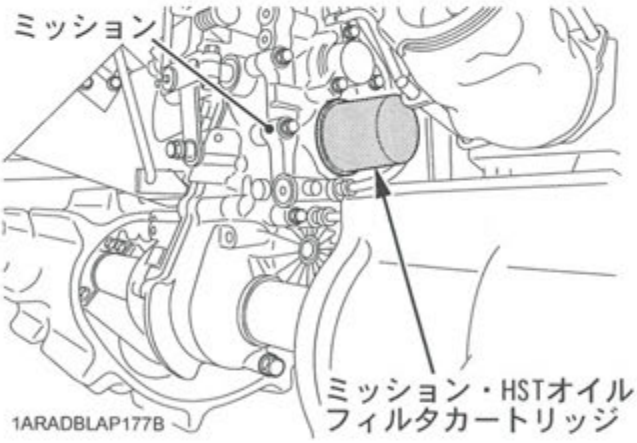
注 意

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 刈取部を上げて交換を行なうときは，刈取下降ロックレバーを［ロック］位置にして刈取部下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

1. ミッションオイルを排出します。(117 ページ参照)
2. 専用工具を使ってミッション･HSTオイルフィルタカートリッジを取外します。

補 足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。
＊ ミッション・HST オイルフィルタカートリッジを取外すとき，少しゆるめたあと，左・右に４～５回程度動かして，オイル抜きを行なってください。



3. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
4. 117 ページを参照し，オイルを規定量給油します。

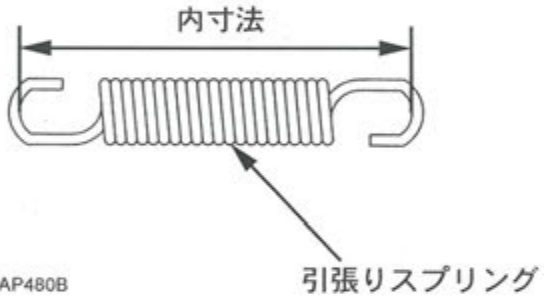
重 要

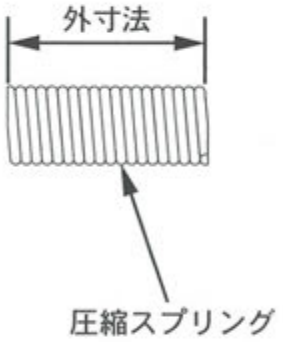
＊ 新しいカートリッジはＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ オイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，ミッションや HST の故障の原因となります。
＊ 給油したあとエンジンを約１分間以上負荷をかけずに回転させて，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加補給してください。

■各部ワイヤ，ロッドの点検・調整

補 足

＊ スプリングの取付け長さは，引張りスプリングの場合はフックの内寸法，圧縮スプリングの場合は外寸法を測定してください。





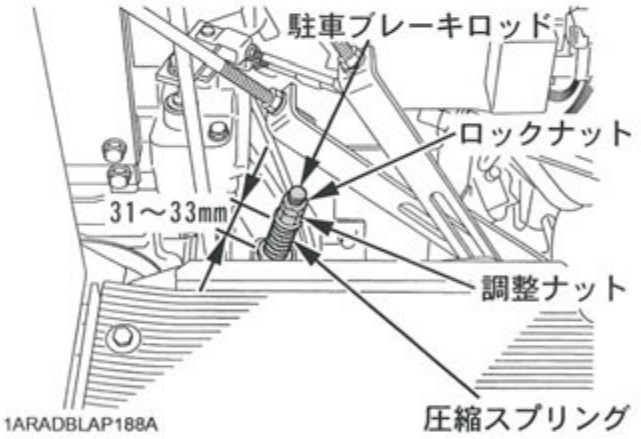
■駐車ブレーキロッドの点検・調整

駐車ブレーキレバーをフック部に掛けた状態で，圧縮スプリングの長さを31～33mmに調整します。

1. ステップ左側の側板を取外します。
2. 駐車ブレーキを掛けます。



3. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
4. ロックナットを締付けたあと，側板を取付けます。



5. 駐車ブレーキを解除します。
6. 調整後，駐車ブレーキが正常に作動するか再確認します。

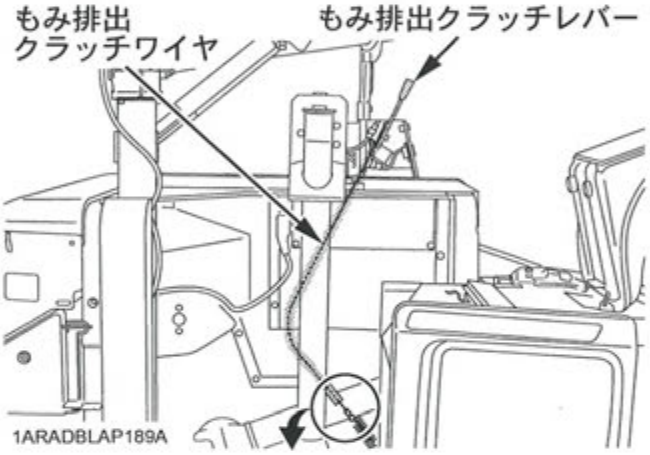
■もみ排出クラッチワイヤの点検・調整

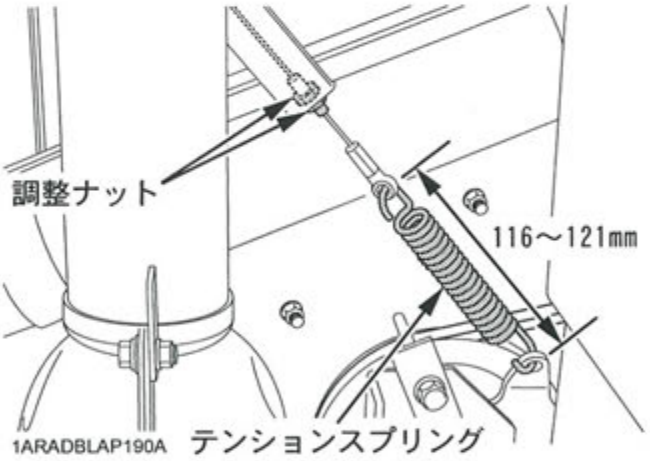
[G 仕様]

◆ 点検・調整

もみ排出クラッチレバーが［入］位置の状態で，テンションスプリングの長さを116～121mmに調整します。

1. グレンタンクを取外します。(90 ページ参照)
2. もみ排出クラッチレバーを［入］位置にしたあと，調整ナット２個をゆるめて調整を行います。
3. 調整ナット２個を締付けたあと，グレンタンクを取付けます。





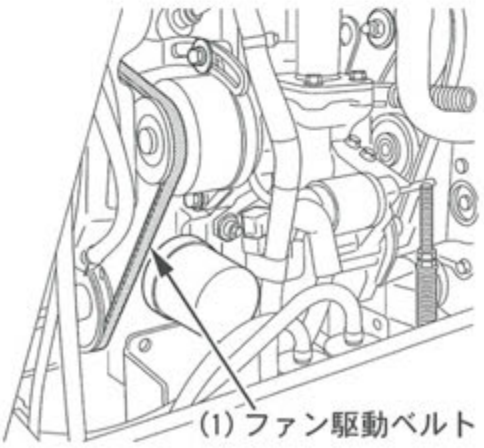
[G 仕様]

■各部ベルトの点検･調整

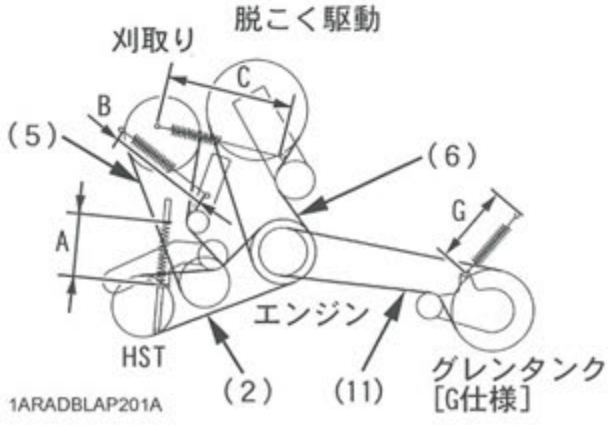
下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

点検箇所	図番	名称	適応機種	サイズ	本数（本／台）	張り調整		
						テンションスプリング取付け長さ（mm）		たわみ量（mm）
運転席・刈取部周辺	(1)	ファン駆動ベルト	[全機種]	A34.5 ブイベルト	1	－		5～10
	(2)	ミッション駆動ベルト	[全機種]	SB33 又は，LB33	1	A	※100～106	－
	(3)	補助搬送（突起付）ベルト（左）	[全機種]	－	1	－		3～6
	(4)	補助搬送（突起付）ベルト（右）		－	1			
	(5)	刈取駆動ベルト	[全機種]	SA34 コグ 又は，LA34 コグ	1	B	184～188	－
脱こく部・カッタ部周辺	(6)	脱こく駆動ベルト	[全機種]	SB37 又は，LB37	1	C	209～213	3～6
	(7)	トウミ駆動ベルト	[全機種]	SB38 又は，LB38	1	D	118～123	－
	(8)	こぎ胴駆動ベルト	[全機種]	SC79 又は，LC79	1	E	160～165	－
	(9)	1番・2番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト	[全機種]	SB103 又は，LB103	1	F	118～123	－
	(10)	カッタ駆動ベルト	[全機種]	SA39 又は，LA39	1	－		
グレンタンク部	(11)	グレンタンク駆動ベルト	[G仕様]	SA43 又は，LA43	1	G	116～121	－

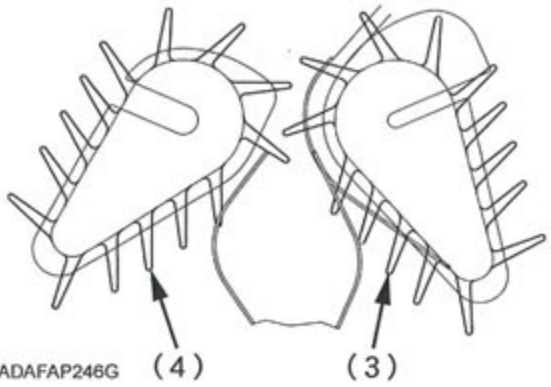
※ミッション駆動ベルトは，出荷又はベルト交換時は，初期伸び・なじみを考慮し，上記張り調整Aよりも強めに張り調整を行なっています。



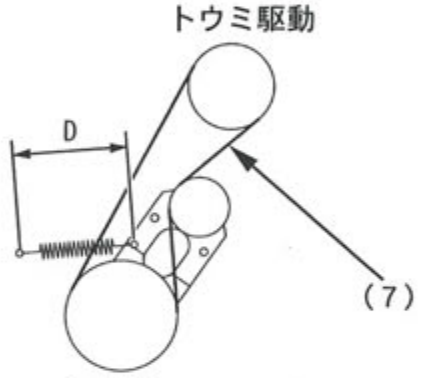
1ARADBLAP187E



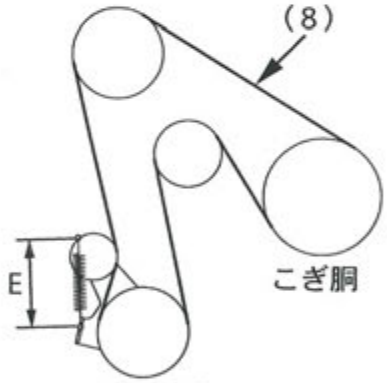
1ARADBLAP201A



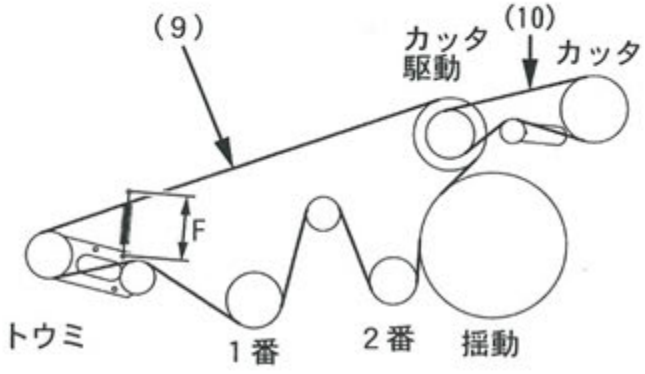
1ARADAFAP246G



1ARADBLAP202A



1ARADBLAP203A

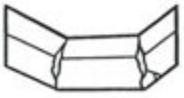


1ARADBLAP204A

◆ 点検

各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

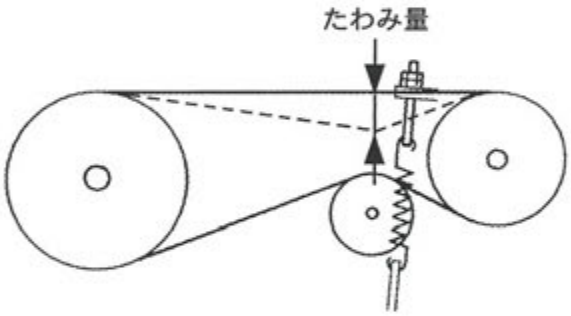
1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		
1ARADBEAP474A	1ARADBEAP475A	1ARADBEAP476A

2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間

○	×
	
1ARADBEAP477A	1ARADBEAP478A

3. ベルトの伸び（たわみ量）



1AEADAFAP441A

上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して修理を依頼してください。

重　要

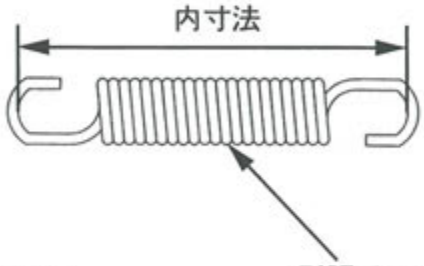
＊ ベルトは必ず三菱純正品を使用してください。

◆ 調整

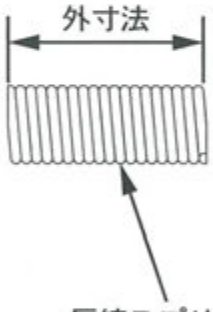
ベルトが伸びているとき（スリップが発生しやすい）は，張り調整を行なってください。

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，引張りスプリングの場合はフックの内寸法，圧縮スプリングの場合は外寸法を測定してください。



1ARADBEAP480B

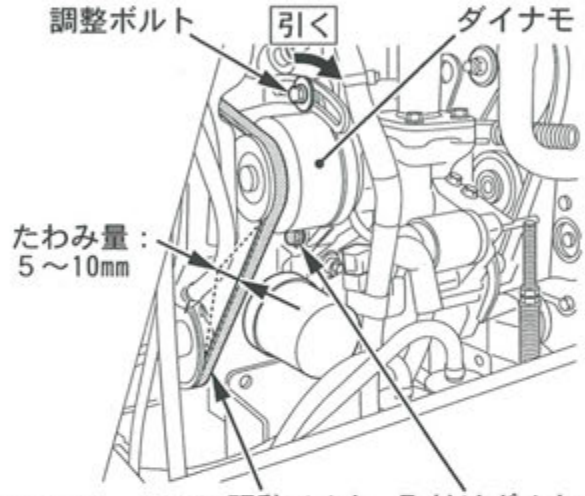


1ARADBLAP199A

■ファン駆動ベルトの点検･調整

指先でベルトの中央部を押したとき（約 60 ～ 70N {6 ～ 7kgf} の荷重）のたわみ量を 5 ～ 10mm に調整します。

1. エンジンルームを開きます。
2. ダイナモの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。
3. ダイナモを引っ張ります。
4. 調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。



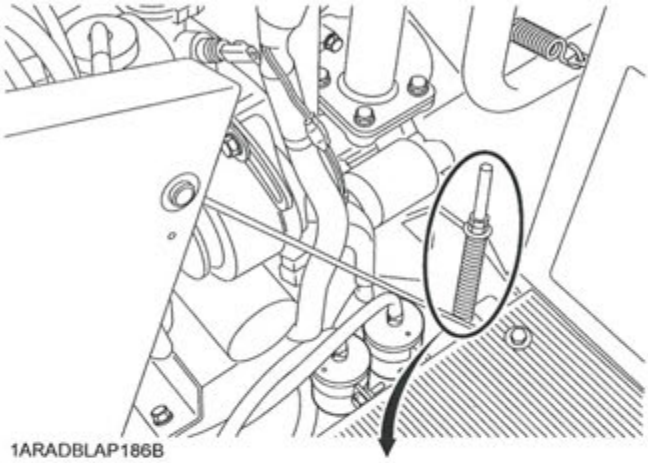
1ARADBLAP187F

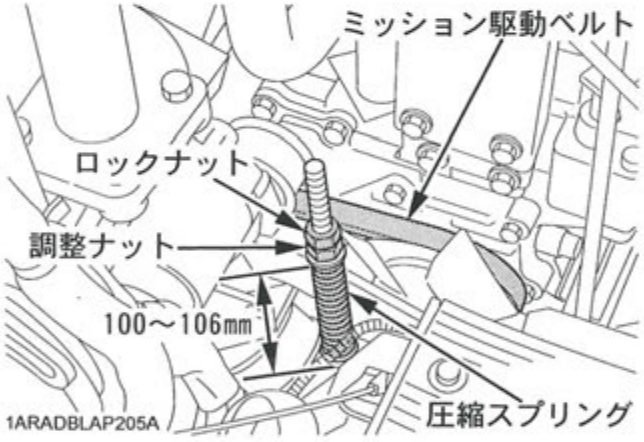
5. エンジンルームを閉じます。

■ミッション駆動ベルトの点検･調整

圧縮スプリングの長さを100～106mmに調整します。

1. エンジンルームを開きます。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けます。





4. エンジンルームを閉じます。

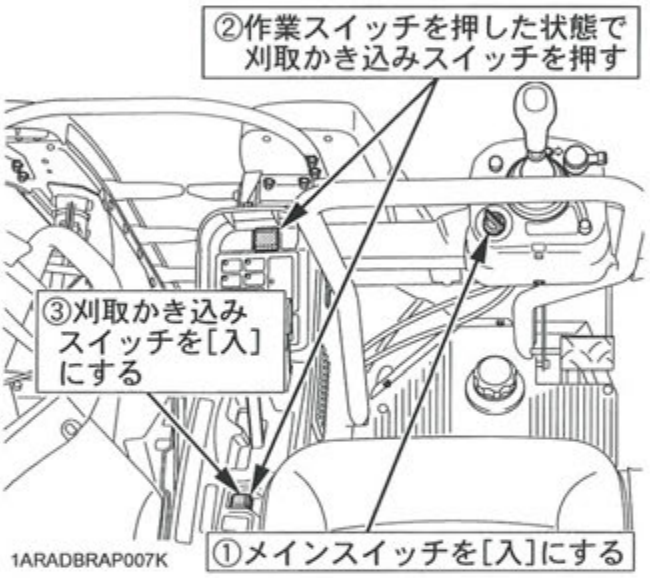
補　足

＊ 出荷又はベルト交換時は，初期伸び・なじみを考慮し，強めに張り調整を行なっています。

■刈取駆動ベルトの点検･調整

テンションスプリングの長さを184～188mmに調整します。

1. 刈取部を地面に着くまで降ろします。
2. エンジンを停止したあと，メインスイッチのキーを**［入］**位置にします。
3. 作業スイッチを押したままの状態で刈取かき込みスイッチを押して脱こくクラッチを**入**の状態にします。このとき，作業スイッチのランプは**点滅**，刈取かき込みスイッチは**消灯**状態となります。
4. 刈取かき込みスイッチを押して刈取りクラッチを**入**の状態にします。このとき，刈取かき込みスイッチは**点灯**状態となります。

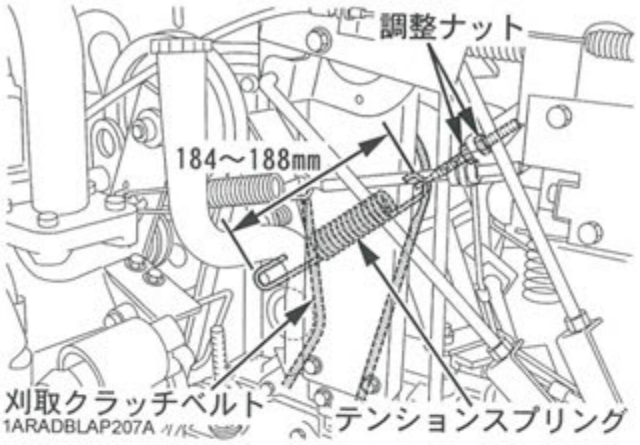


補　足

＊ エンジンが停止状態のとき，作業スイッチを押しただけでは脱こくクラッチは**［入］**の状態にはなりません。また，脱こくクラッチを**［入］**の状態にしないと，刈取かき込みスイッチを押しても刈取クラッチは**［入］**の状態にはなりません。

＊ 刈取かき込みスイッチを**［切］**にすると刈取クラッチが切れるため，テンションスプリングがゆるみます。

5. エンジンルームを開きます。
6. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
7. 調整ナットを締付けます。

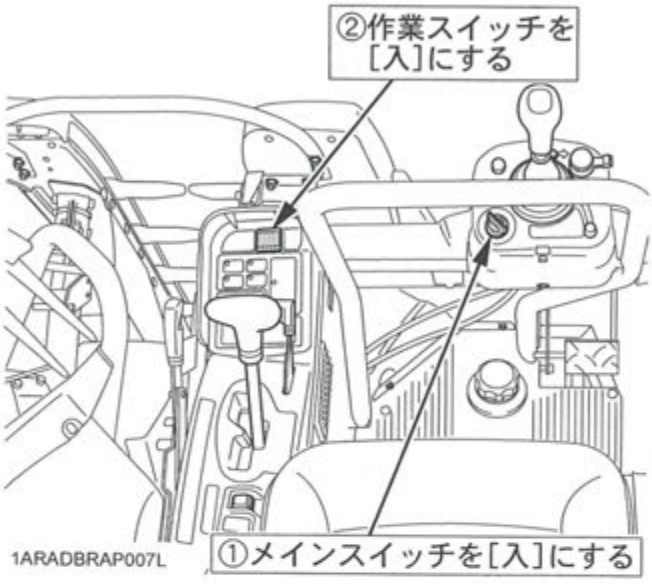


8. メインスイッチのキーを **[切]** 位置にします。
9. エンジンルームを閉じます。

■脱こく駆動ベルトの点検･調整

テンションスプリングの長さを，209 ～ 213mm に調整します。

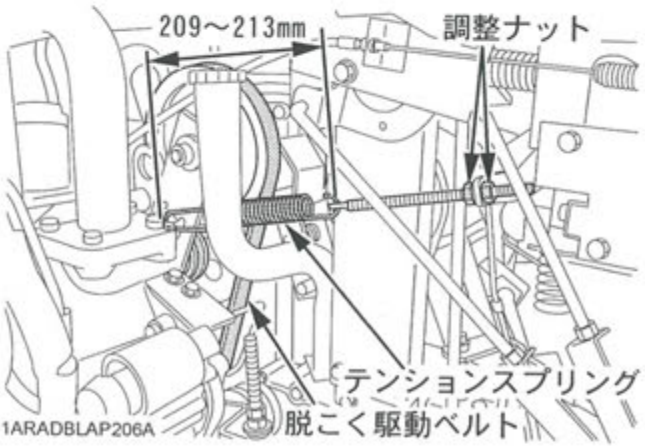
1. エンジンを停止したあと，メインスイッチのキーを **[入]** 位置にします。
2. **■刈取駆動ベルトの点検・調整**の手順の３，４を行ないます。(130 ページ参照)



補　足

＊ 脱こく駆動ベルトの調整は，刈取クラッチを**入**の状態で行なってください。
＊ 作業スイッチを **[切]** にすると脱こくクラッチが切れるため，テンションスプリングがゆるみます。

3. エンジンルームを開きます。
4. 調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。
5. 調整ナットを締付けます。

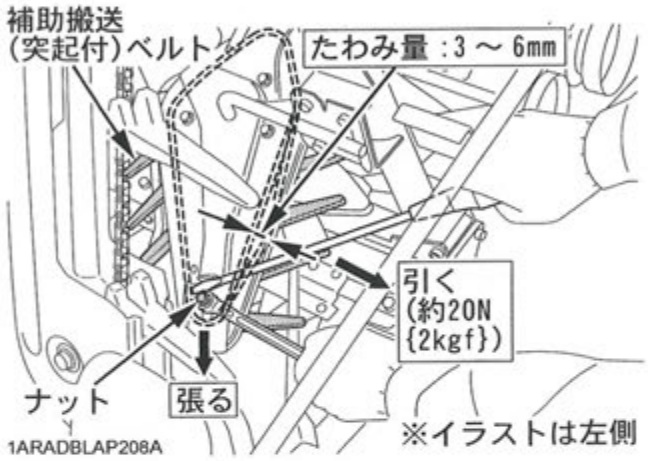


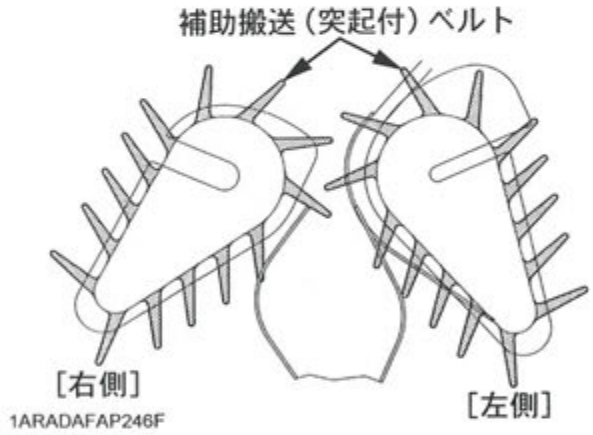
6. メインスイッチのキーを **[切]** 位置にします。
7. エンジンルームを閉じます。

■補助搬送（突起付）ベルトの点検･調整

指先でベルトの中央部を引いたとき（約20N{ 2 kgf}の荷重）のたわみ量を3～6 mmに調整します。

1. 引起しサイドカバー右・左を取外します。
2. ナットをゆるめます。
3. 下図のように固い棒（鉄の棒など）を切欠き部に差込み，張り方向に押しながらレンチでナットを締付けます。
4. 引起しサイドカバー右・左を取付けます。

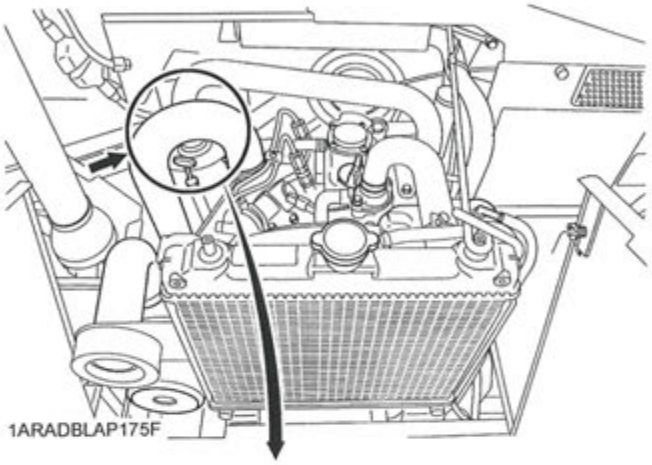


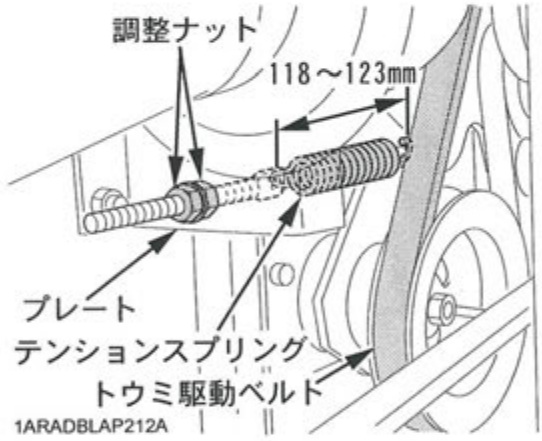


■トウミ駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを118～123mmに調整します。

1. エンジンルームを開きます。
2. プレートをはさんだ調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，エンジンルームを閉じます。

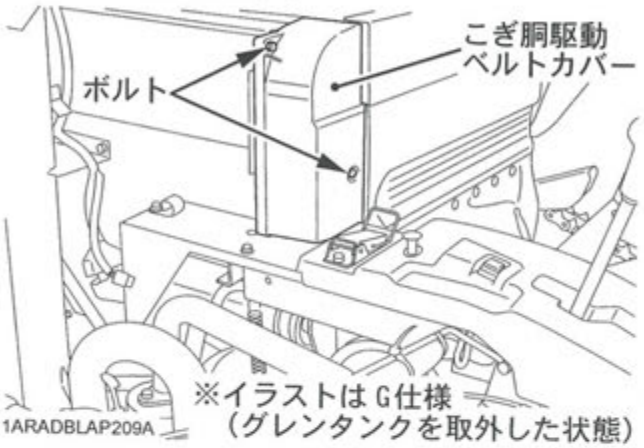




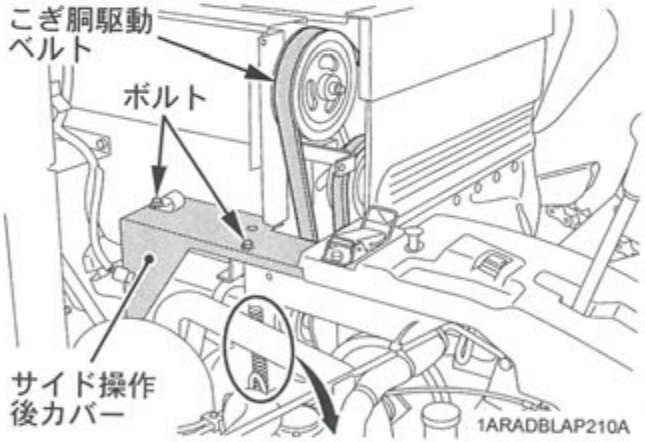
■こぎ胴駆動ベルトの点検·調整

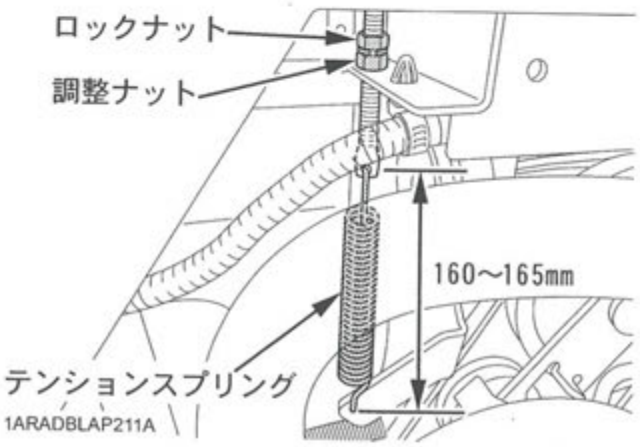
テンションスプリングの長さを160～165mmに調整します。

1. エンジンルームを開きます。
2. ボルトを取外したあと，こぎ胴駆動ベルトカバーを取外します。



3. ボルトを取外したあと，サイド操作後カバーを取外します。
4. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。





補　足

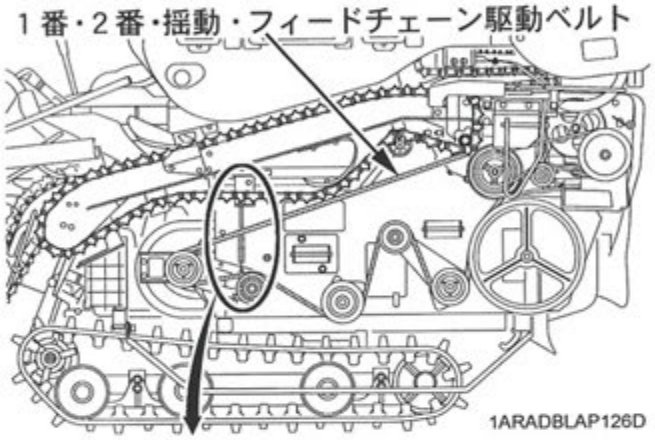
＊ 調整ナットとロックナットを締付けたあと，バネ座金のスキマがなくなっていることを確認してください。

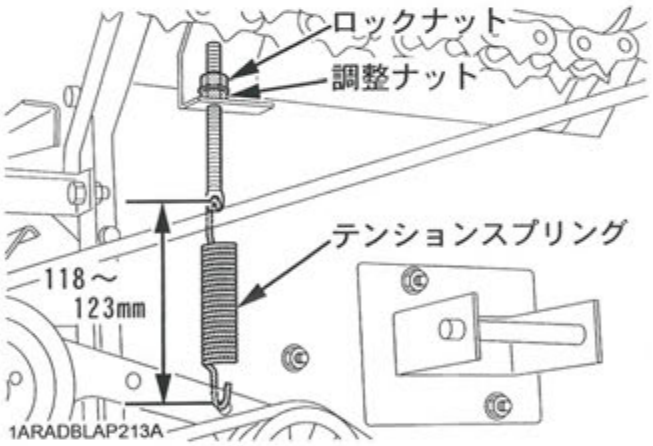
5. ロックナットを締付けたあと，サイド操作後カバー及びこぎ胴駆動ベルトカバーを取付けます。
6. エンジンルームを閉じます。

■1番，2番，揺動，フィードチェーン駆動ベルトの点検･調整

テンションスプリングの長さを118～123mmに調整します。

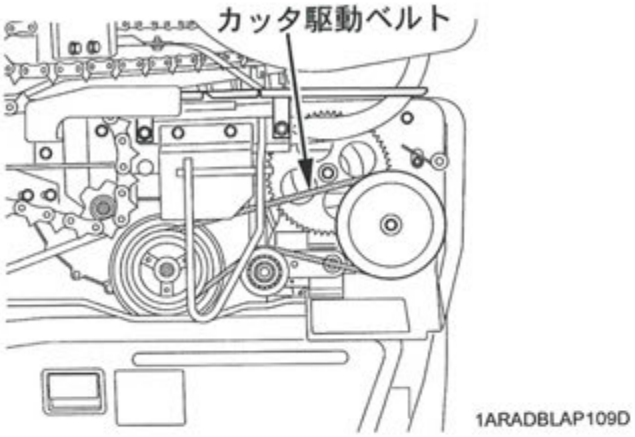
1. 左サイドカバー上・下を取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，左サイドカバー上・下を取付けます。





■カッタ駆動ベルトの点検・調整

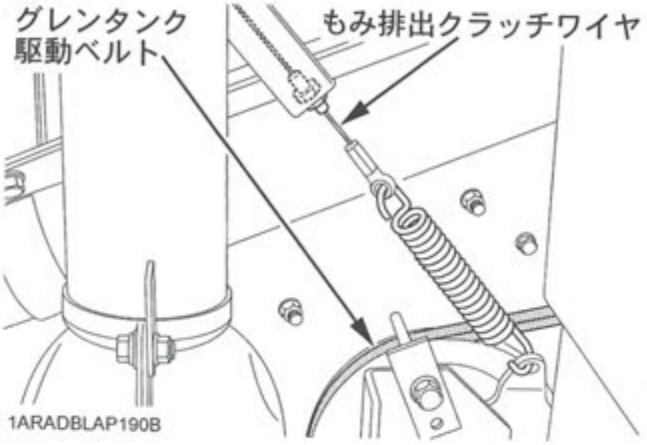
ベルトを点検し，異常があるときは購入先に連絡してください。



■グレンタンク駆動ベルトの点検·調整

[G 仕様]

グレンタンク駆動ベルトの張り調整は，もみ排出クラッチワイヤの張り調整と同じです。(126 ページ参照)



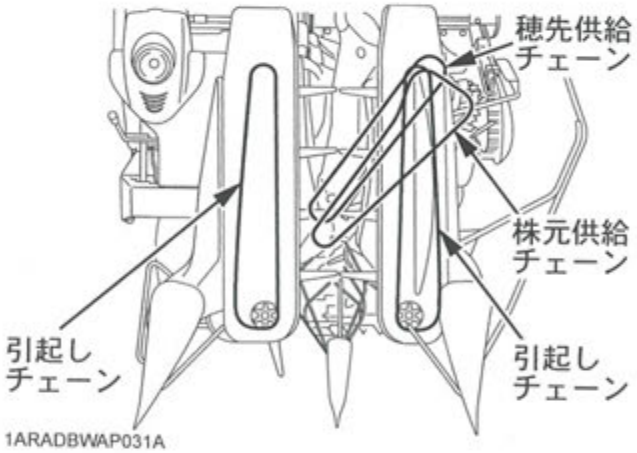
[G 仕様]

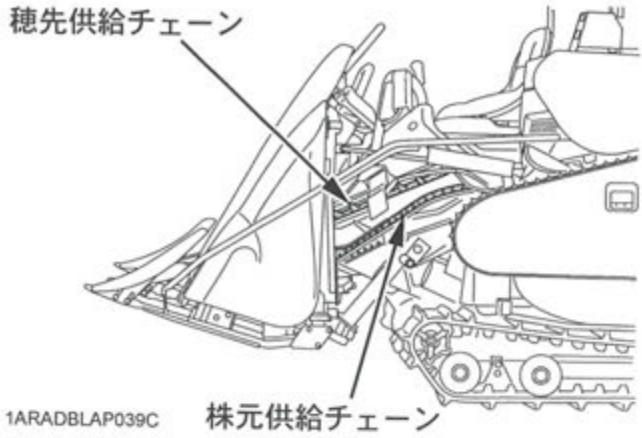
■各部チェーンの点検·調整

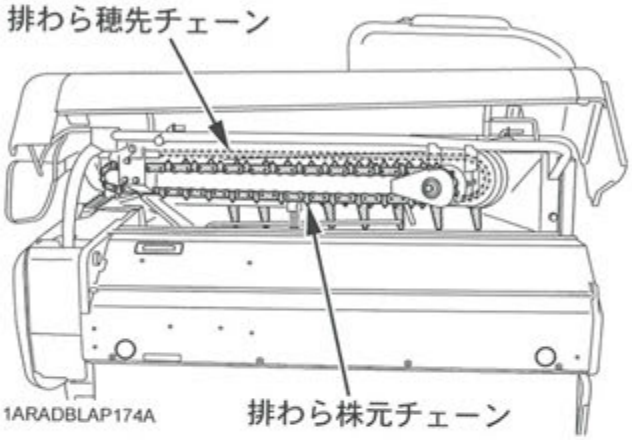
◆ 点検

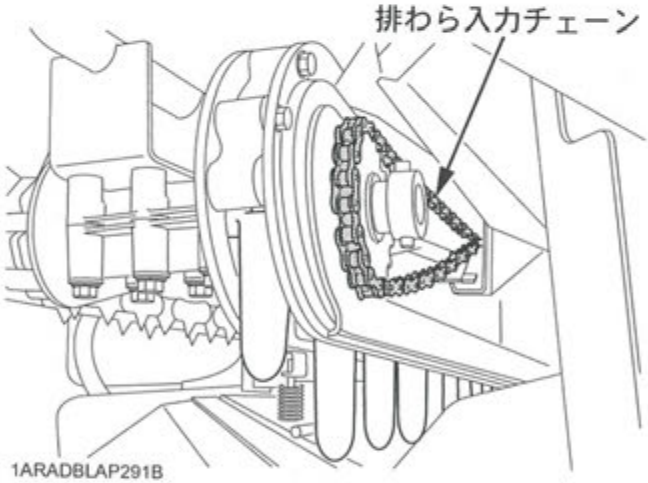
各部のチェーンを点検して，ゆるみがあるときは調整してください。

● 点検箇所







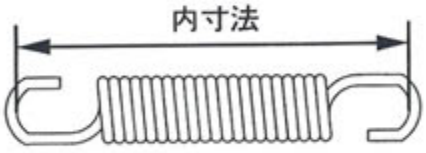


◆ **調整**

チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

補　足

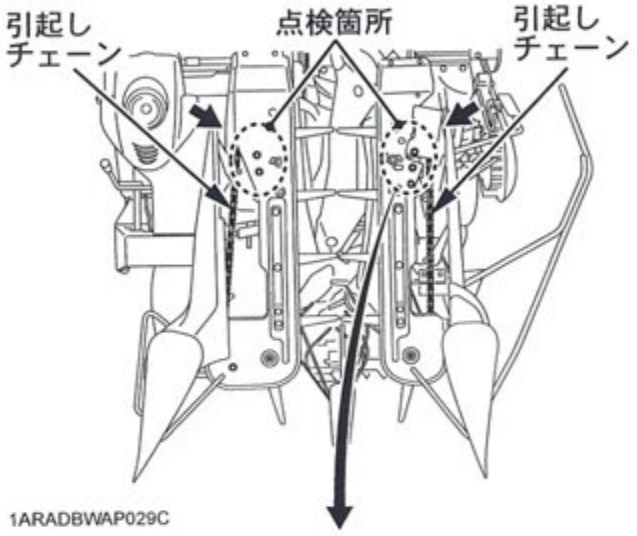
＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



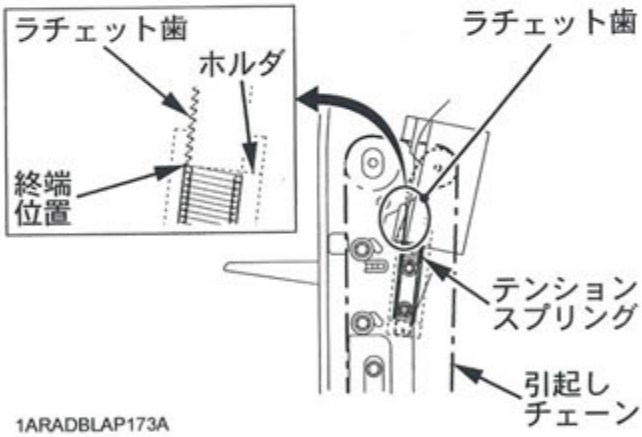
1ARADBEAP455A

■引起しチェーンの点検･調整

引起しチェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，引起しチェーンが伸びて，ホルダに掛かっているラチェット歯が終端位置まで移動したときは，購入先に連絡して交換してください。点検するときは引起しカバーを取外し，点検が終わると引起しカバーを取付けてください。



1ARADBWAP029C



1ARADBLAP173A

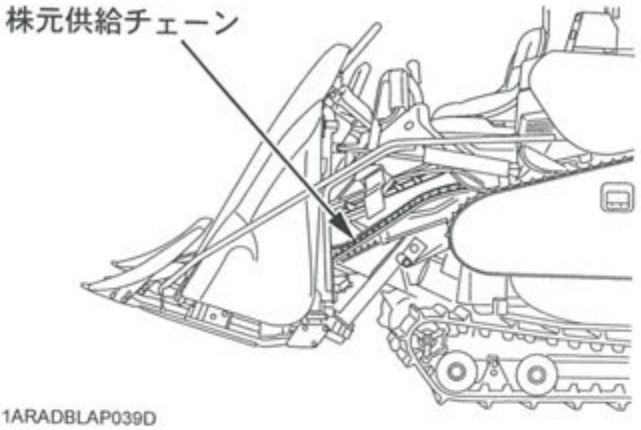
補　足

＊ チェーンが，伸びるとラチェット歯がスプリングに引張られ上昇します。

＊ ラチェット歯が終端位置より１～２段上の位置にあるときに早目に交換を行なってください。

■株元供給チェーンの点検・調整

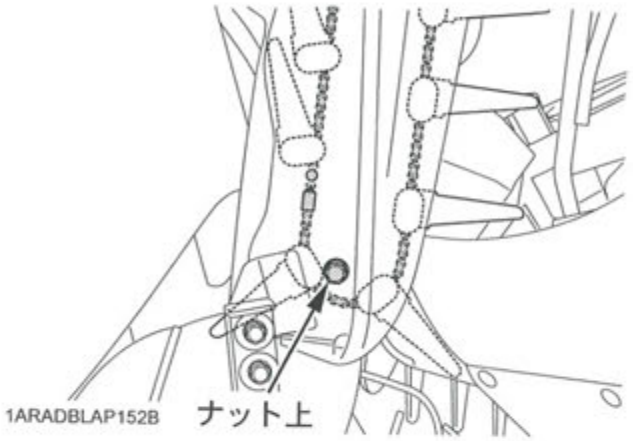
株元供給チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，伸びたときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。



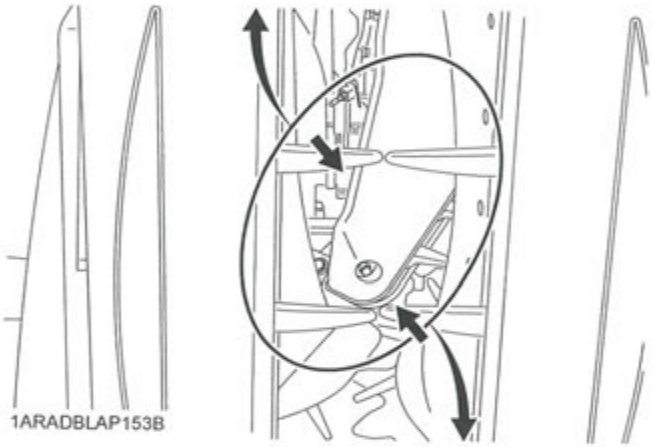
1ARADBLAP039D

■穂先供給チェーンの点検

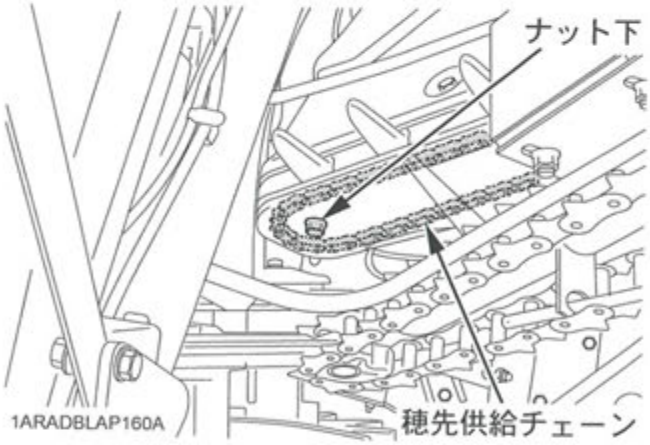
定期点検のときにナット上，下をゆるめてください。自動的にチェーンが張られます。また，ナット上，下をゆるめてもチェーンが張られないときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。



1ARADBLAP152B



1ARADBLAP153B

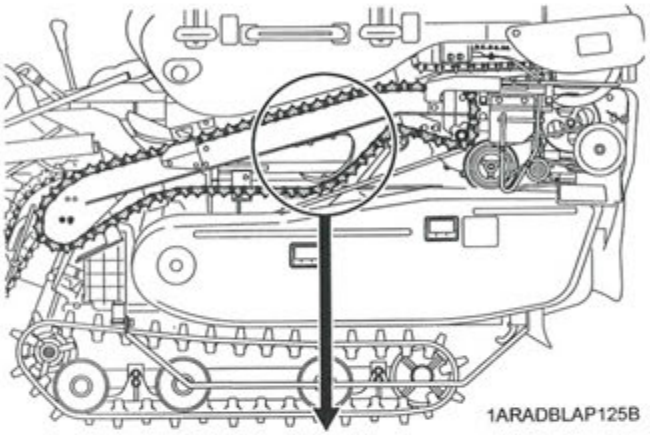


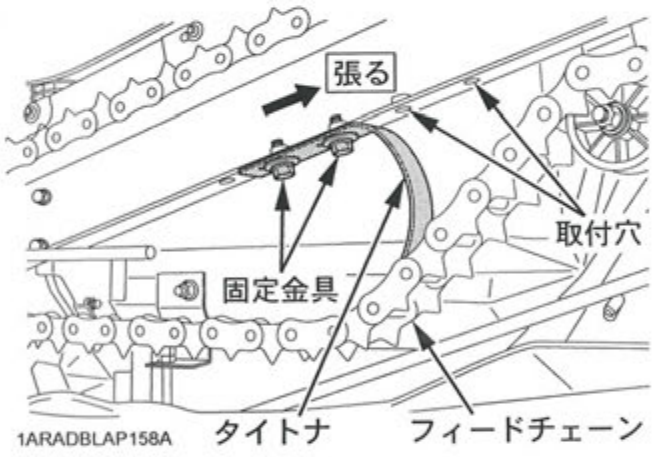
1ARADBLAP160A

■フィードチェーンの点検·調整

タイトナを動かしてチェーンを張ってください。

1. 左サイドカバー上を取外します。
2. タイトナの固定ボルトを２本をゆるめます。
3. 張り方向へ引張ります。
4. 固定ボルト２本を締付けたあと，左サイドカバー上を取付けます。



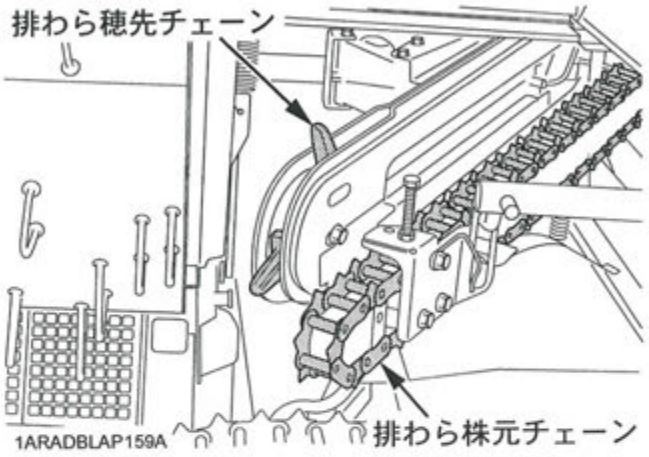


補　足

＊ 長穴だけで調整ができなくなったときは，張り方向側に固定ボルトの取付穴を１穴分動かしてタイトナを取付けます。

■排わら穂先チェーン，排わら株元チェーンの点検

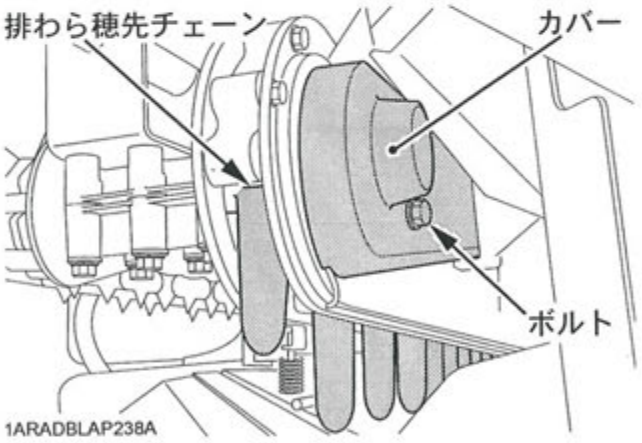
排わら穂先チェーン·排わら株元チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，チェーンが伸びたときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。



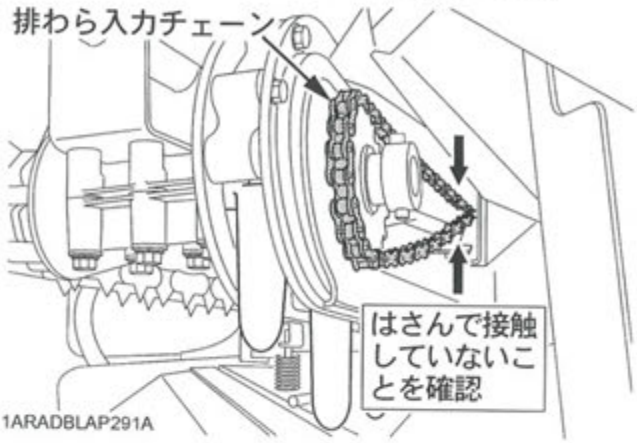
■排わら入力チェーンの点検

排わら入力チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，指で上下のチェーンをはさむと接触するときは，購入先に連絡してください。

1. ボルトを取外して排わら入力チェーンカバーを外します。



2. 指で排わら入力チェーンの上下の幅が一番狭いところをはさみ，入力チェーンの上側と下側が接触していないことを確認します。



3. 排わら入力チェーンカバーを取付けます。

■刈刃の点検・調整

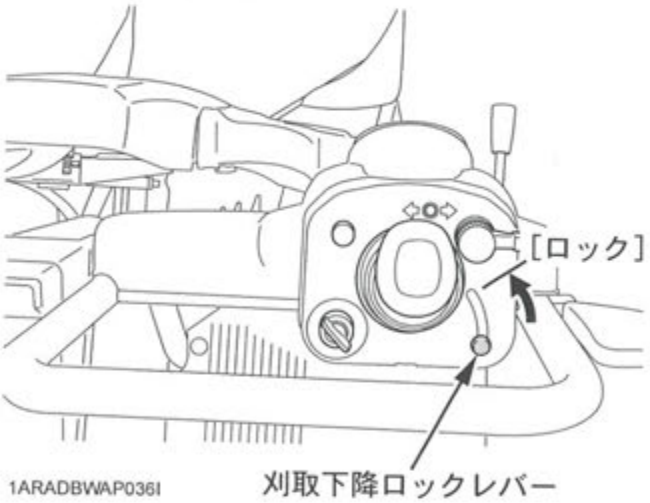
注 意

＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックレバーを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。
＊ 刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。
＊ 刈刃を左，右に動かすときは，刃先を持たないでください。
＊ 脱着作業は手袋をして，２人で刈刃の両端を持って行なってください。

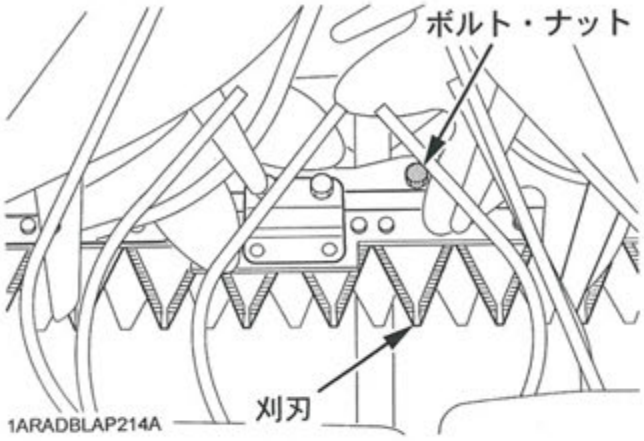
刈刃の刃先が摩耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

◆ 点検・取外し

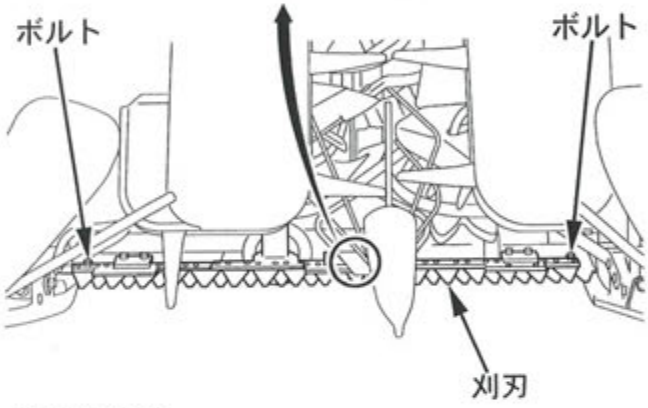
1. 刈取部を**最上昇**位置まで上げたあと刈取下降ロックレバーを**［ロック］**位置にし，エンジンを停止します。
   さらに枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。



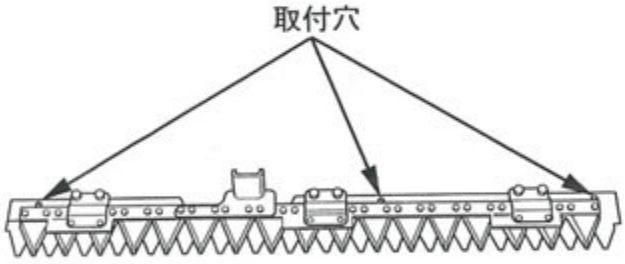
2. ボルト３本（中央はボルトとナット）を取外して刈刃全体を外します。



1ARADBLAP214A

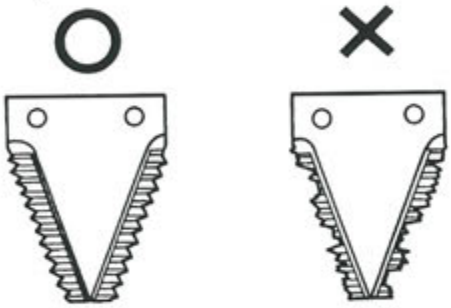


1ARADBLAP215A



1ARADBLAP216A

3. 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し，動きがかたいときは，注油，グリース塗布やすき間調整を行ないます。また，刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して修理を依頼してください。



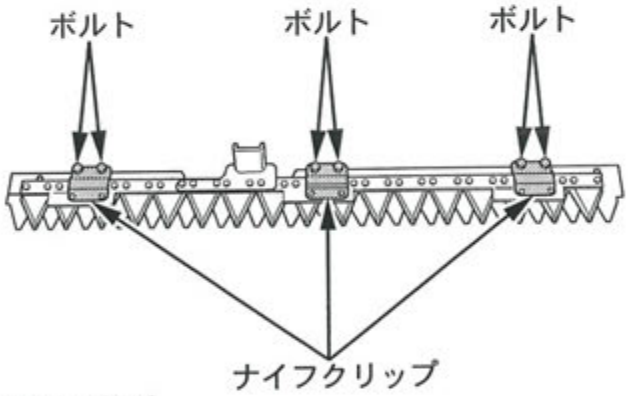
◆ すき間調整

すき間を測定するときは，すき間ゲージを使用してください。

補　足

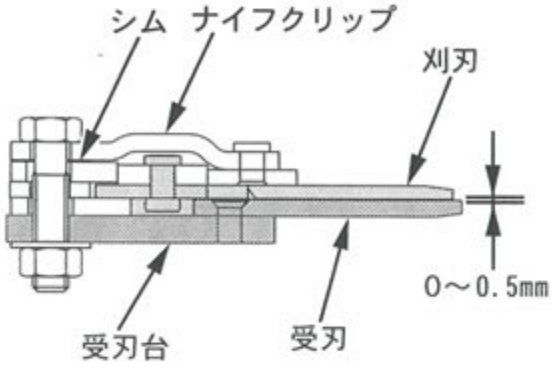
＊ 専用工具については，購入先にご相談ください。

1. ボルト・ナットを取外して各ナイフクリップを受刃台から外します。



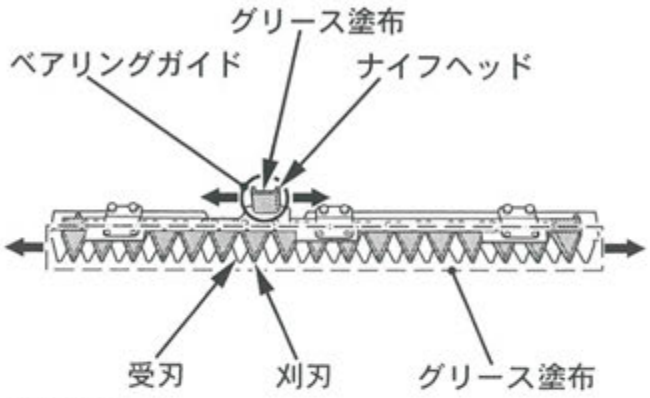
1ARADBLAP216C

2. 刈刃を取外したあと，ワイヤブラシなどで泥やさびを取除きます。
3. ナイフクリップと一緒に組付けているシムを増減して，刈刃と受刃のすき間を０～ 0.5mm に調整します。

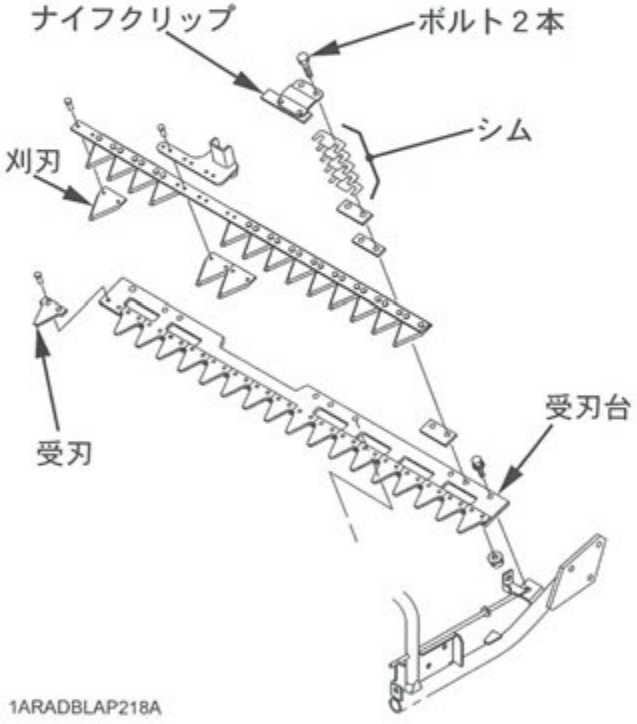


1ARADBLAP217A

4. ナイフヘッドを持ち，刈刃を左，右に動かします。動かないときは再調整を行ない，異常がなければ受刃，刈刃，ナイフヘッドのベアリングガイドにグリースを塗布します。



1ARADBLAP216B



1ARADBLAP218A

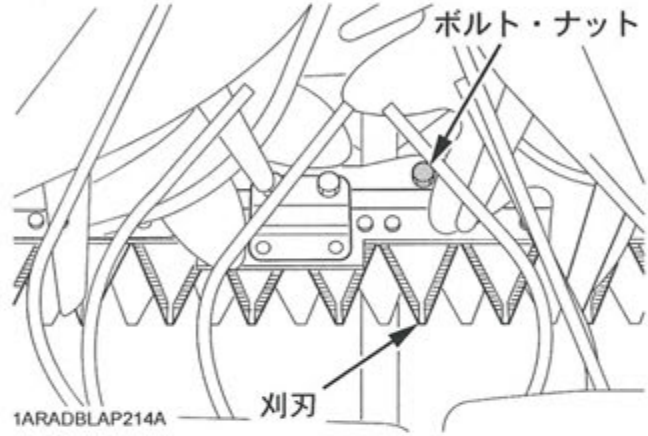
◆ 取付け

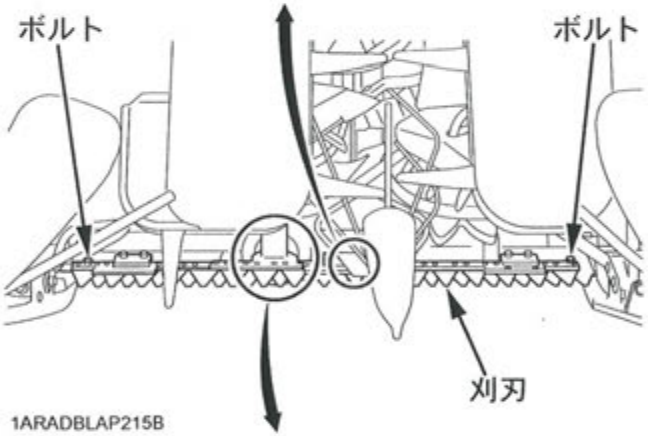
1. ナイフヘッドが取付く刈刃ギヤケースのベアリングにグリースを塗布します。

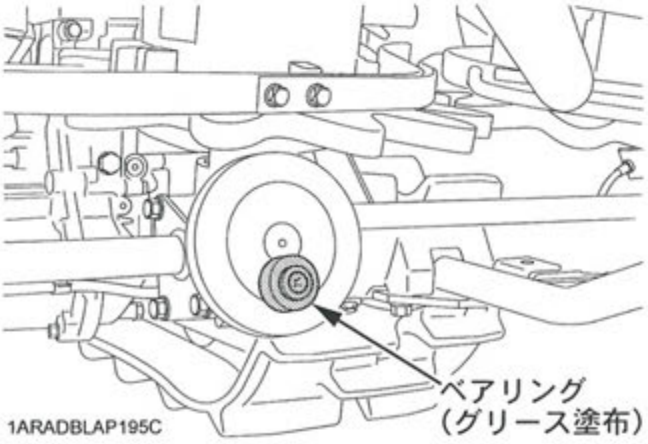
補　足

＊ ベアリングが固くて回転しないときは，ベアリングのシール部に注油して組付けてください。

2. ベアリングの位置が下図位置にあることを確認したあと，ナイフヘッドの溝にベアリングを合わせ刈刃全体をセットしてボルト３本（中央はボルトとナット）で締付けます。







■こぎ歯の点検･交換

警　告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴を開くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

注　意

＊ 平たんな場所でこぎ歯の点検・交換を行なってください。

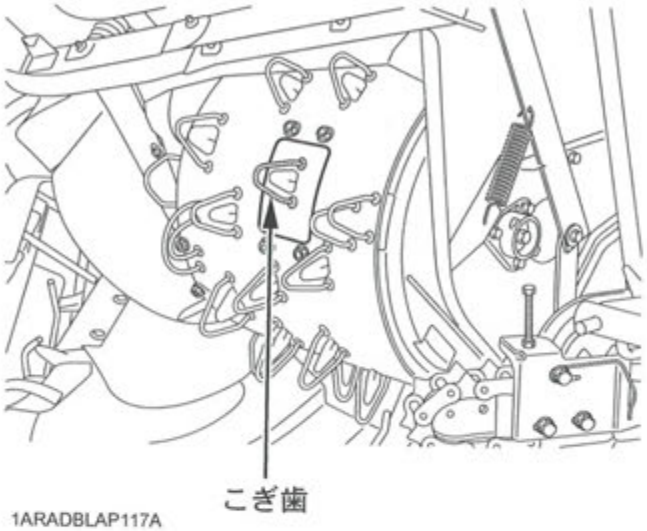
こぎ歯の歯先が摩耗してくると，受あみとのすき間が大きくなり，こぎ残しが発生する原因となりますので歯先の線径が 2.5㎜ 以下になったときは，こぎ歯の交換を行なってください。

重　要

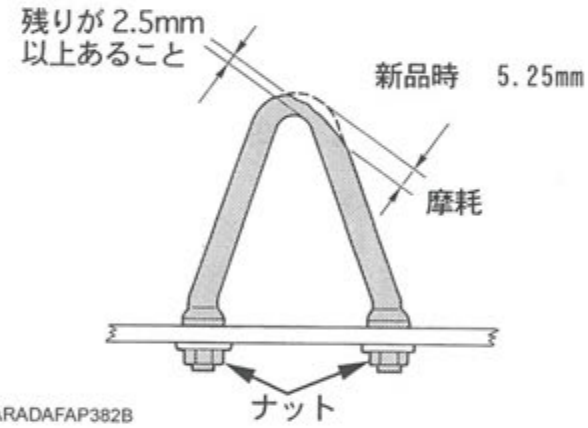
＊ 歯先の線径が 2.5㎜ 以下になると，こぎ歯が変形したり，歯先が割れて故障の原因となります。

◆ **点検**

1. こぎ胴を開きます。
2. こぎ歯の歯先の摩耗量を測定し，線径が2.5mm以下のときは交換します。



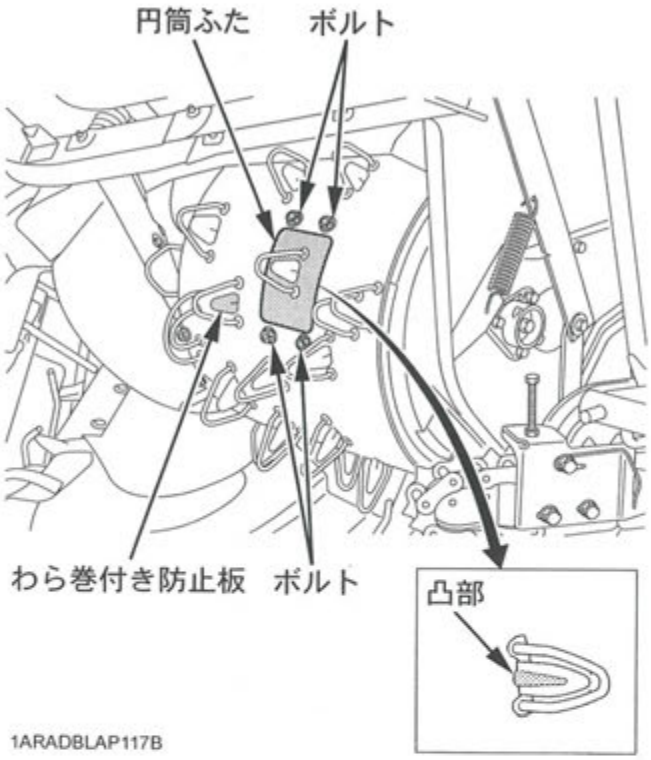
1ARADBLAP117A



1ARADAFAP382B

◆ **交換**

1. 六角レンチでボルト4本を取外し，円筒ふたを取外します。
2. 円筒ふたから手を入れて，こぎ胴の内側からナット2個を取外し，こぎ歯を取外します。
3. 新しいこぎ歯をナット2個で取付けます。
4. 円筒ふたを取付けます。



1ARADBLAP117B

補　足

＊ 円筒ふたは2箇所あります。
＊ わら巻付防止板を取付けるときは，凹凸部の凸部を左側に向けた状態で取付けてください。
＊ 六角レンチは購入先にご相談ください。

■わら切刃の点検･交換

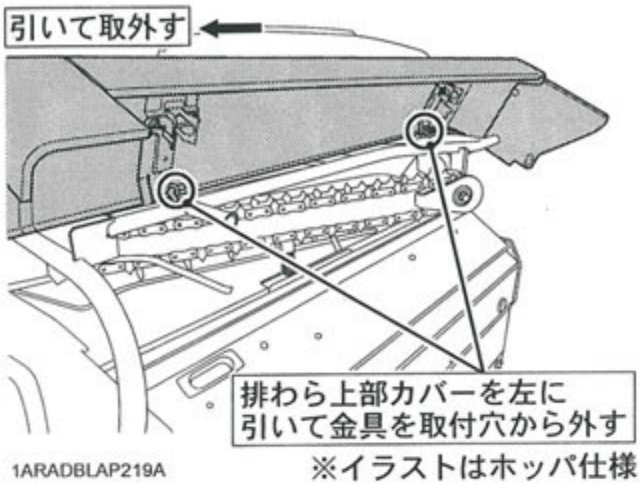
注　意

＊ 刃部に手を掛けないでください。
＊ 危険ですので，手袋をして，脱着作業をしてください。

わら切刃が切れなくなると，こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため，わらくずの移動が悪くなります。また，必要以上の動力を消費するばかりでなく，排じん選別室に送られたわらくずが2番ラセンに巻きついたりします。

◆ **点検**

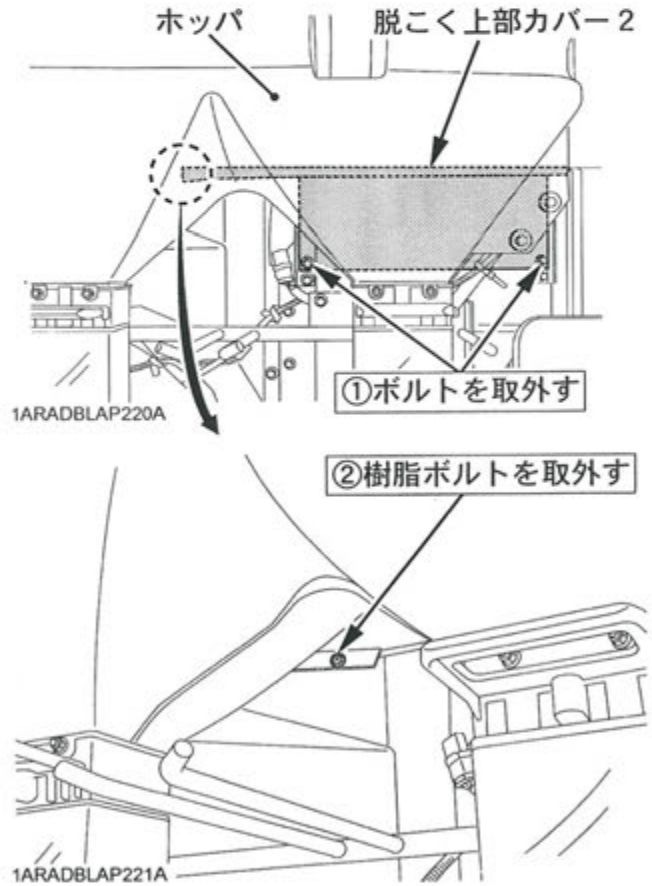
1. 排わら上部カバーを取外します。

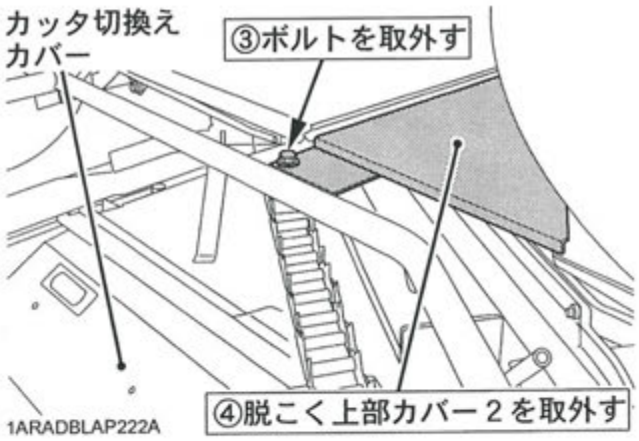


※イラストはホッパ仕様

2. 脱こく上部カバー２を取外します。

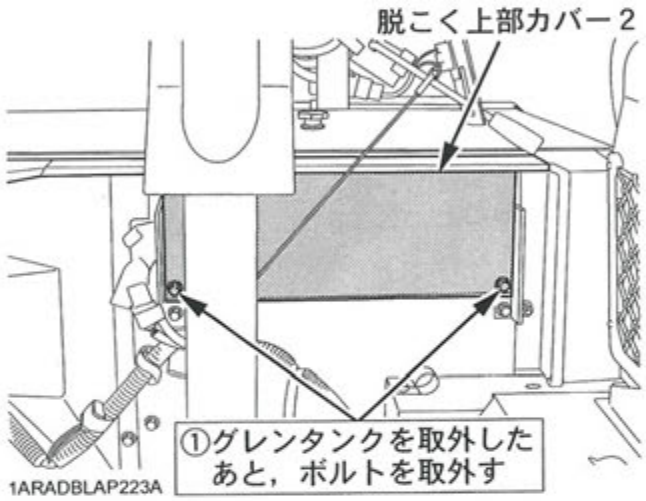
[ホッパ仕様]

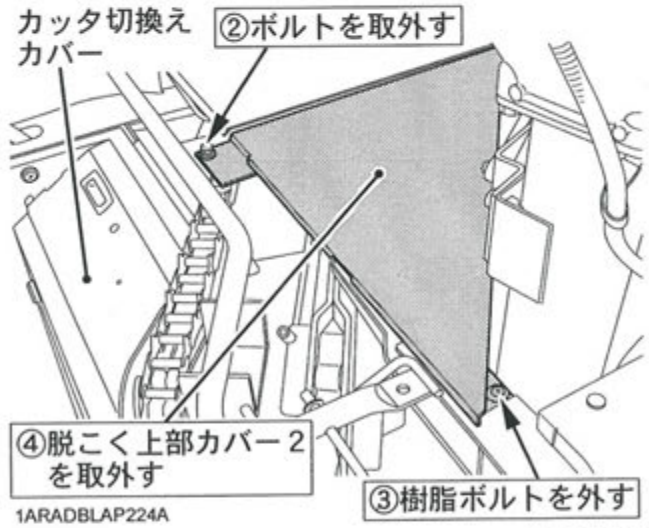




[ホッパ仕様]

[G 仕様]

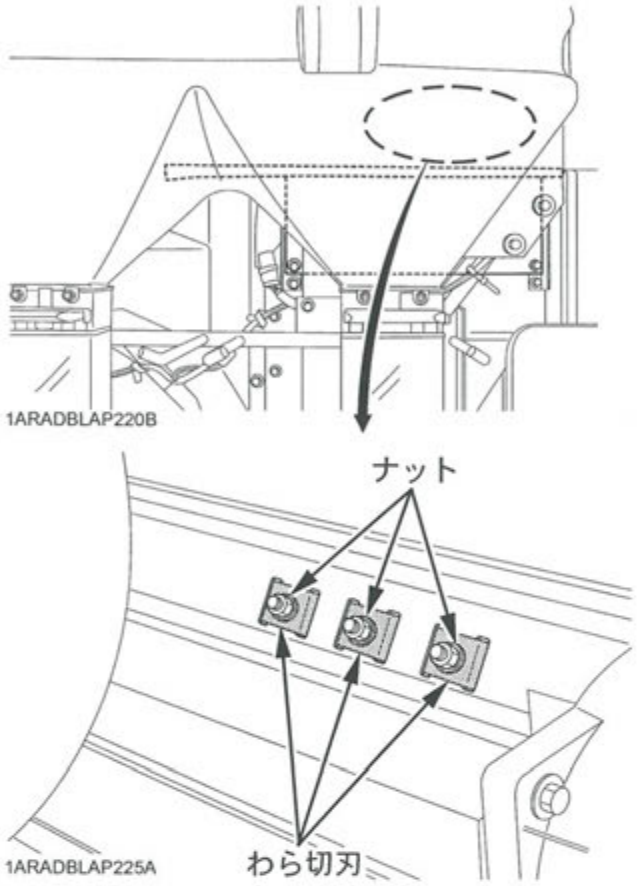




[G 仕様]

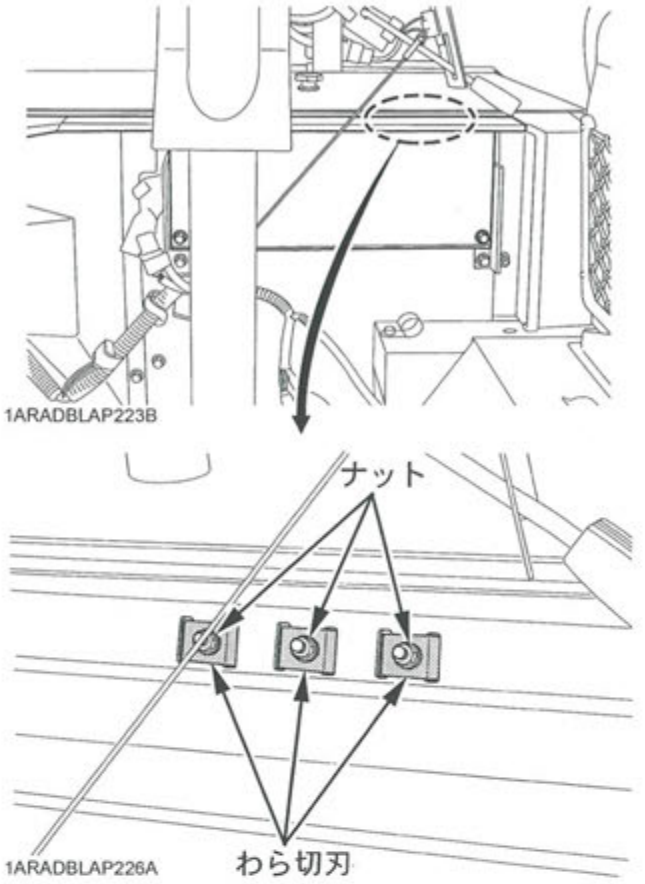
3. 下図の位置にあるわら切刃を取付けているナットを取外したあと，わら切刃を取出します。

[ホッパ仕様]



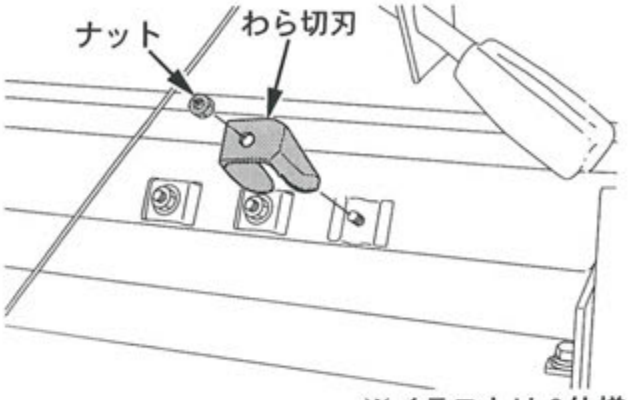
[ホッパ仕様]

[G 仕様]



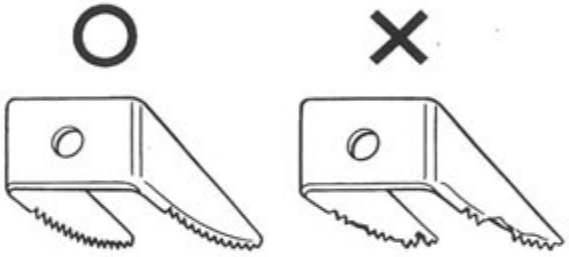
[G 仕様]

4. わら切刃を取出したあと，わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときは交換してください。



1ARADBLAP227A

※イラストはG仕様



1ARADAKAP139A

◆ 交換・取付け

それぞれのわら切刃を固定しているナットを取外し，わら切刃を交換します。

1. 刃先を下側にしてわら切押えをボルトに差込みます。
2. ナットを取付けます。
3. 脱こく上部カバー２を取付けます。
4. 排わら上部カバーを取付けます。
5. **[G仕様]** はグレンタンクを取付けます。

重 要

＊ わら切刃を取付けるときは，取付方向に注意して取付けてください。

■カッタ部の点検

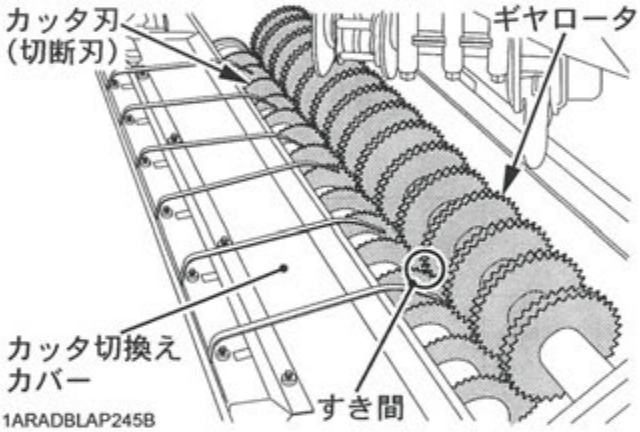
警 告

＊ 平たんな場所でエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。

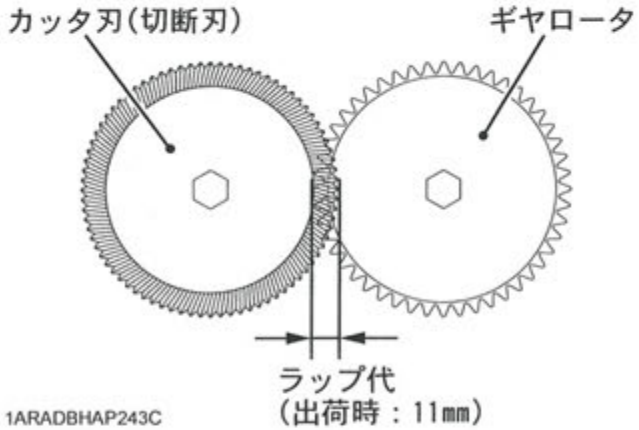
補 足

＊ わらくずなどは取除いてください。

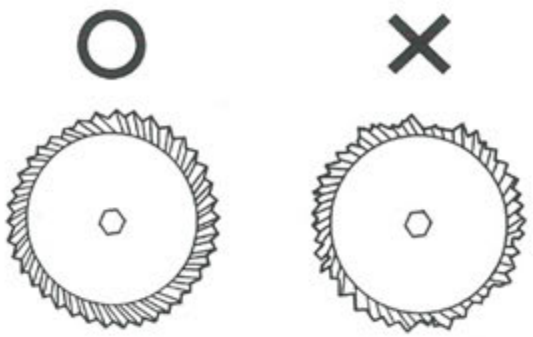
カッタ切換えカバーを開いてカッタ刃（切断刃）とギヤロータのラップ代とすき間を確認します。刃先が摩耗してラップ代が少なくなったり，欠けているときは購入先に連絡してください。



1ARADBLAP245B



1ARADBHAP243C



1ARADAFAP225A

重　要

＊ ラップ代が少なくなると，わらの切断長さが長くなったり，わらのブリッジにより排わら警報の発生の原因となりますので早目に交換してください。

補　足

＊ カッタ切換えカバーをきちんと閉じないと，自動エンジン停止装置がはたらき，エンジンが始動しません。

■吐出口ブーツの点検･交換

ホッパ **[ホッパ仕様]** 又はオーガ **[G 仕様]** の吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

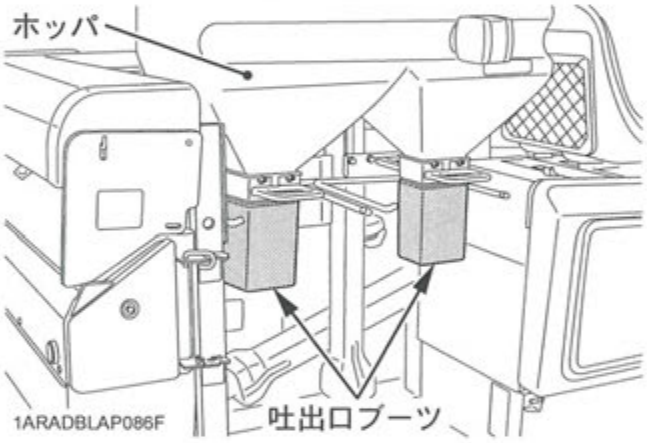
◆ 交換

[ホッパ仕様]

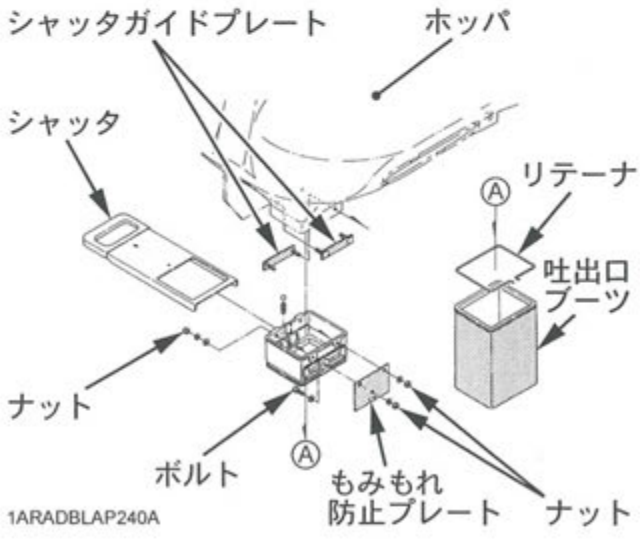
1. もみもれ防止プレートを取付けているボルト，シャッタガイドプレートとナットをそれぞれ取外し，プレートを外します。
2. リテーナを外して，吐出口ブーツを取外します。
3. 破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

補　足

＊ ブーツを取付けるとき，ブーツの取付け方向を間違えないでください。



1ARADBLAP086F



1ARADBLAP240A

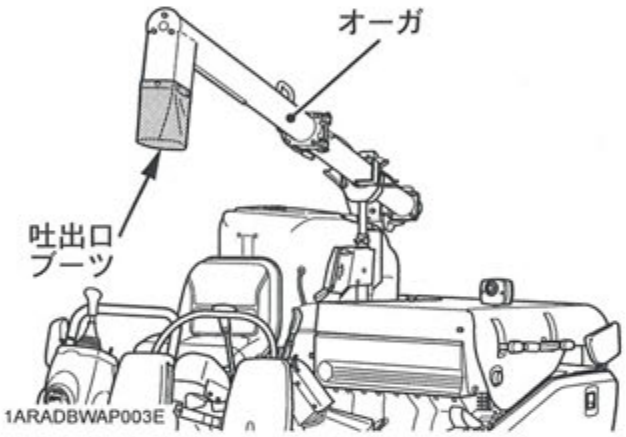
[ホッパ仕様]

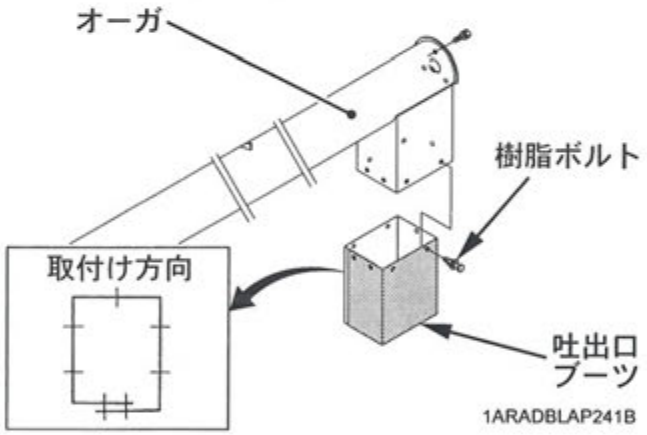
[G 仕様]

1. ブーツを取付けている樹脂ボルトを外します。
2. 破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

補　足

＊ ブーツを取付けるとき，ブーツの重なりの方向を間違えないでください。





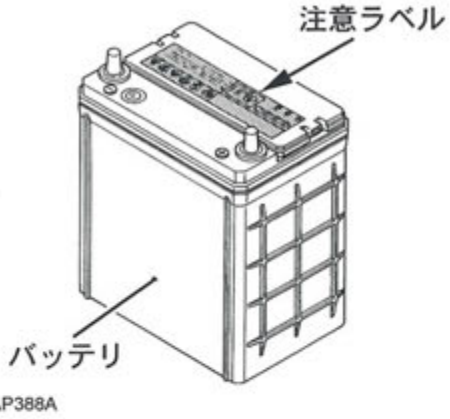
[G 仕様]

重　要

＊ 吐出口ブーツは必ず三菱純正品を使用してください。

■バッテリの点検･交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。
＊ バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。
＊ 充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。
＊ この 12V バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ 急速充電は厳禁です。
＊ 開封は厳禁です。（密封タイプ）

警　告

＊ バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補　足

＊ 出荷時は，補水不要のバッテリです。

◆ 点検

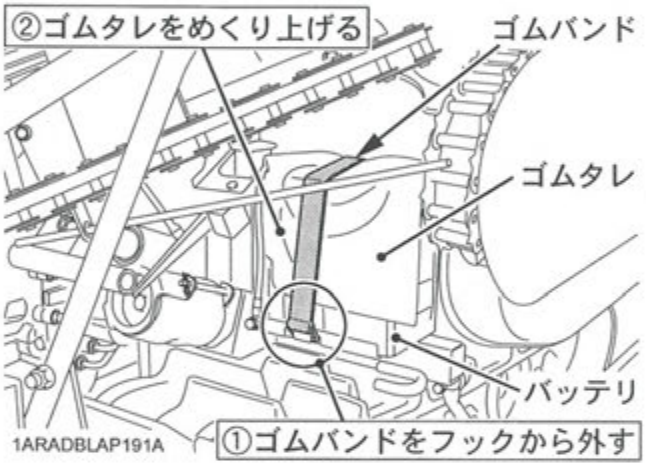
警 告

バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき……

＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

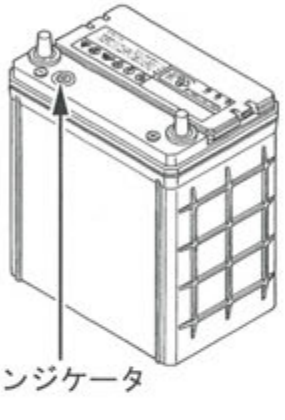
＊ バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

1. ゴムバンドをフックから外して，ゴムタレをめくります。



2. バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。
   (1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



補 足

＊ インジケータは真上から確認してください。

   (2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

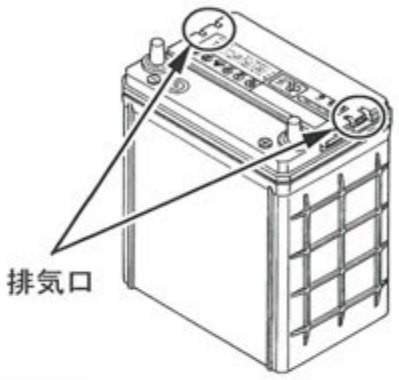
重 要

＊ バッテリから液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

(3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

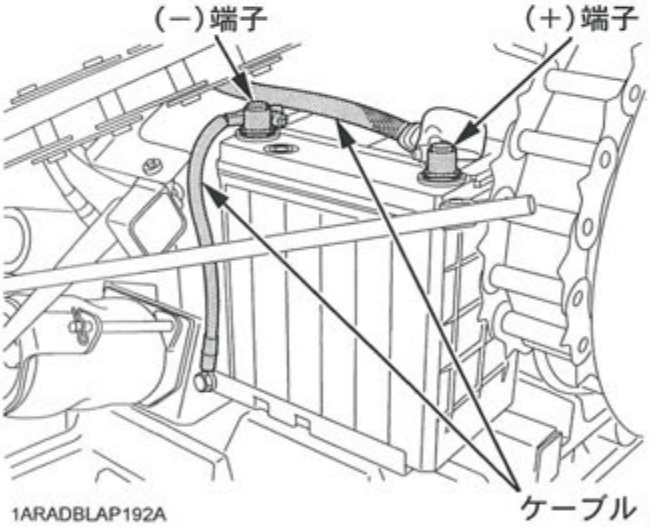
重 要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ARADAFAP390A

(4) バッテリケーブルの破損や（＋）端子，（－）端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。



1ARADBLAP192A

◆ 補充電・交換

危 険

＊ バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
- **取外し…（－）端子側（アース側）から外す。**
- **取付け…（－）端子側（アース側）を最後に接続する。**

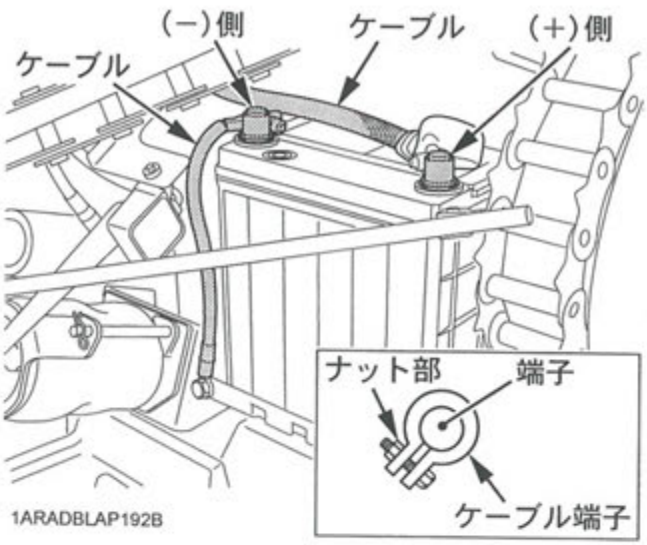
警 告

＊ バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。
＊ バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（－）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。

- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。

1. バッテリを機体から取外します。
   (1) ゴムバンドの端部金具をフックから外し，ゴムタレをめくり上げます。
   (2) ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（－）側から取外してください。



重　要

＊ バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

補　足

＊ 急速充電を行なったときは，作業後必ず補充電を行なってください。

3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重　要

＊ バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：**34B19L-MF**
＊ バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリの場合
（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

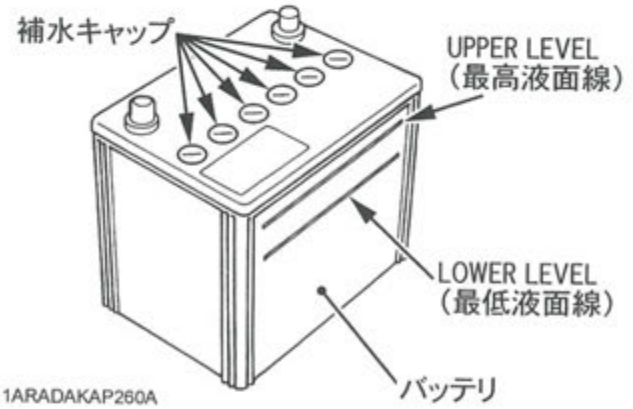
◆ 点検・補水

警　告

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し，**[UPPER LEVEL]**（最高液面線）と **[LOWER LEVEL]**（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



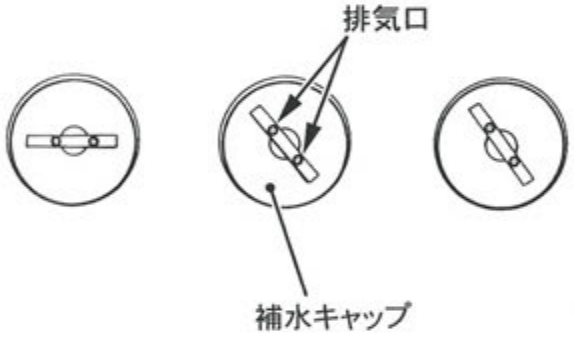
重　要

＊ バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊ バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊ バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ARADAKAP261A

◆ 補充電・交換

危　険

＊ 補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
   また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
2. 補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■電気の各配線コード，各ヒューズの点検・交換

警　告

＊ 配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆ 各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，購入先へ連絡して修理を依頼してください。

◆ 各ヒューズの交換

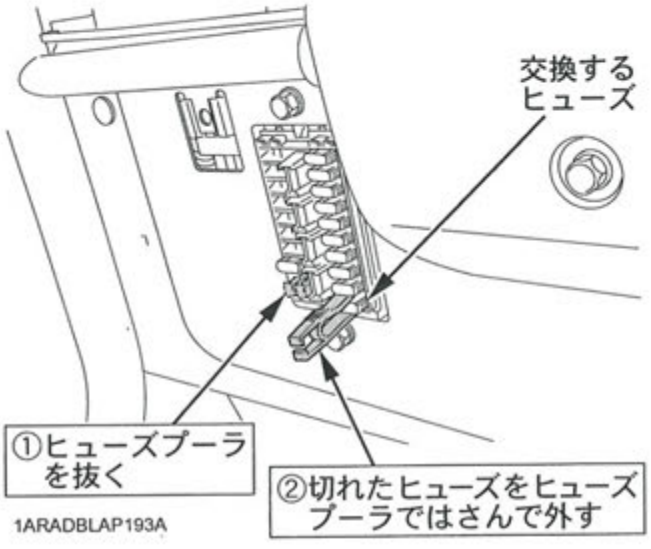
ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

重　要

＊ 新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，購入先に連絡して修理を依頼してください。

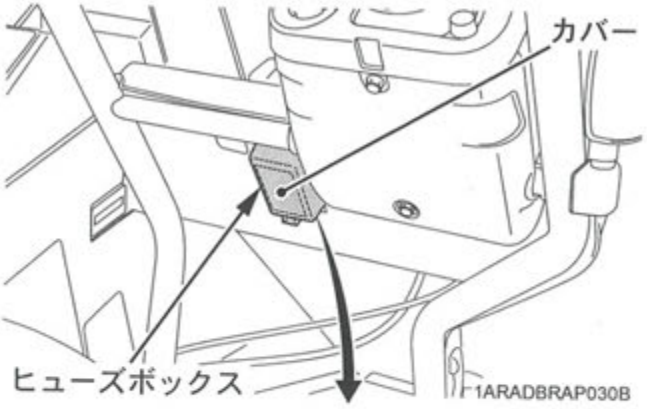
補　足

＊ ヒューズを交換するときは，ヒューズボックスのカバーに設置しているヒューズプーラ（ヒューズ抜き）を使用してください。



1ARADBLAP193A

1. ヒューズボックスのカバーを外します。
2. 切れたヒューズを外します。
3. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。



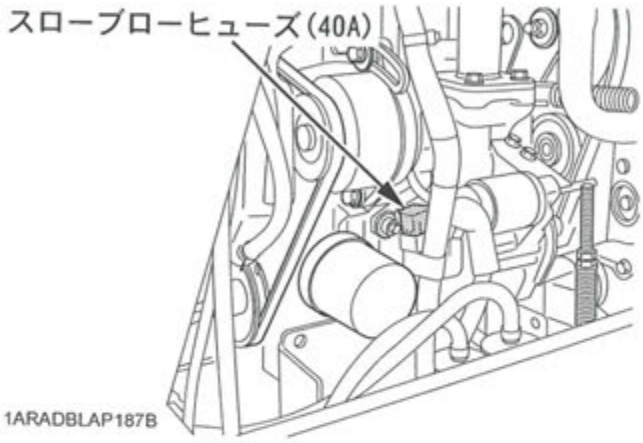


	回　路	容量(A)	対象型式
A	AES ソレノイド	20	全型式
B	マイコン（直 B）	5	全型式
C	作業クラッチモータ	20	全型式
D	オーガ旋回モータ	20	G 仕様
E	オーガ昇降モータ	20	G 仕様
F	レギュレータ・ホーン 燃料ポンプ	10	全型式
G	ライト・フラッシャ	15	全型式
H	マイコン	10	全型式
I	こぎ深さモータ	20	全型式
J	ハイサイドスイッチ	3	全型式
K	予備	3	全型式
L	予備	5	全型式
M	予備	10	全型式
N	予備	15	全型式
O	予備	20	全型式

4. ヒューズボックスのカバーを取付けます。

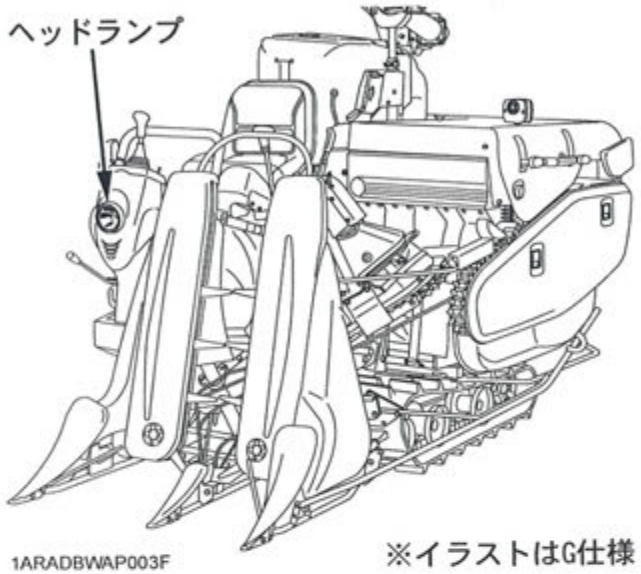
◆ スローブローヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは新しいヒューズと交換してください。



■ランプ（電球）の点検･交換，ホーンスイッチの点検

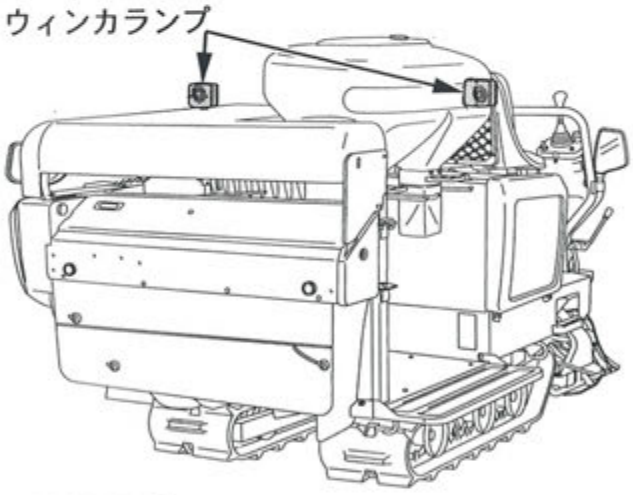
ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。



1ARADBWAP003F

※イラストはG仕様

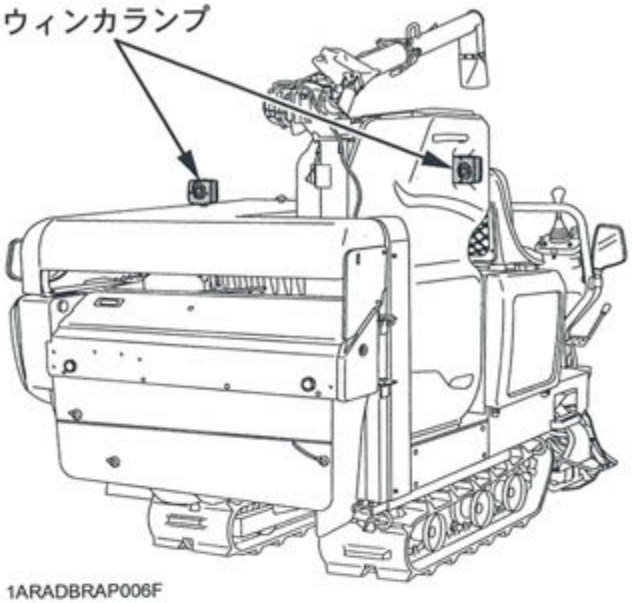
[ホッパ仕様]



1ARADBRAP003C

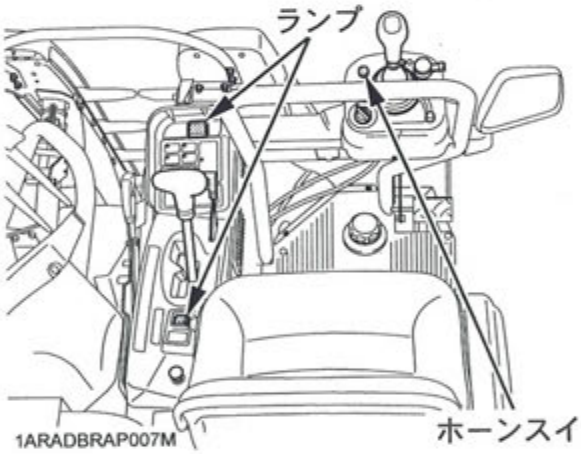
[ホッパ仕様]

[G 仕様]



1ARADBRAP006F

[G 仕様]



1ARADBRAP007M

■パッカ（スターホイール）のトルクリミッタの調整

注 意

＊ 刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックレバーを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

トルクリミッタは右側のパッカ（スターホイール）に取付けてあり，パッカ（スターホイール）に過負荷がかかるとクラッチがスリップし，パッカ（スターホイール）の回転を止めて機械の破損を防止する安全装置です。
パッカ（スターホイール）の分解掃除や交換を行なったときは必ず調整してください。

◆ 調整

1. 刈刃ケース後方の窓からレンチを差込んでパッカ（スターホイール）の取付けナットをゆるめます。
2. 手でいっぱいに締付けたあと，レンチで 1.5 回転締付けます。

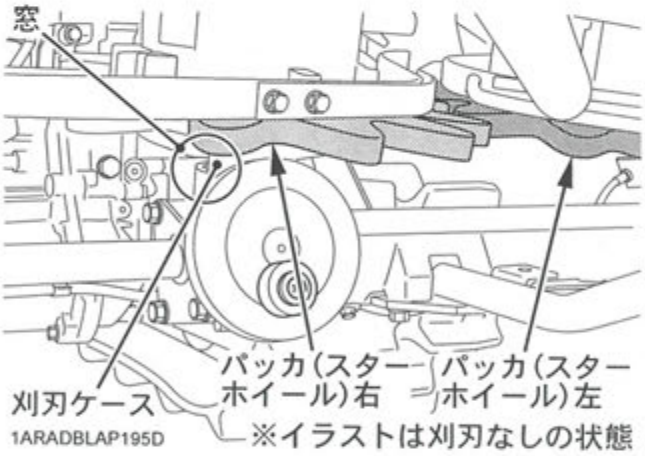
補　足

＊ スリップ時のトルクは，98 ～ 128N・m（10 ～ 13kgf・m）です。

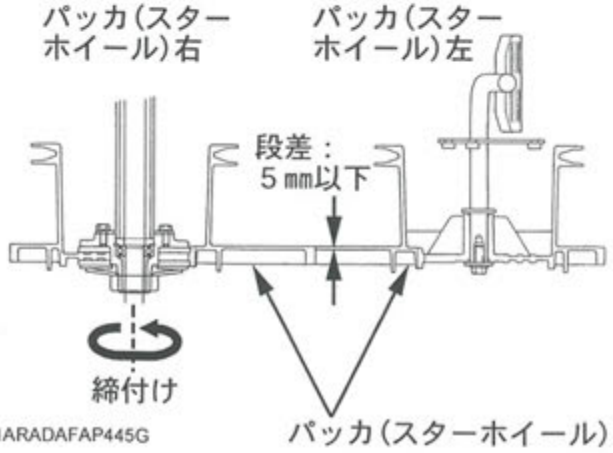
3. パッカ（スターホイール）の左と右の段差を測定し，5 mm 以下であれば正常です。

重　要

＊ 5 mm 以上段差があるときは，わら詰まりやパッカ（スターホイール）部の損傷の原因となりますので，購入先へ連絡して修理を依頼してください。



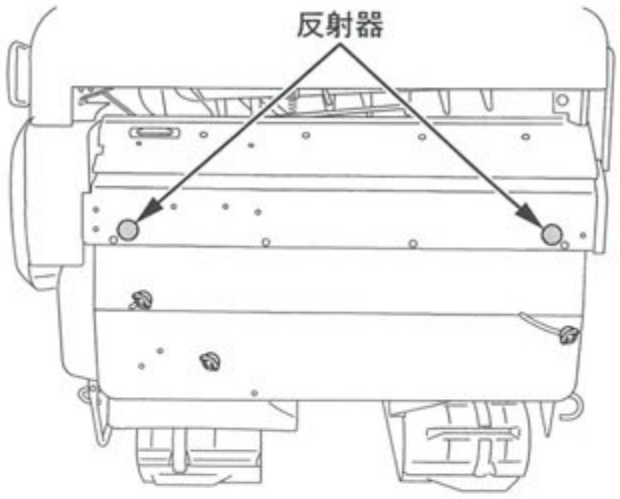
1ARADBLAP195D



1ARADAFAP445G

■反射器の点検・交換

汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。



1ARADBLAP011H

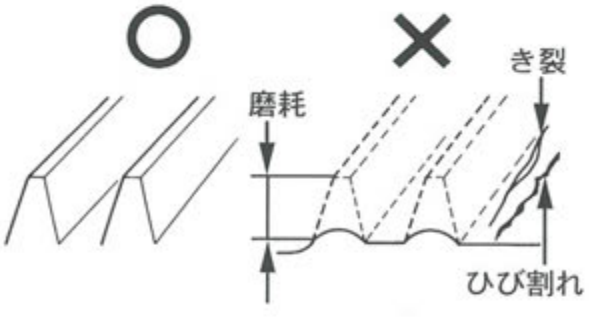
■クローラの点検･調整

警　告

＊ 平たんな場所で，必ずエンジンを止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。

◆ 点検

クローラのラグが摩耗していたり，き裂やひび割れが入っているときは購入先へ連絡して早目に交換してください。また，クローラのたわみが大きいときは張り調整を行ってください。

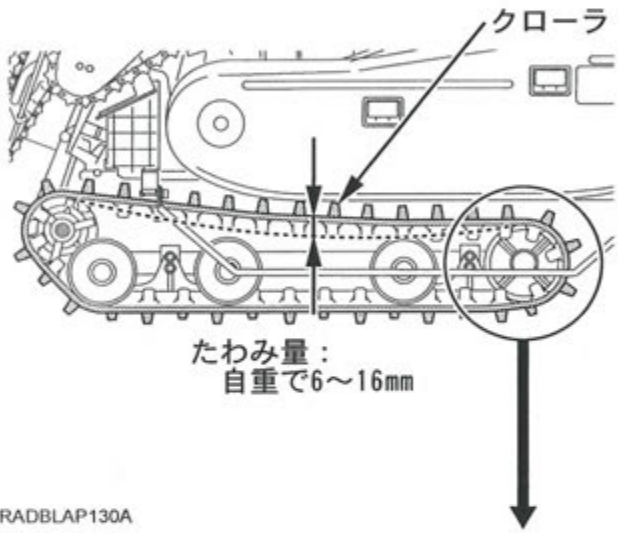


1ARADAKAP161A

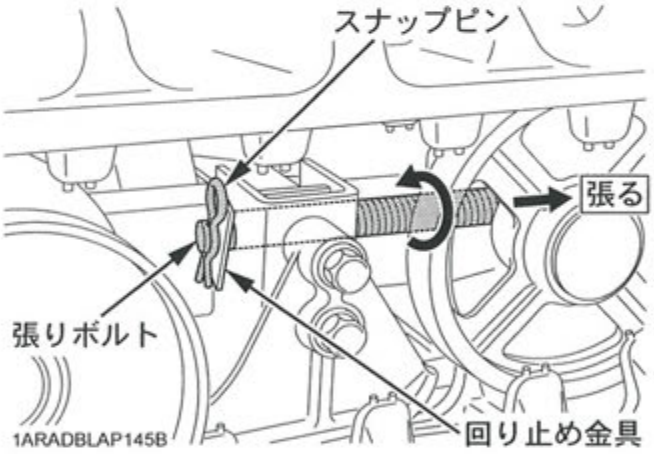
◆ 調整

クローラのたわみ量を，自重で6～16mmに調整します。

1. エンジンを始動し，機体を約1m後進させてエンジンを停止します。
2. クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を，スナップピンを抜いて取外します。
3. 張りボルトを左に回してクローラを張りながら，クローラを上・下させて，たわみ量を調整します。



1ARADBLAP130A



1ARADBLAP145B

4. 左，右両方共に行ない調整後は，回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。

重 要

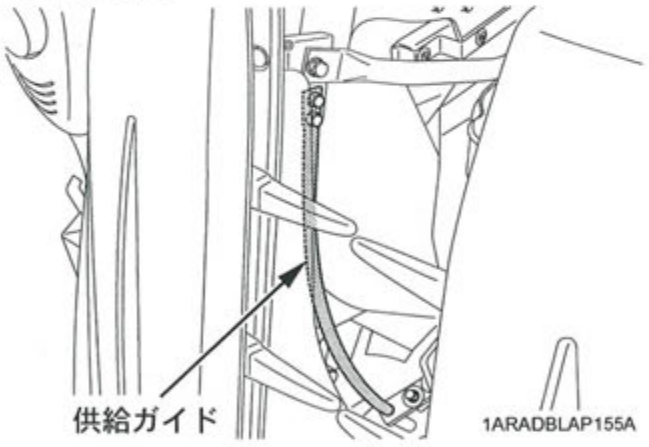
* クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。
* クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期5，及び10時間目に点検してください。
* クローラの劣化が早くなり早期破損の原因となるため，下記事項を守ってください。
  - 日光や雨による劣化防止のため，屋外に長期保管しないでください。
  - オイルや燃料，農薬，肥料など油脂類の付着による劣化防止のため，クローラに付着した油脂類はきれいに拭き取ってください。

■供給ガイドの点検・注油

◆ 点検

メインスイッチのキーを**[入]**位置にしたあと，手動こぎ深さスイッチを**浅⟷深**に動かすと，供給搬送部が**上⟷下**します。このとき，異音がするときは供給ガイドの作動範囲にグリースの塗布又は，注油をしてください。

◆ 注油箇所



1ARADBLAP155A

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

注　意

＊ 機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

1. 平たんな場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部のわらくずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。
(98 ページ参照)
3. オーガを収納します。**[G 仕様]**
4. 刈取部を地面に接地させます。
5. メインスイッチのキーを抜取ります。
6. 本機カバーをかけます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

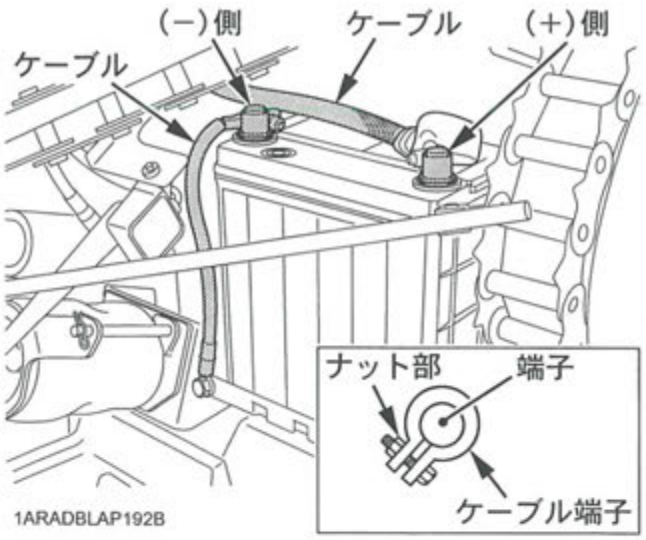
- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- 機体の樹脂部品に付着した汚れは，中性洗剤を使用してきれいに落としてください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを，完全に取除いてください。

重　要

＊ 機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。
＊ 作業シーズン終了後及び長期格納する前には，メンテナンスの **[給・注油（水）一覧表]** を参照して，各部の給・注油（水）を行なってください。

補　足

＊ 各部にもみやわらくずが残っていると，ネズミに配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。
＊ 各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。
＊ 塗料のはがれた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。



重　要

＊ バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

補　足

＊ 急速充電を行なったときは，作業後必ず補充電を行なってください。

3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重　要

＊ バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：**34B19L-MF**
＊ バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリの場合
（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

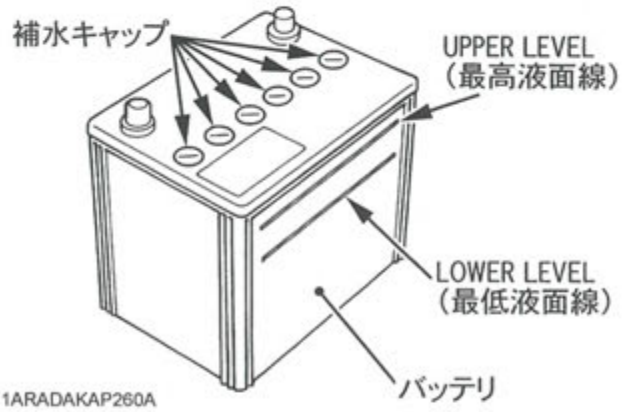
◆ 点検・補水

警　告

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し，**[UPPER LEVEL]**（最高液面線）と **[LOWER LEVEL]**（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



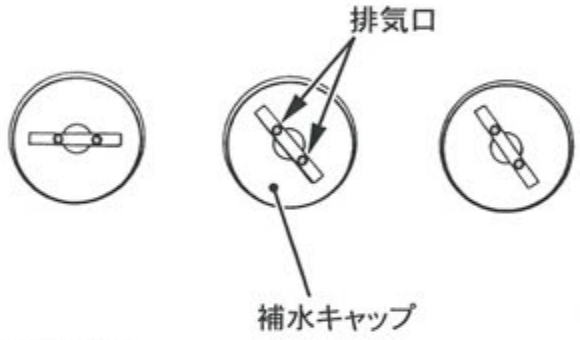
重　要

＊ バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊ バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊ バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ARADAKAP261A

◆ 補充電・交換

危　険

＊ 補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
   また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
2. 補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■電気の各配線コード，各ヒューズの点検・交換

警　告

＊ 配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆ 各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，購入先へ連絡して修理を依頼してください。

◆ 各ヒューズの交換

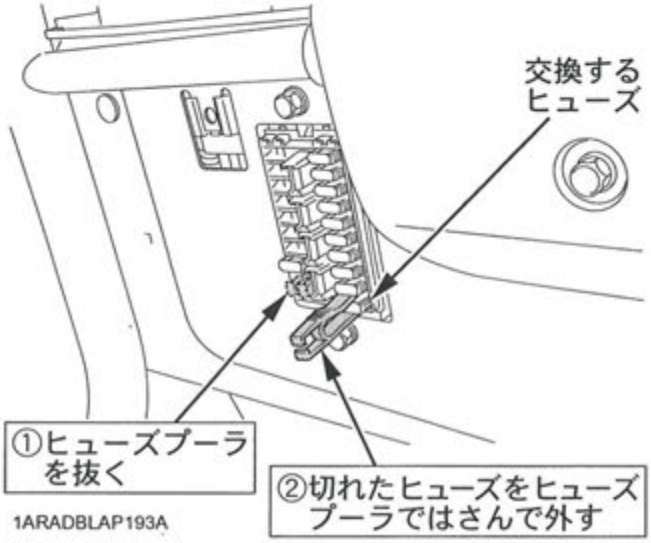
ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

重　要

＊ 新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，購入先に連絡して修理を依頼してください。

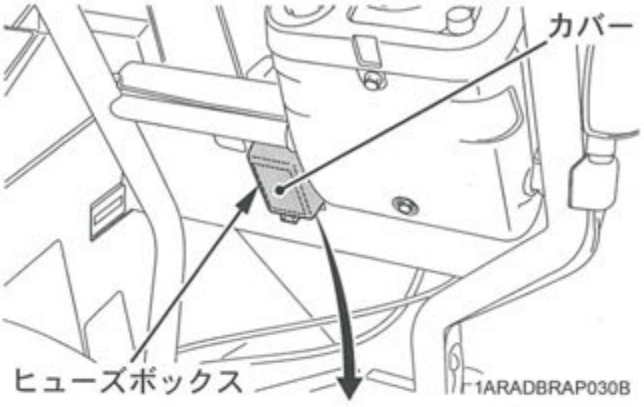
補　足

＊ ヒューズを交換するときは，ヒューズボックスのカバーに設置しているヒューズプーラ（ヒューズ抜き）を使用してください。



1ARADBLAP193A

1. ヒューズボックスのカバーを外します。
2. 切れたヒューズを外します。
3. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。



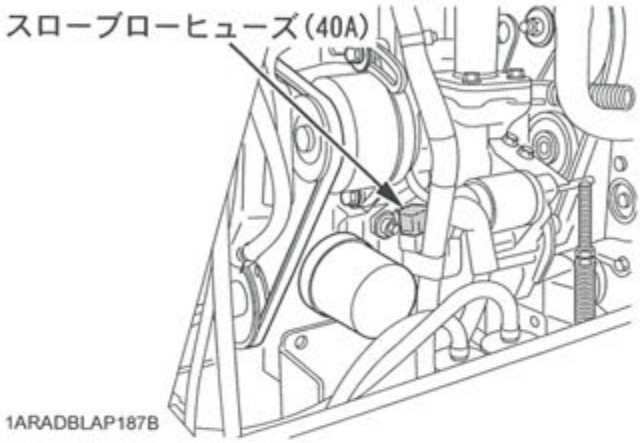


	回　路	容量(A)	対象型式
A	AES ソレノイド	20	全型式
B	マイコン（直 B）	5	全型式
C	作業クラッチモータ	20	全型式
D	オーガ旋回モータ	20	G 仕様
E	オーガ昇降モータ	20	G 仕様
F	レギュレータ・ホーン 燃料ポンプ	10	全型式
G	ライト・フラッシャ	15	全型式
H	マイコン	10	全型式
I	こぎ深さモータ	20	全型式
J	ハイサイドスイッチ	3	全型式
K	予備	3	全型式
L	予備	5	全型式
M	予備	10	全型式
N	予備	15	全型式
O	予備	20	全型式

4. ヒューズボックスのカバーを取付けます。

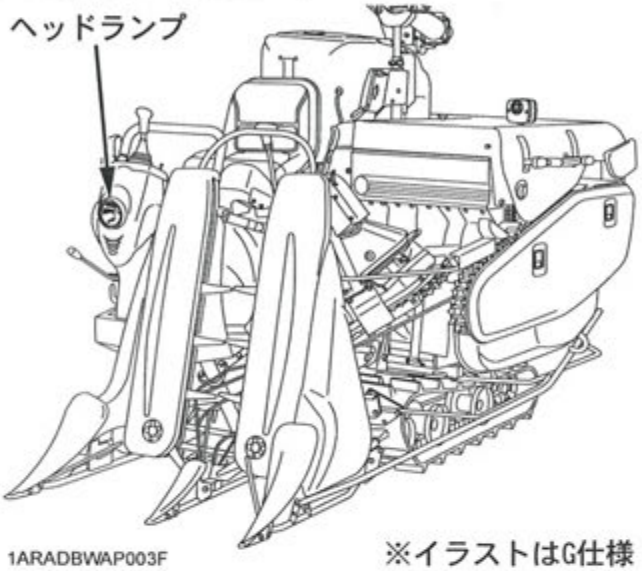
◆ スローブローヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは新しいヒューズと交換してください。



■ランプ（電球）の点検･交換，ホーンスイッチの点検

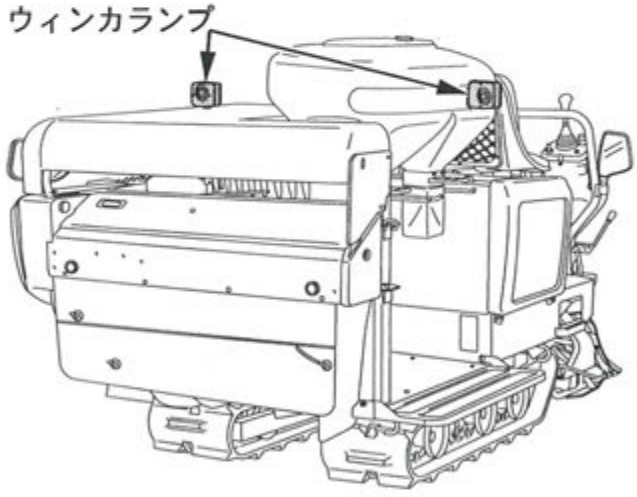
ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。



1ARADBWAP003F

※イラストはG仕様

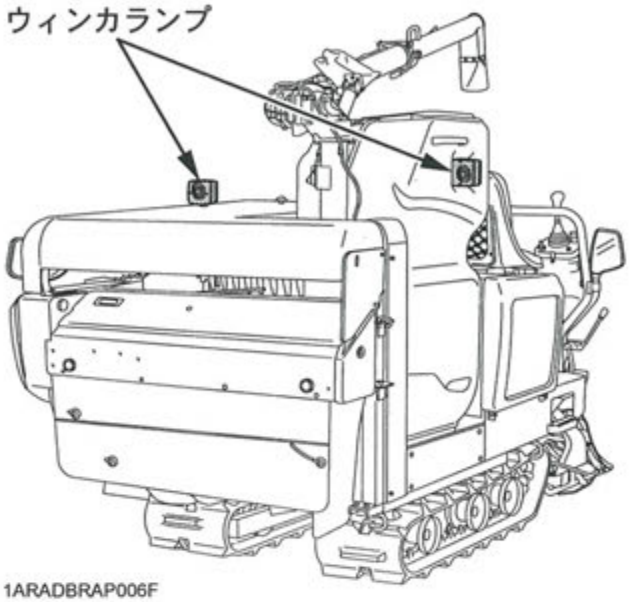
[ホッパ仕様]



1ARADBRAP003C

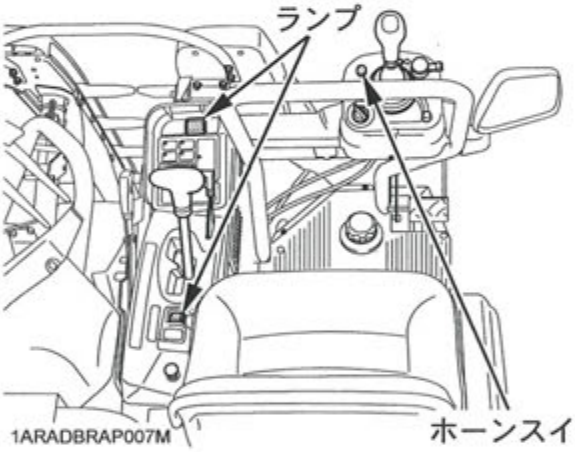
[ホッパ仕様]

[G仕様]



1ARADBRAP006F

[G仕様]



1ARADBRAP007M

■パッカ（スターホイール）のトルクリミッタの調整

注 意

＊ 刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックレバーを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

トルクリミッタは右側のパッカ（スターホイール）に取付けてあり，パッカ（スターホイール）に過負荷がかかるとクラッチがスリップし，パッカ（スターホイール）の回転を止めて機械の破損を防止する安全装置です。
パッカ（スターホイール）の分解掃除や交換を行なったときは必ず調整してください。

◆ 調整

1. 刈刃ケース後方の窓からレンチを差込んでパッカ（スターホイール）の取付けナットをゆるめます。
2. 手でいっぱいに締付けたあと，レンチで 1.5 回転締付けます。

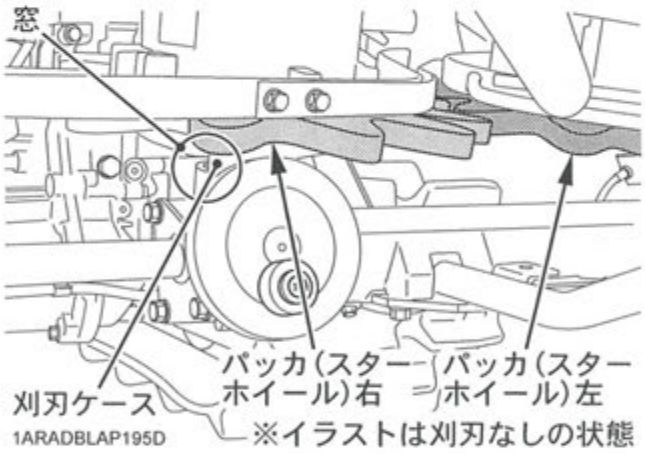
補　足

＊ スリップ時のトルクは，98 ～ 128N・m（10 ～ 13kgf・m）です。

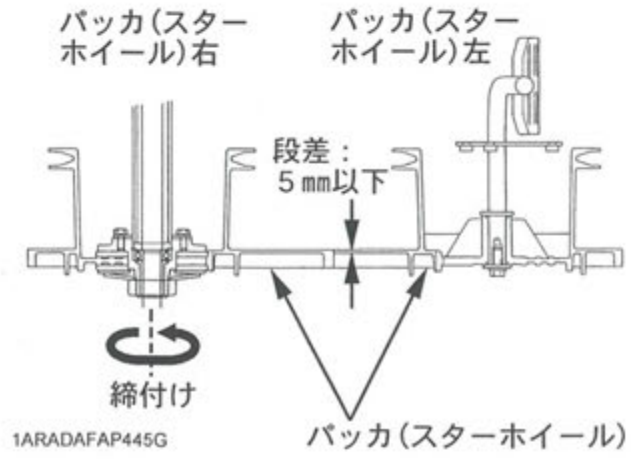
3. パッカ（スターホイール）の左と右の段差を測定し，5 mm 以下であれば正常です。

重　要

＊ 5 mm 以上段差があるときは，わら詰まりやパッカ（スターホイール）部の損傷の原因となりますので，購入先へ連絡して修理を依頼してください。



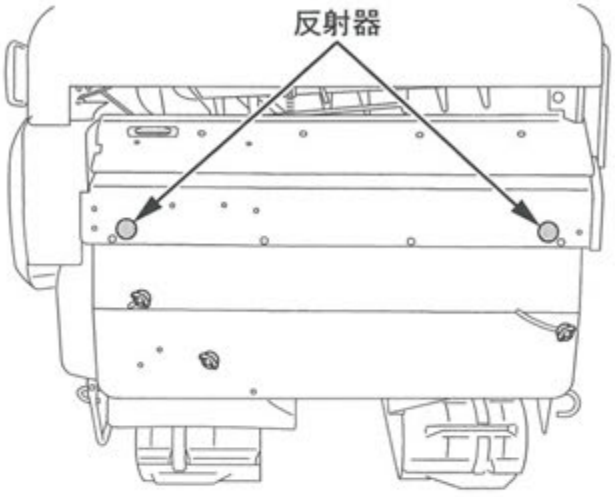
1ARADBLAP195D



1ARADAFAP445G

■反射器の点検・交換

汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。



1ARADBLAP011H

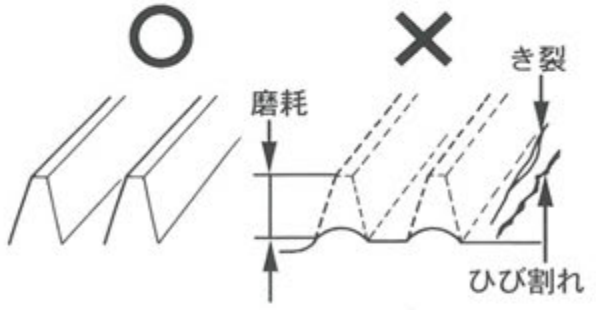
■クローラの点検･調整

警　告

＊ 平たんな場所で，必ずエンジンを止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。

◆ 点検

クローラのラグが摩耗していたり，き裂やひび割れが入っているときは購入先へ連絡して早目に交換してください。また，クローラのたわみが大きいときは張り調整を行ってください。

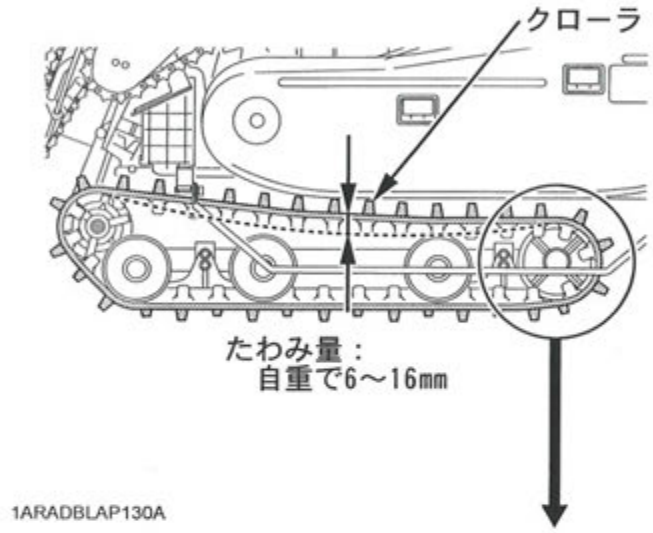


1ARADAKAP161A

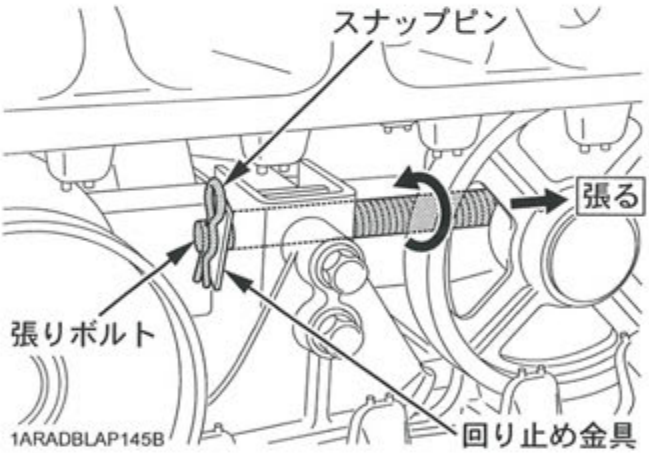
◆ 調整

クローラのたわみ量を，自重で6～16mmに調整します。

1. エンジンを始動し，機体を約1m後進させてエンジンを停止します。
2. クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を，スナップピンを抜いて取外します。
3. 張りボルトを左に回してクローラを張りながら，クローラを上・下させて，たわみ量を調整します。



1ARADBLAP130A



1ARADBLAP145B

4. 左，右両方共に行ない調整後は，回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。

重　要

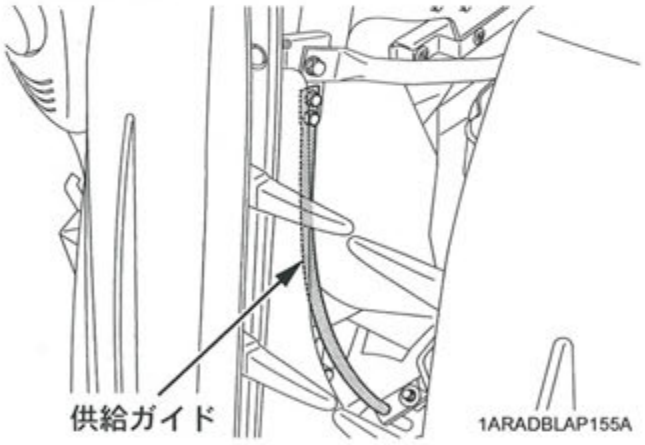
* クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。
* クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期5，及び10時間目に点検してください。
* クローラの劣化が早くなり早期破損の原因となるため，下記事項を守ってください。
  - 日光や雨による劣化防止のため，屋外に長期保管しないでください。
  - オイルや燃料，農薬，肥料など油脂類の付着による劣化防止のため，クローラに付着した油脂類はきれいに拭き取ってください。

■供給ガイドの点検・注油

◆ 点検

メインスイッチのキーを**[入]**位置にしたあと，手動こぎ深さスイッチを**浅⟷深**に動かすと，供給搬送部が**上⟷下**します。このとき，異音がするときは供給ガイドの作動範囲にグリースの塗布又は，注油をしてください。

◆ 注油箇所



1ARADBLAP155A

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

注 意

＊ 機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

1. 平たんな場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部のわらくずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。
(98 ページ参照)
3. オーガを収納します。**[G 仕様]**
4. 刈取部を地面に接地させます。
5. メインスイッチのキーを抜取ります。
6. 本機カバーをかけます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- 機体の樹脂部品に付着した汚れは，中性洗剤を使用してきれいに落としてください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを，完全に取除いてください。

重 要

＊ 機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。
＊ 作業シーズン終了後及び長期格納する前には，メンテナンスの **[給・注油（水）一覧表]** を参照して，各部の給・注油（水）を行なってください。

補 足

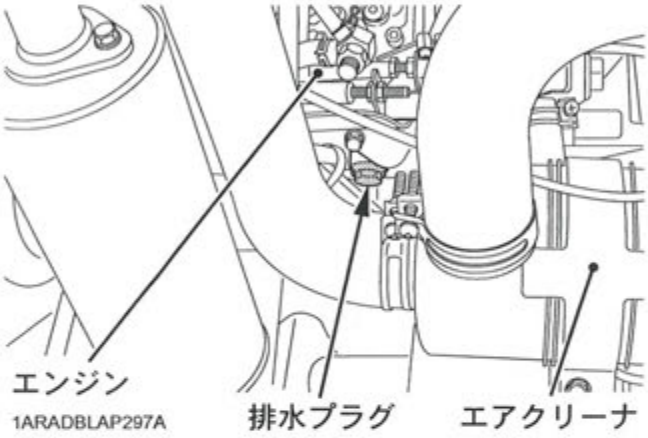
＊ 各部にもみやわらくずが残っていると，ネズミに配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。
＊ 各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。
＊ 塗料のはがれた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。

◆ ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

● 排水しておくとき

1. ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。(120 ページ参照)
2. **[G 仕様]** はグレンタンクを取外します。
3. エンジンに取付けている排水プラグを取外してエンジンの冷却水を排出します。



4. 排水が終わるとラジエータとエンジンの排水プラグをそれぞれ取付けます。
5. **[G 仕様]** はグレンタンクを閉じます。

● 不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。(120 ページ参照)

重 要

* 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも 50% 以下），よく水と混ぜ合せてからお使いください。(冷却水容量……約 0.9L)
* 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
* 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
* 不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

◆ バッテリ

危 険

＊ 保管や持運びの際にバッテリに火気を近付けたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注 意

＊ バッテリを点検するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。(バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。)
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１カ月，冬は２カ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
  (1) 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  (2) 雨露が少なく，水没のおそれがない場所
  (3) バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，(－) 側のケーブルを必ず取外してください。

◆ 各レバー・その他

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

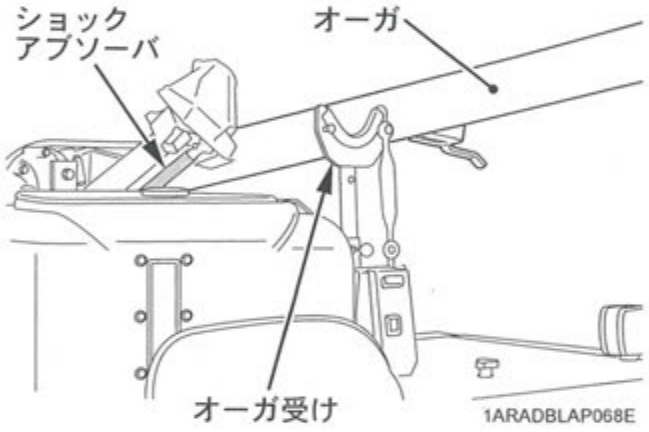
- デバイダキャップを取付けたあと，ナローガイドを収納します。

[G 仕様]

- オーガ受けを下げてオーガを折りたたみ収納します。

重　要

＊ オーガの位置がオーガ受けより下の位置で長期放置すると，ショックアブソーバのガス抜けが起こりオーガの上昇ができなくなるおそれがありますので必ずオーガはオーガ受けに収納してください。



[G 仕様]

- アクセルレバーをいっぱい戻して（[🐢] 位置）止めておいてください。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- メインスイッチのキーは，必ず抜取って保管してください。
- 本機カバーを掛けます。

警　告

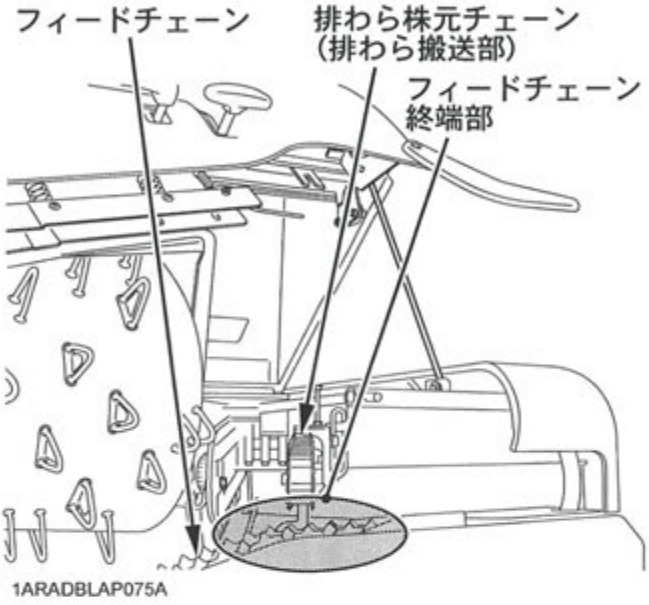
- **＊ エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **＊ 取外したり，開いた回転部のカバー類は衣類などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。**
- **＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。**
- **＊ 刃先に直接手を触れないでください。**

わらが詰まる

■自動エンジン停止装置がはたらいたとき

◆ フィードチェーン終端部・排わら搬送部

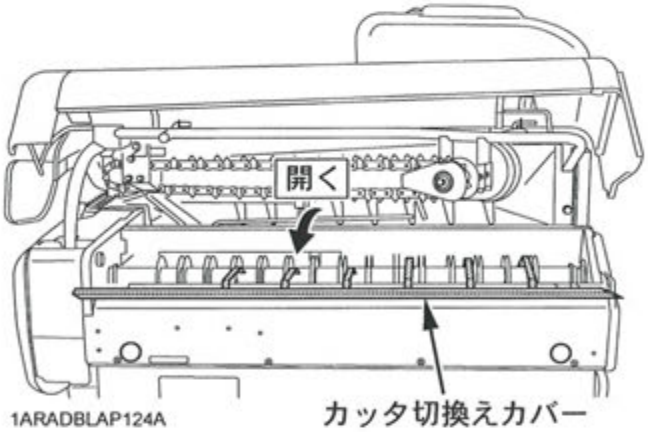
自動エンジン停止装置がはたらき，スイッチパネルのカッタ警報ランプが点灯したときには，掃除してください。



1ARADBLAP075A

◆ カッタ部・排わらチェーン部

自動エンジン停止装置がはたらき，スイッチパネルのカッタ警報ランプが点灯したときには，カッタ切換えカバーを開いて掃除してください。(89ページ参照)



1ARADBLAP124A

補　足

- ＊ 必要に応じて，このあとカッタ部を開いて掃除を行なってください。
- ＊ カッタ切換えカバーを開けたままでは，エンジンを掛けても作業スイッチを**【入】**位置にするとエンジンが止まります。点検・掃除後は，必ずカッタ切換えカバーを閉じてください。

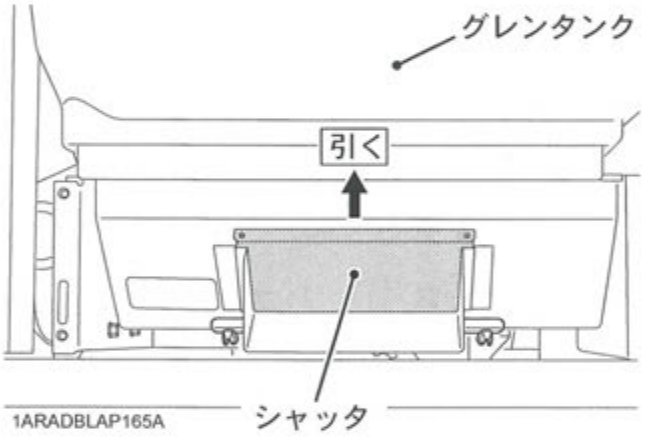
もみが詰まる

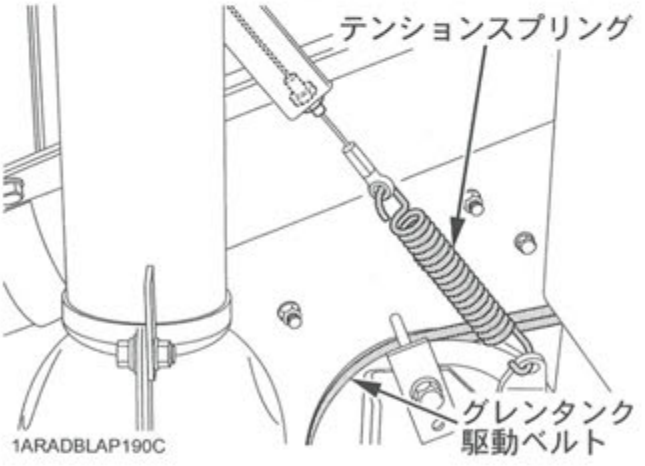
■オーガからもみが排出されないとき

[G 仕様]

下記事項を点検し，もみ排出クラッチレバーを**[切]** 位置にしたあと，エンジンを必ず止めてから処置してください。

1. 異物がかみ込んでいるときは，オーガの各掃除口を点検（91 ～ 98 ページ参照）し，異物を取除いてください。
2. グレンタンク駆動ベルトがスリップしているときは，シャッタを引きもみを排出したあと，グレンタンクを取外し（90 ページ参照），グレンタンク駆動ベルトのテンションスプリングの調整（135 ページ参照）をします。調整を行なってもスリップが止まらないときは，ベルト交換を行なってください。





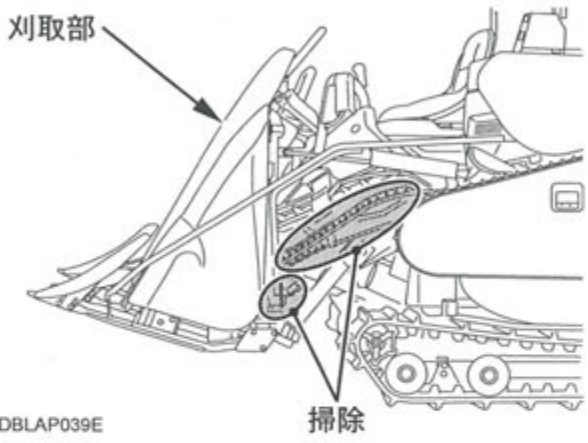
[G 仕様]

泥やわらが詰まる

■株元搬送通路の泥やわらの取除きかた

湿田や倒伏作物，雑草の多いほ場で刈取り作業を行なったとき，刈取部の搬送通路が泥やわらくずでふさがったときは，取除いてください。

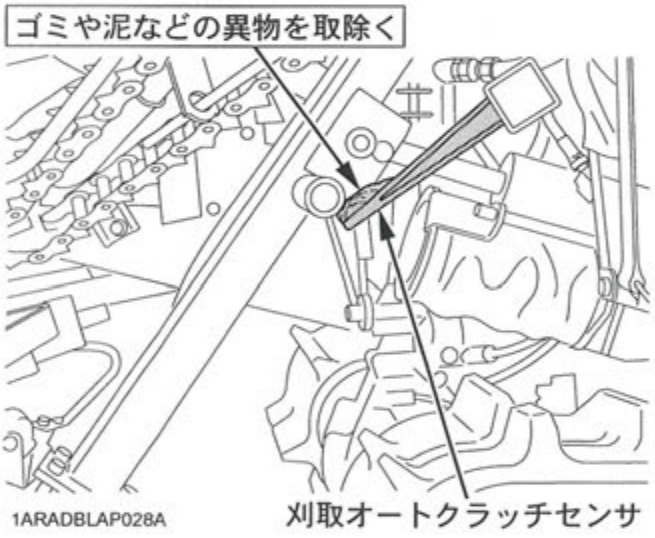
1. エンジンを停止します。
2. 刈刃後方やパッカ（スターホイール）下部などの搬送通路を掃除します。



■刈取オートクラッチセンサ部のゴミや泥の取除きかた

刈取作業中に刈取部を上昇しても刈取部及び刈取搬送が停止しないときは，刈取オートクラッチセンサのセンサ部にわらくずなどのゴミや泥などが溜まってセンサが作動不良の状態になっている場合がありますので，センサ部に溜まっているゴミや泥などを掃除して取除いてください。

1. エンジンを停止します。
2. 刈取オートクラッチセンサに溜まっているゴミや泥などを取除きます。
3. エンジンを始動したあと，刈取部を最上昇位置にします。
4. エンジンを停止したあと，刈取オートクラッチセンサが戻っている（上がっている）ことを確認します。



オーガの旋回方向のガタが大きくなったとき

[G 仕様]

オーガに過負荷がかかったとき，機械の破損を防止するためにオーガの旋回方向のガタが大きくなることがあります。このときは，縦ラセンケースとタンクラセンケースの接続部の下記点検箇所を確認したあと，処置を行なってください。

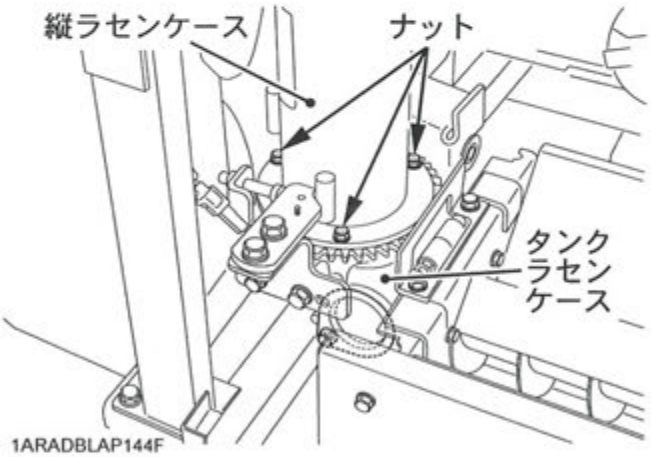
補　足

＊ オーガの旋回方向のガタが大きくなると，もみの排出作業時，もみ排出クラッチレバーを［入］位置にすると同時にオーガが動き，もみ袋やもみ受けの容器からもみがこぼれることがあります。

◆ ラセンケース締付ナット（3箇所）

点検を行ない，ゆるんでいるときは，増締めを行なってください。

1. グレンタンクを取外します。
2. タンク後サイドカバーを取外します
3. ナット3箇所を増締めします。
4. タンク後サイドカバーを取付けます。
5. グレンタンクを取付けます。

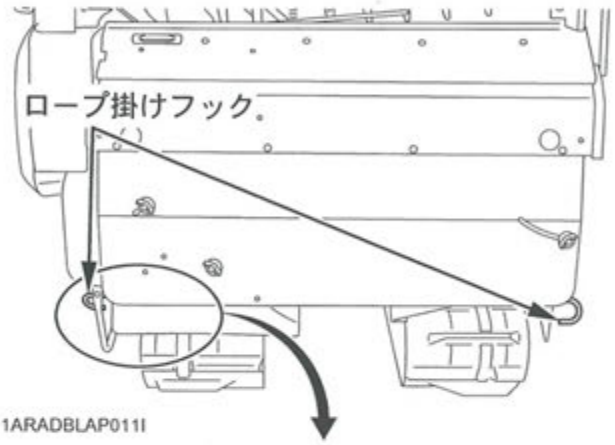


[G 仕様]

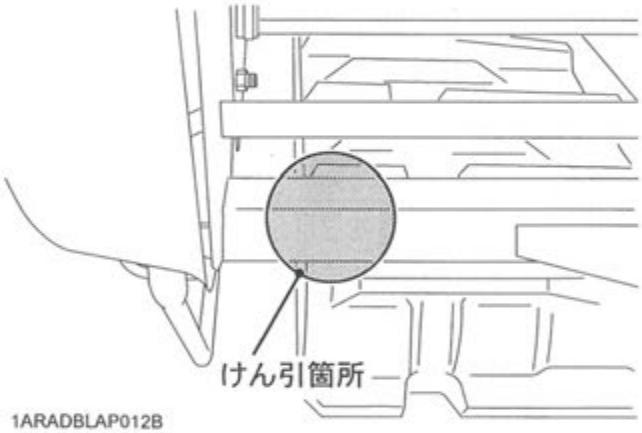
その他

■けん引について

コンバインが自力で動けずけん引作業を必要とする場合は，機体の左側後方のフレームを使用してください。このとき，ロープ掛けフックは，けん引作業に使用しないでください。



1ARADBLAP011I



1ARADBLAP012B

重　要

＊ このコンバインを使って，けん引作業はしないでください。故障の原因になります。

付表

主要諸元

農機型式名			クボタ R1401(G)		クボタ R1402(G)	
商品名			V211A(G)		V213A(G)	
区分		ホッパ仕様	標準	W	標準	W
		G仕様	標準	W	標準	W
機体寸法	全長(mm)		2650			
	全幅(mm)	ホッパ仕様	1430			
		G仕様	1420			
	全高(mm)	ホッパ仕様	1500			
		G仕様	1730			
機体質量(kg)		ホッパ仕様	655	658	663	666
		G仕様	710	713	718	721
エンジン	型式名		Z482-E3-C6		Z602-E3-C	
	種類		水冷4サイクル2気筒立形ディーゼル			
	総排気量(L{cc})		0.479{479}		0.599{599}	
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)		7.7{10.5}/2900		9.2{12.5}/2800	
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量(L)		11			
	始動方式		セルモータ式			
	バッテリ(V·Ah)		12·27〔34B19L-MF〕			
走行部	クローラ 中心距離(mm)	ホッパ仕様	705	695	705	695
		G仕様	655	715	655	715
	クローラ 幅×接地長(mm)	ホッパ仕様	280×950	330×950	280×950	330×950
		G仕様	300×950	360×950	300×950	360×950
	クローラ 平均接地圧(kPa{kgf/cm²})	ホッパ仕様	12.1{0.12}	10.3{0.10}	12.2{0.12}	10.4{0.11}
		G仕様	12.2{0.12}	10.2{0.10}	12.3{0.13}	10.3{0.11}
	最低地上高(mm)		166			
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕			
	変速段数		前進無段・後進無段			
	走行速度(m/s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	移動：0～0.76 作業：0.11～0.50		移動：0～0.90 作業：0.13～0.60	
		後進	0～0.36		0～0.44	
	旋回方式		ブレーキターン			
刈取部	刈取り条数(条)		2			
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)		905			
	刈取装置形式		往復動刃式			
	刃幅(mm)		850			
	刈高さ範囲(mm)		35～150			
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式			
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式			
	こぎ胴	径×幅(mm)	390×380			
		回転速度(rpm)	536			
	2番還元方式		スクリュ式			
	揺動板	幅×長さ(mm)	440×870			
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引			

※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

付表

農機型式名				クボタ R1401(G)		クボタ R1402(G)	
商品名				V211A(G)		V213A(G)	
区分		ホッパ仕様		標準	W	標準	W
		G仕様		標準	W	標準	W
こく粒処理部	G仕様	排出方式		スクリュコンベア式			
		タンク容量(L{袋})		270{約5.5袋}〔1袋約50L〕			
		旋回範囲(度)・旋回方式		252〔オーガ収納位置から左回り〕・電動モータ式			
		昇降範囲(度)・昇降方式		-9～45・電動モータ式			
		排出高さ〔作業時〕(mm)		990～3370			
		排出長さ〔作業時〕(mm)		1795～2470			
	ホッパ仕様	ホッパ	容量(L{袋})	100{約2袋}〔1袋約50L〕			
			吐出口数(口)	2			
処理部わら	工場出荷仕様			●カッタ カッタ切断長さ：35mm又は，60mm〔切断刃：標準切断刃〕			
	オプション			●カッタ後付ドロッパ			
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御		○	○	○	○
		自動選別制御		○	○	○	○
		刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕		○	○	○	○
		自動エンジン停止装置		○	○	○	○
	刈取かき込みスイッチ			○	○	○	○
	刈取突込み防止装置			○	○	○	○
	ナローガイド開閉装置			○	○	○	○
	枕こぎ台			○	○	○	○
	パワークラッチ〔脱こく・刈取〕			○	○	○	○
	集中注油装置			－	－	○〔手動〕	○〔手動〕
	警報装置			オイル，水温，もみ満杯，負荷，カッタ詰まり			
適応作物範囲〔全長〕(mm)				600～1300			
倒伏適応性(度)				追刈り：85以下・向刈り：70以下			
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})				6.7～11.1{54～90}		6.7～13.3{45～90}	

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
※諸装置について　○：標準装備　－：非装備（後付け不可）

付表

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊ 保証書	1
＊ 取扱説明書	1
＊ 本機カバー	1
＊ デバイダ	1 式
＊ デバイダキャップ	1 式
＊ スローブローヒューズ（40A）	1

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

◆ 刈取部

■スーパーデバイダ

倒伏した作物が能率よく刈取りできます。

品　名	対象型式
SP-E213 スーパーデバイダ	全型式

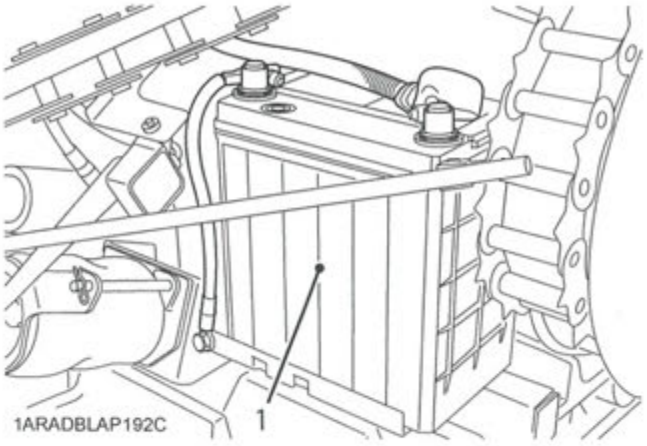
◆ 排わら処理部

■カッタ後付けドロッパ

品　名	対象型式
S-E213D	全型式

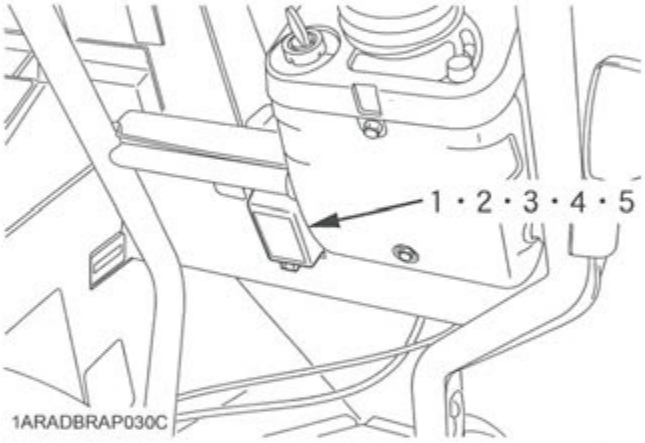
消耗部品(純正部品を使いましょう)

◆ バッテリ



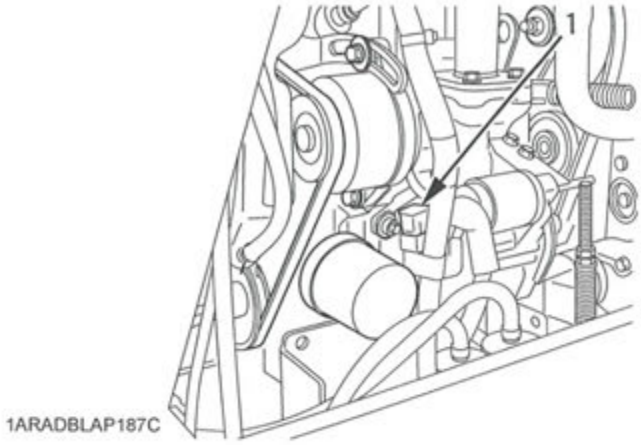
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	バッテリ	97430000020	全型式

◆ ヒューズ



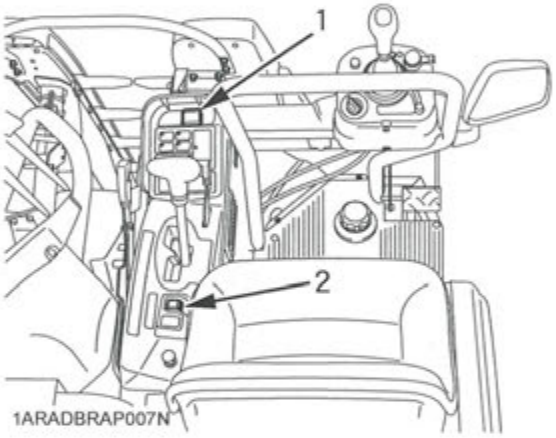
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ヒューズ (3A)	97430000710	全型式
2	ヒューズ (ミニ5A)	99660028500	
3	ヒューズ (10A, オート)	97430000360	
4	ヒューズ (15A, オート)	97430000370	
5	ヒューズ (20A, オート)	97430000380	

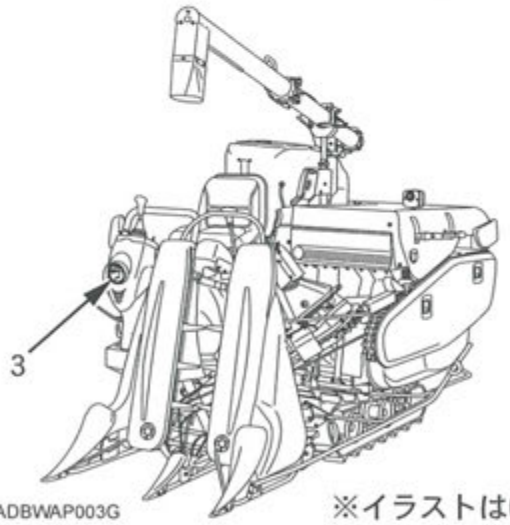
◆ スローブローヒューズ



図番	品　　名	品　番	対象型式
1	スローブローヒューズ	K3467034530	全型式

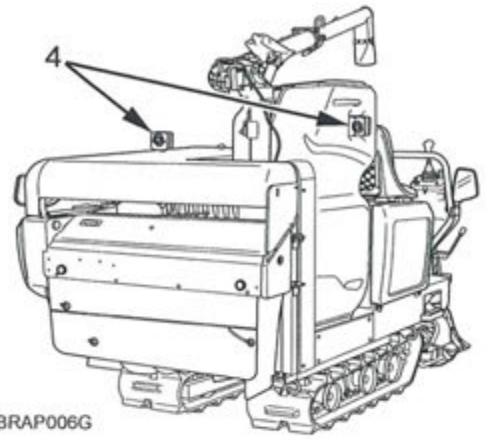
◆ ランプ（電球）





※イラストはG仕様

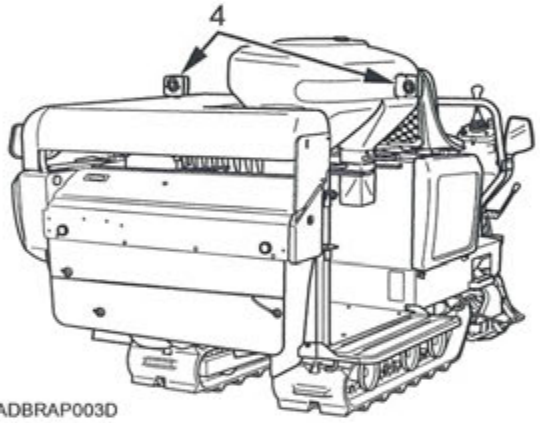
[G 仕様]



1ARADBRAP006G

[G 仕様]

[ホッパ仕様]

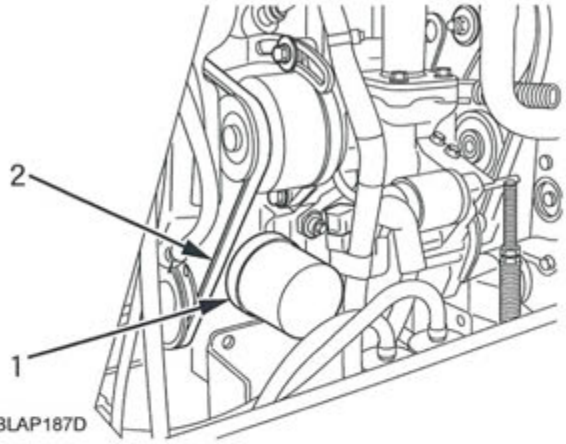


1ARADBRAP003D

[ホッパ仕様]

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ランプ	97430000720	全型式
2	ランプバルブ	97430000420	
3	バルブ (ヘッドライト 55 W)	97430000700	
4	バルブ (12V21W)	99660029440	

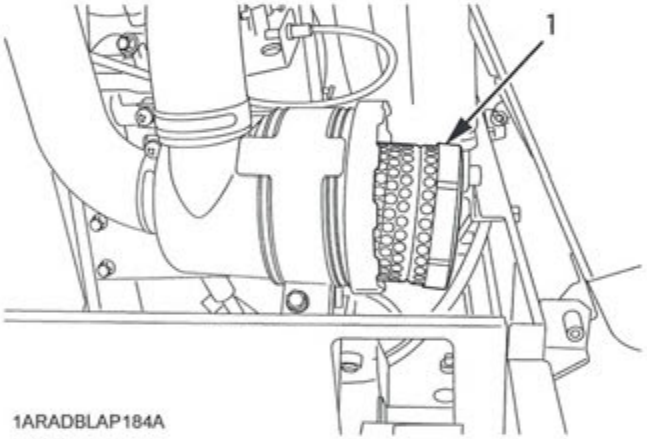
◆ エンジンオイルフィルタカートリッジ
◆ ファン駆動ベルト



1ARADBLAP187D

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フィルタ (オイル, カートリッジ)	90092007070	全型式
2	34.5 ブイベルト	97430000080	

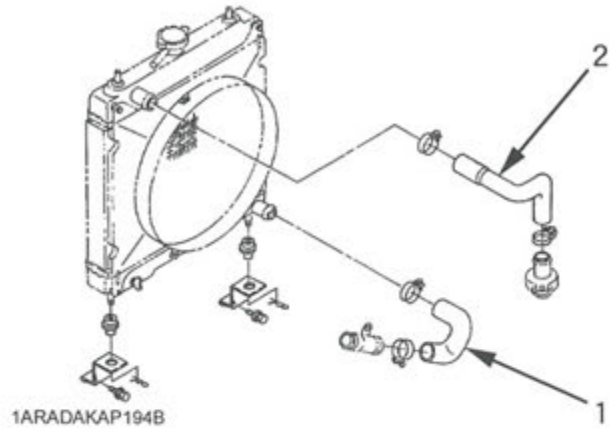
◆ エアクリーナエレメント



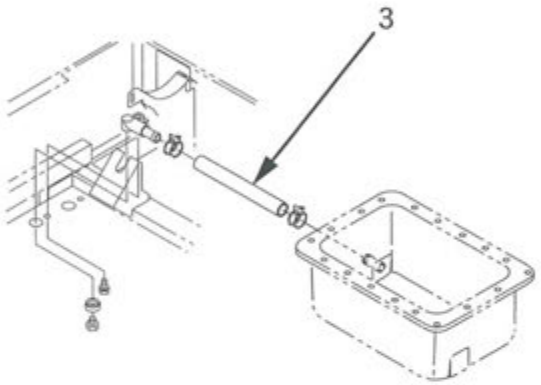
1ARADBLAP184A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	エアクリーナ, アッシ	99920004220	全型式

◆ ラジエータホース
◆ オイルドレーンゴムホース



1ARADAKAP194B

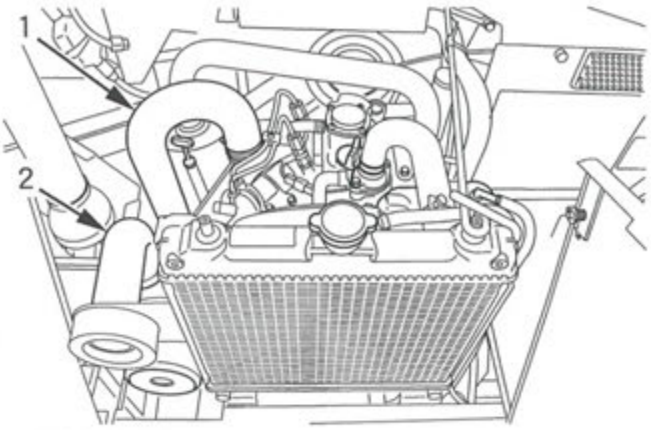


1ARADBLAP197E

※イラストは213A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ホース（ウォータパイプ１）	97430000090	全型式
2	ホース（ウォータパイプ２）	97430000100	
3	チューブ（ハイユ）	97430000530	211A
		97430000530	213A

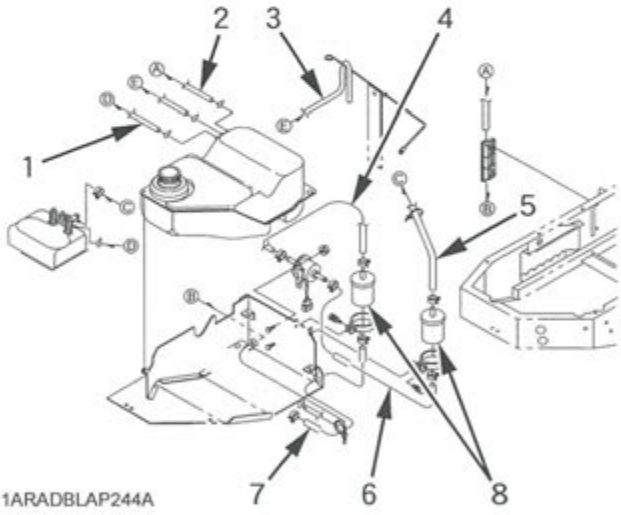
◆ インレットパイプ



1ARADBLAP175H

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チューブ（インレットパイプ，1）	97430000400	全型式
2	チューブ（インレットパイプ２）	97430000410	

◆ 燃料パイプ
◆ 燃料フィルタアッシ

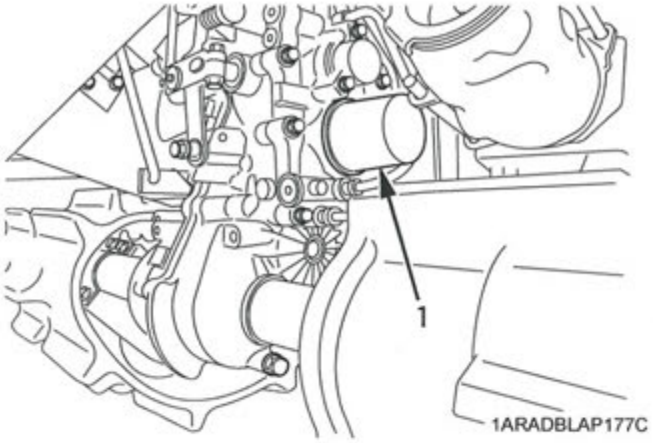


1ARADBLAP244A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フューエルチューブ	97430000040	全型式
2	チューブ（ゲージ）	97430000280	
3	フューエルチューブ	97430000030	
4	フューエルチューブ	99870001270	
5	フューエルチューブ	97430000060	
6	フューエルチューブ	97430000050	
7	フューエルチューブ	99870001280	
8	フューエルフィルタアッシ	97430000070	

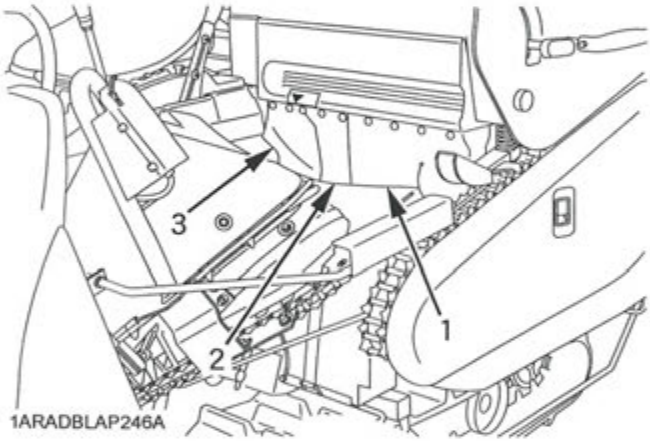
付表

◆ ミッション,HSTオイルフィルタカートリッジ



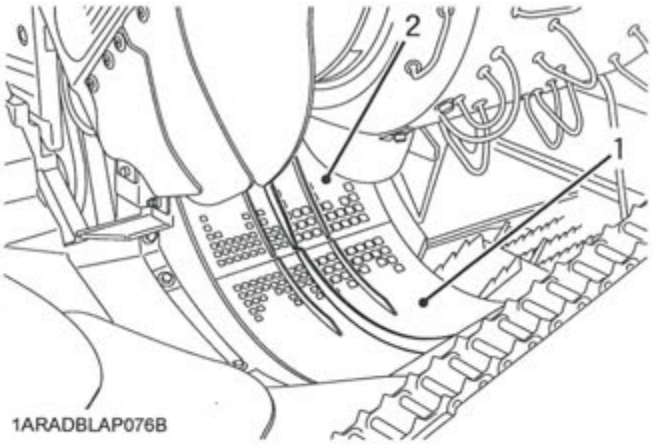
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フィルタ（オイル カートリッジ）	97430000500	全型式

◆ 脱こく入口ハンプ



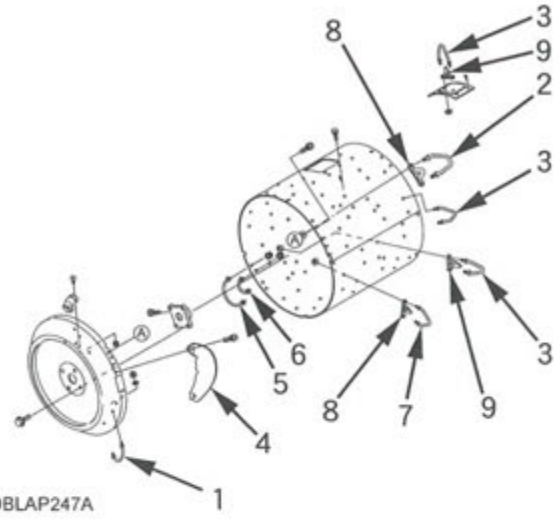
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ハンプ（1，フロント）	97430000240	全型式
2	ハンプ（2，フロント）	97430000250	
3	ハンプ（3，フロント）	97430000260	

◆ 受あみ



図番	品　　名	品　番	対象型式
1	コンケーブ，(1.9 + 13)	97430000640	全型式
2	コンケーブ，(2.9 + 13)	97430000650	

◆ こぎ歯

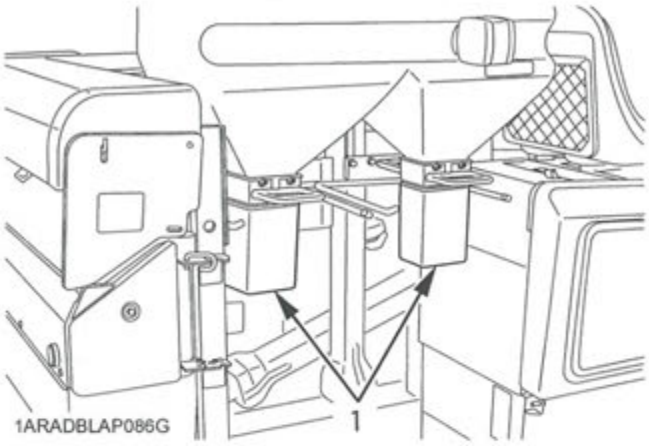


1ARADBLAP247A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ダイ１セイソシ	97430000150	全型式
2	ダイ２ホキョウシ	97430000180	
3	ナミハ	97430000190	
4	プレート (イタセイソシ)	97430000620	
5	ダイ３セイソシ	97430000160	
6	ダイ３セイソシショウ	97430000110	
7	ダイ１ホキョウシ	97430000170	
8	イタホキョウシ	97430000130	
9	イタコキハ	97430000140	

◆ 吐出口ブーツ

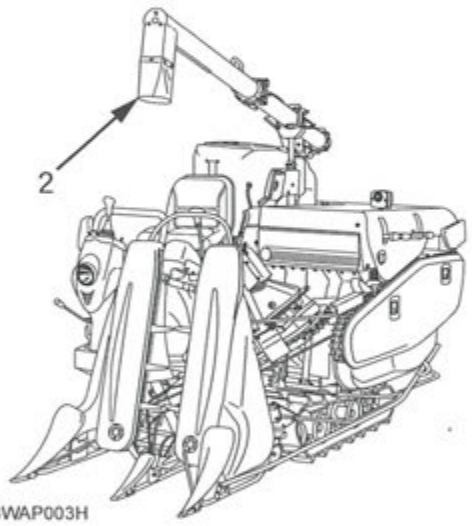
[ホッパ仕様]



1ARADBLAP086G

[ホッパ仕様]

[G 仕様]



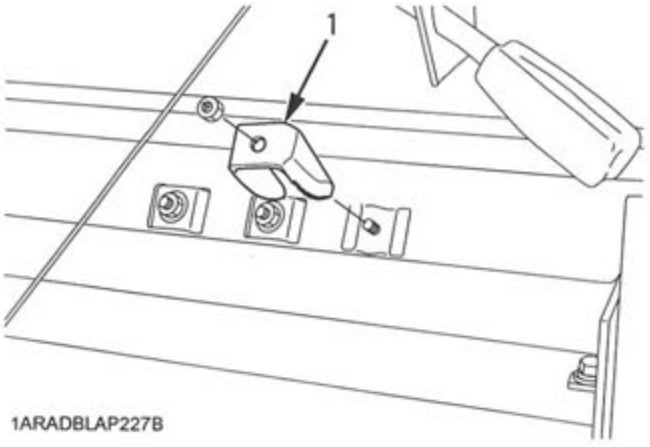
1ARADBWAP003H

[G 仕様]

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ブーツ（ホッパ）	97430000230	ホッパ仕様
2	ブーツ	97430000350	G 仕様

付表

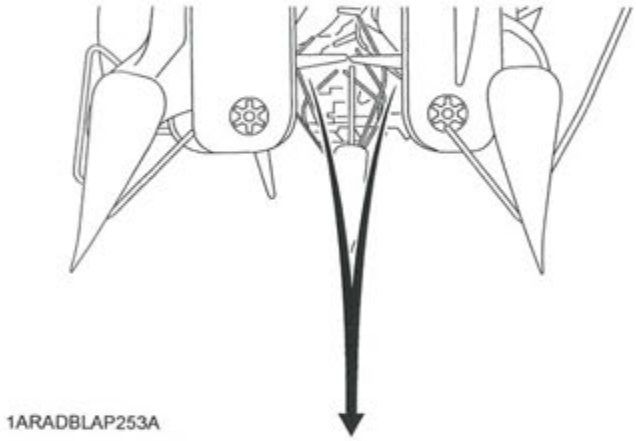
◆ わら切刃



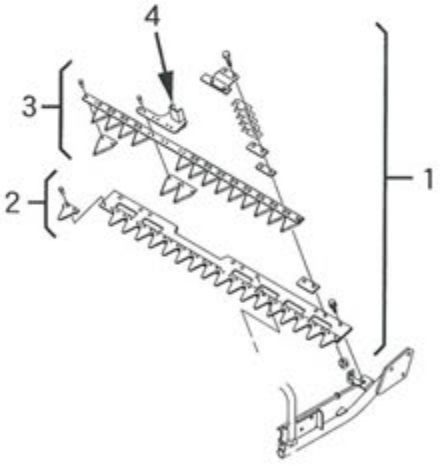
1ARADBLAP227B

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ワラキリハ	97430000120	全型式

◆ 刈刃



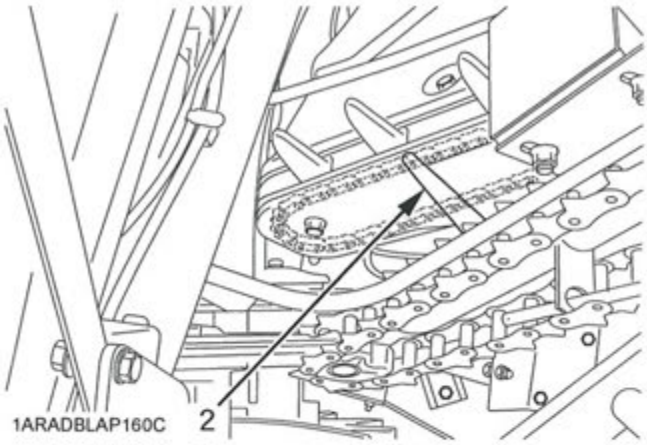
1ARADBLAP253A



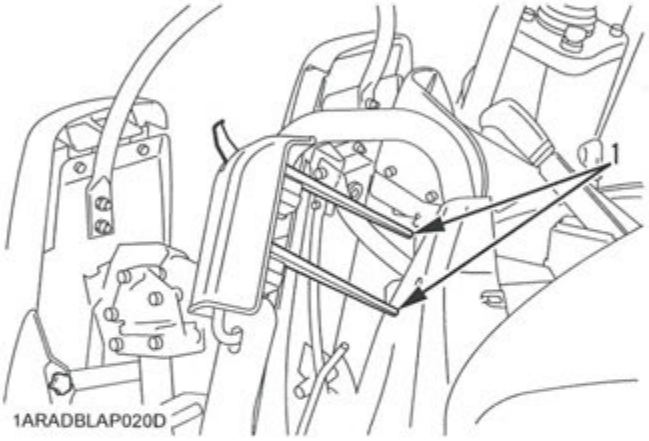
1ARADBLAP252A

図番	品　　名	品　番
1	カリバ，アッシ	97430000540
2	ウケバ，アッシ	97430000570
3	カリバ，コンプ	97430000550
4	ナイフヘッド	97430000560

◆ 株元センサ
◆ 穂先センサ



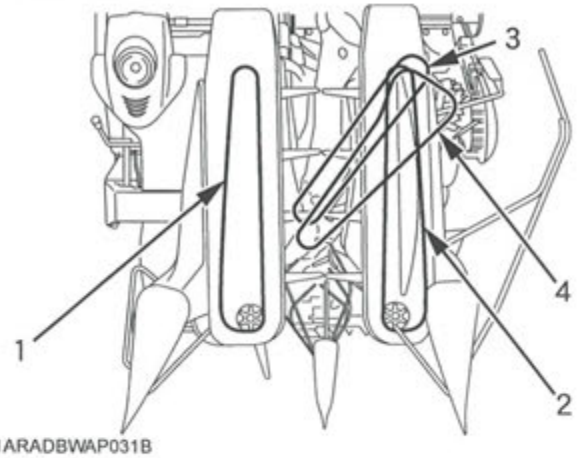
1ARADBLAP160C



1ARADBLAP020D

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	センサ，アッシ (ホサキ)	97430000440	全型式
2	ホサキセンサ アッシシタ	97430000300	

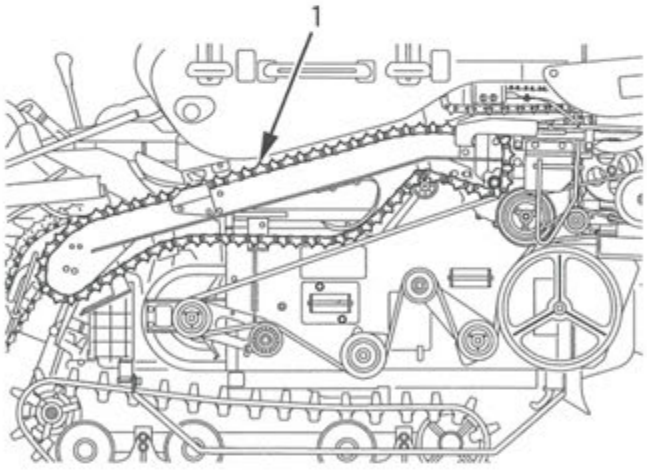
◆ 引起しチェーン
◆ 穂先供給チェーン
◆ 株元供給チェーン



1ARADBWAP031B

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チェーン，アッシ (ヒキオコシ，ミギ)	97430001860	全型式
2	チェーン，アッシ (ヒキオコシ)	97430001850	
3	チェーン，アッシ (ホサキ)	97430000600	
4	チェーン，アッシ (キョウキュウ)	97430000590	

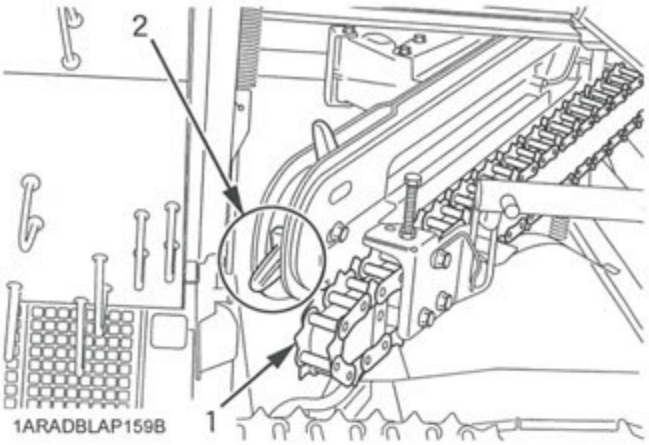
◆ フィードチェーン



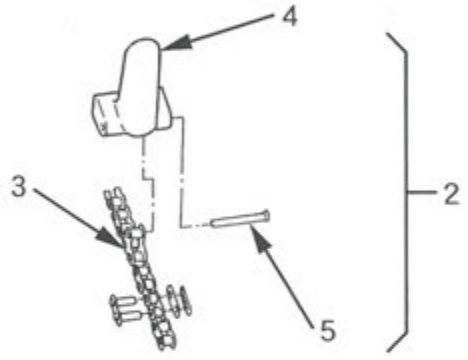
1ARADBLAP126C

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チェーン（フィード）	97430000680	全型式

◆ 排わら穂先・株元チェーン



1ARADBLAP159B

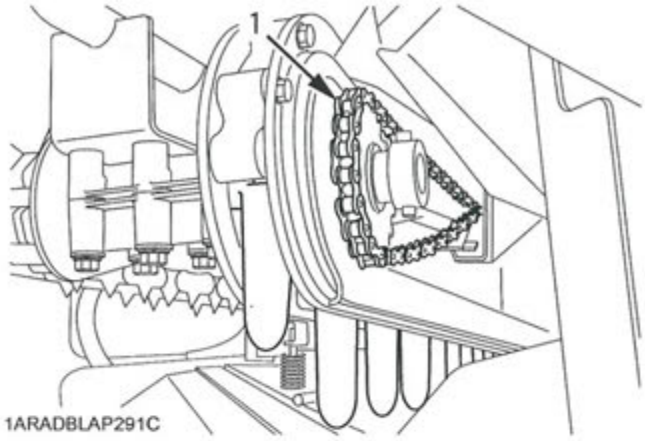


1ARADAKAP211A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チェーン（ハイワラ）	97430000690	全型式
2	チェーン，アッシ (ハイワラホサキツメ)	97430000200	
3	チェーン，アッシ （ハイワラホサキ）	97430000210	
4	ハンソウヅメ	97430000270	
5	ホサキツメピン	97430000290	

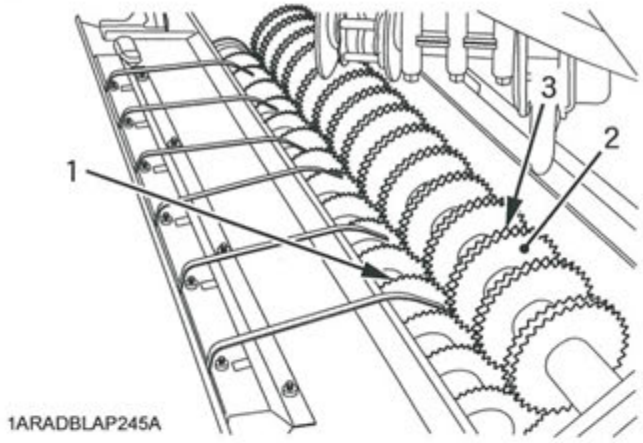
付表

◆ 排わら入力チェーン



図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チェーン（ハイワラニュウリョク）	97430000220	全型式

◆ カッタ刃・ギヤロータ



図番	品　　名	品　番	対象型式
1	セツダンバ（120）	97430000310	全型式
2	ロータ（110）	97430000320	
3	ロータ（110，ギヤ）	97430000330	

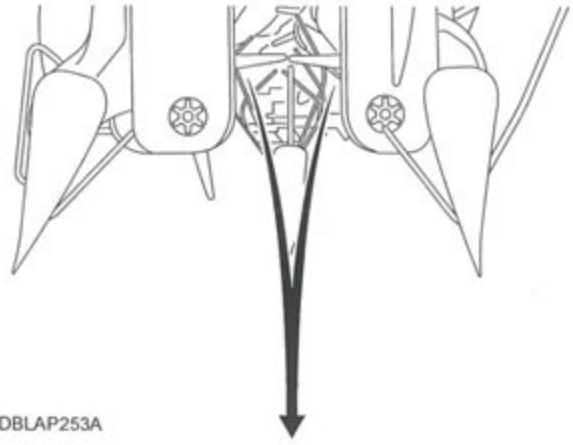
◆ クローラ



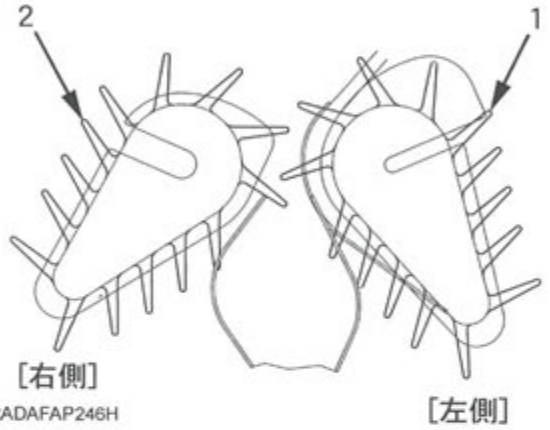
※イラストはG仕様

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	クローラ（280-34）	97430000390	標準
	クローラ（330-34）	97430000450	W（G除く）
	クローラ（300-34）	97430000510	G（W除く）
	クローラ（360-34）	97430000520	GW

◆ 突起付ベルト



1ARADBLAP253A

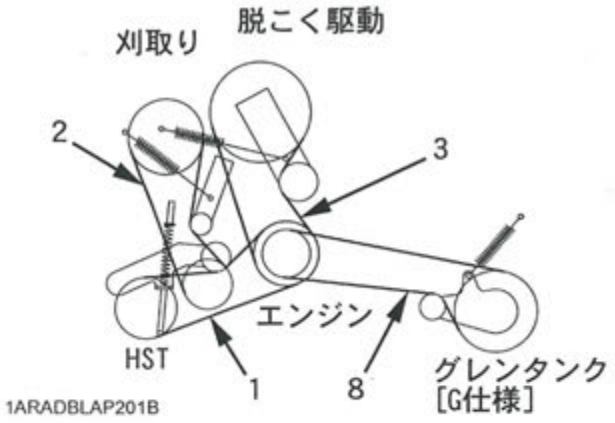


1ARADAFAP246H

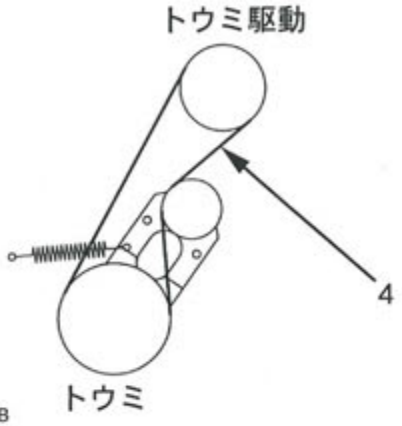
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ベルト（32，トッキ）	97430000430	全型式
2	ベルト（35，トッキ）	97430000580	

付表

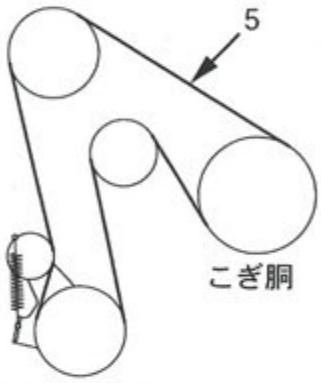
◆ 各ベルト



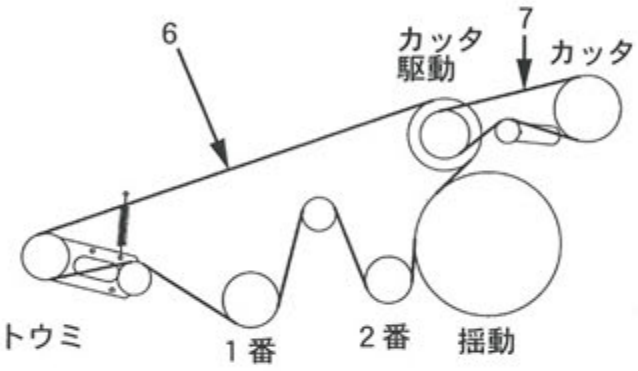
1ARADBLAP201B



1ARADBLAP202B



1ARADBLAP203B



1ARADBLAP204B

図番	名称	品名	品番	対象型式
1	ミッション駆動ベルト	V ベルト (B33)	97430000470	全型式
2	刈取駆動ベルト	コグベルト (A34)	97430000490	全型式
3	脱こく駆動ベルト	V ベルト (B37)	97430000480	全型式
4	トウミ駆動ベルト	V ベルト (B38)	97430000670	全型式
5	こぎ胴駆動ベルト	V ベルト (C79)	97430000630	全型式
6	1番・2番・揺動・ フィードチェーン駆動ベルト	V ベルト (B103)	97430000660	全型式
7	カッタ駆動ベルト	V ベルト (A39)	97430000340	全型式
8	グレンタンク駆動ベルト	V ベルト (A43)	97430000610	G 仕様

三菱農業機械（純正油）マルチオイル

● オイルは三菱純正オイルをお奨めします。

1. エンジンオイルについて

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーマルチ STOU オイル（SAE・10W-30，SD/CD/GL-4） スーパーマルチ GD オイル（SAE・10W-30，SL/CF）
全農	JA-OIL ディーゼル CF　10W-30（SAE・10W-30，CF）
ＪＸエネルギー	HDS-3 ファームユニバーサルオイル

● やむをえず他メーカのオイルを使用される場合は API サービス分類 CF 級オイルをお使いください。

2. 作動油について

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーマルチ STOU オイル（SAE・10W-30，GL-4）
全農	JA-OIL ディーゼル CF　10W-30（SAE・10W-30，CF）
ＪＸエネルギー	スーパーハイランド 46

をお使いください。

3. ギヤオイルについて

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	マルチ SHP ギヤオイル（SAE90）
全農	JA-OIL ギヤマルチ　GL-5　80W-90（SAE・80W-90，GL-5）
ＪＸエネルギー	スーパーハイポイドギヤ（SAE90，GL-5） スーパーハイポイドギヤ（SAE140，GL-5）

をお使いください。

補　足

＊ トランスミッションケースのオイルは，スーパマルチ STOU オイルを使用してください。

索引

英数字

1 番，2 番，揺動，フィードチェーン駆動ベルトの点検･調整 134
1 番ラセン上部点検カバーの脱着 87

あ

アクセルレバー 12
アワメータ 19

い

移動走行前の準備 30

う

受あみの脱着 85
運転席（シート） 14
運転席左側板の脱着 85

え

エアクリーナの点検･掃除･交換 121
エンジンオイルの点検･補給･交換 115
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 124
エンジンルームの開閉 76
エンジン停止スイッチ 16

お

オイル，フィルタ類の交換とチェーン，ベルト，クローラの張り調整 106
オプション（別売品） 166
オーガからもみが排出されないとき 161
オーガ操作スイッチ 17
オーガの折りたたみ・伸ばしかた 47
オーガの旋回方向のガタが大きくなったとき 162

か

カッタ部の開閉 78
カッタ駆動ベルトの点検 134
カッタ後付けドロッパ 166
カッタ切換えカバーの開閉 89
カッタ部の点検 146
各部チェーンの点検･調整 135
各部の掃除 92
各部の注油 98
各部ベルトの点検･調整 127
各部ワイヤ，ロッドの点検･調整 125
株元供給チェーンの点検 137
株元払い出し棒の調節 70
株元搬送通路の泥やわらの取除きかた 161
刈取オートクラッチスイッチ 22
刈取オートクラッチセンサ部のゴミや泥の取除きかた 162
刈取かき込みスイッチ 15
刈取下降ロックレバー 15
刈取駆動ベルトの点検･調整 130
刈取作業の手順 53
刈取作業後の手入れ 157
刈刃の点検・調整 139
寒冷時の始動のしかた 28

き

給･注油（水）点検一覧表 112
供給ガイドの点検・注油 156

く

グレンタンクの脱着のしかた 90
グレンタンク下カバーの脱着 88
グレンタンク駆動ベルトの点検･調整 135
グレンタンク後サイドカバーの脱着 88
クローラの点検･調整 155

け

けん引について 163

こ

こぎ歯の点検･交換 142
こぎ室送じん調節レバーの調節 71
こぎ胴の開閉 77
こぎ胴駆動ケースオイルの補給 118
こぎ胴駆動ベルトの点検･調整 133
コンバインの準備のしかた 41
コンビネーションスイッチ，ホーンスイッチ . 20

さ

作業スイッチ（刈取スタートボタン） 11
作業に合わせた各部の調整･調節のしかた ... 68
作物に合わせた変速の選びかた 61
作物の条件 39

し

使用者が行なってはいけない修理 107
始動のしかた 26
自動エンジン停止装置がはたらいたとき 160
自動こぎ深さ制御装置 20
湿田作業のしかた 60
手動こぎ深さ制御装置 21
消耗部品 167
主要諸元 164

す

スイッチパネル 18
スイッチパネルによる異常と処置 73
ステアリングレバー 14
スーパーデバイダ 166

せ

洗車時の注意 107
旋回のしかた 34

そ

ソリを接地した刈りかた・ソリを浮かせた刈りかた 52

た

脱こく駆動ベルトの点検･調整 131
暖機運転について 28

ち

チャフ（選別板のすき間）の開度の調節 72
チャフ調節レバー 16
駐車ブレーキロッドの点検･調整 126
長期格納時 157

て

デバイダの上下調整 68
停止のしかた 29
停車･駐車のしかた 35
定期点検一覧表 108
手刈り（枕刈り）脱こくのしかた 66
電気の各配線コード，各ヒューズの点検･交換 152

と

トウミ駆動ベルトの点検･調整 132
道路走行について 35
トラックとあゆみ板の準備 36
トラックへの積込み･積降しのしかた 36
トラックへ積込み時のコンバインの準備 36
トラック上での処置 38
トランスミッションケースオイルの点検・補給･交換 117
泥やわらが詰まる 161
吐出口ブーツの点検･交換 147

な

ならし運転について 26
ナローガイド開閉レバー 16

に

日常点検項目 24

ね

燃料，オイル，グリースの点検･補給･交換 114
燃料の補給 114
燃料フィルタアッシの交換 124
燃料切れ後の再始動のしかた 29

索引

は

パイプ，ホース類の点検 122
廃棄物の処理について 106
排じん調整板の調整 72
排わら入力チェーンの点検 138
排わら穂先チェーン，排わら株元チェーンの点検 138
パッカ（スターホイール）のトルクリミッタの調整 154
バッテリが上がったときの始動のしかた 29
バッテリの点検･交換 148
発進のしかた 32
反射器の点検･交換 155

ひ

引起しカバーの脱着 86
引起しサイドカバーの脱着 86
引起しチェーンの点検･調整 136
引起し爪高さの調節 69
非常エンジン停止レバー 12
左サイドカバーの脱着 87

ふ

ファン駆動ベルトの点検･調整 129
フィードチェーンの点検･調整 138
フィードチェーン駆動ケースオイルの補給 .. 118
付属部品 166
ブレーキペダル（駐車ブレーキ） 13

へ

変速レバー 13

ほ

防じんあみ，ラジエータフィンの掃除 123
穂先供給チェーンの点検 137
補助搬送（突起付）ベルトの点検･調整 132
ほ場の刈りかたと旋回のしかた 55
ほ場の出入りのしかた 51
ほ場の準備 40
ほ場の条件 39

ま

毎日の作業後 157

み

ミッション，HST オイルフィルタカートリッジの交換 125
ミッション駆動ベルトの点検･調整 130
三菱農業機械（純正油）マルチオイル 177

め

メインスイッチ 11

も

もみが詰まる 161
もみの排出のしかた 62
もみ排出クラッチレバー 18
もみ排出クラッチワイヤの点検･調整 126

よ

揺動流板の脱着 81

ら

ラジエータ冷却水の点検･補給･交換 120
ランプ（電球）の点検･交換・ホーンスイッチの点検 154

わ

わらが詰まる 160
わら切刃の点検･交換 143

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式 _____

機械番号(製造番号) _____

●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先 _____

TEL　　(　　) _____